Panasonic

取扱説明書 詳細操作編

デジタルカメラ/レンズキット/ボディ

品番 DMC-GH3A/DMC-GH3H
DMC-GH3

LUMIX



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」(取扱説明書 基本操作編)を必ずお読みください。**

LUMIX G MICRO SYSTEM　MICRO FOURTHIRDS　SDXC I　dlna CERTIFIED　Wi-Fi CERTIFIED　Wi-Fi PROTECTED SETUP

困ったときは?

メッセージ表示:249 ページ
Q & A　故障かな?と思ったら:260 ページ

最新のサポート情報は、下記サポートサイトでご確認ください。

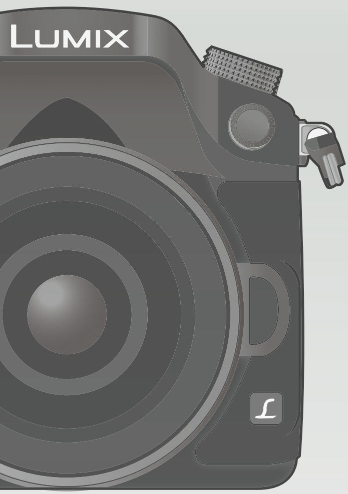
http://panasonic.jp/support/dsc/

VQT4M59-1
F1012HN1122

知りたいことの探し方

取扱説明書 詳細操作編では、知りたいことを以下のページから探すことができます。
参照ページをクリックすると、該当ページへ移動するので、知りたいことを素早く探せます。

GH3



本書の詳しい読み方は、次ページへ

本書の見方

使えるモード： P A S M C1 C2 C3

説明している機能がどの撮影モードで使えるかを表しています。
- 黒のアイコン　　：使えるモード
- グレーのアイコン：使えないモード

C1、C2、C3は登録した撮影モードによって使える機能が変わります。

クリックすると「知りたいことの探し方」のページに移動します。

クリックすると「目次」のページに移動します。

クリックすると「さくいん」のページに移動します。

クリックすると、直前に表示していたページに戻ります。



続く

クリックすると、説明が次のページに続きます。

- 本文中やさくいんの参照ページをクリックすると、該当ページへ移動します。
- Adobe Readerの画面上にある検索入力欄にキーワードを入力すると、入力したワードを検索し、該当ページへ移動します。
- お使いの Adobe Reader のバージョンによっては、操作方法などが異なる場合があります。

目次

以下をクリックすると、項目の先頭に移動します。

基本

撮影

動画

再生・編集

Wi-Fi

他の機器との接続

その他・Q&A

「取扱説明書 詳細操作編」は、下記サポートサイトでもご覧いただけます。
http://panasonic.jp/support/dsc/

■ 撮影について

■ 撮影について（続き）

■ 動画撮影について

フルハイビジョン動画を撮りたい	AVCHD Progressive/ AVCHD動画	P158
絞り値とシャッタースピードを決めて動画を撮りたい	Mクリエイティブ動画	P164
本格的な映像作品を撮りたい	MOV 動画	P158
	タイムコード設定	P167
動画撮影中に写真を記録したい	同時記録	P163

■ 設定について

買ったときの設定に戻したい	設定リセット	P50
時計を合わせたい	時計設定	P37
操作したときに音が鳴らないようにしたい	電子音	P45
バッテリーを長持ちさせたい	エコモード	P47

■ 再生について

撮影した写真・動画をスライドショーで楽しみたい	スライドショー	P171
ハイビジョンテレビで写真・動画を見たい	HDMI接続	P226
付属のソフトウェアを使いたい	PHOTOfunSTUDIO	P231
「PHOTOfunSTUDIO」を使わずに画像をパソコンに取り込みたい	USB 接続	P233

■ Wi-Fi について

スマートフォン/タブレットで操作したい	リモートで撮る	P190
写真をワイヤレスでテレビに表示したい	TV で見る	P199
写真を撮るたびに送信したい	撮影中に画像を送る	P201
撮影後に画像を選んで送信したい	カメラ内の画像を送る	P209

●**レンズ交換で表現の幅を広げる** → 交換レンズについて詳しくは、カタログ / ホームページなどをご覧ください

■ 本機の取り扱いについて…

本機に、強い振動や衝撃、圧力をかけないでください。
- 下記のような状態で使用すると、レンズやモニター、外装ケースが破壊される可能性があります。また、誤動作や、画像が記録できなくなることもあります。
  – 本機を落とす、またはぶつける
  – レンズ部やモニターを強く押さえつける

本機は、防塵防滴に配慮した構造となっていますが、ほこりや水滴の侵入を完全に防ぐものではありません。防塵防滴性能を満足させるには、以下のことにお気をつけください。
– **防塵防滴対応の当社製交換レンズを取り付けてお使いください。**防塵防滴非対応の交換レンズや、マウントアダプター(別売:DMW-MA1)使用時は、防塵防滴構造になりません。
– **内蔵フラッシュは、閉じてお使いください。**
– **本機の扉部、端子キャップ、接点カバーなどは、しっかりと閉じてください。**
– レンズやキャップの取り付け、取り外し、扉の開閉時は、砂やほこり、水滴などが内部に侵入しないようにお気をつけください。
– 水滴などの液体が付いた場合は、乾いた柔らかい布でふいてください。

デジタルカメラボディのマウント内に手を入れないでください。
センサー部は精密機器ですので故障、破損の原因になります。

■ 露付きについて(レンズやファインダー、モニターが曇るとき)…

- 露付きは、温度差や湿度差があると起こります。レンズやファインダー、モニターの汚れ、かび、故障の発生原因になりますのでお気をつけください。
- 露付きが起こった場合、電源スイッチを[OFF]にし、2時間ほどそのままにしてください。周囲の温度になじむと、曇りが自然に取れます。

■ 事前に必ず試し撮りをしてください

大切な撮影(結婚式など)は、必ず事前に試し撮りをし、正常に撮影や録音されていることを確かめてください。

■ 撮影内容の補償はできません

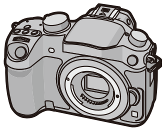
本機およびカードの不具合で撮影や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ 著作権にお気をつけください

あなたが撮影や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気をつけください。

■ 「使用上のお願い」も、併せてお読みください(P272)

同梱品

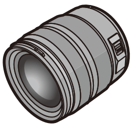


デジタルカメラボディ
（本文中では**本体**と表記します）

記載の品番は2012年10月現在のものです。変更されることがあります。

DMC-GH3A（レンズキット商品）に同梱

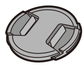
- **DMC-GH3A に同梱の交換レンズ（H-HS12035）は、防塵防滴対応です。**



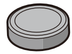
交換レンズ（H-HS12035）
LUMIX G X VARIO 12–35 mm/F2.8 ASPH./POWER O.I.S.
（本文中では**レンズ**と表記します）



レンズフード
VYC1084



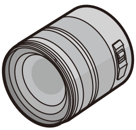
レンズキャップ※
VYF3480



レンズリアキャップ※
VFC4605

DMC-GH3H（レンズキット商品）に同梱

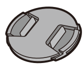
- **DMC-GH3H に同梱の交換レンズ（H-VS014140）は、防塵防滴非対応です。**



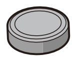
交換レンズ（H-VS014140）
LUMIX G VARIO HD 14–140 mm/F4.0–5.8 ASPH./MEGA O.I.S.
（本文中では**レンズ**と表記します）



レンズフード
VYC0997



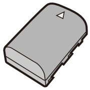
レンズキャップ※
VYF3250



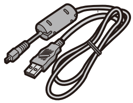
レンズリアキャップ※
VFC4315

※お買い上げ時は交換レンズに装着されています。

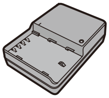
続く



バッテリーパック
DMW-BLF19
（本文中では**バッテリー**と表記します）
●充電してからお使いください。



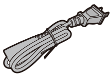
USB 接続ケーブル
K1HY08YY0025



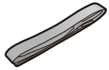
バッテリーチャージャー
DMW-BTC10
（本文中では**チャージャー**と表記します）



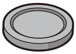
CD-ROM
●ソフトウェア
●取扱説明書 詳細操作編（本書）
（パソコンにインストールしてお使いください）



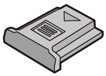
電源コード
K2CA2YY00247



ショルダーストラップ
VFC4908



ボディキャップ
VKF4971
（お買い上げ時はデジタルカメラボディに装着されています）

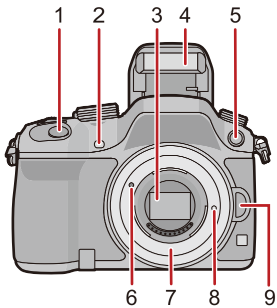


ホットシューカバー
VYF3522
（お買い上げ時はデジタルカメラボディに装着されています）

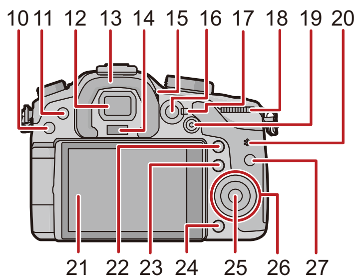
- **カードは別売です。**
- 別売品については239ページを参照してください。
- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- 本書では交換レンズ（H-HS12035）を用いて説明をしています。

各部の名前と働き

■ デジタルカメラボディ



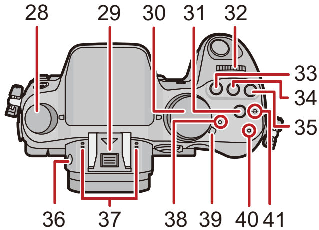
1　シャッターボタン(P64)
2　セルフタイマーランプ(P140)/
　　AF補助光ランプ(P53)
3　センサー
4　フラッシュ発光部(P111)
5　フラッシュシンクロ端子※(P242)
6　レンズ取り付けマーク(P25)
7　マウント
8　レンズロックピン
9　レンズ取り外しボタン(P26)



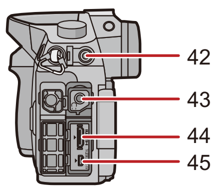
10　[▶](再生)ボタン(P69)
11　[LVF]ボタン(P62)/[Fn5](ファンクション)ボタン(P42)
12　ファインダー(P62)
13　アイカップ※(P273)
14　アイセンサー(P62)
15　視度調整ダイヤル(P62)
16　[AF/AE LOCK](ロック)ボタン(P135)
17　フォーカスモードレバー(P127)
18　後ダイヤル(P22)
19　動画ボタン(P160)
20　スピーカー(P46)
　　●スピーカーを指で塞がないようお気をつけください。音が聞こえにくくなります。
21　タッチパネル/モニター(P21)
22　[Q.MENU](クイックメニュー)ボタン(P40)/[Fn2](ファンクション)ボタン(P42)
23　[ ](オートフォーカスモード)ボタン(P126)/[Fn3](ファンクション)ボタン(P42)
24　[/](消去/戻る)ボタン(P75)/[Fn4](ファンクション)ボタン(P42)
25　[MENU/SET](メニュー セット)ボタン(P23、38)
26　コントロールダイヤル(P23)/カーソルボタン(P23)
27　[DISP.](ディスプレイ)ボタン(P67、74)

※ フラッシュシンクロ端子キャップ(VKF5108)、アイカップ(VYK6B43)を無くされたときは、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口にお問い合わせください。

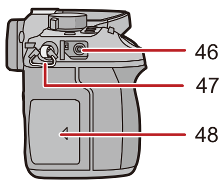
続く



28 ドライブモードダイヤル
□：単写(P64)/連写アイコン：連写(P136)/
オートブラケットアイコン：オートブラケット(P138)/
セルフタイマーアイコン：セルフタイマー(P140)
29 ホットシュー(ホットシューカバー)(P241)
30 モードダイヤル(P76)
31 [Wi-Fi] ボタン(P190)/ [Fn1] ボタン(P42)
32 前ダイヤル(P22)
33 [WB](ホワイトバランス)ボタン(P122)
34 [ISO](ISO 感度)ボタン(P120)
35 [露出補正アイコン](露出補正)ボタン(P119)
36 フラッシュオープンボタン(P111)
37 ステレオマイク(P170)
● マイクを指で塞がないようお気をつけください。音が記録されにくくなります。
38 電源表示ランプ(P37)
39 電源スイッチ(P37)
40 Wi-Fi 接続ランプ(P188)
41 撮影距離基準マーク(P134)



42 [MIC] 端子(P243)
43 ヘッドホン端子(P46、162)
44 [HDMI]端子(P226)
45 [AV OUT/DIGITAL]端子
(P226、232、234、235)

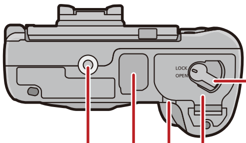


46 [REMOTE]端子(P244)
47 ショルダーストラップ取り付け部(P27)
48 カード扉(P33)

続く

49　三脚取り付け部(P277)
- ねじの長さが5.5 mm以上の三脚を取り付けると、本機を傷つける場合があります。

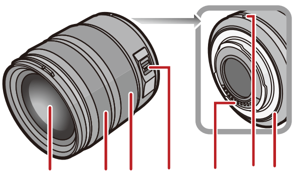
50　接点カバー※(P243)
51　バッテリー扉(P32)
52　開閉レバー(P32)
53　DCカプラー扉(P244)
- ACアダプターを使用するときは、当社製のACアダプター(別売:DMW-AC8)とDCカプラー(別売:DMW-DCC12)を使用してください。



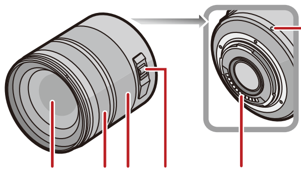
※ 接点カバー(VKF5104)を無くされたときは、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口にお問い合わせください。

■ 同梱レンズ

H-HS12035
LUMIX G X VARIO 12–35 mm/
F2.8 ASPH./POWER O.I.S.



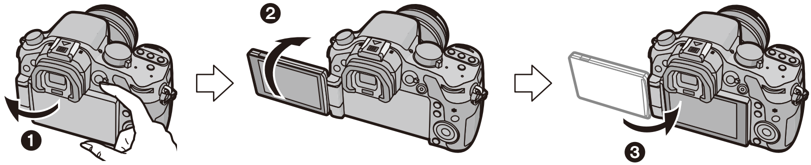
H-VS014140
LUMIX G VARIO HD 14–140 mm/
F4.0–5.8 ASPH./MEGA O.I.S.



1　レンズ面
2　フォーカスリング(P133)
3　ズームリング(P108)
4　O.I.S. スイッチ(P106)
5　接点
6　レンズ取り付けマーク(P25)
7　レンズマウントラバー(P274)

モニター

お買い上げ時、モニターは収納状態になっています。
モニターを下図のようにしてモニター面を表にします。



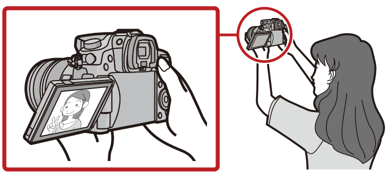
❶ モニターをつまんで開く（最大180°開きます）
❷ レンズ方向に180°回転させる
❸ 元の位置へ閉じる

- **モニターは十分開いてから回転させ、無理な力を加えないようお気をつけください。故障の原因になります。**

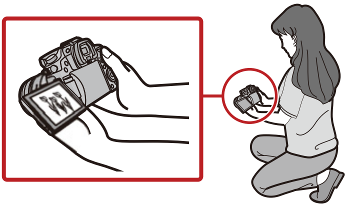
■ フリーアングル撮影

モニターの角度を調節すると、さまざまなアングルからの撮影が可能になり便利です。
- AF補助光ランプを指などで塞がないでください。

ハイアングル撮影



ローアングル撮影

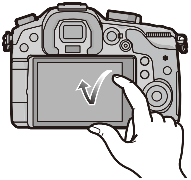


- モニターを使用しないときは、汚れや傷防止のためモニターを内側に収納しておくことをお勧めします。

タッチパネル

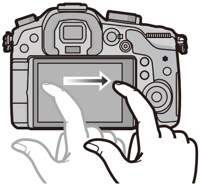
本機のタッチパネルは、静電容量方式です。タッチパネルは直接指でタッチしてください。

■ タッチする



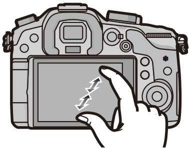
タッチパネルを押して離す動作です。
項目やアイコンを選択するときなどに使います。
- 複数のアイコンを同時にタッチすると、正常に動作しないことがありますので、アイコンの中央付近をタッチしてください。

■ ドラッグする



タッチパネルを押したまま動かす動作です。
AFエリアを移動したり、スライドバーを操作するときなどに使います。
再生時は画像を送ることなどもできます。

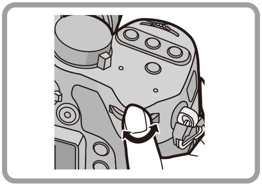
■ ピンチする（広げる・縮める）

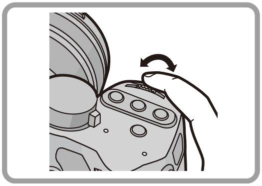


タッチパネルを2本の指で広げる（ピンチアウト）と拡大し、縮める（ピンチイン）と縮小します。
再生画像や AF エリアを拡大 / 縮小するときなどに使います。

- タッチパネルは、清潔で乾燥している指でタッチしてください。
- 以下の場合、タッチパネルが正常に動作しないことがあります。
  – 手袋を着用している
  – ぬれている手や、ハンドクリームを塗った直後の手
  – 市販のモニター保護シートを使用している
  – タッチパネルを複数の手や指で同時にタッチしている
- 市販のスタイラスペンは使用できません。
- 市販のモニター保護シートをご使用になる場合は、その注意書きに従ってください。
  （モニター保護シートの種類によっては、視認性や操作性が損なわれる場合があります）
- ボールペンなどの先のとがった硬いもので押さないでください。
- 爪を立てて操作しないでください。
- モニターが指紋などで汚れた場合は、乾いた柔らかい布でふいてください。
- モニターを強い力でこすったり、押したりしないでください。
- タッチパネルに表示されるアイコンについては、246 ページの「モニター/ファインダーの表示」をお読みください。

後ダイヤル / 前ダイヤル





P / **A** / **S** / **M** モード時は、絞りやシャッタースピードなどを設定します。

モードダイヤル	後ダイヤル	前ダイヤル
P (P77)	プログラムシフト	プログラムシフト
A (P79)	絞り値	絞り値
S (P80)	シャッタースピード	シャッタースピード
M (P81)	シャッタースピード	絞り値

● カスタムメニューの[ダイヤル設定](P57)で、後ダイヤルと前ダイヤルの操作方法を変更できます。

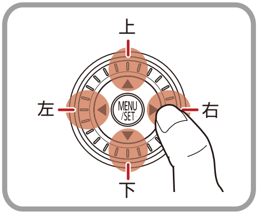
[WB]、[ISO]、[☒] いずれかのボタンを押したあとは、各機能の設定を変更します。

押す	後ダイヤル	前ダイヤル
WB (P122)	ホワイトバランス選択	ホワイトバランス選択
ISO (P120)	ISO 感度選択	ISO 感度上限設定
☒ (P119)	露出補正	フラッシュ光量調整

カーソルボタン / [MENU/SET] ボタン

カーソルボタンを押す：　項目の選択や、数値の設定などを行います。
[MENU/SET] ボタンを押す：設定内容の決定などを行います。

● 本書ではカーソルボタンの上下左右を▲/▼/◀/▶で説明しています。

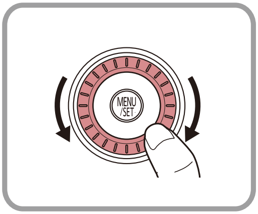


タッチパネル操作中でも、右図のようなガイドが画面に表示されているときは、カーソルボタンと [MENU/SET] ボタンでも操作することができます。
ガイドが表示されないメニュー画面などでもボタン操作で設定や決定をすることができます。



コントロールダイヤル

コントロールダイヤルを回す：項目の選択や、数値の設定などを行います。



本機に使用可能なレンズ

■ マイクロフォーサーズ TM マウント規格レンズ

マイクロフォーサーズシステムのレンズマウント規格に準拠した交換レンズ(マイクロフォーサーズマウント)を使うことができます。

■ フォーサーズ TM マウント規格レンズ

マウントアダプター(別売:DMW-MA1)を使用することで、フォーサーズマウント規格のレンズを使用することができます。

■ ライカマウント規格レンズ

Mマウントアダプター、Rマウントアダプター(別売:DMW-MA2M、DMW-MA3R)を使用することで、ライカMマウント、ライカRマウントの交換レンズを使用することができます。

- お使いのレンズによっては、実際にピントの合う距離とレンズの距離表示が多少ずれる場合があります。
- ライカレンズ用マウントアダプター使用時は、[レンズ無しレリーズ](P59)を[ON]に設定してください。

レンズと機能について

お使いのレンズによっては使用できない、または動作が異なる機能があります。

オートフォーカス※ / 自動絞り動作※ /アイセンサーAF(P63)/ ボケ味コントロール(P101)/手ブレ補正(P106)/タッチズーム(P110)/シェーディング補正(P152)/クイックAF(P52)/ パワーズームレンズ(P58)など

※ 交換レンズ(H-HS12035、H-VS014140)は、動画撮影中のオートフォーカスと自動絞り動作に対応しています。また、交換レンズ(H-VS014140)では、高いAF追従性能と静音設計により、さらにスムーズで静かに動画を撮影することができます。

お使いのレンズについて詳しくは、ホームページでご確認ください。

対応レンズの最新情報は、カタログ/ホームページなどをご覧ください。
http://panasonic.jp/support/dsc/

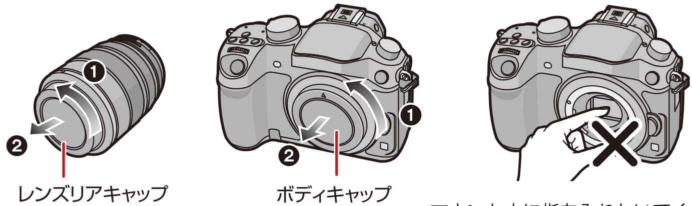
- お使いのレンズの絞り値によって、フラッシュ撮影可能範囲などが異なります。
- お使いのレンズに表記されている焦点距離は、35 mmフィルムカメラで換算すると2倍に相当します。(50 mmレンズを使用した場合は、100 mmレンズ相当になります)3D交換レンズについては、ホームページでご確認ください。

レンズを交換する

- 電源スイッチが[OFF]になっていることを確認する。
- レンズの交換は、ごみやほこりの少ない場所で行ってください。ごみなどが付着した場合は、273ページをお読みください。

レンズの取り付け方

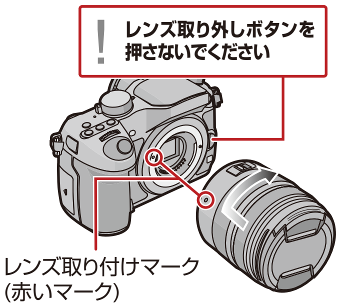
1 レンズリアキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外す



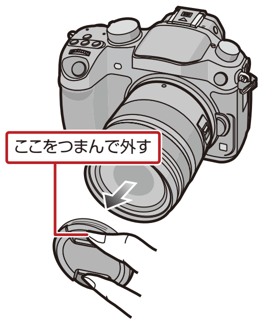
- マウント内に指を入れないでください。

2 本体とレンズのレンズ取り付けマーク(赤いマーク)を合わせて、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す

- レンズを付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズを本体に対して傾いた状態で付けようとすると、本体のレンズ取り付け部を傷つけるおそれがありますのでお気をつけください。



3 レンズキャップを外す

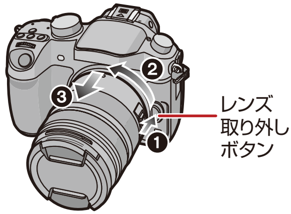


レンズの取り外し方

1 レンズキャップを付ける

2 レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して外す

- 本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、必ずボディキャップを付けてください。
- レンズの接点を傷つけないように、必ずレンズリアキャップを付けてください。



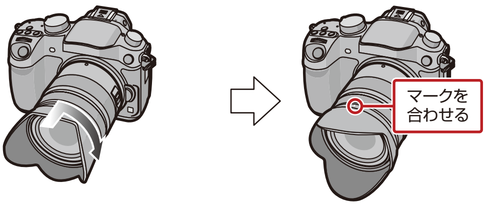
- 持ち運びするときなどはレンズ面の保護のため、レンズキャップを付けるか、MCプロテクター（別売）の装着をお勧めします。(P239)

レンズフードの取り付け方

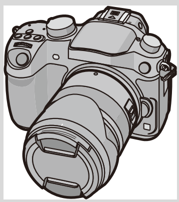
日差しが強い逆光での撮影時、レンズ内部で光の乱反射が生じて、光が写り込んだり、コントラストが低下したりすることを軽減します。余分な光を遮り、より美しく撮れます。

交換レンズ（H-HS12035、H-VS014140）に付属しているレンズフード（花型）を取り付ける場合

レンズフードの短いほうを上下にしてレンズに挿入し、矢印の方向へ止まるまで回す



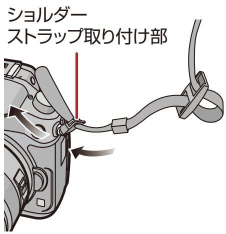
- レンズフードを一時的に外して運ぶ場合は、向きを逆にして取り付けてください。
- 花型レンズフードの付け外しは、レンズフードの短いほうを持って行ってください。



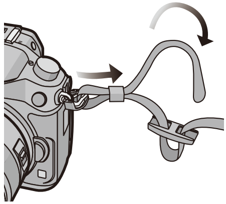
ショルダーストラップを付ける

●落下防止のため、ショルダーストラップを取り付けてご使用いただくことをお勧めします。

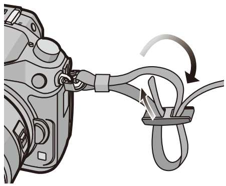
1 ショルダーストラップを本体のショルダーストラップ取り付け部に通す



2 矢印に従って、ショルダーストラップの端をリングに通したあと、留め具に通す

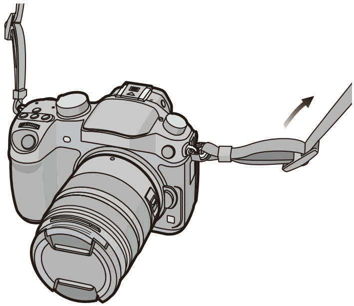


3 ショルダーストラップの端を留め具のもう一方の穴に通す



4 ショルダーストラップのもう一方を引いて、抜けないことを確認する

●手順**1**～**4**の操作を行って、もう片方のショルダーストラップも取り付けてください。



バッテリーを充電する

■ 本機で使えるバッテリー(2012年10月現在)

本機で使えるバッテリーはDMW-BLF19です。

パナソニック純正品に非常によく似た外観をした模造品のバッテリーが一部国内外で流通していることが判明しております。このようなバッテリーの模造品の中には、一定の品質基準を満たした保護装置を備えていないものも存在しており、そのようなバッテリーを使用した場合には、発火・破裂等を伴う事故や故障につながる可能性があります。安全に商品をご使用いただくために、バッテリーを使用するパナソニック製の機器には、弊社が品質管理を実施して発売しておりますパナソニック純正バッテリーのご使用をお勧めいたします。
なお、弊社では模造品のバッテリーが原因で発生した事故・故障につきましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

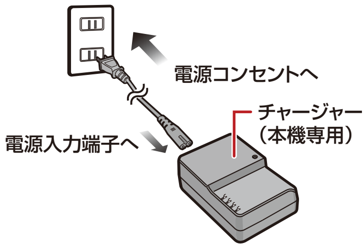
- 本機専用のチャージャーとバッテリーを使用してください。

充電する

- お買い上げ時、バッテリーは充電されていませんので、充電してからお使いください。
- チャージャーは屋内で使用してください。

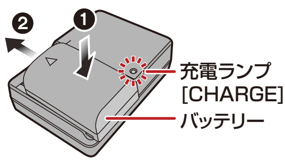
1 電源コードをつなぐ

電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。



2 バッテリーの向きに気をつけて、「カチッ」と音がするまでバッテリーを差し込む

- 充電ランプが点灯し、充電が始まります。



続く

■ 充電ランプの表示について

点灯：充電中
消灯：充電完了（充電完了後は、チャージャーを電源コンセントから抜き、バッテリーを取り外してください）

- **点滅するときは**
  - バッテリーの温度が高すぎる、あるいは低すぎます。周囲の温度が10 ℃～30 ℃のところで再度充電することをお勧めします。
  - チャージャーやバッテリーの端子部が汚れています。このようなときは、汚れを乾いた布でふき取ってください。

■ 充電時間について

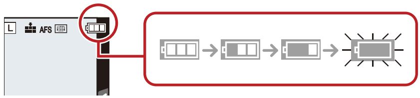
充電時間	約220分

- **充電時間はバッテリーを使い切ってから充電した場合の時間です。バッテリーの使用状況によって充電時間は変わります。高温/低温時や長時間使用していないバッテリーは充電時間が長くなります。**

■ バッテリー残量表示について

残量表示が画面に表示されます。

- バッテリー残量がなくなると表示が赤に変わり点滅します。（電源表示ランプも点滅します）
  バッテリーを充電または満充電されたバッテリーと交換してください。



- **電源プラグの接点部周辺に金属類（クリップなど）を放置しないでください。ショートや発熱による火災や感電の原因になります。**
- バッテリー残量が残っていても、そのまま充電できますが、満充電での頻繁な継ぎ足し充電はお勧めできません。（バッテリーが膨らむ特性があります）
- チャージャーは海外でも使うことができます。(P245)

使用時間と撮影枚数の目安

写真記録（モニター/ファインダー使用時）（条件はCIPA規格でプログラムAEモード時）

	交換レンズ（H-HS12035）装着時	交換レンズ（H-VS014140）装着時
記録可能枚数	約540枚	約500枚
撮影使用時間	約270 分	約250分

CIPA規格による撮影条件

- CIPAは、カメラ映像機器工業会（Camera & Imaging Products Association）の略称です。
- 温度23 ℃/湿度50%RH、モニター/ファインダーを点灯
- 当社製のSDメモリーカード（4 GB）使用
- 付属バッテリー使用
- 電源を入れてから30秒経過後、撮影を開始
（手ブレ補正機能に対応した交換レンズ装着時は手ブレ補正を [((✋))] に設定）
- **30秒間隔で1回撮影**、フラッシュを2回に1回フル発光
- 10枚撮影ごとに電源を切り、バッテリーの温度が下がるまで放置

記録可能枚数は撮影間隔によって変わります。撮影間隔が長くなると記録可能枚数は減少します。
[例えば2分に1回撮影した場合は、上記（30秒に1回撮影）の枚数の約1/4になります]

続く

動画撮影（モニター使用時）

→AVCHD（画質設定を[FHD/60i] で撮影）

	交換レンズ（H-HS12035）装着時	交換レンズ（H-VS014140）装着時
撮影可能時間	約240分	約220 分
実撮影可能時間	約 120分	約110分

→MP4（画質設定を[FHD/30p]で撮影）

	交換レンズ（H-HS12035）装着時	交換レンズ（H-VS014140）装着時
撮影可能時間	約240分	約220分
実撮影可能時間	約120分	約110分

→MOV（画質設定を[FHD/60p]で撮影）

	交換レンズ（H-HS12035）装着時	交換レンズ（H-VS014140）装着時
撮影可能時間	約220分	約200分
実撮影可能時間	約110分	約100分

- 温度23 ℃/湿度50%RHの環境下での時間です。時間は目安にしてください。
- 実撮影可能時間とは、電源の[ON]/[OFF]切り換え、撮影の開始/終了などを繰り返したときに撮影できる時間です。
- [MP4]で1つの動画として連続記録できる時間は29分59秒まで、ファイルサイズは4 GBまでです。（[MP4]の[FHD/30p]では、ファイルサイズが大きくなるため、記録できる時間は29分59秒より短くなります）
- [MOV]でファイルサイズが4 GBを超える場合、撮影時は一時中断することなく動画撮影を続けることができますが、動画ファイルは分かれて再生されます。

再生（モニター使用時）

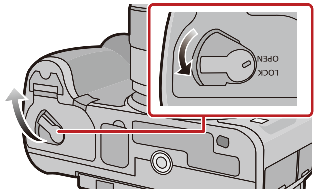
	交換レンズ（H-HS12035）装着時	交換レンズ（H-VS014140）装着時
再生使用時間	約460分	約370 分

- **使用時間と撮影枚数は、周囲環境や使用条件によって変わります。**
  例えば、以下の場合は、使用時間と撮影枚数は減少します。
  – スキー場などの低温下
  – フラッシュ発光を繰り返したとき
- 正しく充電したにもかかわらず、著しく使用できる時間が短くなったときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。

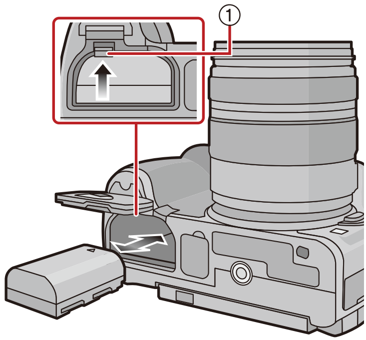
バッテリーを入れる・取り出す

●電源スイッチが[OFF]になっていることを確認する。

1 **開閉レバーを矢印の方向(OPEN側)にスライドさせて、バッテリー扉を開く**

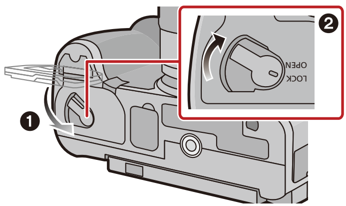


2 **向きに気をつけて、ロック音がするまで確実に奥まで挿入し、バッテリーに①のレバーがかかっていることを確認する**
取り出すときは、①のレバーを矢印の方向に引いて取り出す



3 ❶ **バッテリー扉を閉じる**

❷ **開閉レバーを矢印の方向(LOCK側)にスライドさせる**

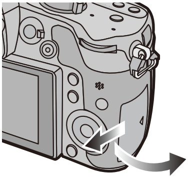


●バッテリー扉の内側(ゴムパッキン)に異物が付着していないことを確認してください。
●使用後は、バッテリーを取り出しておいてください。(長期間放置すると、バッテリーは消耗します)
●使用後や充電中、充電直後などはバッテリーが温かくなっています。また使用中は本機も温かくなりますが、異常ではありません。
●バッテリーの取り出しは、電源を切り、電源表示ランプが完全に消えてから行ってください。(本機が正常に動作しなくなったり、カードや撮影内容が壊れる場合があります)

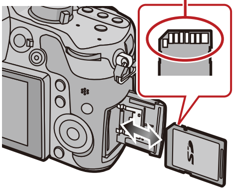
カード(別売)を入れる・取り出す

- 電源スイッチが[OFF]になっていることを確認する。
- カードは当社製のものをお使いいただくことをお勧めします。

1 カード扉をスライドさせて開く

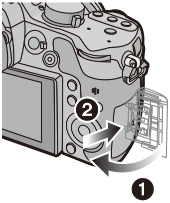


2 向きに気をつけて、「カチッ」と音がするまで確実に奥まで入れる
取り出すときは、「カチッ」と音がするまで押し、まっすぐ引き抜く



3 ❶ カード扉を閉じる

❷ 最後までスライドさせて確実に閉じる



- カードの取り出しは、電源を切り、電源表示ランプが完全に消えてから行ってください。(本機が正常に動作しなくなったり、カードや撮影内容が壊れる場合があります)

本機で使用できるカードについて

本機では、SD規格に準拠した以下のカードが使用できます。（本書では、これらを**カード**と記載しています）

	特長
SDメモリーカード（8 MB～2 GB）/ miniSDカード※1/microSDカード※1	● SDXCメモリーカードは、SDXCメモリーカード対応機器でのみ使用できます。 ● SDXCメモリーカードをお使いの場合は、パソコンなどが対応しているかご確認ください。 http://panasonic.jp/support/sd_w/ ● 本機はUHS-I規格のSDHC/SDXCメモリーカードに対応しています。 ● 左記の容量以外のカードは使えません。
SDHCメモリーカード（4 GB～32 GB）/ microSDHCカード※1	
SDXCメモリーカード（48 GB、64 GB）	

※1　本機で使用する場合は、専用のアダプターを必ず装着してお使いください。

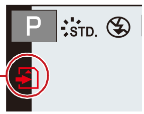
■ 動画撮影と SD スピードクラスについて

動画撮影の際は、カードのラベル面などで SD スピードクラス（連続的な書き込みに関する速度規格）をご確認ください。[AVCHD]、[MP4]動画には「Class4」以上、[MOV]動画には「Class10」のカードを使用してください。

（例）

● **最新情報は下記サポートサイトでご確認ください。**
http://panasonic.jp/support/dsc/

カードアクセス中は・・・
カードに画像を記録しているときは、アクセス表示が赤く表示されます。



アクセス表示

● **アクセス中（画像の書き込み、読み出しや消去、フォーマット中など）は、電源を切ったり、バッテリーやカード、ACアダプター（別売：DMW-AC8）を取り外さないでください。**
また、本機に振動、衝撃や静電気を与えないでください。
カードやカードのデータが壊れたり、本機が正常に動作しなくなることがあります。振動、衝撃や静電気により動作が停止した場合は再度操作してください。

続く

●書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にすると、データの書き込みや消去、フォーマットはできなくなります。戻すと可能になります。
●カードに記録されたデータは電磁波、静電気、本機やカードの故障などによりデータが壊れたり消失することがあります。大切なデータはパソコンなどに保存することをお勧めします。
●パソコンやその他の機器でフォーマットした場合、もう一度本機でフォーマットしてください。(P51)



カードをフォーマット(初期化)する

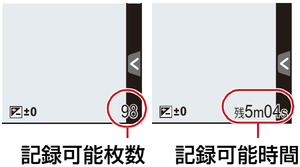
本機で撮影する前に、カードをフォーマット(P51)します。**フォーマットするとデータを元に戻すことができませんので、必要なデータを保存してからフォーマットしてください。**

セットアップメニューから[フォーマット]を選ぶ(P38)
●確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。

記録可能枚数・時間の目安

■ 記録可能枚数・時間の表示について

●記録可能枚数と時間との切り換えは、カスタムメニューの[残枚数/残時間切換](P57)で行えます。



■ 記録可能枚数(写真:枚)

●残り枚数が10000枚以上の場合は、[9999+]と表示されます。

●**画像横縦比 [4:3]、クオリティ[ ] の場合**

記録画素数	2 GB	8 GB	32 GB	64 GB
L(16M)	220	900	3670	7160
M(8M)	410	1650	6690	13000
S(4M)	680	2750	11130	21490

●**画像横縦比 [4:3]、クオリティ[RAW] の場合**

記録画素数	2 GB	8 GB	32 GB	64 GB
L(16M)	69	270	1120	2220
M(8M)	81	320	1310	2580
S(4M)	88	350	1420	2800

続く

■ 記録可能時間（動画撮影時）（h: 時間、m: 分、s: 秒）

● **記録方式 [AVCHD] の場合**

画質設定	2 GB	8 GB	32 GB	64 GB
[FHD/60p]	8m00s	36m00s	2h31m	5h6m
[FHD/60i]	13m00s	1h00m	4h8m	8h25m
[FHD/30p]/[FHD/24p]	9m00s	42m00s	2h56m	5h58m

● **記録方式 [MP4] の場合**

画質設定	2 GB	8 GB	32 GB	64 GB
[FHD/30p]	11m00s	48m00s	3h21m	6h49m
[HD/30p]	21m00s	1h33m	6h25m	13h2m
[VGA/30p]	46m00s	3h25m	14h8m	28h42m

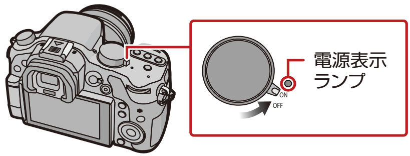
● **記録方式 [MOV] の場合**

画質設定	2 GB	8 GB	32 GB	64 GB
[FHD/60p]	4m00s	20m00s	1h24m	2h51m
[FHD/30p/I]	3m00s	14m00s	58m00s	1h59m
[FHD/30p]	4m00s	20m00s	1h24m	2h51m
[FHD/24p/I]	3m00s	14m00s	58m00s	1h59m
[FHD/24p]	4m00s	20m00s	1h24m	2h51m
[HD/60p/I]	3m00s	14m00s	58m00s	1h59m

- 記録可能枚数･時間は目安です。（撮影条件、カードの種類によって変化します）
- 被写体により記録可能枚数･時間は変動します。
- [MP4]で１つの動画として連続記録できる時間は29分59秒まで、ファイルサイズは4 GBまでです。（[MP4]の[FHD/30p]では、ファイルサイズが大きくなるため、記録できる時間は29分59秒より短くなります）
- [MOV] でファイルサイズが 4 GB を超える場合、撮影時は一時中断することなく動画撮影を続けることができますが、動画ファイルは分かれて再生されます。
- 画面には、連続して記録できる時間が表示されます。

時計を設定する

● お買い上げ時は、時計設定されていません。



1 電源スイッチを[ON]にする

●電源が入ると電源表示ランプが点灯します。

2 [MENU/SET]ボタンを押す



3 ◀/▶ボタンで合わせたい項目(年・月・日・時・分)を選び、▲/▼ボタンで設定する

● [🗑/⮌]ボタンを押すと、時計を設定せずに中止することができます。



表示順・時刻表示形式を設定する場合

● [表示形式]を選び、[MENU/SET]ボタンを押すと、表示順・時刻表示形式の設定画面が表示されます。



4 [MENU/SET]ボタンを押して決定する

5 [MENU/SET]ボタンを押す

時計設定を変更する

セットアップメニューの[時計設定]を選んでください。(P38)

● 上記の手順**3**、**4**の操作で変更できます。

● **バッテリーなしでも約3か月間、時計用内蔵電池を使って時計設定を記憶できます。(内蔵電池を充電するには、満充電されたバッテリーを本機に約24時間入れたままにしてください)**

● 時計設定を行っていないと、お店にプリントを依頼するときや文字焼き込みを行うときに、正しい日付をプリントすることができませんのでお気をつけください。

● 時計設定を行っていれば、カメラの画面上に日付が表示されていなくても、正しく日付をプリントできます。

メニューを使って設定する

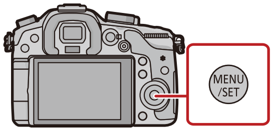
お好みの撮影や再生ができるように設定したり、より楽しく、使いやすくするためのメニューを用意しています。
特に「セットアップメニュー」は、本機の時計や電源に関する大切な設定です。ご使用の前に、設定を確認してください。

メニューの設定方法

- セットアップメニューの[メニュー位置メモリー](P49)を[ON]に設定していると、前回終了したメニュー項目を選択した状態の画面になります。お買い上げ時は[ON]に設定されています。
- セットアップメニューの[メニューインフォメーション](P49)を[ON]に設定していると、メニュー項目/設定内容の説明文がメニュー画面に表示されます。
- 画面をタッチするタッチ操作でもメニューを設定できます。

例)撮影メニューで、[クオリティ]を[ ]から[ ]に設定する

1 [MENU/SET]ボタンを押す



メニュー	内容
[ ] 撮影(P141～)	横縦比、画素数などをお好みで設定できます。
[ ] 動画(P168～)	記録方式や画質設定など、動画撮影時の設定ができます。
[ ] カスタム(P52～)	画面の表示方法やボタンの働きなど、本機の操作をお好みに応じて設定できます。また、変更した設定内容を登録しておくことができます。
[ ] セットアップ(P44～)	時計の設定や電子音の切り換えなど、使いやすさの設定ができます。 Wi-Fi 機能に関する設定もできます。
[ ] 再生(P171～)	画像の保護、切り抜き、プリントするときに便利な設定など、撮影した画像に対する設定ができます。

続く

2 ▲/▼ボタンでメニュー項目を選び、▶ボタンを押す



- 後ダイヤルまたはコントロールダイヤルを回しても、メニュー項目を選べます。
- [DISP.]ボタンを押すことでも、ページを切り換えられます。

3 ▲/▼ボタンで設定内容を選び、[MENU/SET]ボタンを押す



- 後ダイヤルまたはコントロールダイヤルを回しても、設定内容を選べます。
- メニュー項目によっては、設定が表示されないものや、表示のされ方が異なるものがあります。

- 本機では仕様上、お使いのモードやメニュー設定により、設定できなくなったり、働かなくなる機能があります。

■ メニューを終了する

[/]ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

■ 他のメニューに切り換えるには

例）撮影メニューからセットアップメニューへの切り換え

1 ◀ボタンを押す

2 ▲/▼ボタンで［ ］などのメニュー切り換えアイコンを選ぶ

- 前ダイヤルを回しても、メニュー切り換えアイコンを選べます。

3 ▶ボタンを押す

- 続けてメニュー項目を選んで設定してください。

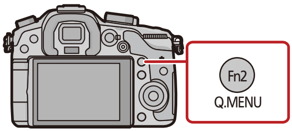


メニュー切り換えアイコン

よく使うメニューをすぐに呼び出す(クイックメニュー)

クイックメニューを使うと、一部のメニューを簡単に呼び出すことができます。
● モードや表示画面によっては、設定できない項目もあります。

[Q.MENU]/[Fn2]ボタンは、[Q.MENU]と[Fn2](ファンクション2)の2とおりの使い方ができます。お買い上げ時は、[Q.MENU] が設定されています。
● ファンクションボタンについて詳しくは 42 ページをお読みください。

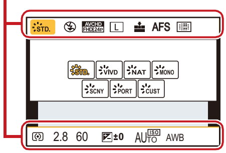


1 [Q.MENU] ボタンを押して、クイックメニューを表示する

2 前ダイヤルを回してメニュー項目を選ぶ

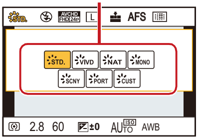
● コントロールダイヤルを回しても設定できます。

メニュー項目



3 後ダイヤルを回して設定内容を選ぶ

設定内容

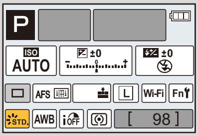


4 設定が終了したら [Q.MENU] ボタンを押してメニューを終了する

● シャッターボタン半押しでも終了できます。

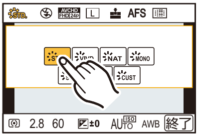
● ▲/▼/◀/▶ ボタンでも設定できます。

[ ](モニタースタイル)のモニター撮影情報画面(P67)
[Q.MENU] ボタンを押し、コントロールダイヤルを回して項目を選び、前後のダイヤルを回して設定内容を選んでください。
● ▲/▼/◀/▶ ボタンと [MENU/SET] ボタンでも設定できます。



■ タッチパネル操作時

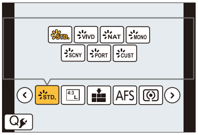
1 [Q.MENU] ボタンを押して、クイックメニューを表示する
2 メニュー項目をタッチする
3 設定内容をタッチする
4 設定が終了したら [終了] をタッチしてメニューを終了する
● シャッターボタン半押しでも終了できます。



クイックメニューをお好みの項目に変更する

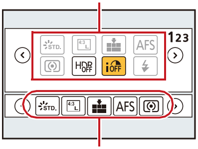
カスタムメニューの[Q.MENU](P57)を[カスタム]に設定時は、クイックメニューをお好みで変更できます。クイックメニューは 15 項目まで設定しておくことができます。

1 **▼ボタンで[Q.MENU]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**



2 **◀/▶ボタンで上段のメニュー項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

3 **◀/▶ボタンで下段の空き項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**



クイックメニューとして設定できる項目

クイックメニュー画面に表示できる項目

- 上段から下段へ項目をドラッグしても設定できます。
- 下段に空き項目がない場合は、設定済みの項目を選ぶと入れ替えて設定することができます。
- 設定を解除するには、▼ボタンで下段に入り、解除する項目を選んで[MENU/SET]ボタンを押してください。
- 設定できる項目は、以下のとおりです。

撮影メニュー/撮影機能	
– フォトスタイル(P141)	– EX テレコン(写真・動画)(P108)
– 画像横縦比(P143)/記録画素数(P143)	– デジタルズーム(P108)
– クオリティ(P144)	– 電子シャッター(P150)
– 測光モード(P145)	– 連写速度(P136)
– HDR(P147)	– オートブラケット(P138)
– iD レンジコントロール(P146)	– セルフタイマー(P140)
– フラッシュモード(P113)	– 手ブレ補正(P106)
– 超解像(P146)	

動画撮影メニュー
– 動画記録方式/画質設定(P158)
– 写真撮影(P163)
– タイムコード表示(P167)

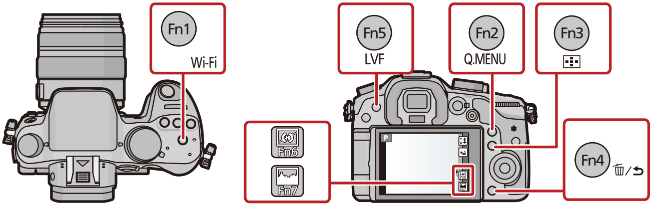
カスタムメニュー
– AFS/AFF(P52)
– ヒストグラム表示(P55)
– ガイドライン表示(P55)
– ステップズーム(P58)
– ズーム速度(P58)
– 記録枠表示(P56)

4 **[🗑/↩]ボタンを押す**

- 上記手順 ***1*** の画面に戻ります。撮影画面にするには[MENU/SET]ボタンを押してください。

よく使う機能をボタンに割り当てる(ファンクションボタン)

特定のボタンやアイコンに、撮影機能などを割り当てることができます。
[Fn1]、[Fn2]、[Fn3]、[Fn4]、[Fn5]はボタンを押すことで、[Fn6]、[Fn7]はアイコンをタッチすることで、割り当てた機能を使うことができます。



1 **カスタムメニューの[Fnボタン設定]で、機能を割り当てたいファンクションボタンを選ぶ(P38)**

2 **▲/▼ボタンで割り当てる機能を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

● それぞれのファンクションボタンにお好みの機能を割り当ててください。

撮影メニュー/撮影機能	
– Wi-Fi(P190):[Fn1]※	– 記録画素数(P143)
– Q.MENU(P40):[Fn2]※	– クオリティ(P144)
– オートフォーカスモード(P126):[Fn3]※	– 測光モード(P145)
– LVF/モニター切換(P62):[Fn5]※	– 連写速度(P136)
– AF/AE LOCK(P135)	– オートブラケット(P138)
– プレビュー(P83):[Fn4]※	– セルフタイマー(P140)
– ワンプッシュAE	– iDレンジコントロール(P146)
– 水準器表示(P68):[Fn6]※	– 超解像(P146)
– フォーカスエリア選択	– HDR(P147)
– ズーム操作(P109)	– 電子シャッター(P150)
– ワンショット RAW+JPG	– フラッシュモード(P113)
– ワンショット スポット測光	– EX テレコン(写真・動画)(P108)
– カーソルボタンロック	– デジタルズーム(P108)
– フォトスタイル(P141)	– 手ブレ補正(P106)
– 画像横縦比(P143)	– デフォルトに戻す

動画撮影メニュー	
– 動画記録方式/画質設定(P158)	– タイムコード表示(P167)
– 写真撮影(P163)	

カスタムメニュー	
– AFS/AFF(P52)	– ステップズーム(P58)
– ヒストグラム表示(P55):[Fn7]※	– ズーム速度(P58)
– ガイドライン表示(P55)	– 記録枠表示(P56)

※お買い上げ時のファンクションボタン設定

● 設定後はメニューを終了してください。

続く

- モードや表示画面によっては、使えない機能もあります。
- [ワンプッシュAE]設定時は、露出メーターが表示され、露出の設定が明るすぎたり、暗すぎるときの絞り値やシャッタースピードを適正露出に合わせます。
  以下の場合では、適正露出に合わせることができません。（露出メーターは表示されます）
  – 非常に暗い被写体など、絞り値やシャッタースピードを変えても適正露出にできないとき
  – フラッシュ撮影時
  – プレビューモード時（P83）
  – 絞りリングのあるレンズを使用時
- [フォーカスエリア選択]設定時は、AFエリアまたはMFアシストの位置設定画面を表示することができます。
- [ワンショット RAW+JPG]設定時は、1度だけRAW画像とファイン相当のJPEG画像を同時に撮影します。撮影後は元のクオリティに戻ります。
- [ワンショット スポット測光]設定時は、1度だけ[測光モード]を[⊡]（スポット）で撮影します。撮影後は元の測光モードに戻ります。
- [カーソルボタンロック]設定時は、カーソルボタン、[MENU/SET]ボタン、コントロールダイヤルの操作を無効にします。もう一度ファンクションボタンを押すと有効になります。
- [デフォルトに戻す]設定時は、ファンクションボタンの設定をお買い上げ時の状態に戻します。
- インターバル撮影時は[Fn1]は使えません。
- インテリジェントオート（iAまたはiA+）モード、クリエイティブコントロールモードでは[Fn4]は使えません。
- ファインダー表示時は、[Fn6]、[Fn7]は使えません。

■ モニター撮影情報画面からファンクションボタンの設定を行う

モニター撮影情報画面（P67）で[Fn]をタッチしても、手順**1**の画面を表示することができます。

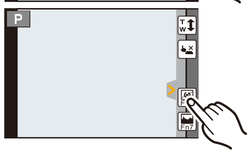
■ タッチ操作でファンクションボタンを使う

[Fn6]、[Fn7] はタッチ操作でファンクションボタンを使うことができます。

❶ [◁]をタッチする



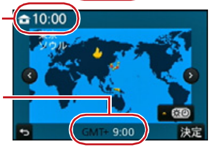
❷ [Fn6]または[Fn7]をタッチする
- 割り当てられた機能が働きます。



本機の基本的な設定をする(セットアップメニュー)

セットアップメニューの設定方法は ☞ P38

[時計設定]、[エコモード]は大切な項目です。ご使用の前に設定を確認してください。

項目	設定・お知らせ
時計設定	● 詳しくは、37ページをお読みください。
ワールドタイム お住まいの地域と海外などの旅行先の時刻を設定します。 旅行先の時刻を表示し、撮影画像に記録することができます。	● お買い上げ時はまず [ホーム] を設定してください。 [旅行先] の設定は、[ホーム] 設定後に行えます。 **[旅行先]、[ホーム]のいずれかを選択後は、◀/▶ ボタンでエリアを選び、[MENU/SET] ボタンを押して決定してください。** **[✈ 旅行先]**： 旅行先の地域  **[⌂ ホーム]**： お住まいの地域  ● サマータイム[▲☼◷](夏時間)を採用している場合は、▲ボタンを押してください。(時計が 1 時間進みます)もう一度▲ボタンを押すと元に戻ります。 ● 画面に表示されるエリアで旅行先が見つからない場合は、ホームエリアからの時差を参考に設定してください。

セットアップメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
トラベル日付 旅行の出発日と帰着日を設定したり、旅行先の名前を設定します。 記録された経過日数などは、再生時に表示させたり、[文字焼き込み](P176)で撮影画像に焼き込むことができます。	**[トラベル日付設定]**: **[設定]**: 出発日、帰着日を設定します。撮影時に旅行の経過日数(何日目か)が記録されます。 **[OFF]** ●現在の日付が帰着日を経過した場合は、自動的に解除されます。[トラベル日付設定]を[OFF]にした場合は、[旅行先]も自動的に[OFF]になります。 **[旅行先]**: **[設定]**: 撮影時に旅行先が記録されます。 **[OFF]** ●文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。 ●A/a/1/&で入力できる文字数は最大30文字です。 ●かな/カナ、[＼]、[「]、[」]、[・]、[—]で入力できる文字数は最大15文字です。 ●CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使って経過日数や旅行先をプリントすることができます。 ●トラベル日付は、設定された出発日と本機の時計設定の日付により計算されます。ワールドタイムを旅行先に設定している場合は、旅行先の日付により算出されます。 ●設定したトラベル日付は、電源スイッチを[OFF]にしても記憶しています。 ●[AVCHD]で撮影された動画は[トラベル日付]は記録できません。 ●動画撮影の際、[旅行先]は記録できません。
Wi-Fi	**[Wi-Fi 機能]、[Wi-Fi 設定]** ●詳しくは、189、221ページをお読みください。
電子音 電子音や電子シャッター音の音量を設定します。	**[電子音音量]**: [ ]: 大 [ ]: 小 [ ]: OFF **[電子シャッター音音量]**: [ ]: 大 [ ]: 小 [ ]: OFF ●[電子シャッター音音量]は、連写の[SH]設定時、[電子シャッター]設定時にのみ働きます。

セットアップメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
スピーカー音量 スピーカーの音量を7段階に調整します。	●テレビと接続したとき、テレビ側のスピーカーの音量は変わりません。また、このとき本機のスピーカーからは音声は出ません。
ヘッドホン音量	ヘッドホン（別売）接続時の音量を16段階に調整します。
モニター調整 / LVF調整 モニター/ファインダーの明るさや色合い、または赤みや青みなどの色みを調整します。	[ ]（明るさ）: 明るさを調整します。 [ ]（コントラスト・彩度）: 明暗差や色の鮮やかさを調整します。 [ ]（赤み）: 赤みを調整します。 [ ]（青み）: 青みを調整します。 **1 ▲/▼で設定項目を選び、◀/▶で調整する** ●コントロールダイヤルを回しても、調整できます。 **2 [MENU/SET]ボタンを押して決定する** ●モニター表示時はモニターを、ファインダー表示時はファインダーを調整します。 ●被写体によっては実際と違って見える場合がありますが、記録される画像に影響はありません。
モニター輝度 周囲の明るさに応じて、モニターの明るさを設定できます。	[(AUTO)]: 周囲の明るさに応じて、自動的に明るさを調整します。 [(MODE1)]: モニターを明るくします。 [(MODE2)]: モニターを暗くします。 ●モニターに表示される画像の明るさを強調しているため、被写体によっては実際と違って見える場合がありますが、記録される画像に影響はありません。 ●再生時は、[AUTO]は選択できません。 ●ACアダプター（別売:DMW-AC8）使用時の初期設定は[MODE1]になります。

セットアップメニューの設定方法は ☞ P38

項目	設定・お知らせ
エコモード 設定した時間の間に何も操作しないと、自動的に電源を切ります。 また、使用しない間、モニター/ファインダーを自動的に消灯することで、バッテリーの消耗を防ぎます。	**[スリープモード]:** **[10分]、[5分]、[2分]、[1分]、[OFF]** 設定した時間の間に何も操作をしないと、自動的に電源を切ります。 **[LVF/モニター自動OFF]:** **[5分]、[2分]、[1分]** 設定した時間の間に何も操作をしないと、自動的にモニター/ファインダーを消灯します。 ● [スリープモード]を解除する場合は、シャッターボタンを半押しするか、電源スイッチを[OFF]にしてからもう一度[ON]にしてください。 ● モニター/ファインダーを再度点灯させるには、いずれかのボタンを押す、またはモニターをタッチしてください。 ● アイセンサー自動切換(P59)が働くと、[LVF/モニター自動OFF]は解除されます。 ● 以下の場合、[エコモード]は働きません。 –パソコンまたはプリンター接続時 –動画撮影/動画再生時 –スライドショー時 –[多重露出]設定時 ● ACアダプター(別売:DMW-AC8)使用時は、[スリープモード]は働きません。
バッテリー使用順序	**[本体優先]、[BG優先]** ● 詳しくは、243ページをお読みください。
USBモード USB接続ケーブル(付属)を使って本機をパソコンやプリンターに接続する際に、USB通信方式を設定します。	**[接続時に選択]:** パソコンまたはPictBridge対応プリンターに接続したときに、[PC]または[PictBridge(PTP)]のいずれかを選択します。 **[PictBridge(PTP)]:** PictBridge対応プリンターに接続する場合に設定します。 **[PC]:** パソコンに接続する場合に設定します。

セットアップメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
映像出力 テレビなどとの接続のしかたを設定します。	**[TV 画面タイプ]**： テレビの種類に合わせて設定します。 [16:9]：画面が16：9のテレビと接続時 [4:3]：画面が4：3のテレビと接続時 ● AVケーブル（別売）接続時に働きます。 **[HDMI 出力解像度]**： HDMI ミニケーブル（別売）を使って本機をHDMI対応のハイビジョンテレビに接続して再生する際に、HDMI 出力の映像方式を設定します。 [AUTO]：接続したテレビからの情報を基に、自動的に出力解像度を決定します。 [1080p]：有効走査線数1080本のプログレッシブ方式で出力します。 [1080i]：有効走査線数1080本のインターレース方式で出力します。 [720p]：有効走査線数720本のプログレッシブ方式で出力します。 [480p]：有効走査線数480本のプログレッシブ方式で出力します。 ● HDMIミニケーブル（別売）接続時に働きます。 ● [AUTO]に設定していて映像がテレビに出ないときは、[1080p]、[1080i]、[720p] または[480p]に切り換えて、お使いのテレビが表示できる映像方式に合わせてください。（テレビの説明書もお読みください） **[HDMI 情報表示（撮影時）]**： 動画をテレビなどでモニターしながら撮影する際に、情報を表示するかしないかを設定します。 [ON]、[OFF] ● HDMIミニケーブル（別売）接続時に働きます。 ● 詳しくは、162ページをお読みください。

セットアップメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
ビエラリンク 本機とHDMIミニケーブル(別売)を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させ、ビエラのリモコンで操作できるように設定します。	[ON]: ビエラリンク対応機器のリモコンで操作ができるようになります。(すべての操作はできません) 本機のボタンでの操作は制限されます。 [OFF]: 本機のボタンでの操作になります。 ● HDMIミニケーブル(別売)接続時に働きます。 ● 詳しくは、227ページをお読みください。
3D テレビ出力 3D画像の出力方法を設定します。	[3D]: 3D対応テレビに接続する場合に設定します。 [2D]: 3D非対応のテレビに接続する場合に設定します。 3D対応テレビで2D(従来の画像)再生したい場合も、この設定にしてください。 ● HDMIミニケーブル(別売)接続時に働きます。 ● 3D画像を3Dで再生する方法については、224ページをお読みください。
メニュー位置メモリー 最後に操作したメニュー項目の選択位置を、メニューの種類ごとに記憶します。	[ON]、[OFF]
メニュー背景色 メニュー画面の背景色を設定します。	● 背景の色を4色から選ぶことができます。
メニューインフォメーション メニュー画面にメニュー項目/設定内容の説明文を表示します。	[ON]、[OFF]

セットアップメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
バージョン表示	● 本体とレンズのファームウェアバージョンを確認できます。 ● レンズを取り付けていないときは、レンズファームウェアは[–.–]と表示されます。 ● バージョン表示画面で[MENU/SET]ボタンを押すと、本機のソフトウェアに関する情報を表示します。
番号リセット 次に撮影される画像のファイル番号を0001にします。	● フォルダー番号が更新され、ファイル番号が0001から始まります。 ● フォルダー番号は100～999まで作成されます。フォルダー番号が999になると番号リセットができなくなりますので、データをパソコンなどに保存してフォーマット(P51)することをお勧めします。 ● フォルダー番号を100にリセットするには、まずカードをフォーマットしてから、[番号リセット]を実行し、ファイル番号をリセットしてください。そのあと、フォルダー番号のリセット画面が表示されますので、[はい]を選びます。
設定リセット 設定をお買い上げ時の状態に戻します。	**撮影設定、セットアップ/カスタム設定** ● 撮影設定をリセットすると、以下の設定内容もリセットされます。 – [個人認証] の設定内容 – [プロフィール設定] の設定内容 ● セットアップ/カスタム設定をリセットすると、以下の設定内容もリセットされます。 – [ワールドタイム] の設定内容 – [トラベル日付] の設定内容（出発日、帰着日、旅行先） ● フォルダー番号、時計の設定は変わりません。
Wi-Fi 設定リセット Wi-Fiメニューで設定したすべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。※	● カメラを廃棄または譲渡する場合は、設定した個人情報を誤って使用されないためにも、必ずリセットしてください。 ● 修理を依頼する場合も、個人情報の控えをとったあと、必ずリセットしてください。 ※ ([PicMate 設定]は除く)(P219)

セットアップメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
ピクセルリフレッシュ 撮像素子と画像処理の最適化を行います。	● 撮像素子と画像処理の最適化については、お買い上げ時は最適な状態に設定されています。被写体にない明るい点が記録され、気になるときは、本機能をお使いください。 ● 終了後は、電源を入れ直してください。
センサークリーニング 撮像素子前面に付着したごみやほこりを払い落とすダストリダクションを行います。	● ダストリダクション機能は電源スイッチを[ON]にすると自動的に働きますが、特にごみが気になるときは、本機能をお使いください。(P273)
フォーマット カードをフォーマット（初期化）します。**フォーマットするとデータを元に戻すことができませんので、必要なデータを保存してからフォーマットしてください。**	● フォーマットするときは、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（別売：DMW-AC8）を使用し、フォーマット中は電源スイッチを[OFF]にしないでください。 ● 他の機器でフォーマットしたカードは、もう一度本機でフォーマットしてください。 ● フォーマットできないときは、別のカードを入れてお試しいただいてから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

本機の操作方法をお好みに合わせて設定する(カスタムメニュー)

カスタムメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
カスタムセット登録	[C1]、[C2]、[C3-1]、[C3-2]、[C3-3] ● 詳しくは、104ページをお読みください。
AF/AEロック切換	[AE LOCK]、[AF LOCK]、[AF/AE LOCK]、[AF-ON] ● 詳しくは、135ページをお読みください。
AF/AEロック維持 ピントや露出を固定して撮影する際の[AF/AE LOCK]ボタンのボタン動作を設定します。	[ON]: [AF/AE LOCK]ボタンを押したあと、離してもピントや露出が固定されます。もう一度[AF/AE LOCK]ボタンを押すと、ロックが解除されます。 [OFF]: [AF/AE LOCK]ボタンを押している間だけピントや露出が固定されます。(P135) [AF/AE LOCK]ボタンを離すと、ロックが解除されます。
シャッター半押しAF シャッターボタン半押し時に、自動的にピントを合わせるか合わせないかを設定します。	[ON]、[OFF]
シャッター半押しレリーズ シャッターボタン半押しで、すぐにシャッターを切ることができます。	[ON]、[OFF]
AFS/AFF フォーカスモードレバー(P127)の[AFS/AFF]に、[AFS]または[AFF]のいずれかを割り当てます。	[AFS]、[AFF]
クイックAF カメラのブレが小さくなると、カメラが自動的にピント合わせを行い、シャッターボタンを押した際のピント合わせが速くなります。シャッターチャンスを逃したくないときなどに有効です。	[ON]、[OFF] ● バッテリーの消耗が早くなる場合があります。 ● 撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。 ● プレビューモード時は、[クイックAF]は働きません。 ● 低照度時は、[クイックAF]は働きません。 ● [クイックAF]は、オートフォーカスのできないレンズおよびコントラストAF非対応フォーサーズマウント規格レンズでは働きません。

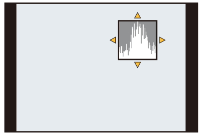
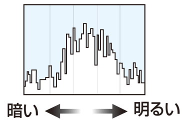
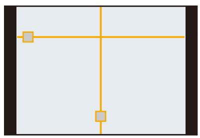
カスタムメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
アイセンサーAF	[ON]、[OFF] ● 詳しくは、63ページをお読みください。
ピンポイントAF時間 オートフォーカスモードを[+]に設定時、シャッターボタンを半押ししたときに画面表示が拡大される時間を設定します。	**[LONG]**(約1.5秒)、**[MID]**(約1.0秒)、**[SHORT]**(約0.5秒)
AF補助光 暗い場所での撮影時、ピントを合わせやすくするためにシャッターボタン半押しでAF補助光ランプが点灯します。(撮影に応じて大きなAFエリアが表示されます)	[ON]、[OFF] ● 補助光の有効距離は、使用するレンズによって異なります。 – 交換レンズ(H-HS12035)装着、W端時:約1.0 m～約3.5 m – 交換レンズ(H-VS014140)装着、W端時:約1.0 m～約3.0 m ● AF補助光は、画面中央部の被写体に対してのみ有効です。被写体を画面中央に配置してご使用ください。 ● レンズフードは外してください。 ● 暗闇で動物を撮るときなど、暗い場所でAF補助光ランプを光らせたくない場合は、[OFF]に設定してください。このとき、ピントは合いにくくなります。 ● 交換レンズ(H-HS12035、H-VS014140)装着時、AF補助光が少し遮られますが、性能には問題ありません。 ● 径の大きなレンズをお使いの場合は、AF補助光が大きく遮られ、フォーカスが合いにくくなる場合があります。 ● 以下の場合では、[OFF]に固定されます。 – シーンガイドモードの[風景をきれいに撮る]/[青空をさわやかに撮る]/[夕焼けを幻想的に撮る]/[夕焼けを印象的に撮る]/[水面をキラキラ撮る]/[夜景をきれいに撮る]/[夜空をクールに撮る]/[夜景を暖かく撮る]/[夜景をアーティスティックに撮る]
ダイレクトフォーカス移動	[ON]、[OFF] ● 詳しくは、132、133ページをお読みください。

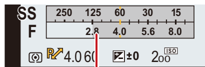
カスタムメニューの設定方法は　P38

項目	設定・お知らせ
フォーカス/レリーズ優先 ピントが合っていない場合は撮影できないように設定します。	**[フォーカス]**：ピントが合うまで撮影できません。 **[レリーズ]**：シャッターチャンスを優先させるため、シャッターボタンを全押しすると、撮影されます。 ● [レリーズ]に設定すると、フォーカスモードを[AFS]、[AFF]または[AFC]に設定していても、ピントが合っていない場合がありますのでお気をつけください。 ● 動画撮影時は働きません。
AF+MF 自動でピントを合わせたあと、手動でピントを合わせることができます。	**[ON]**：AFロックしている間（フォーカスモードが[AFS]時のシャッターボタン半押し、または[AF/AE LOCK]ボタンでのAFロック）に手動でピントを微調整することができます。 **[OFF]**
MFアシスト MFアシスト（拡大画面）の表示方法を設定します。	**[ ]**※：レンズのフォーカスリングかフォーカスレバーを回す、または[ ]ボタンを押して拡大。 **[FOCUS]**：レンズのフォーカスリングかフォーカスレバーを回して拡大。 **[ ]**※：[ ]ボタンを押して拡大。 **[OFF]**：MF アシストを表示しません。 ※ [Fn ボタン設定]（P42）で [オートフォーカスモード] を設定したファンクションボタン（お買い上げ時は[ ]/[Fn3]ボタンに設定）を押してください。 ● [ ]ボタンを押して拡大したときは、もう一度[ ]ボタンを押すまで拡大を維持します。
MFガイド	**[ON]、[OFF]** ● 詳しくは、133ページをお読みください。

カスタムメニューの設定方法は ☞ P38

項目	設定・お知らせ
ヒストグラム表示 ヒストグラムを表示するかしないかを設定します。	[ON]：▲/▼/◀/▶ボタンで位置を設定することができます。 ●撮影画面でも直接タッチ操作できます。 [OFF]  ●ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。撮影した画像のヒストグラムの形状（グラフの分布）を見ることによって、その画像の露出状況を判断することができます。  ●**撮影画像とヒストグラムが以下の条件で一致しない場合は、ヒストグラムがオレンジ色で表示されます。** – 露出補正時またはマニュアル露出モード時、マニュアル露出アシストが“0”以外のとき – フラッシュが発光するとき – フラッシュを閉じているときに、適正露出にならないときや、暗いところで画面の明るさが正確に表示できないとき ●撮影時のヒストグラムは目安です。 ●パソコンの画像編集ソフトなどで表示されるヒストグラムとは一致しません。
ガイドライン表示 撮影時に表示するガイドラインのパターンを設定します。	[⊞]、[⊠] [⊟]：▲/▼/◀/▶ボタンで位置を設定することができます。 ●撮影画面でも、ガイドライン上の[■]を直接タッチ操作できます。 [OFF]  ●被写体を交点上やライン上に配置すると、被写体の大きさや傾き、バランスを見ながら、意図的な構図で撮影することができます。

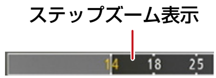
カスタムメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
ハイライト表示 オートレビューまたは再生時に、白飛びの起こっている部分を黒と白の点滅で表示します。撮影画像には影響されません。	[ON]、[OFF] ● 白飛びが起こっている場合は、ヒストグラム(P55)を参考に、露出をマイナス方向に補正して(P119)再度撮影することをお勧めします。 ハイライト表示[ON]  ハイライト表示[OFF]  ● マルチ再生、カレンダー再生、再生ズーム時は働きません。
常時プレビュー **(M モード)**	[ON]、[OFF] ● 詳しくは、82ページをお読みください。
露出メーター 露出メーターを表示するかしないかを設定します。	[ON]、[OFF] ● [ON]に設定すると、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード操作時に[露出メーター]が表示されます。  露出メーター ● 適正でない範囲が、赤色で表示されます。 ● [露出メーター]が表示されないときは、[DISP.]ボタンを押して画面の表示情報を切り換えてください。(P67) ● 約4秒間何も操作しないと[露出メーター]が消灯します。
LVF表示スタイル ファインダーの表示方法を設定します。	[ ]: ファインダースタイル [ ]: モニタースタイル ● 詳しくは、67 ページをお読みください。
モニター表示スタイル モニターの表示方法を設定します。	[ ]: ファインダースタイル [ ]: モニタースタイル ● 詳しくは、67 ページをお読みください。
モニター撮影情報画面 モニターの撮影情報画面を表示します。(P67)	[ON]、[OFF]
記録枠表示 動画撮影時の画角と、写真撮影時の画角を切り換えます。	[ ]: 写真 [ ]: 動画 ● 記録枠表示は目安です。

カスタムメニューの設定方法は P38

項目	設定・お知らせ
残枚数/残時間切換 記録可能枚数または記録可能時間の表示を切り換えます。	**[:(残枚数)]**: 写真の記録可能枚数を表示します。 **[:(残時間)]**: 動画の記録可能時間を表示します。
オートレビュー 写真撮影後に撮影画像を表示する時間を設定します。	**[ホールド]**:シャッターボタン半押しまで表示 **[5秒]、[4秒]、[3秒]、[2秒]、[1秒]、[OFF]** ● [ホールド]に設定した場合、オートレビュー中に再生画面の表示切り換えや、後ダイヤルを回しての拡大などができます。 ● 動画撮影では働きません。
Fn(ファンクション)ボタン設定	● 詳しくは、42ページをお読みください。
Q.MENU クイックメニューの設定方法を切り換えます。	**[プリセット]**: 決められた項目を設定できます。 **[カスタム]**: 項目をお好みで変更し、設定できます。(P41)
ダイヤル設定 後ダイヤルと前ダイヤルの操作方法を変更します。(P22)	**[F/SS ダイヤルの割当]**: マニュアル露出モード時の、絞り値とシャッタースピードの操作を割り当てます。 [F SS]:前ダイヤルに絞り値、後ダイヤルにシャッタースピードの操作を割り当てます。 [SS F]:前ダイヤルにシャッタースピード、後ダイヤルに絞り値の操作を割り当てます。 **[F/SSダイヤルの回転]**: 絞り値とシャッタースピードを操作する際の、ダイヤルの回転方向を変更します。 [ ]、[ ] **[露出補正のダイヤル割当]**: 前後いずれかのダイヤルで、露出補正を直接操作できるように割り当てます。 [ ](前ダイヤル)、[ ](後ダイヤル)、[OFF]
動画ボタン 動画ボタン動作の有効、無効を設定します。	[ON]、[OFF]

カスタムメニューの設定方法は　P38

項目	設定・お知らせ
パワーズームレンズ パワーズーム（電動式ズーム）対応交換レンズをお使いの場合のみ選択できます。 – 交換レンズ（H-HS12035、H-VS014140）はパワーズームに対応していません。 （対応レンズについては、ホームページをご覧ください）	**[焦点距離表示]**： ズーム操作をすると、焦点距離が表示され、ズーム位置を確認することができます。  **[ON]、[OFF]**
	[ステップズーム]： [ON]に設定してズーム操作をすると、決められた各焦点距離の位置でズームが停止します。  ● 動画撮影時は働きません。 **[ON]、[OFF]**
	[ズーム位置メモリー]： 電源スイッチを[ON]にすると、電源スイッチを[OFF]にしたときのズーム位置へ自動的に戻します。 **[ON]、[OFF]**
	[ズーム速度]： ズーム操作時のズームスピードを設定することができます。 ● [ステップズーム]を[ON]に設定すると、ズームスピードは変わりません。 **[写真]**：**[H]**（高速）、**[M]**（中速）、**[L]**（低速） **[動画]**：**[H]**（高速）、**[M]**（中速）、**[L]**（低速）
	[ズームリング操作]： ズームレバーとズームリングのあるパワーズーム対応交換レンズを装着しているときのみ選択できます。 [OFF]に設定すると、誤操作を防止するためにズームリングでの操作を無効にできます。 **[ON]、[OFF]**

カスタムメニューの設定方法は P38

項目	設定･お知らせ
アイセンサー ファインダーに目や物を近づけるとアイセンサーが働き、自動的にファインダー表示に切り換わります。離すと、モニター表示に戻ります。	**[感度]**: アイセンサーの感度を設定します。 **[強]、[弱]** **[LVF/モニター自動切換]**:アイセンサーの有効、無効を設定します。 **[ON]、[OFF]** ● [LVF]ボタンを押すとモニター表示とファインダー表示を手動で切り換えることができます。(P62)
タッチ設定 タッチ操作の有効、無効を設定します。[OFF]に設定時は画面に該当のタッチタブやタッチアイコンは表示されません。	**[タッチパネル]**: すべてのタッチ操作。[OFF]に設定すると、ボタンやダイヤルでの操作のみになります。 **[ON]、[OFF]** **[タッチタブ]**: 画面右に表示される[◁]などのタブをタッチして、タッチアイコンを表示するための操作 **[ON]、[OFF]** **[タッチ AF]**: タッチした被写体にピントを合わせる操作 **[ON]、[OFF]** **[タッチパッド AF]**: ファインダー表示時にモニターをタッチパッドとして使う操作(P63) **[絶対位置]、[相対位置]、[OFF]**
タッチ再生送り速度 タッチ操作で画像を連続して送るときの画像送りの速さを設定します。	**[H]**:高速 **[L]**:低速
メニューガイド モードダイヤルを SCN / ⧉ に切り換えたときに表示される画面を設定します。	**[ON]**: シーンガイド、クリエイティブコントロールモードの選択画面を表示 **[OFF]**: 現在選択されているシーンガイド、クリエイティブコントロールモードの撮影画面を表示
レンズ無しレリーズ 本体にレンズを取り付けていないときに、シャッターが切れるようにするか、切れないようにするかを設定します。	**[ON]**: レンズの装着にかかわらず、シャッターが切れます。 **[OFF]**: 本体にレンズを取り付けていないときやレンズが正しく取り付けられていないときには、シャッターが切れません。 ● ライカレンズ用マウントアダプター(別売:DMW-MA2M、DMW-MA3R)使用時は[ON]に設定してください。

文字を入力する

撮影時に、赤ちゃんやペットの名前、旅行先などを登録しておくことができます。(ひらがな、カタカナ、英数字、記号のみ入力できます)

1 入力画面を表示する

- 入力画面は以下の操作から表示できます。
  - [個人認証]の[名前](P156)
  - [プロフィール設定]の[赤ちゃん1]、[赤ちゃん2]、[ペット]の[名前](P157)
  - [トラベル日付]の[旅行先](P45)
  - [タイトル入力](P175)
  - Wi-Fi設定メニュー(P221)の[PicMate設定]/[機器名称]/[宅外AV機器設定]/[Wi-Fiパスワード]、[お気に入り登録](P194)

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで文字を選び、[MENU/SET]ボタンで入力する



- [切換]にカーソルを合わせ [MENU/SET] ボタンを押すと、[かな](ひらがな)、[カナ](カタカナ)、[A]/[a](アルファベット)、[1](数字)、[&](記号)に文字を切り換えることができます。
- 続けて同じ文字を入力したい場合は、コントロールダイヤルを右側に回し、カーソルを移動させてください。
- 項目にカーソルを合わせ、[MENU/SET]ボタンを押すと以下の操作が行えます。
  - [␣]: 空白を入力
  - [消去]: 文字を消去
  - [◀]: 入力位置を左に移動
  - [▶]: 入力位置を右に移動

3 ▲/▼/◀/▶ボタンで[決定]にカーソルを合わせ、[MENU/SET]ボタンを押して入力を終了する

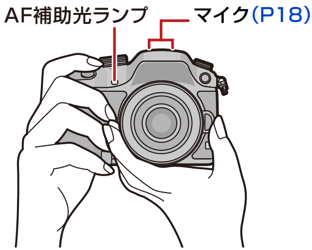
文字入力例
「パリ」と入力する場合: ❶ ▲/▼/◀/▶ ボタンで[切換]を選ぶ ❷ [MENU/SET]ボタンを押し、カナに切り換える ❸ ▲/▼/◀/▶ボタンで「ハ」に移動し、[MENU/SET]ボタンを押す ❹ ▲/▼/◀/▶ボタンで「゛ ゜」に移動して[MENU/SET]ボタンを2回押し、「パ」にする ❺ ▲/▼/◀/▶ボタンで「ラ」に移動して[MENU/SET]ボタンを2回押し、「リ」にする ❻ ▲/▼/◀/▶ボタンで [決定] に移動し、[MENU/SET] ボタンを押す

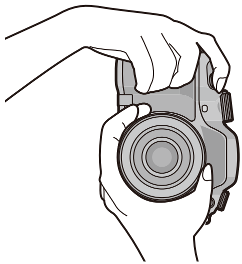
- 入力した文字数が多い場合、文字はスライドして表示されます。

本機の構え方について

両手で本機を軽く持ち、脇を締め、肩幅くらいに足を開いて構える

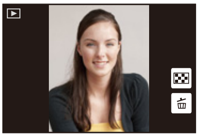
- **フラッシュ発光部やAF補助光ランプ、マイクを指などで塞がないでください。**
- シャッターボタンを押す瞬間に、カメラが動かないようにお気をつけください。
- 撮影時には、足場が安定していることを確認し、ポールや競技者などと衝突するおそれがある場所では周囲に十分お気をつけください。





構えた向きを検出する(縦位置検出機能)

本機を縦に構えて撮影したとき、構えた向きを検出できる機能です。再生時に自動で縦向きに表示することができます。([縦位置自動回転](P181)を [ON] に設定している場合のみ)

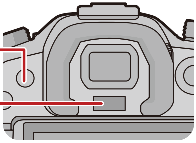


- 縦位置検出機能に対応していないレンズを使用した場合でも、本機で撮影すると縦位置検出を行うことができます。
- 本機を縦に構えた状態で、本機を大きく上に向けたり、下に向けたりして撮影すると、縦位置検出機能が正しく働かないことがあります。
- 動画再生時は、画像を縦向きに表示できません。
- 3D写真の縦撮影には対応していません。

モニターとファインダーを切り換える

■ アイセンサー自動切り換えについて

カスタムメニューの[アイセンサー](P59)の[LVF/モニター自動切換]を[ON]に設定しているときには、ファインダーに目や物を近づけるとファインダー表示に自動的に切り換えます。
アイセンサーの感度は[感度]で[強]または[弱]に設定することができます。



- お使いの眼鏡の形状やカメラの構え方、または接眼部付近に強い光が当たることなどにより、アイセンサーが正しく働かない場合があります。その場合は手動で切り換えてください。
- 動画再生中、スライドショー中は、アイセンサーは働きません。

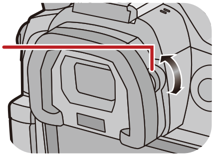
■ 手動でモニターとファインダーを切り換える

[LVF] ボタンを押す

[LVF]/[Fn5]ボタンは、[LVF]と[Fn5](ファンクション5)の2とおりの使い方ができます。お買い上げ時は、[LVF/ モニター切換]が設定されています。 ● ファンクションボタンについて詳しくは 42 ページをお読みください。

■ 視度調整について

ファインダー内に表示される文字がはっきり見えるまで視度調整ダイヤルを回して調整してください。



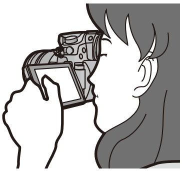
アイセンサーAF について

カスタムメニューの[アイセンサーAF]を[ON]に設定しているときには、アイセンサーが働くとカメラが自動的にピント合わせを行います。

- [アイセンサーAF]でピントが合っても電子音は鳴りません。
- 低照度時は、[アイセンサーAF]が働かない場合があります。
- [アイセンサーAF]は、オートフォーカスのできないレンズおよびフォーサーズマウント規格レンズでは働きません。

タッチパッドでピントを合わせる位置を設定する

カスタムメニューの[タッチ設定](P59)の[タッチパッドAF]を設定すると、ファインダー表示中にモニターをタッチパッドとして操作できます。



項目	設定内容
絶対位置	タッチパッドをタッチした位置に、ファインダーの AF エリアが移動します。
相対位置	タッチパッドをドラッグ(P21)してファインダーの AF エリアを移動させます。
OFF	—

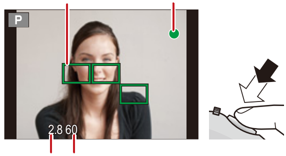
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる位置を決定してください。
  また、決定前に[DISP.]ボタンを押すと、ピントを合わせる位置が中央に戻ります。
- オートフォーカスモード(P126)を[ ](顔認識)、[ ](追尾AF)、[ ](23点)に設定時は、[MENU/SET]ボタンを押すと AFエリア枠の設定が解除されます。

- [タッチパッドAF]使用時は、タッチシャッター(P65)は無効になります。

●ドライブモードダイヤルを[□](単写)に合わせる。

1 撮影モードを選ぶ(P76)

2 シャッターボタンを半押し(軽く押す)してピントを合わせる



●絞り値とシャッタースピードが表示されます。(フラッシュ発光時を除き、適正露出にならないときは、赤くなり点滅します)

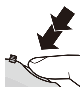
●お買い上げ時は、[フォーカス/レリーズ優先]**(P54)****が[フォーカス]に設定されているため、ピントが合うまで撮影できません。**

フォーカスモード	AFS		AFF、AFC	
ピント	合っている	合っていない	合っている	合っていない
フォーカス表示	点灯	点滅	点灯	点滅または消灯
AFエリア	緑	—	緑※1	—
電子音	ピピッ	—	ピピッ※2	—

※1 オートフォーカスモードを[▦]に設定している場合は、半押し中にピントが合った1回目のみAFエリアが一瞬表示されます。
※2 半押し中にピントが合った 1 回目のみ電子音が鳴ります。

●[AFF]や[AFC]で明るさが足りないときは[AFS]と同じ動作をします。このとき画面の 表示が黄色の[AFS]に変わります。

3 シャッターボタンを全押し(さらに押し込む)して撮影する



●ピントを合わせたあとズーム操作をした場合は、ピントに誤差が生じることがありますので、もう一度ピントを合わせ直してください。
●ピントが合う範囲は、使用するレンズによって異なります。
– 交換レンズ(H-HS12035)装着時: 0.25 m～∞
– 交換レンズ(H-VS014140)装着時: 0.5 m～∞

■ ピントが合いにくい被写体や撮影環境

●動きの速い被写体、非常に明るい、または濃淡のないもの
●ガラス越しや光るものの近くにある被写体を撮影するとき
●暗いときや手ブレしているとき
●被写体に近すぎるときや、遠くと近くを同時に撮るとき

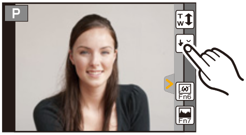
タッチシャッター機能を使って撮る

ピントを合わせたい被写体にタッチするだけで、ピントを合わせて自動的にシャッターを切ります。

1 [ ]をタッチする



2 [ ]をタッチする



- アイコンが[ ]に変わり、タッチシャッター撮影が可能な状態になります。

3 ピントを合わせたい被写体をタッチする

- ピントが合うと撮影されます。
- タッチしたい被写体の上にヒストグラムが表示されている場合は、ヒストグラムをドラッグ(P21)して移動させてからタッチしてください。

■ タッチシャッター機能を解除するには

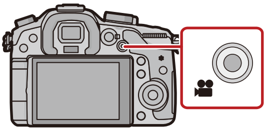
[ ]をタッチする

- タッチシャッターに失敗したときは、AFエリアが赤く点灯したあと消えます。もう一度やり直してください。
- [測光モード](P145)が[ ]のときは、タッチした場所で測光を行います。画面の端では、タッチした場所の周辺の明るさの影響を受ける場合があります。

動画を撮る

AVCHD規格に準拠したフルハイビジョン映像や、MP4、MOV 形式で記録される動画を撮影できます。音声はステレオで記録されます。

1 動画ボタンを押して撮影を開始する





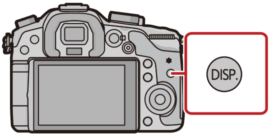
- 各撮影モードに適した動画が撮影できます。
- 動画の記録中は、記録動作表示（赤）が点滅します。
- 約10秒以上何も操作しないと、画面上の情報が一部表示されなくなります。[DISP.]ボタンを押したり、モニターをタッチすると再度表示されます。
- 動画撮影時は、マイクの穴を指などで塞がないでください。
- 動画ボタンを押したあと、すぐに離してください。

2 もう一度動画ボタンを押して撮影を終了する

撮影画面の表示情報を切り換える

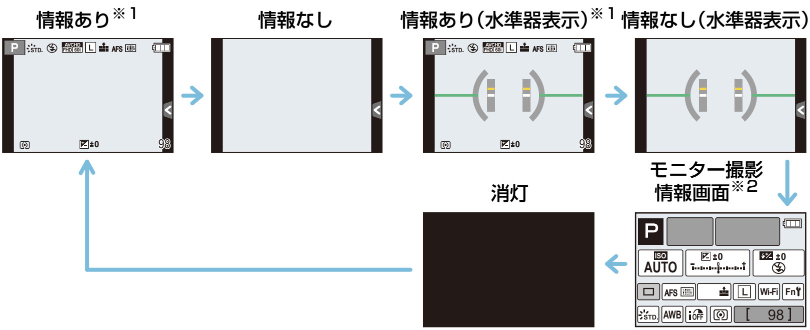
[DISP.] ボタンを押して切り換える

- カスタムメニューの[モニター表示スタイル]、[LVF表示スタイル]で、モニターとファインダーの表示画面をそれぞれ[ ](モニタースタイル)または[ ](ファインダースタイル)から選ぶことができます。



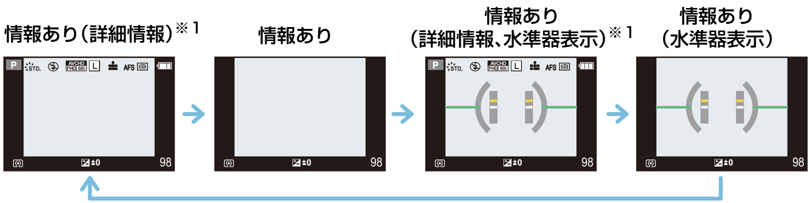
([ ] モニタースタイル)

- 画面は以下のように切り換わります。(モニター表示での例です)



([ ] ファインダースタイル)

- 画面は以下のように切り換わります。(ファインダー表示での例です)



※1 カスタムメニューの[ヒストグラム表示]を[ON] に設定すると、ヒストグラムが表示されます。また、カスタムメニューの[露出メーター]を[ON]に設定すると、露出メーターを表示させることができます。(P56)

※2 カスタムメニューの[モニター撮影情報画面] を[ON]にしているときのみ表示されます。(P56)
各項目をタッチすると、設定を直接変更できます。

- 約10秒以上何も操作しないと、画面上の情報が一部表示されなくなります。[DISP.]ボタンを押したり、モニターをタッチすると再度表示されます。

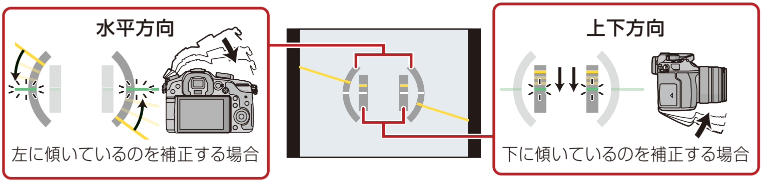
続く

■ 水準器表示について

水準器を表示させると、カメラの傾きを補正したい場合などに便利です。

1 [DISP.] ボタンを押して水準器を表示させる

2 カメラの傾きを確認する

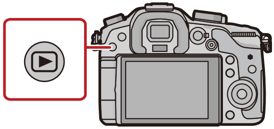


- 傾きがほぼない状態は、緑色に変わります。
- 縦位置撮影時は、自動で縦位置用の表示に切り換わります。

- 傾きがほぼ補正された状態でも、± 1°程度の誤差が生じることがあります。
- カスタムメニューの[Fnボタン設定]を[水準器表示]に設定しているときは、ファンクションボタンを押すごとに、水準器の表示/非表示を切り換えることができます。
- 本機を動かしている間は、水準器表示が正しく表示できない場合があります。
- 本機を大きく上に向けたり下に向けたりして撮影すると、水準器表示が正しく表示できなかったり、縦位置検出機能(P61)が正しく働かない場合があります。

写真を見る

1 **[▶] ボタンを押す**



2 **◀ ボタンまたは ▶ ボタンを押す**

◀：前の画像へ　　▶：次の画像へ



- ◀/▶ ボタンを押したままにすると、画像を連続して送ることができます。
- コントロールダイヤルを回しても画像を送ることができます。
- 画面を水平にドラッグ(P21)しても画像を送ることができます。
- ドラッグして画像を送ったあとに画面の左右の端をタッチしたままにすると、画像を連続して送ることができます。(画像は縮小して表示されます)
- 画像送りの早さは、再生の状況によって変わります。

■ 再生を終了するには

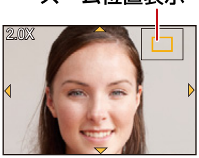
再度 [▶] ボタンを押すか、動画ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

- 本機は一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格DCF(Design rule for Camera File system)および、Exif(Exchangeable Image File Format)に準拠しています。DCF規格に準拠していないファイルは再生できません。
- 他機で撮影された写真は本機で再生できない場合があります。

再生画面を拡大する(再生ズーム)

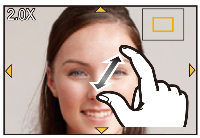
後ダイヤルを右側に回す

ズーム位置表示



1倍⇨2倍⇨4倍⇨8倍⇨16倍

- 倍率を変えると、約1秒間ズーム位置が表示されます。
- 拡大するほど、画質は粗くなります。
- ▲/▼/◀/▶ ボタンを押す、または画面をドラッグ(P21)すると、拡大部分を移動することができます。
- 拡大したい部分を2回タッチしても画像を拡大(2倍)することができます。拡大時に2回タッチすると1倍に戻ります。
- 拡大したい部分をピンチアウト/ピンチイン(P21)しても、画像を拡大/縮小することができます。
- 再生ズーム中にコントロールダイヤルを回すと、ズーム倍率、ズーム位置を保持したまま画像を送ることができます。



複数の画像を一覧表示する（マルチ再生）

後ダイヤルを左側に回す



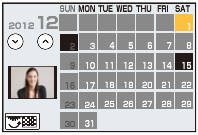
1画面⇨12画面⇨30画面⇨カレンダー画面表示

- 以下のアイコンをタッチすると、再生画面を切り換えることができます。
  - ・[ ]：1画面　・[ ]：12画面
  - ・[ ]：30画面　・[CAL]：カレンダー再生
- スライドバーを上下にドラッグすると画面を切り換えることができます。
- 画面を上下にドラッグすると少しずつ画像を切り換えることができます。
- [[!]]と表示される画像は再生できません。

■ 1画面表示に戻すには

▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

画像を撮影日ごとに表示する（カレンダー再生）



1 **後ダイヤルを左側に回して、カレンダー画面表示にする**

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで再生する日付を選ぶ**
- 撮影した画像が1枚もない月は表示されません。

3 **[MENU/SET]ボタンを押して、選択した日付に撮影された画像を表示する**
- カレンダー画面表示に戻すには、後ダイヤルを左側に回してください。

4 **▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

- 始めに選ばれる日付は、再生画面で選んでいた画像の撮影日になります。
- 同じ日付で複数の撮影画像がある場合は、その日の最初に撮影された画像が表示されます。
- カレンダーの表示できる範囲は、2000年1月から2099年12月までです。
- [時計設定]を行わずに撮影した場合、2012年1月1日に表示されます。
- [ワールドタイム]で旅行先を設定して撮影された画像は、旅行先の日時でカレンダー表示されます。

動画を見る

本機で再生できる動画のファイル形式はAVCHD、MP4、MOVまたはQuickTime Motion JPEGです。

再生状態で動画アイコン（[🎥]）が付いた画像を選び、▲ボタンを押して再生する

動画アイコン



動画記録時間

- 再生を開始すると、画面に再生経過時間が表示されます。
  例）8分30秒のとき：8m30s
- [AVCHD]で撮影した動画は、一部の情報（撮影情報など）が表示されません。
- 画面中央の[▶]をタッチしても動画を再生できます。

■ 動画再生中の操作

再生中の画面右の表示は、カーソルボタンの▲/▼/◀/▶に対応しています。

▲	▶/II	再生/一時停止	▼	■	停止
◀	◀◀	早戻し再生※	▶	▶▶	早送り再生※
	◀II	コマ戻し（一時停止中）		II▶	コマ送り（一時停止中）
コントロールダイヤル（左回し）	−	音量下げる	コントロールダイヤル（右回し）	+	音量上げる

- 約2秒間何も操作しないとコントロールパネルの表示が消えます。画面をタッチしてコントロールパネルを表示させてください。

※ もう一度 ▶/◀ ボタンを押すと、早送り/早戻し速度が速くなります。

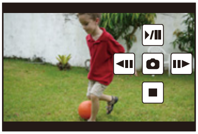
- 大容量のカードを使用したとき、早戻しが遅くなる場合があります。
- 本機で撮影した動画をパソコンで再生する場合はCD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」をご使用ください。
- 他機で撮影された動画は本機で再生できない場合があります。
- クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]で撮影された動画は、約10倍の速度で再生されます。

動画から写真を作成する

撮影した動画から、1 枚の写真を作成できます。

1 **動画再生中に ▲ ボタンを押して、一時停止にする**

2 **[MENU/SET] ボタンを押す**



- [ ] をタッチしても同じ操作ができます。
- 確認画面が表示されます。[はい] を選ぶと実行されます。

- [記録画素数] は [S](2 M)、[画像横縦比] は [16:9]、[クオリティ] は [ ] で保存されます。
- 動画から作成された写真は、通常の画質より粗くなる場合があります。
- [MP4] の [VGA/30p] で撮影された動画からは、写真を作成できません。
- 他機で撮影された動画は写真で保存することができない場合があります。
- 動画から作成された写真には、再生時に [ ] が表示されます。

グループ画像を見る

複数枚の画像を 1 つにまとめたグループ画像を、連続再生したり、1 枚ずつ再生します。

[ ]：
連写速度を[SH]に設定して連続撮影したグループ画像(P136)



[ ]：
1 回のインターバル撮影で撮影したグループ画像(P149)



- グループ単位での消去や編集ができます。(例えば、グループ画像を消去すると、グループ内のすべての画像が消去されます)

- 写真の合計が50000枚を超えると、それ以降に撮影された画像は、グループ化されません。
- 他機で撮影した画像は、グループ画像として認識されない場合があります。
- 時計設定を行わずに撮影した場合、画像はグループ化されません。

グループ画像を連続再生する

グループ画像アイコン([ ]、[ ])が付いた画像を選び、▲ ボタンを押す

- 画面中央の[▶]をタッチしても同じ操作ができます。

■ グループ画像再生中の操作

再生中の画面右の表示は、カーソルボタンの▲/▼/◀/▶に対応しています。

▲	▶/II	連続再生／一時停止	▼	■	停止
◀	◀◀	早戻し再生	▶	▶▶	早送り再生
	I◀◀	前の画像に戻す(一時停止中)		▶▶I	次の画像へ送る(一時停止中)

グループ画像を 1 枚ずつ再生する

1　グループ画像アイコン([ ]、[ ])が付いた画像を選び、▼ ボタンを押す

- [ ] または [ ] をタッチしても同じ操作ができます。

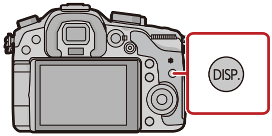


2　◀/▶ ボタンを押して画像を送る

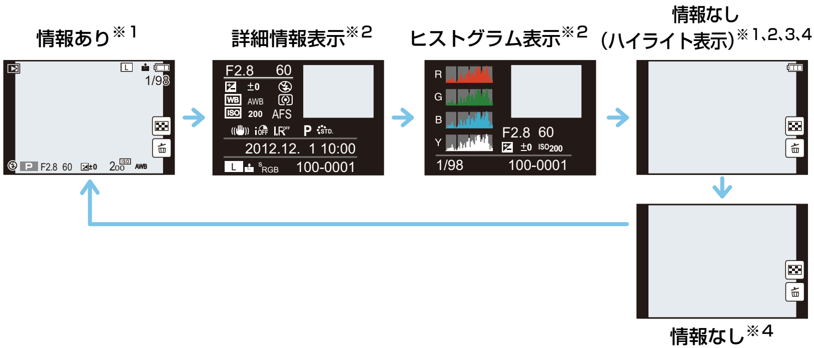
- [ ]をタッチする、または、もう一度▼ボタンを押すと、通常再生画面に戻ります。
- グループ内の画像に対して、通常の写真再生時と同様の操作が可能です。(マルチ再生、再生ズーム、画像の消去など)

再生画面の表示情報を切り換える

[DISP.] ボタンを押して切り換える



●画面は以下のように切り換わります。



※1 約10秒以上何も操作しないと、画面上の情報が一部表示されなくなります。[DISP.] ボタンを押したり、モニターをタッチすると再度表示されます。
※2 再生ズーム時、動画再生中、スライドショー中は表示されません。
※3 カスタムメニューの [ハイライト表示] (P56) を [ON] にしているときのみ表示されます。
※4 何も操作しないと、数秒後に [🗑] などのタッチアイコンは表示されなくなります。

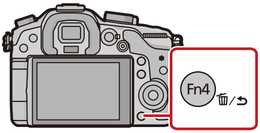
●再生時はヒストグラムをR（レッド）、G（グリーン）、B（ブルー）、Y（輝度）に分けて表示します。

画像を消去する

画像は一度消去すると元に戻すことができません。
- DCF規格外または[プロテクト]設定された画像は、消去できません。

1枚消去

1 **再生状態で消去する画像を選び、[🗑/↩]ボタンを押す**



- [🗑]をタッチしても同じ操作ができます。

2 **▲ボタンで[1枚消去]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**



- 確認画面が表示されます。
  [はい]を選ぶと消去されます。

複数消去(100枚※まで)/全画像消去

※グループ画像は1枚として扱います。(選んだグループ画像内のすべての画像が消去されます)

1 **再生状態で[🗑/↩]ボタンを押す**

2 **▲/▼ボタンで[複数消去]または[全画像消去]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

- [全画像消去]→確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと消去されます。
- [全画像消去]選択時、[お気に入り以外全消去]を選択すると、お気に入り設定した画像以外の全画像を消去することができます。

3 **([複数消去]選択時)▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する**(繰り返す)



- 設定した画像に[🗑]が表示されます。
  もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。

4 **([複数消去]選択時)◀ボタンを押して[実行]を選び、[MENU/SET]ボタンを押して実行する**

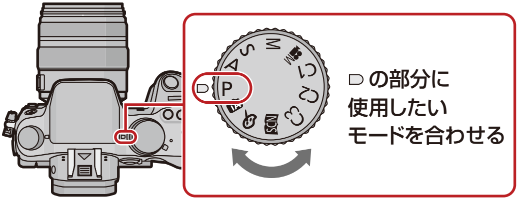
- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと消去されます。

- 消去中は電源スイッチを[OFF]にしないでください。また、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(別売:DMW-AC8)を使用してください。
- 消去枚数により、時間がかかることがあります。

撮影モードを選ぶ

モードダイヤルを切り換える

● モードダイヤルはゆっくり回して確実に各モードに合わせてください。



P プログラム AE モード(P77)

(P77)

カメラが決めた絞り値とシャッタースピードで撮影します。

A 絞り優先 AE モード(P79)

絞り値を決めて撮影します。

S シャッター優先AEモード(P80)

シャッタースピードを決めて撮影します。

M マニュアル露出モード(P81)

絞り値とシャッタースピードを決めて撮影します。

M クリエイティブ動画モード(P164)

絞り値やシャッタースピードを決めたり、スロー/クイック効果をかけて動画を撮影します。
※写真撮影はできません。

C1 C2 C3 カスタムモード(P104)

あらかじめ登録しておいた設定で撮影します。

SCN シーンガイドモード(P84)

撮影シーンに合わせて撮影します。

クリエイティブコントロールモード(P92)

画像効果を確認しながら撮影します。

iA インテリジェントオートモード(P99)

カメラにおまかせで撮影します。

iA+ インテリジェントオートプラスモード(P102)

インテリジェントオートモードで明るさと色合いを変更できます。

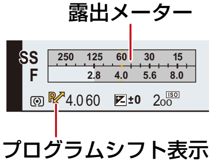
お好みの設定で撮る（プログラム AE モード）

撮影モード： P

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り値をカメラが自動的に設定します。撮影メニューで多彩な設定をすることで、自由度の高い撮影ができます。

1 モードダイヤルを［P］に合わせる

2 シャッターボタンを半押しして、画面に絞り値とシャッタースピードの数値を表示させる



- シャッタースピードは、［ISO200］、開放絞り値F2.8［交換レンズ（H-HS12035）装着時］またはF4.0［交換レンズ（H-VS014140）装着時］の場合、約15秒～1/4000秒の間で自動的に設定されます。

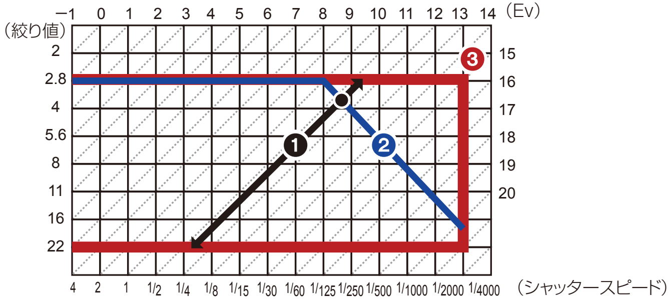
3 数値が表示されている間に（約10秒間）、後ダイヤルまたは前ダイヤルを回してプログラムシフトする

- 前後のダイヤルを回すと、［露出メーター］が表示されます。(P56)
- 画面にプログラムシフト表示が出ます。
- プログラムシフトを解除するには、電源スイッチを［OFF］にするか、プログラムシフト表示が消えるまで、前後のダイヤルを回してください。
  カスタムメニューの［Fn ボタン設定］を［ワンプッシュAE］に設定すると、簡単にプログラムシフトを解除できます。(P42)

プログラムシフトについて

プログラムAEで本機が自動的に設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、同じ露出のままで変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
プログラムAEでの撮影時に、より背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）、動きを表現したい（シャッタースピードを遅くする）などの設定が可能です。

＜プログラムシフトの例＞
交換レンズ（H-HS12035）装着時



❶ プログラムシフト量
❷ プログラム線図
❸ プログラムシフト限界

- EVとは「Exposure Value」の略で、露出量を表す単位です。絞り値またはシャッタースピードが変化するとEVが変化します。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出でない場合は、絞り値とシャッタースピードが赤色で表示され、点滅します。
- プログラムシフトが有効になってから10秒以上経過すると、プログラムシフト設定可能な状態は解除され、通常のプログラムAEに戻りますが、プログラムシフトされた設定は維持されています。
- 被写体の明るさによっては、プログラムシフトできない場合があります。
- ISO感度を[iISO]に設定すると、プログラムシフトできません。

絞り/シャッタースピードを決めて撮る

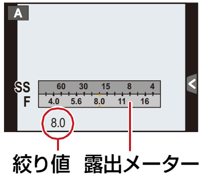
撮影モード：A S M

A： 絞り優先AEモード

背景までピントを合わせて撮りたいときは絞り値を大きく、背景をぼかして撮りたいときは絞り値を小さくしてください。

1 **モードダイヤルを [A] に合わせる**

2 **後ダイヤルまたは前ダイヤルを回して絞り値を設定する**





絞り値:小さくなる
背景をぼかしやすくなります。



絞り値:大きくなる
背景までピントが合った状態にしやすくなります。

- 設定した絞り値の効果は、撮影画面に反映されません。撮影画面で確認するには、[プレビューモード] をお使いください。(P83)

- 画面の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。再生画面で確認してください。
- 前後のダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。適正でない範囲が赤色で表示されます。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になり点滅します。
- 絞りリングのあるレンズを使用する場合は、絞りリングの位置を[A]にすると前後のダイヤルの設定が有効になり、[A]以外では絞りリングの設定が優先されます。

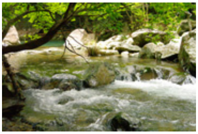
S： シャッター優先AE モード

動きを止めて撮りたいときはシャッタースピードを速く、動きを表現したいときにはシャッタースピードを遅くしてください。

1 モードダイヤルを[S]に合わせる

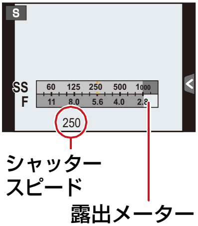
2 後ダイヤルまたは前ダイヤルを回してシャッタースピードを設定する





シャッタースピード:遅くなる
動きを表現しやすくなります。

シャッタースピード:速くなる
動きを止めやすくなります。



- 設定したシャッタースピードの効果は、撮影画面に反映されません。撮影画面で確認するには、[プレビューモード] をお使いください。(P83)

- 画面の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。再生画面で確認してください。
- 前後のダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。適正でない範囲が赤色で表示されます。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になり点滅します。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚の使用をお勧めします。
- フラッシュ発光時は、1/160 秒より速いシャッタースピードには設定できません。(P113)
- [電子シャッター]を[ON]に設定時は、1 秒より遅いシャッタースピードには設定できません。
- ISO感度が[iISO]のときに、撮影モードをシャッター優先AEに切り換えると、ISO感度は[AUTO]になります。

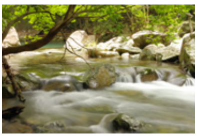
M： マニュアル露出モード

絞り値とシャッタースピードを手動で設定して、露出を決定します。
露出の状態の目安を示す、マニュアル露出アシストが画面下部に表示されます。

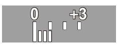
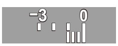
1 **モードダイヤルを [M] に合わせる**

2 **後ダイヤルを回してシャッタースピード、前ダイヤルを回して絞り値を設定する**



絞り値	 **小さくなる** 背景をぼかしやすくなります。	 **大きくなる** 背景までピントが合った状態にしやすくなります。
シャッタースピード	 **遅くなる** 動きを表現しやすくなります。	 **速くなる** 動きを止めやすくなります。

■ マニュアル露出アシストについて

	適正露出になります。
	シャッタースピードを速くするか、絞り値を大きくしてください。
	シャッタースピードを遅くするか、絞り値を小さくしてください。

● マニュアル露出アシストは目安です。撮影画像を再生画面で確認しながら撮影することをお勧めします。

続く

■ B(バルブ)について

シャッタースピードをB（バルブ）に設定すると、シャッターボタンを全押ししている間、シャッターが開いた状態になります。（最大約60分間）
シャッターボタンを離すと、シャッターが閉じます。
花火や夜景撮影などで、長時間シャッターを開けておきたいときに使います。

- バルブ撮影時は、三脚やシャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）の使用をお勧めします。
  シャッターリモコンについては、244ページをお読みください。
- シャッタースピードをB（バルブ）に設定すると、画面に[B]が表示されます。
- バルブ撮影時は、十分に充電されたバッテリー(P28)を使用してください。
- バルブ撮影すると、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、撮影メニューの[長秒ノイズ除去]を[ON]にして撮影することをお勧めします。(P152)
- マニュアル露出アシストは表示されません。
- [電子シャッター]を[ON]に設定時は使えません。
- マニュアル露出モードでのみ使えます。

■ 常時プレビューについて

マニュアル露出モードでは、カスタムメニューの[常時プレビュー（M モード）]を[ON]に設定すると、撮影画面で絞り効果、シャッタースピード効果の確認ができます。(P83)
- フラッシュを閉じてください。
- マニュアル露出モードでのみ使えます。

- 画面の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。再生画面で確認してください。
- 前後のダイヤルを回すと、[露出メーター]が表示されます。適正でない範囲が赤色で表示されます。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になり点滅します。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚の使用をお勧めします。
- フラッシュ発光時は、1/160 秒より速いシャッタースピードには設定できません。(P113)
- [電子シャッター]を[ON]に設定時は、1秒より遅いシャッタースピードには設定できません。
- ISO感度が[AUTO]または[iISO]のときに、撮影モードをマニュアル露出に切り換えると、ISO感度は [ISO200]になります。
- 絞りリングのあるレンズを使用する場合は、絞りリングの設定が優先されます。

絞り効果/シャッタースピード効果を確認する(プレビューモード)

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

プレビューモードを使うと、絞り効果とシャッタースピード効果の確認ができます。

- **絞り効果の確認**：実際に撮影される絞り値までレンズの絞り羽根を物理的に絞り込むことにより、被写界深度（ピントの合っている範囲）を確認することができます。
- **シャッタースピード効果の確認**：実際に撮影されるシャッタースピードでの画面を表示し、動きを確認することができます。シャッタースピードを速く設定すると、画面表示がコマ落としのように表示されます。水の流れなど、動きを止めて撮影したいときに確認してください。

1　カスタムメニューの[Fn ボタン設定]を[プレビュー]に設定する(P42)

- 次の手順は、[Fn4]ボタンに[プレビュー]を設定した場合の例です。

2　[Fn4]ボタンを押して確認画面を切り換える

- [Fn4]ボタンを押すごとに画面が切り換わります。

通常撮影画面　　絞り効果　　シャッタースピード効果



■ 被写界深度の性質

撮影条件	絞り値	小さい	大きい
撮影条件	レンズの焦点距離	望遠	広角
撮影条件	被写体までの距離	近い	遠い
被写界深度（ピントの合っている範囲）		浅い（狭い） 例：背景をぼかして撮りたいときなど	深い（広い） 例：背景までピントを合わせて撮りたいときなど

- プレビューモード中でも撮影することができます。
- シャッタースピード効果確認のできる範囲は、8秒～1/1000秒です。

撮影シーンに合わせて撮る(シーンガイドモード)

撮影モード：[SCN]

作例写真を見ながら、被写体や撮影状況に合わせてシーンを選択すると、カメラが最適な露出や色調、ピントの合わせ方などを設定し、シーンに合った撮影ができます。

1 モードダイヤルを [SCN] に合わせる

2 ◀/▶ ボタンでシーンを選ぶ

- 作例写真をドラッグして選ぶこともできます。



3 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

■ もっと表現を楽しむために

シーンを選ぶ画面で[DISP.]ボタンを押す、または[DISP.]をタッチすると、シーンに合わせた写真表現のための説明などが表示されます。もっと写真表現を楽しみたい方には、説明を読んで撮影してみることをお勧めします。

- シーンガイドモードを変更したい場合は、メニュー画面で[SCN]タブを選び、[シーン切換]を選んで[MENU/SET]ボタンを押すと上記手順**2**に戻ります。
- シーンガイドモード時は、カメラが自動で最適に調整するため以下の設定はできません。
  – [フォトスタイル]の画質調整以外の項目/ISO感度/[測光モード]/[HDR]/[デジタルズーム]/[多重露出]
- シーンによってはホワイトバランスは[AWB]に固定されますが、撮影画面で[WB]ボタンを押すとホワイトバランスの微調整やホワイトバランスブラケットが使えます。詳しくは、122、124ページをお読みください。

シーンガイドモードの設定方法は ☞ P84



1: 人物をきれいに撮る

顔の明るさを適正にして、背景をぼかすことで、人物をきれいに撮影できます。

- ズーム機能のあるレンズを使用した場合、ズームはできるだけ望遠にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。



2: 人物の肌をきれいに撮る

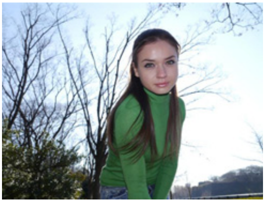
顔を少し明るめにして、肌色を滑らかにすることで、人物の肌をきれいに撮影できます。

- ズーム機能のあるレンズを使用した場合、ズームはできるだけ望遠にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。
- 背景などに肌色に近い色をした箇所があると、その部分も同時に滑らかになります。
- 明るさが不十分なときは、効果がわかりにくい場合があります。



3: 逆光でふんわり撮る

逆光のときに、画面全体を明るめにすることで、光があふれて、ふんわりとした雰囲気で人物を撮影できます。



4: 逆光でしっかり撮る

昼間の屋外で、フラッシュを使うことで、しっかりと人物の顔を撮影できます。

- **フラッシュを開いてください。([ϟ]に設定できます)**
- 被写体からの距離が近すぎると白飛びが起きる場合があります。
- フラッシュ撮影可能範囲外で撮影すると、適正露出にならず、白っぽく撮れる場合や暗くなる場合があります。

シーンガイドモードの設定方法は ☞ P84



5: ほのぼのした雰囲気で撮る

暖色の色調にすることで、ほのぼのとした雰囲気で人物を撮影できます。



6: 子どもをかわいく撮る

顔にピントを合わせて背景をぼかすことで、子どもの表情を引き立てて、かわいく撮影できます。

顔をタッチする

- タッチした場所にピントや露出が合い、写真が撮影されます。
- ズーム機能のあるレンズを使用した場合、ズームはできるだけ望遠にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。



7: 風景をきれいに撮る

青空や緑を鮮やかにすることで、風景をきれいに撮影できます。



8: 青空をさわやかに撮る

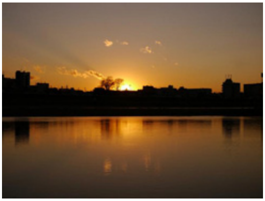
晴れた日に、画面全体を明るめにすることで、さわやかに青空を撮影できます。

シーンガイドモードの設定方法は P84



9: 夕焼けを幻想的に撮る

日没直後に、紫がかった色調にすることで、幻想的な空を撮影できます。



10: 夕焼けを印象的に撮る

赤色を強調することで、印象的な夕焼けを撮影できます。



11: 水面をキラキラ撮る

水面に映る光を、明るく青く、キラキラと強調させて撮影できます。

- 撮影画面が通常より遅れて表示され、コマ落としのように表示されます。
- クロスフィルターを使用するため、水面以外がキラキラと強調される場合があります。

シーンガイドモードの設定方法は P84



12: 夜景をきれいに撮る

光の色を鮮やかにすることで、夜景をきれいに撮影できます。

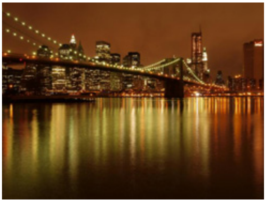
- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。



13: 夜空をクールに撮る

日没後に、青みがかった色調にすることで、都会的でクールに夜空を撮影できます。

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。



14: 夜景を暖かく撮る

暖色の色調にすることで、暖かみのある夜景を撮影できます。

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。

シーンガイドモードの設定方法は P84



15: 夜景をアーティスティックに撮る

シャッタースピードを遅くすることで、光の軌跡が美しい、アーティスティックな夜景を撮影できます。

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。



16: イルミネーションをキラキラ撮る

クロスフィルターを使うことで、光の輝きがキラキラと強調されたイルミネーションやライトアップを撮影できます。

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 撮影画面が通常より遅れて表示され、コマ落としのように表示されます。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。



17: 夜景をバックに人物をきれいに撮る

フラッシュを発光し、長秒撮影することで、夜景と人物の両方をきれいに撮影できます。

- **フラッシュを開いてください。([⚡S◎] に設定できます)**
- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 被写体の人に、撮影後約1秒間は動かないように伝えてください。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで異常ではありません。
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。

シーンガイドモードの設定方法は P84



18: 花をふんわり撮る

ソフトフォーカスを使うことで、ふんわりとやわらかな雰囲気で花を撮影できます。

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 近距離撮影する場合は、フラッシュを閉じて発光させないことをお勧めします。
- 撮影画面が通常より遅れて表示され、コマ落としのように表示されます。
- ピントが合う範囲は、使用するレンズによって異なります。134 ページの「撮影距離基準について」をお読みください。
- 被写体が近い場合は、ピントの合っている範囲が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
- 撮影時は近距離側を優先するため、遠くの被写体を撮影する場合は、ピントが合うのに時間がかかります。
- 近距離で撮影する場合は、画像の周辺部の解像度が少し低下する場合がありますが、故障ではありません。
- レンズに指紋やほこりなどの汚れがついていると、レンズにピントが合ってしまい被写体にピントが合わない場合がありますのでお気をつけください。



19: 料理をおいしそうに撮る

画面全体を明るくすることで、おいしそうに料理を撮影できます。

- ズーム機能のあるレンズを使用した場合、ズームはできるだけ望遠にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。
- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 近距離撮影する場合は、フラッシュを閉じて発光させないことをお勧めします。

シーンガイドモードの設定方法は P84



20: スイーツをかわいく撮る

画面全体を明るくすることで、かわいくスイーツを撮影できます。

- ズーム機能のあるレンズを使用した場合、ズームはできるだけ望遠にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。
- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをお勧めします。
- 近距離撮影する場合は、フラッシュを閉じて発光させないことをお勧めします。



21: 動くペットをきちんと撮る

シャッタースピードを速くすることで、ブレずに動きの速いペットを撮影できます。



22: スポーツをきれいに撮る

シャッタースピードを速くすることで、スポーツシーンなど、動きの速い場面をブレずに撮影できます。



23: モノクロで撮る

モノクロで撮影することで、いつもと違った雰囲気で撮影できます。

画像効果を変えて撮る(クリエイティブコントロールモード)

撮影モード：

画像に効果を加えて撮影することができます。画像に加える効果は作例写真から選ぶことができ、画面で確認しながら設定できます。

1 モードダイヤルを [ ] に合わせる

2 ▲/▼ ボタンで画像効果(フィルター)を選ぶ

- 選んだ作例写真の画像効果が、プレビュー表示に反映されます。
- 作例写真をタッチして選ぶこともできます。
- [DISP.]ボタンを押す、または[DISP. i]をタッチすると、選択されている画像効果の説明が表示されます。

プレビュー表示



3 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

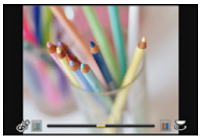
- クリエイティブコントロールモードを変更したい場合は、メニュー画面で[ ]タブを選び、[フィルター切換]を選んで[MENU/SET] ボタンを押すと上記手順**2** に戻ります。
- クリエイティブコントロールの設定は、電源スイッチを[OFF]にしても記憶しています。
- ホワイトバランスは[AWB]に、ISO感度は[AUTO]に固定されます。

画像効果を好みに合わせて調整する

画像効果の強さや色合いなどを、簡単にお好みに合わせることができます。

1 **[WB] ボタンを押す**

2 **後ダイヤルを回して調整する**



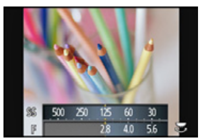
- 調整できる項目は、選択している画像効果により異なります。それぞれの画像効果の「調整できる項目」をお読みください。
- 画像効果の設定を行うと、画面に[ ]が表示されます。
- 設定を変えない場合は、中心(標準)を選んでください。
- もう一度[WB] ボタンを押すと撮影画面に戻ります。

背景をぼかして撮る(ボケ味コントロール)

背景のボケ具合を画面で確認しながら簡単に設定することができます。

1 **[Fn4] ボタンを押す**

2 **後ダイヤルを回してボケ具合を設定する**



- [MENU/SET] ボタンを押すと撮影画面に戻ります。
(ボケ味コントロール機能を終了するには、[Fn4]ボタンを押してください)

明るさを設定する

1 **[ ] ボタンを押す**

2 **後ダイヤルを回して明るさを調整する**

- もう一度[ ]ボタンを押すと撮影画面に戻ります。



■ タッチパネルで設定を変える

❶ [ ]をタッチする

❷ 設定する項目をタッチする

[ ]:画像効果
[ ]:ボケ具合
[ ]:明るさ



❸ スライドバーをドラッグして設定する

- [MENU/SET]ボタンを押すと撮影画面に戻ります。
（ボケ味コントロール機能を終了するには、[Fn4]ボタンを押してください）

クリエイティブコントロールモードの設定方法は P92



ポップ

色を強調したポップアート風のフィルターです。

調整できる項目

鮮やかさ	落ち着いた色合い	⇔	派手な色合い



レトロ

色あせた写真の雰囲気をかもし出した、柔らかいフィルターです。

調整できる項目

色合い	黄色っぽい色	⇔	赤っぽい色



ハイキー

全体的に明るく、ふんわりと柔らかな雰囲気に仕上げるフィルターです。

調整できる項目

色合い	ピンクっぽい色	⇔	水色っぽい色



ローキー

全体的に暗く落ち着いた雰囲気で、明るい部分を引き立てるフィルターです。

調整できる項目

色合い	赤っぽい色	⇔	青っぽい色

クリエイティブコントロールモードの設定方法は P92



セピア

セピア色のフィルターです。

調整できる項目

コントラスト	明暗差が小さい	⇔	明暗差が大きい



ダイナミックモノクローム

コントラストを高めにし、力強いモノクロ写真に仕上げるフィルターです。

調整できる項目

コントラスト	明暗差が小さい	⇔	明暗差が大きい



インプレッシブアート

強いコントラストで、現実にはない劇的な雰囲気を描き出すフィルターです。

調整できる項目

鮮やかさ	白黒	⇔	派手な色合い



ハイダイナミック

暗いところから明るいところまで、全体的にバランスのよい明るさで描き出すフィルターです。

調整できる項目

鮮やかさ	白黒	⇔	派手な色合い

クリエイティブコントロールモードの設定方法は ☞ P92



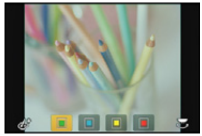
クロスプロセス

意外な発色で、独特の雰囲気に仕上げるフィルターです。

調整できる項目

色合い	緑っぽい色 / 青っぽい色 / 黄色っぽい色 / 赤っぽい色

● 後ダイヤルを回して発色させる色合いを選び、[WB]ボタンを押してください。





トイフォト

周辺光量を落とした、トイカメラで撮影したようなフィルターです。

調整できる項目

色合い	オレンジっぽい色 ⇔ 青っぽい色

クリエイティブコントロールモードの設定方法は P92



ジオラマ

周辺をぼかし、ジオラマ風に描き出すフィルターです。

調整できる項目

鮮やかさ	落ち着いた色合い ⇔ 派手な色合い

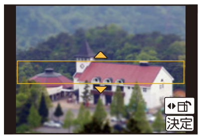
■ ぼかし方を設定する

[ジオラマ]では、ぼかす部分とぼかさない部分を意図的に作ることで、模型を撮影したような効果を描き出します。撮影する向き（ぼかす向き）やぼかさない部分の位置、大きさを設定することができます。

1 ▲ボタンを押して設定画面を表示する

- [ ]をタッチしたあと、[ ]をタッチしても表示できます。

2 ▲/▼ボタンまたは◀/▶ボタンでぼかさない部分を移動する



- 撮影画面で画面をタッチすることでも、ぼかさない部分を移動できます。
- [ ]をタッチすると、撮影する向き（ぼかす向き）を設定できます。

3 後ダイヤルを回してぼかさない部分の大きさを変更する

- 画面をピンチアウト/ピンチイン(P21)しても、大きさを変更できます。
- [DISP.]ボタンを押す、または[リセット]をタッチすると、ぼかさない部分の設定は、初期設定に戻ります。

4 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

- [決定]をタッチしても決定できます。

- 撮影画面が通常より遅れて表示され、コマ落としのように表示されます。
- 動画に音声は録音されません。
- 動画は約1/10の時間で記録されます。(10分間撮影した場合、動画記録時間は約１分になります)表示される記録可能時間は約10倍になります。撮影モードを切り換えたときは、記録可能時間を確認してください。
- フォーカスモードが[MF]の場合、ピントを合わせた場所にぼかさない部分を移動させてください。

クリエイティブコントロールモードの設定方法は P92



ソフトフォーカス

全体を少しぼかし、柔らかい雰囲気に仕上げるフィルターです。

調整できる項目

ボケ具合	ボケ具合が小さい	⇔	ボケ具合が大きい

- 撮影画面が通常より遅れて表示され、コマ落としのように表示されます。



クロスフィルター

光源からの光が十字状に輝く、華やかな雰囲気を描き出すフィルターです。

調整できる項目

光の輝きの長さ	輝きが短い	⇔	輝きが長い

- 撮影画面が通常より遅れて表示され、コマ落としのように表示されます。



ワンポイントカラー

モノクロ写真に特定の色だけを残し、印象的に強調するフィルターです。

調整できる項目

残す色の量	少し色を残す	⇔	多く色を残す

■ 残す色を選ぶ

1 ▲ボタンを押して設定画面を表示する

- [ ] をタッチしたあと、[ ] をタッチしても表示できます。

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで枠を移動し、残す色を選ぶ

- 画面をタッチすることでも、残す色を選べます。
- [DISP.]ボタンを押す、または[リセット]をタッチすると、枠は中央に戻ります。



3 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

- [決定]をタッチしても決定できます。

- 被写体によっては、設定した色が残らない場合があります。

カメラにおまかせで撮る(インテリジェントオートモード)

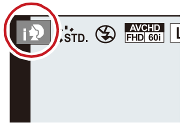
撮影モード：[iA][iA+]

被写体や撮影状況に合わせてカメラが最適な設定を行うので、カメラにおまかせで気軽に撮りたいときにお勧めです。

1 モードダイヤルを [iA] に合わせる

- インテリジェントオートモードまたはインテリジェントオートプラスモードのどちらか最後に使用していたモードに切り換わります。(P102)
  お買い上げ時は、インテリジェントオートプラスモードが設定されています。

2 被写体に画面を合わせる



- カメラが最適なシーンを判別すると、各シーンのアイコンが2秒間青色で表示後、通常の赤色に変わります。
- 被写体をタッチすると追尾AF機能が働きます。[ ]ボタンを押し、シャッターボタンを半押ししても可能です。詳しくは129ページをお読みください。

■ 自動シーン判別について

写真撮影時

iA →	i 人物	i 風景	i マクロ	
	i 夜景&人物※1	i 夜景	i赤ちゃん※2	i 夕焼け

※1 [i⚡A](オート)選択時のみ
※2 [個人認証]を[ON]に設定時、顔登録(P155)の誕生日が設定済みで、年齢が3歳未満の人物を顔認識したときのみ表示されます。

動画撮影時

iA →	i 人物	i 風景	i ローライト	i マクロ

- どのシーンにも当てはまらない場合は[iA]になり、標準的な設定を行います。
- [ ]、[ ]、[ ]のときは、カメラが人の顔を自動的に検知し、認識した顔にピントや露出を合わせます。**(顔認識)**
- [ ]と判別された場合に、三脚などを使用し、ブレの量が少ないとカメラが判断したとき、シャッタースピードは通常より遅くなります。撮影中はそのままカメラを動かさないようにお気をつけください。
- 追尾AF時は、指定した被写体に最適なシーンを判別します。
- [個人認証]を[ON]に設定時、登録した顔に近い顔を認識すると、[ ]、[ ]、[ ]の右上に[R]が表示されます。
- 以下のような条件によって、同じ被写体でも異なるシーンに判別される場合があります。
  – 被写体条件
    顔の明暗/被写体の大きさ・色/被写体までの距離/被写体の濃淡/被写体が動いているとき
  – 撮影条件
    夕暮れ/朝焼け/低照度/手ブレが発生したとき/ズーム倍率
- 意図したシーンで撮影したい場合は、目的に合った撮影モードで撮影することをお勧めします。

続く

■ フラッシュ

フラッシュを閉じているときは[Ⓢ]に、開いているときは[iⓈA](オート)に設定されます。フラッシュを開いているときは、被写体の種類や明るさに合わせて、カメラが自動で[iⓈA]、[iⓈA◎](赤目軽減オート)、[iⓈS◎]、または[iⓈS]に設定します。

- **フラッシュを使うときは、フラッシュを開いてください。**(P111)
- [iⓈA◎]、[iⓈS◎]のときは、デジタル赤目補正が働きます。
- [iⓈS◎]、[iⓈS]のときは、シャッタースピードが遅くなります。

■ 自動で働く機能と設定できないメニューについて

カメラが最適な設定を行うため、以下の機能が自動で働きます。

– 自動シーン判別/逆光補正/顔認識/オートホワイトバランス/インテリジェントISO/デジタル赤目補正/超解像/iDレンジコントロール/長秒ノイズ除去/シェーディング補正/クイックAF/AF補助光

カメラが自動で最適な設定を行うため、以下のメニューは設定できません。

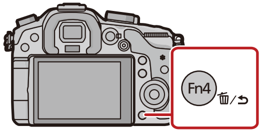
– 撮影メニューについては 141 ページの「撮影メニューを使う」、動画撮影メニューについては 168 ページの「動画撮影メニューを使う」をお読みください。
– カスタムメニューの [カスタムセット登録]/[露出メーター]/[AF/AE ロック切換]/[AF/AE ロック維持]/[クイック AF]/[アイセンサーAF]/[ダイレクトフォーカス移動]/[シャッター半押し AF]/[AF 補助光]/[AF+MF]

- **逆光補正について**
  – カメラが自動で画像を明るくすることにより、逆光時に被写体が暗く写らないように補正します。インテリジェントオートモード時は、逆光補正が自動で働きます。

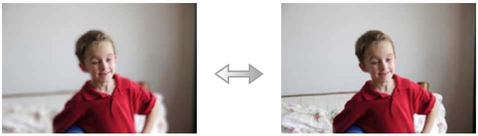
背景をぼかして撮る（ボケ味コントロール）

背景のボケ具合を画面で確認しながら簡単に設定することができます。

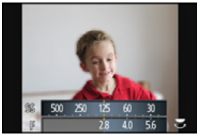
1 [Fn4] ボタンを押す



2 後ダイヤルを回してボケ具合を設定する



ボケ具合が大きい　　**ボケ具合が小さい**



- [MENU/SET] ボタンを押すと撮影画面に戻ります。
  （ボケ味コントロール機能を終了するには、[Fn4] ボタンを押してください）

■ タッチパネル操作時

❶ [ ]をタッチする

❷ [ ]をタッチして、設定画面を表示する

❸ スライドバーをドラッグして設定する

- [MENU/SET] ボタンを押すと撮影画面に戻ります。
  （ボケ味コントロール機能を終了するには、[Fn4]ボタンを押してください）

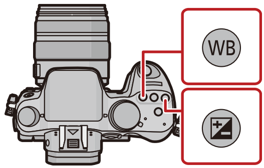


- インテリジェントオート（ または ）モードのボケ味コントロール設定画面では、オートフォーカスモードが [ ] になります。画面をタッチすると、AF エリアの位置を設定できます。（大きさは変更できません）
- 使用するレンズによっては、ボケ具合を操作しているときに、レンズ部から音がすることがありますが、このときの音はレンズの絞り動作によるもので、異常ではありません。
- 使用するレンズによっては、動画撮影中にボケ具合を操作すると、その動作音が記録されることがあります。
- 使用するレンズによっては動作しない場合があります。対応レンズについては、ホームページをご覧ください。
- クリエイティブコントロールモードの [ジオラマ] では、ボケ味コントロール機能を使えません。

明るさや色合いを変えて撮る（インテリジェントオートプラスモード）

撮影モード：[iA+]

インテリジェントオートモードでカメラが設定した明るさや色合いを、お好みに調整できるモードです。



1 **インテリジェントオートモード時に [MENU/SET] ボタンを押す**

2 **▶ボタンで [iA+] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**



- [DISP.] ボタンを押す、または [DISP. i] をタッチすると、選択されているモードの説明が表示されます。
- メニューが表示されないときは、メニュー画面の [iA] タブを選んでください。

明るさを設定する

1 **[☑] ボタンを押す**

2 **後ダイヤルを回して明るさを調整する**

- もう一度 [☑] ボタンを押すと撮影画面に戻ります。

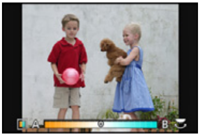


色合いを設定する

1 **[WB] ボタンを押す**

2 **後ダイヤルを回して色合いを調整する**

- 画像の色合いを赤っぽい色から青っぽい色まで調整します。
- もう一度 [WB] ボタンを押すと撮影画面に戻ります。



続く

■ タッチパネルで設定を変える

❶ [ ]をタッチする

❷ 設定する項目をタッチする



[ ]：色合い
[ ]：ボケ具合
[ ]：明るさ

❸ スライドバーをドラッグして設定する
- [MENU/SET]ボタンを押すと撮影画面に戻ります。
（ボケ味コントロール機能を終了するには、[Fn4]ボタンを押してください）

- 設定した明るさと色合いは、電源スイッチを[OFF]にする、または他の撮影モードに変更すると、標準（中心点）に戻ります。

お好みの設定を登録して撮る(カスタムモード)

撮影モード：C1 C2 C3

現在のカメラの設定内容をカスタムセットとして登録しておくことができます。カスタムモードで撮影すると、登録したときと同じ設定で撮影することができます。

- お買い上げ時、カスタムセットにはプログラムAEモードの初期設定が登録されています。

お好みのメニュー設定を登録する(カスタムセット登録)

同じ設定で撮影できるように、現在のカメラの設定内容を[カスタムセット登録]で5つまで登録しておくことができます。

準備：あらかじめ保存したい状態の撮影モードに設定し、本機でメニュー設定する。

1 **カスタムメニューから[カスタムセット登録]を選ぶ**(P38)

2 **▲/▼ボタンで登録したいカスタムセットを選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

カスタムセット	内容
C1	モードダイヤルのC1に登録されます。
C2	モードダイヤルのC2に登録されます。
C3-1 C3-2 C3-3	モードダイヤルのC3に登録されます。 ● 3つまでカスタムセットを登録できますので、状況に合わせて使い分けいただけます。

登録したカスタムセットで撮る

［カスタムセット登録］で登録した設定を、簡単に呼び出すことができます。

1 モードダイヤルを［C1］、［C2］または［C3］に合わせる

- モードダイヤルを［C3］に合わせた場合は、［C3-1］、［C3-2］または［C3-3］に登録されたカスタムセットが呼び出されます。最後に使ったカスタムセットが呼び出されます。
  カスタムセットを変更するときは、
  →手順 2、3 へ

2 ［MENU/SET］ボタンを押して、メニューを表示する

3 ◀/▶ ボタンで使いたいカスタムセットを選び、［MENU/SET］ボタンを押す

- 選択されているカスタムセット表示が画面に出ます。

カスタムセット表示



■ 設定を変更した場合は

モードダイヤルをC1、C2またはC3に合わせた状態で一時的にメニュー設定を変更しても、登録内容は変更されません。登録内容を変更する場合は、カスタムメニューの［カスタムセット登録］で登録内容を上書きしてください。

- 以下のメニュー項目はカスタムセット登録されず、他の撮影モードに反映されます。

撮影メニュー	セットアップメニュー	カスタムメニュー
–［個人認証］で登録されたデータ –［プロフィール設定］の設定内容	– すべてのメニュー	–［タッチ再生送り速度］ –［メニューガイド］

手ブレを補正する

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

撮影時の手ブレを感知して、カメラが自動的に補正し、ブレの少ない画像を撮ることができます。

> **手ブレ補正機能に対応したレンズが必要です。**
> – 交換レンズ（H-HS12035、H-VS014140）には、手ブレ補正機能があります。

- 交換レンズ（H-HS12035、H-VS014140）には、O.I.S.スイッチがあります。レンズのO.I.S.スイッチを[ON]にすることで手ブレ補正機能が働くように設定することができます。（お買い上げ時は[((✋))]に設定されています）

■ 撮影メニューで手ブレ補正を設定する

1　撮影メニューから[手ブレ補正]を選ぶ(P38)

2　▲/▼ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

項目	設定内容
((✋))（通常）	上下左右の動きに対する手ブレを補正します。
((✋↕（流し撮り）	上下の動きに対する手ブレを補正します。流し撮り（一定の方向に向かって動いている被写体の動きに合わせて、本機を振りながら撮影する方法）するときに適しています。
OFF	手ブレ補正は働きません。（O.I.S.スイッチのないレンズをご使用の場合のみ選択できます）

- 手ブレ補正機能のないレンズを使用した場合、[手ブレ補正]は選択できません。
- 設定後はメニューを終了してください。

■ 手ブレを防ぐために

手ブレ警告表示[((📷))]が表示されたときは、手ブレ補正、三脚、セルフタイマー(P140)、シャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）(P244)などをお使いください。

- 特に以下の場合にはシャッタースピードが遅くなって撮影されますので、シャッターを切ったあと、画像が出るまで本機を固定してください。三脚の使用をお勧めします。
  – スローシンクロ
  – 赤目軽減スローシンクロ
  – シーンガイドモードの[夜景をきれいに撮る]/[夜空をクールに撮る]/[夜景を暖かく撮る]/[夜景をアーティスティックに撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[夜景をバックに人物をきれいに撮る]
  – シャッタースピードを遅くしたとき

続く

- 三脚を使用するときは、手ブレ補正を[OFF]にすることをお勧めします。[OFF]に設定すると、画面に[ ]が表示されます。
- 以下の場合、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。シャッターボタンを押し込む際は、手ブレにお気をつけください。
  – 手ブレが大きいとき、ズーム倍率が高いとき
  – デジタルズーム使用時
  – 動きのある被写体を追いながら撮影するとき
  – 室内や薄暗い場所での撮影で、シャッタースピードが遅くなるとき
- 以下の場合、[ ]での流し撮りの効果が出にくくなります。
  – 夏の日中など、明るいところ
  – シャッタースピードが1/100より速い場合
  – 被写体の動きが遅く、本機を振る速度があまりにも遅い場合（背景が流れません）
  – 本機が被写体の動きにうまく追いつけていない場合
- [ ]での流し撮りは、ファインダー撮影をお勧めします。

ズームを使って撮る

使えるモード：iA iA+ P A S M ●M C1 C2 C3 SCN ◎

■ ズームの種類と撮影倍率

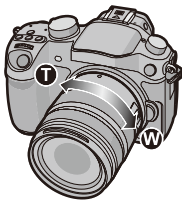
種類	光学ズーム	EXテレコン(EX)	デジタルズーム
撮影倍率	使用するレンズによって異なります。	写真時：最大 2倍※1 動画時：2.4 倍※2	2倍([2×]選択時) 4倍([4×]選択時)
画質	劣化しない	劣化しない	拡大するほど劣化する
条件	なし	写真時：109 ページをお読みください。 動画時：[EXテレコン(動画)]を[ON]に設定する	撮影メニューまたは動画撮影メニューの[デジタルズーム]を[2×]または[4×]に設定する

※1 記録画素数[S](4 M)、画像横縦比[4:3]選択時。記録画素数や画像横縦比により変わります。
※2 画質設定[FHD/30p]、[FHD/24p]、[FHD/30p/I]、[FHD/24p/I]選択時。
[HD/30p]選択時は、EXテレコン倍率は 3.6倍に変わります。
[VGA/30p]選択時は、EXテレコン倍率は 4.8倍に変わります。
以下の場合は、EX テレコンでの拡大はできません(1 倍)。
–[FHD/60p]、[FHD/60i]、[HD/60p/I]設定時
–[スロー/クイック効果]を[40%]、[48%]に設定時
–クリエイティブコントロールモードの[トイフォト]

- デジタルズーム使用時は三脚を使用し、セルフタイマー(P140)を使って撮影することをお勧めします。
- 以下の場合、デジタルズームは使えません。
  – インテリジェントオート(iA または iA+)モード
  – シーンガイドモード
  – クリエイティブコントロールモードの[トイフォト]、[ジオラマ]
  – [多重露出]設定時

■ 光学ズーム

ズームリングを回して、風景などを広く(広角：W 側)撮ったり人や物を大きく(望遠：T 側)撮ることができます。



T 側に回す：望遠、大きく撮る
W 側に回す：広角、広く撮る

写真撮影時にEXテレコンを使う

撮影メニューの [EX テレコン(写真)] で、画質を劣化させずに写真を大きく撮ることができます。

- [EXテレコン(写真)]使用時は、記録画素数を[M]または[S]（EX付きの記録画素数）に設定してください。

項目	設定内容
ZOOM	以下の操作で、EX テレコンの最大倍率まで手動でズーム操作できます。 ❶ ファンクションボタンを押す ●[Fnボタン設定](P42)で[ズーム操作]を設定したファンクションボタンを押してください。 ❷ ◀/▶ ボタンまたは ▲/▼ ボタンを押す ◀/▶：ゆっくりズームする　▲/▼：速くズームする ●もう一度ファンクションボタンを押すか、一定時間が経過するとズーム操作が終了します。 ●パワーズーム（電動式ズーム）に対応した交換レンズで[ステップズーム](P58)を[ON]に設定時は、ファンクションボタンを押すと、前後のダイヤルかコントロールダイヤルにステップズーム操作が割り当てられます。
TELE CONV.	EX テレコンの最大倍率に単純拡大します。
OFF	―

■ 画面表示([ZOOM] 設定時)



光学ズーム領域(焦点距離)※　写真時のEXテレコン領域(ズーム倍率)

※パワーズームに対応した交換レンズをお使いの場合のみ表示されます。

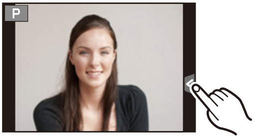
- パワーズームに対応した交換レンズで[ZOOM]に設定時は、光学ズーム領域のT端までズーム後に、EXテレコン領域に入ります。
- ズーム倍率は目安です。

- EXテレコン使用時は、写真と動画のズーム倍率が異なるため、写真撮影画面と動画撮影画面の画角が変わります。[記録枠表示](P56)の設定を撮影したいモードに合わせておくと、あらかじめ撮影時の画角を確認できます。
- 以下の場合、EXテレコンは使えません。
  – クリエイティブコントロールモードの[トイフォト]
  – [クオリティ]を[RAW]、[RAW]、[RAW]に設定時
  – [連写速度]を[SH]に設定時
  – [HDR]を[ON]に設定時
  – [多重露出]設定時

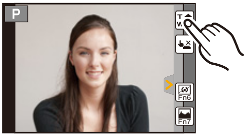
タッチ操作でズームを使う

タッチ操作でズーム操作を行うことができます。（タッチズーム）
（光学ズーム、写真時のEXテレコンのみ操作できます）
- パワーズームに対応していない交換レンズ（H-HS12035、H-VS014140）をお使いの場合は、[EXテレコン（写真）](P109)を[ZOOM]に設定すると、写真時のEXテレコンのみ操作できます。

1 **[‹]をタッチする**



2 **[T W]をタッチする**
- スライドバーが表示されます。



3 **スライドバーをドラッグして、ズーム操作を行う**
- タッチする位置により、ズームスピードは変わります。



[▲]/[▼]	ゆっくりズームする
[⏫]/[⏬]	速くズームする

- もう一度[T W]をタッチすると、タッチズーム操作を終了します。

- [ステップズーム](P58)を[ON]に設定時は、ステップズーム用のスライドバーが表示されます。



フラッシュを使って撮る

使えるモード：iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

■ 内蔵フラッシュを開く／閉じる

内蔵フラッシュを開くと、フラッシュ撮影が可能になります。

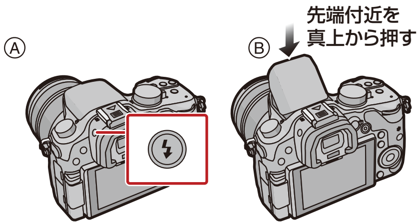
Ⓐ 開くとき

電源スイッチを [ON] にし、
フラッシュオープンボタンを押す

Ⓑ 閉じるとき

内蔵フラッシュの先端付近を真上から押す

- 無理に閉じようとすると故障の原因になります。
- 使わないときは、内蔵フラッシュは必ず閉じておいてください。



- 内蔵フラッシュは自動では開きません。
- **内蔵フラッシュを閉じるときに、指などを挟まないようにお気をつけください。**

■ フラッシュ撮影可能範囲

フラッシュ撮影時に被写体との距離が近い場合、レンズでフラッシュ光が遮られたり、フラッシュ光の照明範囲外となるため、撮影画像の一部が暗くなります。被写体との距離を確認しながら撮影してください。
フラッシュ光が遮られる被写体との距離やフラッシュ光が届く距離は、使用するレンズによって異なります。

	交換レンズ(H-HS12035)装着時		交換レンズ(H-VS014140)装着時	
	フラッシュ撮影可能範囲		フラッシュ撮影可能範囲	
	W端時	T端時	W端時	T端時
ISO感度 [AUTO] 設定時	約30 cm～ 約17.1 m	約30 cm～ 約17.1 m	約50 cm～ 約12.0 m	約50 cm～ 約8.2 m

- ISO感度上限設定(P120)を[OFF]に設定時の範囲です。

続く

- フラッシュ撮影時、被写体からの距離が近すぎると白飛びが起きる場合があります。カスタムメニューの[ハイライト表示]を[ON]に設定すると、オートレビュー時または再生時に白飛びの起こっている部分が黒と白の点滅で表示されます。[フラッシュ光量調整](P119)をマイナス方向に設定するなどして、再度撮影することをお勧めします。
- フラッシュに物を近づけたり、発光中にフラッシュを閉じないでください。熱や光で変形、変色する場合があります。
- 赤目軽減強制発光などの予備発光の直後にフラッシュを閉じないでください。故障の原因となります。
- 被写体に近すぎたりフラッシュ光が十分に届かない被写体を撮影すると、適正露出にならず、白っぽく撮れる場合や暗くなる場合があります。
- フラッシュ充電中は、フラッシュアイコンが赤に点滅し、シャッターボタンを全押ししても、撮影できません。
- フラッシュ光が十分に届かない被写体を撮影すると、ホワイトバランスが合わない場合があります。
- **使用するレンズによってはフラッシュ光が遮られたり、フラッシュ光がレンズの画角をカバーできないため、撮影画像の一部が暗くなる場合があります。**
- フラッシュ使用時にレンズフードを付けていると、フラッシュ光がレンズフードに遮られ、画面の下が暗くなり、調光もできなくなります。レンズフードを外して使用することをお勧めします。
- 撮影を繰り返すと、フラッシュの充電に時間がかかる場合があります。アクセス表示が消えてから撮影してください。
- 赤目軽減の効果には個人差があり、被写体までの距離や被写体の人が予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくい場合があります。
- 外部フラッシュ装着時は、外部フラッシュが優先されます。外部フラッシュについては、241ページをお読みください。

フラッシュモードを切り換える

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN 🎨

撮影内容に合わせて、内蔵フラッシュの発光のしかたを設定できます。
● フラッシュを開いてください。

1 撮影メニューから[フラッシュ設定]を選ぶ(P38)
2 ▲/▼ボタンで[フラッシュモード]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す
3 ▲/▼ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

項目	設定内容
⚡：強制発光 ⚡◎：赤目軽減強制発光※1	フラッシュを強制的に発光させます。 ● 逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。
⚡S：スローシンクロ ⚡S◎：赤目軽減スローシンクロ※1	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。 ● 夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。 ● シャッタースピードを遅くすると画像がブレることがあります。三脚の使用をお勧めします。
㊕：発光禁止	どのような撮影状況でもフラッシュが発光しません。 ● フラッシュ禁止の場所で撮影するときなどに適しています。 ● 内蔵フラッシュ使用時に発光禁止にするには、フラッシュを閉じてください。

※1 [フラッシュ設定]の[発光モード]を[TTL]に設定時のみ設定できます。

フラッシュは2回発光します。特に[⚡◎]、[⚡S◎]に設定した場合は、発光間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。

■ フラッシュモード別のシャッタースピード

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡	1/60※2～1/160秒
⚡◎	1/60※2～1/160秒

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡S	1～1/4000秒
⚡S◎	1～1/4000秒
㊕	60※3～1/4000秒

※2 シャッター優先AEモード時は60秒、マニュアル露出モード時はB（バルブ）となります。
※3 マニュアル露出モード時はB（バルブ）となります。
● フラッシュ発光時は、シャッタースピードが1/160秒より速い設定には設定できません。
● インテリジェントオート（iAまたはiA+）モード時のシャッタースピードは判別シーンによって異なります。

続く

■ 撮影モード別フラッシュ設定

設定できるフラッシュ設定は、撮影モードによって異なります。
（○：設定可、×：設定不可、◎：シーンガイドモード初期設定）

撮影モード		⚡	⚡◉	⚡S	⚡S◉	⊗
iA インテリジェントオートモード		×※	×※	×※	×※	○
iA+ インテリジェントオートプラスモード		×※	×※	×※	×※	○
P プログラム AE モード		○	○	○	○	○
A 絞り優先 AE モード		○	○	○	○	○
S シャッター優先 AE モード		○	○	×	×	○
M マニュアル露出モード		○	○	×	×	○
🎥M クリエイティブ動画モード		×	×	×	×	○
クリエイティブコントロールモード		×	×	×	×	○
SCN シーンガイドモード	人物をきれいに撮る	○	◎	×	×	○
	人物の肌をきれいに撮る	○	◎	×	×	○
	逆光でふんわり撮る	×	×	×	×	◎
	逆光でしっかり撮る	◎	×	×	×	○
	ほのぼのした雰囲気で撮る	×	×	×	×	◎
	子どもをかわいく撮る	○	◎	×	×	○
	風景をきれいに撮る	×	×	×	×	◎
	青空をさわやかに撮る	×	×	×	×	◎
	夕焼けを幻想的に撮る	×	×	×	×	◎
	夕焼けを印象的に撮る	×	×	×	×	◎
	水面をキラキラ撮る	×	×	×	×	◎
	夜景をきれいに撮る	×	×	×	×	◎
	夜空をクールに撮る	×	×	×	×	◎
	夜景を暖かく撮る	×	×	×	×	◎
	夜景をアーティスティックに撮る	×	×	×	×	◎
	イルミネーションをキラキラ撮る	×	×	×	×	◎
	夜景をバックに人物をきれいに撮る	×	×	×	◎	○
	花をふんわり撮る	◎	×	×	×	○
	料理をおいしそうに撮る	◎	×	×	×	○
	スイーツをかわいく撮る	◎	×	×	×	○
	動くペットをきちんと撮る	◎	×	×	×	○
	スポーツをきれいに撮る	◎	×	×	×	○
	モノクロで撮る	◎	○	○	○	○

※ 撮影メニューによる設定はできません。フラッシュを開くと[i⚡A]が設定されます。(P100)

- 撮影モードを変更すると、フラッシュの設定が変わることがあります。変更が必要な場合には、再度フラッシュ設定をしてください。
- 設定したフラッシュ設定は電源を[OFF]にしても記憶しています。シーンガイドモードでシーンを変更すると、シーンガイドモードのフラッシュ設定はシーンを変更するたびに初期設定に戻ります。
- 動画撮影時はフラッシュは発光しません。

後幕シンクロに設定する

使えるモード： P A S M C1 C2 C3

後幕シンクロとは、車など動きのある被写体をスローシャッターでフラッシュ撮影する場合、シャッターが閉じる直前に発光する撮影方法です。

1 **撮影メニューから［フラッシュ設定］を選ぶ**(P38)
2 **▲/▼ ボタンで［フラッシュシンクロ］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
3 **▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

項目	設定内容
先幕（さきまく）	一般的なフラッシュ撮影の方法です。 
後幕（あとまく）	被写体の後ろに光源が写り、躍動感が出ます。 

- 通常は［先幕］に設定してください。
- ［後幕］に設定すると、画面のフラッシュアイコンに［2nd］が表示されます。
- ［フラッシュ設定］の［発光モード］を［TTL］または［マニュアル］に設定時のみ設定できます。(P116)
- フラッシュシンクロの設定は、外部フラッシュ使用時にも有効です。（ワイヤレスフラッシュを除く）(P241)
- シャッタースピードが速いときは、フラッシュシンクロの効果が十分に得られない場合があります。
- ［後幕］設定時は、［ ⚡◎ ］、［ ⚡S◎ ］に設定できません。

フラッシュの発光量を調整する

使えるモード： P A S M C1 C2 C3 SCN

フラッシュで撮影した写真が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、フラッシュの発光量を調整してください。

1 **撮影メニューから［フラッシュ設定］を選ぶ**(P38)
2 **▲/▼ ボタンで［フラッシュ光量調整］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
3 **◀/▶ ボタンでフラッシュの発光量を設定し、[MENU/SET] ボタンを押す**
- −3 EV から＋3 EVの範囲で、1/3 EVごとに調整できます。
- フラッシュ発光量を調整しない場合は、“±0”を選んでください。

- フラッシュ発光量が調整されているときは、画面のフラッシュアイコンに［＋］または［−］が表示されます。
- ［フラッシュ設定］の［発光モード］を［TTL］に設定時のみ設定できます。(P116)
- フラッシュ発光量は、［ ☒ ］ボタンを押して前ダイヤルを回しても調整できます。(P119)
- ［フラッシュ光量調整］の設定は、外部フラッシュ使用時にも有効です。（ワイヤレスフラッシュを除く）(P241)

露出補正時に内蔵フラッシュ発光量を連動させる

使えるモード： iA iA+ P A S M 動画M C1 C2 C3 SCN クリエイティブコントロール

撮影メニューの[フラッシュ設定]の[露出補正連動]を[ON]に設定時は、露出補正量に応じて内蔵フラッシュの発光量も自動的に調整されます。

- 露出補正については、119 ページをお読みください。
- [露出補正連動]の設定は、外部フラッシュ使用時にも有効です。(P241)

発光モードを変更する（マニュアルフラッシュ/ ワイヤレスフラッシュ）

使えるモード： iA iA+ P A S M 動画M C1 C2 C3 SCN クリエイティブコントロール

[フラッシュ設定]の[発光モード]で、フラッシュの種類を設定できます。

項目	設定内容
TTL	カメラが自動的にフラッシュの発光量を設定します。
マニュアル	フラッシュの光量比を手動で設定します。[TTL]では発光量が大きくなりがちな暗いシーンなどでも、意図どおりの撮影ができます。
ワイヤレス	ワイヤレス撮影機能のある外部フラッシュ（別売）使用時に設定します。

- [マニュアル]に設定すると、画面のフラッシュアイコンに光量比（[1/1]など）が表示されます。
- [ワイヤレス]に設定すると、画面のフラッシュアイコンに[WL]が表示されます。

光量比を設定する（[マニュアル]選択時）

1. **撮影メニューから[フラッシュ設定]を選ぶ**(P38)
2. **▲/▼ボタンで[マニュアル発光量設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
3. **◀/▶ボタンで発光量を設定し、[MENU/SET]ボタンを押す**
   - [1/1]（フル発光）～[1/128]まで、1/3 段ごとに設定できます。

ワイヤレスフラッシュの設定をする([ワイヤレス]選択時)

ワイヤレス撮影機能のあるフラッシュライト(別売:DMW-FL360L)を使うと、3 つのグループのフラッシュと内蔵フラッシュを別々に発光制御できます。

準備:本機のフラッシュOPEN ボタンを押して、フラッシュを開いてください。

1　外部フラッシュの設定を RC モードにして、配置する
- 外部フラッシュのチャンネルとグループを設定してください。

2　撮影メニューから[フラッシュ設定]を選ぶ(P38)

3　▲/▼ ボタンで[ワイヤレスチャンネル]、[ワイヤレスFP]、[ワイヤレス通信光量]または[ワイヤレス設定]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4　▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

[ワイヤレスチャンネル]
コントロールする外部フラッシュと同じチャンネルに合わせてください。
設定:[1CH]、[2CH]、[3CH]、[4CH]

[ワイヤレス FP]
ワイヤレス撮影時に、外部フラッシュがFP発光(フラッシュが高速で発光を繰り返すこと)します。速いシャッタースピードでもフラッシュ撮影が可能になります。
設定:[ON]、[OFF]

[ワイヤレス通信光量]
ワイヤレス撮影時に、内蔵フラッシュの通信発光の強さを設定します。
設定:[強]、[中]、[弱]

続く

[ワイヤレス設定]
- [AF/AE LOCK] ボタンを押すと、テスト発光を行います。

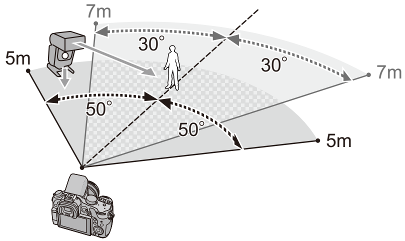


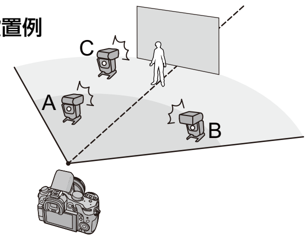
項目	設定内容	
内蔵※	発光モード	TTL：　カメラが自動的に内蔵フラッシュの発光量を設定します。 OFF：　内蔵フラッシュは通信発光のみ行います。
	フラッシュ光量調整	内蔵フラッシュの発光量を手動で調整します。
Aグループ/Bグループ/Cグループ	発光モード	TTL：　カメラが自動的に外部フラッシュの発光量を設定します。 AUTO※：　外部フラッシュ側でフラッシュの発光量を設定します。 マニュアル：外部フラッシュの光量比を手動で設定します。 OFF：　設定したグループの外部フラッシュは発光しません。
	フラッシュ光量調整	[発光モード]を[TTL]に設定時の外部フラッシュの発光量を手動で調整します。
	マニュアル発光量設定	[発光モード]を[マニュアル]に設定時の外部フラッシュ光量比を設定します。 ● [1/1]（フル発光）～ [1/128] まで、1/3 段ごとに設定できます。

※ [ワイヤレスFP]を[ON]に設定時は設定できません。

■ ワイヤレスフラッシュの制御可能範囲

ワイヤレスフラッシュのワイヤレス受光部をカメラ側に向けて設置します。次の図は設置範囲の目安です。範囲は周辺環境により異なります。





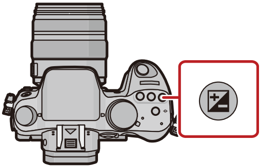
- ワイヤレスフラッシュの設置数は 1 グループ最大 3 台をお勧めします。
- 被写体が近すぎる場合、通信用の発光が露出に影響を与えることがあります。（内蔵フラッシュをディヒューザーなどで減光すると症状が緩和されます）

露出を補正して撮る

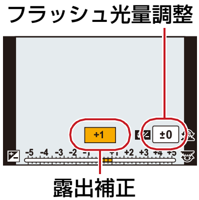
使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

被写体と背景の明るさに大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

1 [☑]ボタンを押す



2 後ダイヤルを回して露出を補正する



- [DISP.]ボタンを押すと、後ダイヤルと前ダイヤルの動作を入れ替えることができます。
- 露出補正値は－5 EV～＋5 EVの範囲で設定可能です。
動画撮影時は－3 EV～＋3 EVの範囲で設定可能です。
- 露出を補正しない場合は、“±0”を選んでください。

3 前ダイヤルを回してフラッシュ発光量を調整する

- 撮影メニューの[フラッシュ設定]の[露出補正連動](P116)を[ON]に設定し、[フラッシュ設定]の[発光モード](P116)を[TTL]または[ワイヤレス]に設定時のみ操作できます。
- フラッシュ発光量は、撮影メニューの[フラッシュ設定]の[フラッシュ光量調整]でも調整できます。(P115)

4 [☑]ボタンを押して決定する

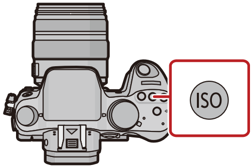
- シャッターボタン半押しでも決定できます。

- 撮影メニューの[フラッシュ設定]の[露出補正連動]を[ON]に設定時は、露出補正量に応じて内蔵フラッシュの発光量も自動的に調整されます。(P116)
- 露出量が–3 EVから+3 EVの範囲を超える場合、撮影画面の明るさはそれ以上変化しません。撮影画像の実際の明るさは、オートレビューや再生画面で確認しながら撮影することをお勧めします。
- 設定した露出補正量は、電源スイッチを[OFF]にしても記憶しています。
- 被写体の明るさによっては、露出補正できない範囲があります。

ISO感度を設定する

使えるモード：iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

光に対する感度(ISO感度)を設定できます。数値を高く設定すると、暗い場所でも明るく撮ることができます。



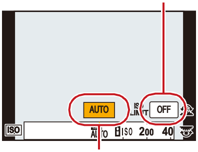
1 [ISO]ボタンを押す

2 後ダイヤルを回してISO感度を選ぶ

- [DISP.]ボタンを押すと、後ダイヤルと前ダイヤルの動作を入れ替えることができます。

3 前ダイヤルを回して ISO 感度の上限を設定する

- ISO 感度が [AUTO] または [iISO] 時に働きます。



4 [ISO]ボタンを押して決定する

- シャッターボタン半押しでも決定できます。

ISO感度	設定内容
AUTO	明るさに応じて、自動的にISO感度を調整します。 ● 最大[ISO3200](フラッシュ使用時 [ISO1600])※1
iISO(インテリジェント)	被写体の動きと明るさに応じて、ISO感度を調整します。 ● 最大[ISO3200](フラッシュ使用時 [ISO1600])※1 ● シャッタースピードはシャッターボタン半押し時に固定されず、全押しするまで常に被写体の動きに合わせて変化します。
L.125※2/200/400/800/1600/3200/6400/12800/H.25600※2	それぞれのISO感度に固定します。 ● 撮影メニューの[ISO感度ステップ](P151)を[1/3 EV]に設定しているときは、設定できるISO感度の項目が増加します。

※1 ISO感度上限設定を[OFF]に設定時。
ISO感度上限設定を[400]、[800]、[1600]、[3200]、[6400]、[12800]に設定時は、選択した数値を上限として、被写体の明るさに応じた最適な ISO 感度を設定します。

※2 [拡張ISO感度]を設定時のみ

続く

	200 ⟷ 12800	
撮影場所（お勧め）	明るいとき（屋外）	暗いとき
シャッタースピード	遅くなる	速くなる
ノイズ	少ない	多い
被写体ブレ	多い	少ない

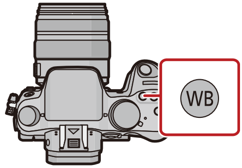
- [AUTO]設定時のフラッシュ撮影可能範囲については、111ページをお読みください。
- [電子シャッター]を[ON]に設定時は、[ISO 1600]までの設定になります。
- クリエイティブ動画モード時は下記の設定項目になります。
  [AUTO]、[200]～[6400]
- 以下の場合、ISO 感度上限設定は働きません。
  – シーンガイドモードの[夜景をきれいに撮る]/[夜空をクールに撮る]/[夜景を暖かく撮る]
  – 動画撮影時

ホワイトバランスを調整する

使えるモード：iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

太陽光や白熱灯下など、白色が赤みがかったり青みがかったりする場面で、光源に合わせて見た目に近い白色に調整します。

1 **[WB]ボタンを押す**



2 **後ダイヤルまたは前ダイヤルを回してホワイトバランスを選ぶ**

- コントロールダイヤルを回しても設定できます。



3 **▼ボタンを押し、◀/▶ボタンまたは▲/▼ボタンを押してホワイトバランスを微調整する**

◀：A（アンバー：オレンジ系）　▲：G（グリーン：緑系）
▶：B（ブルー：青系）　▼：M（マゼンタ：赤系）

- ホワイトバランスのグラフをタッチしても微調整することができます。
- [DISP.]ボタンを押すとリセットされます。

4 **[WB]ボタンを押して決定する**

- シャッターボタン半押しでも決定できます。

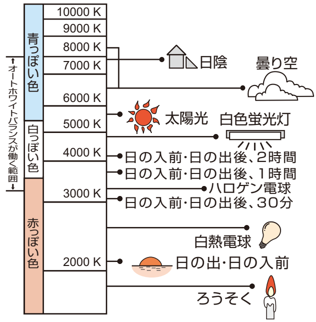
項目	撮影状況
[AWB]	自動調整
[☼]	晴天の屋外での撮影時
[☁]	曇りの屋外での撮影時
[⌂]	屋外の晴天下の日陰での撮影時
[白熱灯]	白熱灯下での撮影時
[⚡WB] ※	フラッシュ光のみでの撮影時
[1]、[2]、[3]、[4]	手動で設定した設定値を使用
[K]	あらかじめセットしている色温度設定を使用

※ 動画撮影中は[AWB]の動作になります。

続く

■ オートホワイトバランスについて

撮影時の状況によっては、画像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、光源が複数の場合や白に近い色がない場合、オートホワイトバランスが正常に働かない場合があります。この場合は、ホワイトバランスを[AWB] 以外に設定して調整してください。



■ ホワイトバランス微調整について

ホワイトバランスを設定しても、思いどおりの色合いにならないときに、微調整することができます。

- ホワイトバランスをA（アンバー）またはB（ブルー）方向に微調整すると、画面に表示されるホワイトバランスアイコンが微調整した色に変わります。
- ホワイトバランスをG（グリーン）またはM（マゼンタ）方向に微調整すると、画面に表示されるホワイトバランスアイコンに[+]（グリーン）または[−]（マゼンタ）が表示されます。
- ホワイトバランスの微調整は、フラッシュ撮影にも反映されます。
- ホワイトバランスの各項目で独立して微調整することができます。
- 電源スイッチを[OFF]にしても設定したホワイトバランス微調整は記憶されます。
- [1]、[2]、[3]、[4]で新しくホワイトバランスを設定し直したとき、または[K]で色温度を設定し直したときは、微調整レベルは標準（中心点）に戻ります。

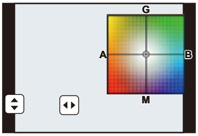
- 蛍光灯やLEDなどの照明下では、その種類によって最適なホワイトバランスは異なりますので、[AWB]または[1]、[2]、[3]、[4]をご使用ください。
- フラッシュ撮影時、フラッシュ撮影可能範囲(P111)外で撮影すると、ホワイトバランスが合わない場合があります。
- 設定したホワイトバランスは電源スイッチを[OFF]にしても記憶していますが、他のシーンガイドモードでホワイトバランスを変更すると、設定したシーンガイドモードのホワイトバランスは[AWB]に戻ります。
- 以下のシーンガイドモードでは、ホワイトバランスは[AWB]に固定されます。
  – [逆光でふんわり撮る]/[ほのぼのした雰囲気で撮る]/[風景をきれいに撮る]/[青空をさわやかに撮る]/[夕焼けを幻想的に撮る]/[夕焼けを印象的に撮る]/[水面をキラキラ撮る]/[夜景をきれいに撮る]/[夜空をクールに撮る]/[夜景を暖かく撮る]/[夜景をアーティスティックに撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[夜景をバックに人物をきれいに撮る]/[料理をおいしそうに撮る]/[スイーツをかわいく撮る]

ホワイトバランスブラケット

１回シャッターボタンを押すと、ホワイトバランス微調整の調整値を基準にブラケット設定を行い、異なった色合いの画像を自動的に３枚撮影します。

1 **[WB] ボタンを押す**

2 **後ダイヤルまたは前ダイヤルを回してホワイトバランスを選び、▼ ボタンを押す**



3 **コントロールダイヤルを回してブラケット設定を行う**

コントロールダイヤルを右に回す：横方向（A～B）
コントロールダイヤルを左に回す：縦方向（G～M）

- [▲▼]/[◀▶] をタッチしてもブラケット設定することができます。
- [DISP.] ボタンを押すとリセットされます。

4 **[MENU/SET] ボタンを押す**

- ホワイトバランスブラケットを設定すると、画面に表示されるホワイトバランスアイコンに[BKT]が表示されます。
- 電源スイッチを[OFF]（スリープモードを含む）にすると、ホワイトバランスブラケットの設定が解除されます。
- シャッター音は１回しか鳴りません。
- 以下の場合、ホワイトバランスブラケットは働きません。
  – 動画撮影時
  – [クオリティ]を[RAW]、[RAW]、[RAW]に設定時
  – [HDR]を[ON]に設定時
  – [多重露出]設定時
  – インターバル撮影時

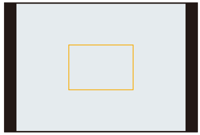
手動でホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの設定値を設定します。撮影時の状況に合わせてお使いください。

1 **[WB]ボタンを押す**

2 **後ダイヤルまたは前ダイヤルを回して[1]、[2]、[3]または[4]を選び、▲ ボタンを押す**

3 **白い紙など白いものだけを枠内に映し、[MENU/SET]ボタンを押す**



● 被写体が明るすぎたり、暗すぎたりすると、ホワイトバランスが設定できない場合があります。そのときは適切な明るさに調整して再度設定してください。

色温度設定

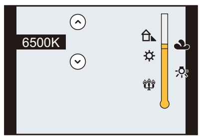
撮影場所のいろいろな光に合わせて自然な色合いの撮影ができるよう、手動で色温度を設定することができます。色温度とは、光の色を数値[単位：K（ケルビン）]で表したもので、温度が高いほど青っぽく、低いほど赤っぽくなります。

1 **[WB]ボタンを押す**

2 **後ダイヤルまたは前ダイヤルを回して[K]を選び、▲ ボタンを押す**

3 **▲/▼ ボタンで色温度を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

● [2500K]～[10000K]まで設定できます。

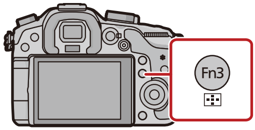


自動でピントを合わせて撮る(オートフォーカス)

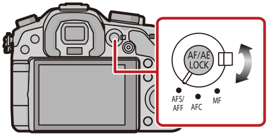
使えるモード： iA iA+ P A S M 動画M C1 C2 C3 SCN クリエイティブ

被写体の位置や数に応じて、ピントの合わせ方を選択できます。
また、タッチパネルを使って指定した被写体にピントを合わせることができます。(カスタムメニューの[タッチ設定]で、[タッチAF]を[ON]に設定してください)

[ ]/[Fn3]ボタンは、[ ](オートフォーカスモード)と[Fn3](ファンクション3)の2とおりの使い方ができます。お買い上げ時は、[オートフォーカスモード]が設定されています。
- ファンクションボタンについて詳しくは42ページをお読みください。



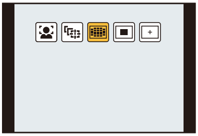
1 **フォーカスモードレバーを[AFS/AFF]または[AFC]に合わせる(P127)**



2 **[ ]ボタンを押す**

3 **◀/▶ボタンでオートフォーカスモードを選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

- [ ]、[ ]、[ ]、[ ]を選択時に▼ボタンを押すと、AFエリア設定画面が表示されます。AFエリア設定画面での操作については、131ページをお読みください。



- 以下の場合、[ ]に設定できません。
  – シーンガイドモードの[夜景をきれいに撮る]/[夜空をクールに撮る]/[夜景を暖かく撮る]/[夜景をアーティスティックに撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[料理をおいしそうに撮る]/[スイーツをかわいく撮る]
- フォーカスモードの[AFF]、[AFC]では[ ]に設定できません。
- デジタルズーム使用時またはクリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]では、[ ]に固定されます。

フォーカスモードについて（AFS、AFF、AFC）

項目	被写体の動き、撮影シーン（お勧め）	内容
AFS※	静止している（風景、記念撮影など）	AFSとは「Auto Focus Single」の略で、シャッターボタンを半押しすると、自動でピント合わせを行います。半押ししている間、ピントは固定されます。
AFF※	動きが予測できない（子供、ペットなど）	AFFとは「Auto Focus Flexible」の略で、シャッターボタンを半押しすると、自動でピント合わせを行います。半押ししている間に被写体が動いた場合、動きに合わせて自動でピントを合わせ直します。
AFC	動いている（スポーツ、鉄道など）	AFCとは「Auto Focus Continuous」の略で、シャッターボタンを半押ししている間、被写体の動きに合わせて常にピント合わせを行います。動いている被写体の場合は、撮影時に予測してピント合わせを行います。（動体予測）
MF	手動でピントを合わせます。(P133)	

※ カスタムメニューの[AFS/AFF](P52)で、フォーカスモードレバーの[AFS/AFF]に、[AFS]または[AFF]のいずれかを割り当てることができます。

- **[AFF]、[AFC]で撮影する場合は**
  – W端からT端にズームしたり、急に被写体を遠くから近くに変えた場合、ピントが合うまで時間がかかることがあります。
  – 撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。
  – シャッターボタンを半押ししている間、画面に揺れが見える場合があります。
- [AFF]、[AFC]は使用するレンズによって、動作しない場合があります。詳しくは、24ページのホームページをご覧ください。

オートフォーカスモードの種類

[顔認識アイコン]（顔認識）について

人の顔を自動的（最大15個）に検知します。認識された顔がどの位置にあっても、顔にピントや露出を合わせることができます。

カメラが顔を認識するとAFエリア枠が表示されます。



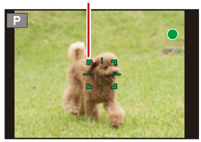
黄色：シャッターボタンを半押しし、ピントが合うと緑色に変わります。
白色：複数の顔を認識すると表示されます。黄色のAFエリア枠内の顔と同じ距離にある顔にはピントが合います。

- **AFエリアの位置と大きさを変えることができます。**(P131)
- [顔認識アイコン]選択時、[測光モード]を[マルチ測光アイコン]に設定すると、人の顔に合わせて露出を調整します。(P145)
- 以下の場合など、撮影状況によっては、顔認識機能が働かず、顔が検知できないことがあります。その際、オートフォーカスモードは[多点アイコン]に切り換わります。
  – 顔が正面を向いていない／傾いている／極端に明るいまたは暗い／サングラスなどで隠れている／小さく写っている
  – 顔の陰影が少ない　– 動きが速い　– 被写体が人物以外である　– 手ブレしている

追尾AFについて

指定した被写体にピントや露出を合わせることができます。さらに、被写体が動いても自動でピントと露出を合わせ続けます。(動体追尾)

■ ボタン操作時



被写体を追尾AFエリアに合わせ、シャッターボタンを半押しするとロックできます。

- 被写体を認識すると、AFエリアが緑色になります。
- シャッターボタンを離すとAFエリアが黄色に変わります。
- [MENU/SET]ボタンを押すと、ロックは解除されます。
- インテリジェントオート(iAまたはiA+)モードでは、[ ]ボタンを押すごとに追尾AFと顔認識が切り換わります。

■ タッチパネル操作時



被写体をタッチしてロックできます。

- タッチシャッター機能を解除した状態で行ってください。
- ロック中は AFエリアが黄色になります。
- [OFF]をタッチすると、ロックは解除されます。

- [測光モード]を[ ]に設定すると、ロックした被写体に合わせて露出を調整します。(P145)
- ロックに失敗したときは、追尾AFエリアが赤く点滅したあと消えます。もう一度ロックをやり直してください。
- 追尾AFに失敗したときは、追尾AFは働きません。その際、オートフォーカスモードは[■]に切り換わります。
- 以下の場合、[追尾AF]は[■]の動作になります。
  – シーンガイドモードの[水面をキラキラ撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[花をふんわり撮る]/[モノクロで撮る]
  – クリエイティブコントロールモードの[セピア]/[ダイナミックモノクローム]/[ソフトフォーカス]/[クロスフィルター]
  – [フォトスタイル]の[モノクローム]
  – インターバル撮影時
- 以下の場合は、動体追尾機能が働かないことがあります。
  – 被写体が小さすぎる
  – 被写体の動きが速い
  – 手ブレしている
  – 撮影場所が明るすぎる/暗すぎる
  – 被写体と背景の色が同じか類似した色があるとき
  – ズーム操作時

▦（23点）について

AFエリアごとに最大23点までピントを合わせることができます。被写体が中央にない場合に有効です。（AFエリア枠は画像横縦比の設定と同じになります）

- **23個のAFエリアを9つのエリアに分け、ピントを合わせる位置を選択できます。**(P131)

[■]（1点）について

中央のAFエリア内にピントを合わせます。

- **AFエリアの位置と大きさを変えることができます。**(P131)
- [■]で被写体が撮りたい構図の中央にないときなどは、被写体にAFエリアを合わせ、シャッターボタン半押しでピントと露出を固定し、半押ししたまま撮りたい構図に本機を動かして撮影することもできます。（フォーカスモードを[AFS]に設定したときのみ）

[+]（ピンポイント）について

[■] より小さな点で繊細なピント合わせができます。

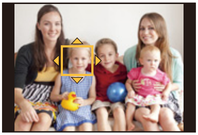
- **拡大した画面で、ピントを合わせる位置を設定できます。**(P132)
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている位置を確認するための画面が約5倍で拡大表示されます。拡大表示される時間はカスタムメニューの[ピンポイントAF時間](P53)で設定できます。
- 被写体によって、ピントが合ったときに表示されるAFエリアの大きさが変わることがあります。
- 動画撮影中、[+] に設定している場合は、[■]に切り換わります。

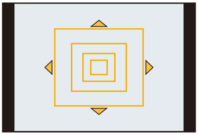
AFエリアの位置を設定する / 大きさを変更する

● タッチシャッター機能を解除した状態で行ってください。

[顔認識]、[1点]選択時

AF エリアの位置と大きさを変更することができます。





1 [顔認識]または[1点]を選び、▼ ボタンを押す

● AFエリア設定画面が表示されます。

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンでAFエリアを移動する

● 被写体をタッチして AF エリアを移動することもできます。

● [DISP.]ボタンを押すとAFエリアは中央に戻ります。

3 後ダイヤルを回してAFエリア枠の大きさを変更する

● 4種類の大きさに変更できます。

● 画面をピンチアウト/ピンチイン(P21)しても、大きさを変更できます。

4 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

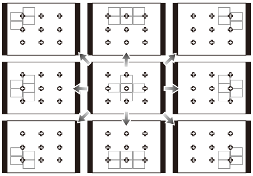
● [顔認識]選択時は、[1点]と同じ働きのAFエリアが表示されます。
[MENU/SET]ボタンを押す、または[OFF]をタッチするとAFエリアの設定を解除できます。

[23点] 選択時

23個のAFエリアを9つのエリアに分け、ピントを合わせる位置を選択できます。

1 [23点] を選び、▼ ボタンを押す

● AFエリア設定画面が表示されます。



2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで右図のようにAFエリア枠を選択する

● 画面をタッチして AF エリア枠を選択することもできます。

3 [MENU/SET] ボタンを押して決定する

● [+]表示（選択したAFエリア枠の中心点）のみが画面に残ります。

● [MENU/SET]ボタンを押す、または[OFF]をタッチするとAFエリア枠の設定が解除されます。

続く

[⊞] 選択時

画面を拡大することで、ピントを合わせる位置の細かい設定ができます。

- 画面の端にはピントを合わせる位置の設定ができません。

1 **[⊞] を選び、▼ ボタンを押す**

2 **▲/▼/◀/▶ ボタンでピントを合わせる位置を決め、[MENU/SET] ボタンを押す**

- アシスト画面が約5倍で拡大表示されます。
- 被写体をタッチしてもアシスト画面が表示できます。

3 **▲/▼/◀/▶ ボタンで中央の十字の交点に被写体を合わせる**



- 画面をドラッグしてピントを合わせる位置を合わせることもできます。
- [DISP.]ボタンを押すとピントを合わせる位置は中央に戻ります。
- アシスト画面では、[⬇]をタッチすることでも、写真を撮影することができます。

■ [ダイレクトフォーカス移動]でAFエリアを簡単に移動する

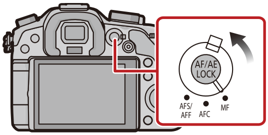
[顔]、[▦]、[■]選択時にカスタムメニューの[ダイレクトフォーカス移動]を [ON]に設定すると、カーソルボタンで直接AFエリアを移動することができます。[⊞]のときは、拡大位置を移動することができます。

- [測光モード](P145)が[⊡]のときは、測光ターゲットもAFエリアに合わせて移動します。画面の端では、AFエリア周辺の明るさの影響を受ける場合があります。
- クリエイティブコントロールモード時は、[ダイレクトフォーカス移動]は[OFF]に固定されます。
- デジタルズーム使用時は、AF エリアの位置と大きさを変えることはできません。

手動でピントを合わせて撮る(マニュアルフォーカス)

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

ピントを固定したい場合や、被写体との距離が固定されていて、オートフォーカスを働かせたくない場合などに使います。

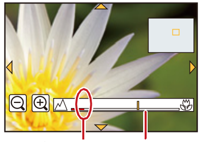


1 **フォーカスモードレバーを[MF]に合わせる**

2 **レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせる**

- フォーカスリングを回すとアシスト画面に切り換わり、拡大表示されます。(MFアシスト)カスタムメニューの[MFアシスト]で、MF アシストの表示方法を変更することができます。(P54)
- カスタムメニューの[MFガイド]を[ON]に設定時は、フォーカスリングを回すと画面にMFガイドが表示されます。近距離側、遠距離側へのフォーカスリングの回転方向を確認できます。

MF アシスト(拡大画面)



∞(無限)を示す目安　MF ガイド

MFアシストについて

■ MF アシストを表示する

- フォーカスリングを回す、または画面をタッチすると表示されます。(クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]では、画面のタッチによる表示ができません)
- [⊡]ボタンを押して拡大位置の設定画面を表示させたあと、カーソルボタンで拡大位置を決めて[MENU/SET]ボタンを押しても表示できます。
- カスタムメニューの[ダイレクトフォーカス移動]が[ON]のときは、カーソルボタンを押すと拡大位置の設定画面になります。

■ MF アシストの表示を変更する

拡大倍率を約4倍/5倍/10倍に変更できます。4倍の場合は画面中央に、5倍/10倍の場合は画面全体に拡大表示されます。

- 後ダイヤルを回す、または[⊕]/[⊖]をタッチすると倍率を変更できます。

■ 拡大位置を移動する

- 画面をドラッグ(P21)する、またはカーソルボタンを押すと移動できます。
- 以下の操作を行うと、拡大位置は中央に戻ります。
  – フォーカスモードを[MF]以外に設定したとき
  – [画像横縦比]、[記録画素数]を変更したとき
  – 電源スイッチを[OFF]にしたとき
  – 拡大位置の設定画面で[DISP.]ボタンを押したとき

■ MF アシストを終了する

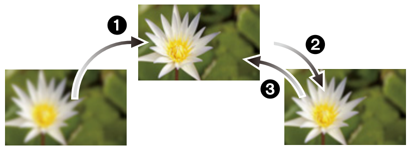
- シャッターボタンを半押しすると終了します。
- [MENU/SET]ボタンを押す、または[終了]をタッチしても終了します。
- フォーカスリングを回して表示した場合は、操作をやめると約10秒後に終了します。

続く

- デジタルズーム使用時または動画撮影中はMFアシストは表示されません。
- 使用するレンズによりMFアシストまたはMFガイドは表示されない場合がありますが、MFアシストはタッチパネル操作またはボタン操作で本機を直接操作すると表示させることができます。

マニュアルフォーカスのテクニック

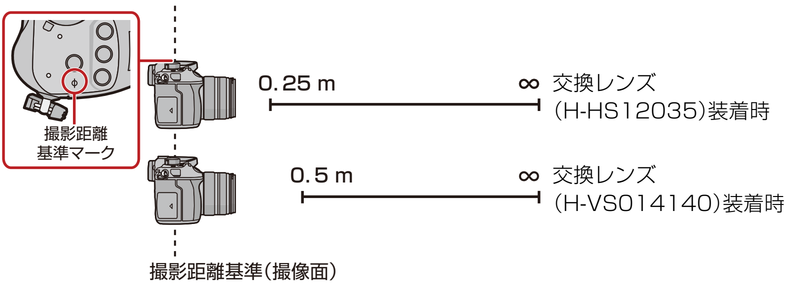
❶ フォーカスリングを回して、ピントを合わせる
❷ さらに同じ方向に少し回す
❸ ゆっくり戻しながら微調整する



- ピントを合わせたあとズーム操作をした場合は、ピントに誤差が生じることがありますので、もう一度ピントを合わせ直してください。
- スリープモード解除後は、必ずピントを合わせ直してください。
- 近距離を撮影する場合は…
  – 三脚を使用し、セルフタイマー(P140)を使って撮影することをお勧めします。
  – ピントの合っている範囲（被写界深度）が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
  – 画像の周辺部の解像度が少し低下することがありますが、故障ではありません。

撮影距離基準について

撮影距離基準マークは撮影距離の基準となるマークです。
マニュアルフォーカスや接写の目安にしてください。



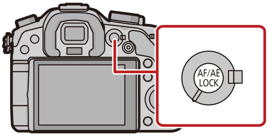
露出やピントを固定して撮る(AF/AEロック)

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN 🎨

被写体のコントラストが強すぎて適正露出が得られない場合(AEロック)や、被写体がAFエリアから外れた構図で撮りたい場合(AFロック)などに便利です。

1 **被写体に画面を合わせる**

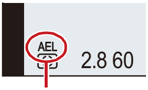
2 **[AF/AE LOCK]ボタンを押したままにし、ピントや露出を固定する**



- [AF/AE LOCK]ボタンを離すと、ロックは解除されます。
- お買い上げ時は、露出のみが固定されます。

3 **[AF/AE LOCK]ボタンを押したまま、撮りたい構図に本機を動かし、シャッターボタンを全押しする**

- [AE LOCK]設定時は、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、全押ししてください。



AE ロック表示

■ AF/AEロック切換について

カスタムメニューの[AF/AEロック切換]で、ピントや露出の固定内容を設定できます。

項目	設定内容
[AE LOCK]	露出だけを固定します。 ● 露出が合うと、[AEL]および絞り値とシャッタースピードの表示が点灯します。
[AF LOCK]	ピントだけを固定します。 ● ピントが合うと、[AFL]およびフォーカス、絞り値、シャッタースピードの表示が点灯します。
[AF/AE LOCK]	ピントと露出を固定します。 ● ピントと露出が合うと、[AFL]と[AEL]、およびフォーカス、絞り値、シャッタースピードの表示が点灯します。
[AF-ON]	オートフォーカスが作動します。

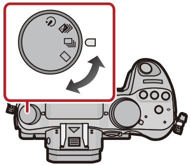
- カスタムメニューの[AF/AEロック維持]を[ON]に設定すると、[AF/AE LOCK]ボタンを押したあと、離してもピントや露出を固定することができます。(P52)([AF-ON]時は働きません)
- AEロックを行うと、画面に映る撮影画面の明るさも固定されます。
- マニュアル露出モード時は、AFロックのみ有効です。
- マニュアルフォーカス時は、AEロックのみ有効です。
- 動画撮影中はAFロックのみ有効です。撮影中にAFロックを解除すると、新たにロック操作はできません。
- 被写体の明るさが変わっても、露出は固定されます。
- AEロック時でも、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直すことができます。
- AEロック時でも、プログラムシフトを設定できます。

連写する

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。
連写速度を[SH]で撮影した画像は、ひとつの連写グループ(P73)として記録されます。

1 ドライブモードダイヤルを[⧉]に合わせる



2 ピントを合わせて撮影する

● シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。

連写 [H(高速)設定時]



■ 連写速度を変更する場合

1 撮影メニューから[連写速度]を選ぶ(P38)

2 ▲/▼ボタンで連写速度を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

		[SH](超高速)	[H](高速)	[M](中速)	[L](低速)
連写速度		20 コマ/秒	6 コマ/秒	4 コマ/秒	2 コマ/秒
連写中のライブビュー		なし	なし	あり	あり
連写コマ数	RAWファイルあり	―	18コマ※1、2		
	RAW ファイルなし	最大80コマ	カードの空き容量に依存※2		

※1 撮影条件によっては連写コマ数が少なくなる場合があります。(例えば、撮影メニューの[超解像]を[拡張]に設定すると、連写コマ数が少なくなる場合があります)

※2 カードの空き容量がいっぱいになるまで撮影されますが、途中から連写速度が遅くなります。遅くなるタイミングは画像横縦比、記録画素数、クオリティの設定、使用するカードによって異なります。

● 連写速度は、以下の設定によって低下することがあります。
– [記録画素数](P143)/[クオリティ](P144)/ISO感度(P120)/フォーカスモード(P127)/[フォーカス/レリーズ優先](P54)

● RAWファイルについては、144ページをお読みください。

続く

■ 連写とピントについて

ピント合わせは、フォーカスモードとカスタムメニューの[フォーカス/レリーズ優先](P54)の設定によって異なります。

フォーカスモード	フォーカス/レリーズ優先	ピント合わせ
AFS	フォーカス	1コマ目
	レリーズ	
AFF/AFC※1	フォーカス	常時ピント※2
	レリーズ	予測ピント※3
MF	―	マニュアルで設定したフォーカス

※1　被写体が暗い場合や連写速度を[SH]に設定時は、ピントは1コマ目に固定されます。
※2　常時ピントを合わせながら連写するので、連写速度は遅くなることがあります。
※3　連写速度を優先し、可能な範囲でピントの予測を行います。

- シャッターボタンを押したまま連続撮影するときは、シャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）の使用をお勧めします。シャッターリモコンについては、244ページをお読みください。
- [SH]または[H]（フォーカスモードが[AFS]または[MF]の場合）設定時、1コマ目の露出、ホワイトバランスに固定されます。被写体の明るさの変化によっては、2コマ目以降が明るく撮れたり、暗く撮れたりする場合があります。
  [H]（フォーカスモードが[AFF]または[AFC]の場合）、[M]または[L]設定時、1 コマごとに露出、ホワイトバランスを調整します。
- 暗いところでは、シャッタースピードが遅くなるため、連写速度（コマ/秒）が遅くなることがあります。
- 撮影を繰り返すと、使用条件によっては、次の撮影まで時間がかかる場合があります。
- **連写した写真の保存には時間がかかる場合があります。保存中に引き続き連写した場合は、最大記録枚数が減少します。連写時は、高速タイプのカードのご使用をお勧めします。**
- 以下の場合、連写は無効になります。
  – シーンガイドモードの[水面をキラキラ撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[花をふんわり撮る]
  – クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]/[ソフトフォーカス]/[クロスフィルター]
  – ホワイトバランスブラケット設定時
  – 動画撮影時
  – フラッシュ撮影時
  – [HDR]を[ON]に設定時
  – [多重露出]設定時
  – インターバル撮影時
- 以下の場合、連写の[SH]は使えません。
  – [クオリティ]を[RAW]、[RAW]、[RAW]に設定時
  – [シャッターディレイ]設定時

露出を自動的に変えながら撮る（オートブラケット撮影）

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

シャッターボタンを押すごとに、露出の補正幅に従って露出を変えながら最大で7枚まで撮影します。

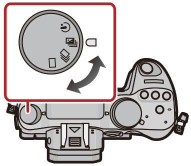
補正幅：[3・1 /3]、ブラケット順序：[0/ー/＋] 設定時の例

1枚目　　2枚目　　3枚目



±0 EV　　ー 1/3 EV　　＋ 1/3 EV

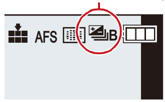
1 ドライブモードダイヤルを［ ］に合わせる



2 ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまでオートブラケット表示が点滅します。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまでにオートブラケットの設定を変更したり、電源スイッチを[OFF]にした場合は、1 枚目からの撮影になります。

オートブラケット表示



続く

■ オートブラケットの単写/連写設定、補正幅、撮影順序を変更する場合

1 撮影メニューから[オートブラケット]を選ぶ(P38)

2 ▲/▼ボタンで[単写/連写設定]、[補正幅]または[ブラケット順序]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンで設定内容を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

項目	設定内容
単写/連写設定	▭（単写）
	▭（連写）

項目	設定内容
補正幅	3•1/3（3枚撮影）
	3•2/3（3枚撮影）
	3•1　（3枚撮影）
	5•1/3（5枚撮影）
	5•2/3（5枚撮影）
	5•1　（5枚撮影）
	7•1/3（7枚撮影）
	7•2/3（7枚撮影）
	7•1　（7枚撮影）

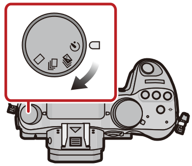
項目	設定内容
ブラケット順序	0/−/+
	−/0/+

- [▭]設定時は、1枚ずつ撮影できます。
- [▭]設定時は、設定枚数まで連続撮影できます。
- 設定後はメニューを終了してください。

- 露出補正をしてからオートブラケット撮影をする場合は、補正された露出値を基準にして撮影されます。
- 被写体の明るさによっては、オートブラケットで露出補正できない場合があります。
- [超解像]を[拡張]に設定時、オートブラケットを連続撮影する場合、設定枚数分がすべて撮影されるまでに時間がかかることがあります。
- 以下の場合、オートブラケットは無効になります。
  – シーンガイドモードの[水面をキラキラ撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[花をふんわり撮る]
  – クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]/[ソフトフォーカス]/[クロスフィルター]
  – ホワイトバランスブラケット設定時
  – 動画撮影時
  – フラッシュ撮影時
  – [HDR]を[ON]に設定時
  – [多重露出]設定時
  – インターバル撮影時

セルフタイマーを使って撮る

使えるモード：iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN 🎨

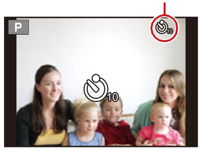


1 ドライブモードダイヤルを[⏲]に合わせる

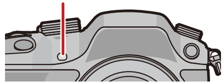
2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

- ピントが合うまで、撮影されません。フォーカスと露出はシャッターボタン半押し時に固定されます。
- ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの[フォーカス/レリーズ優先]を[レリーズ]に設定してください。(P54)
- セルフタイマーランプが点滅し、10秒(または2秒)後に撮影動作が開始されます。
- [⏲10▮]選択時は、1枚目および2枚目撮影後にセルフタイマーランプが再度点滅し、2秒後に撮影動作を開始します。

セルフタイマー(10 秒設定時)



セルフタイマーランプ



■ セルフタイマーの時間を変更する場合

1 撮影メニューから[セルフタイマー]を選ぶ(P38)

2 ▲/▼ ボタンでモードを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

項目	設定内容
⏲10	10秒後に撮影します。
⏲10▮	10秒後に約2秒間隔で3枚撮影します。
⏲2	2秒後に撮影します。 ● 三脚使用時などシャッターボタンを押したときのカメラブレを防ぐのに便利です。

- 設定後はメニューを終了してください。

- セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をお勧めします。
- [⏲10▮]設定時、撮影状況によっては撮影間隔が 2 秒以上になることがあります。
- [⏲10▮]設定時、フラッシュ発光量は一定にならないことがあります。
- 以下の場合、[⏲10▮]に設定できません。
  – ホワイトバランスブラケット設定時
  – [多重露出]設定時
- 以下の場合、セルフタイマーは無効になります。
  – インターバル撮影時
  – 動画撮影時

撮影メニューを使う

撮影メニューの設定方法は ☞ P38

● [フォトスタイル]、[測光モード]、[iDレンジコントロール]、[超解像]、[デジタルズーム]は、撮影メニューと動画撮影メニューに共通のメニュー項目です。どちらかの設定を変更すると、もう一方の設定も変更されます。

フォトスタイル

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

撮影したいイメージに合わせて、6 種類の効果を選択することができます。お好みに合わせて効果の色や画質を調整することができます。

設定	設定内容
STD. [スタンダード]	標準的な設定
VIVD [ヴィヴィッド] ※	彩度高め、コントラスト高めの鮮やかな効果
NAT [ナチュラル] ※	コントラスト低めの柔らかな効果
MONO [モノクローム]	色味を抜いた単色の効果
SCNY [風景] ※	青空や緑を鮮やかにし、風景撮影に適した効果
PORT [人物] ※	健康的できれいな肌色にし、人物撮影に適した効果
CUST [カスタム] ※	あらかじめ登録している設定を使用

※ インテリジェントオート（iA または iA+）モード時は設定できません。

● インテリジェントオート（iA または iA+）モード時、他の撮影モードに切り換えたり、電源の[ON]/[OFF] 切り換えをした場合は、[スタンダード]にリセットされます。
● シーンガイドモード時は、それぞれのシーンに合ったフォトスタイルに固定されます。

続く

撮影メニューの設定方法は　P38

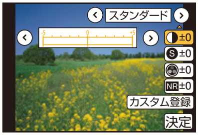
■ 画質調整する

●インテリジェントオート（iA または iA+）モード時は画質調整することはできません。

1　◀/▶ ボタンでフォトスタイルの種類を選ぶ

●シーンガイドモード時はフォトスタイルの種類を選べません。

2　▲/▼ ボタンで項目を選び、◀/▶ ボタンで調整する



項目		効果
コントラスト	＋	画像の明暗差を大きくします。
	−	画像の明暗差を小さくします。
S シャープネス	＋	画像の輪郭を強調します。
	−	画像の輪郭を柔らかくします。
彩度	＋	派手で鮮やかな色になります。
	−	落ち着いた色になります。
NR ノイズリダクション	＋	ノイズリダクションの効果を強め、ノイズを軽減します。解像感が僅かに低下する場合があります。
	−	ノイズリダクションの効果を弱め、より解像感のある画質を得ることができます。

●登録した内容は電源スイッチを [OFF] にしても記憶しています。
●画質調整すると、フォトスタイルアイコンに[＋]が表示されます。
●[モノクローム]選択時は[彩度]で色調を変更できます。

3　▼ ボタンで[カスタム 登録]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

●確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
●設定を[カスタム]に登録できます。

撮影メニューの設定方法は P38

画像横縦比

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

プリントや再生方法に合わせて、画像の横縦比を選択できます。

設定	設定内容
[4:3]	4:3テレビの横縦比
[3:2]	一般のフィルムカメラの横縦比
[16:9]	ハイビジョンテレビなどの横縦比
[1:1]	正方形横縦比

- プリント時に端が切れることがありますので、事前にご確認ください。(P270)

記録画素数

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

記録画素数を設定します。
画素数が大きいほど、大きな用紙にプリントしても鮮明な画像になります。

画像横縦比：[4:3]のとき

設定	画像サイズ
L (16M)	4608×3456
EX M (8M)	3264×2448
EX S (4M)	2336×1752

画像横縦比：[3:2]のとき

設定	画像サイズ
L (14M)	4608×3072
EX M (7M)	3264×2176
EX S (3.5M)	2336×1560

画像横縦比：[16:9]のとき

設定	画像サイズ
L (12M)	4608×2592
EX M (6M)	3264×1840
EX S (2M)	1920×1080

画像横縦比：[1:1]のとき

設定	画像サイズ
L (12M)	3456×3456
EX M (6M)	2448×2448
EX S (3M)	1744×1744

- [EXテレコン(写真)](P109)を設定時は、各画像横縦比の[L]以外の記録画素数に[EX]が表示されます。
- [連写速度]を[SH]に設定時は、記録画素数は[S]に固定されます。

撮影メニューの設定方法は P38

クオリティ

使えるモード： [iA] [iA+] [P] [A] [S] [M] [🎥M] [C1] [C2] [C3] [SCN] [クリエイティブコントロール]

画像を保存するときの圧縮率を設定します。

設定	ファイル形式	設定内容
[▲▲]	JPEG	画質を優先したJPEG画像です。
[▲]		標準画質のJPEG画像です。 画素数を変えずに記録枚数を増やす場合などに便利です。
[RAW▲▲]	RAW+JPEG	RAW画像とJPEG画像（[▲▲]または[▲]）を同時に記録できます。※1
[RAW▲]		
[RAW]	RAW	RAW画像のみを記録できます。※2

※ 1 本機でRAW画像を消去すると、JPEG画像も同時に消去されます。
※ 2 各画像横縦比の最大記録画素数（[L]）に固定されます。

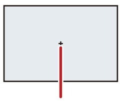
- RAWファイルを利用すると、より高度な画像の編集が可能です。編集した画像はパソコンなどで表示できるファイル形式（JPEG、TIFFなど）で保存できます。
- RAWファイルの現像や編集には、CD-ROM（付属）のソフトウェア（市川ソフトラボラトリー「SILKYPIX Developer Studio」）をお使いください。
- 以下の効果は、RAW画像には反映されません。
  – 撮影メニューの[フォトスタイル]、[iDレンジコントロール]、[デジタル赤目補正]、[超解像]、[色空間]
  – シーンガイドモード
  – クリエイティブコントロールモード
- [RAW]は[RAW▲▲]または[RAW▲]よりも小さいデータ容量で記録できます。

撮影メニューの設定方法は ☞ P38

測光モード

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN 🎨

明るさを測る測光方式を切り換えることができます。

設定	設定内容
[(マルチ測光アイコン)]（マルチ測光）	画面全体の明るさの配分をカメラが自動的に評価して、露出が最適になるように測光する方式です。通常はこの方式に合わせて使用することをお勧めします。
[(中央重点測光アイコン)]（中央重点測光）	画面中央部の被写体に重点を置いて、画面全体を平均的に測光する方式です。
[(スポット測光アイコン)]（スポット測光）	スポット測光ターゲット上の被写体に対して測光する方式です。 

連写速度

設定：[SH]、[H]、[M]、[L]

● 詳しくは、136ページをお読みください。

オートブラケット

設定：[単写/連写設定]、[補正幅]、[ブラケット順序]

● 詳しくは、138ページをお読みください。

セルフタイマー

設定：[(セルフタイマー10秒)]、[(セルフタイマー10秒/3枚)]、[(セルフタイマー2秒)]

● 詳しくは、140ページをお読みください。

撮影メニューの設定方法は P38

iDレンジコントロール

使えるモード： P A S M C1 C2 C3 SCN

背景と被写体の明暗差が大きい場合など、撮影状況に合わせて、コントラストや露出を自動的に補正します。

設定：[強]、[中]、[弱]、[OFF]

- 撮影条件によっては、補正効果が得られない場合があります。
- [強]、[中]、[弱]は効果の最大範囲を表します。
- 以下の場合、[iD レンジコントロール] は働きません。
  – [HDR]を[ON]に設定時

超解像

使えるモード： P A S M C1 C2 C3 SCN

超解像技術を利用して、より輪郭がはっきりした、解像感がある画像を撮影することができます。

設定：[強]、[中]、[弱]、[拡張]、[OFF]

- [拡張]は、より解像感を高めた自然な画像を撮影できます。
- [拡張]使用時は連写や連続撮影の速度が遅くなります。
- 動画撮影時は[拡張]は[弱]に変わります。

撮影メニューの設定方法は P38

HDR

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN ✎

露出の異なる写真を3枚撮影して1枚の階調豊かな写真に合成します。背景と被写体の明暗差が大きい場合などに、黒つぶれや白飛びを抑えて撮影することができます。
HDR合成した画像はJPEGで記録されます。

設定	設定内容	
[ON]	HDR 合成した写真を撮影します。	
[OFF]	HDR 合成を行いません。	
[設定]	[Dレンジ設定]	[AUTO]：被写体の明暗差に応じて露出の調整幅を自動調整して撮影します。 [±1EV]、[±2EV]、[±3EV]：設定した露出の調整幅で撮影します。
	[自動位置調整]	[ON]： 手ブレなどによる画像のずれを自動的に調整します。手持ち撮影時の設定をお勧めします。 [OFF]： 画像のずれ調整を行いません。三脚使用時の設定をお勧めします。

■ HDRとは

High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略で、幅広い明暗差を表現するための技術を表します。

- シャッターボタンを押したあと、連写中はカメラを動かさないでください。
- 撮影後、連写した写真を合成するため、しばらくの間、次の撮影ができません。
- 動いている被写体を撮影すると、残像のように不自然に撮影される場合があります。
- [自動位置調整]を[ON]に設定時は、画角が僅かに狭くなります。
- フラッシュは[⊘](発光禁止)に固定されます。
- 動画撮影中の写真記録では働きません。
- 以下の場合、[HDR]は使えません。
  – [クオリティ]を[RAW▲▲▲]、[RAW▲]、[RAW]に設定時
  – インターバル撮影時

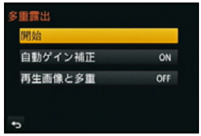
撮影メニューの設定方法は P38

多重露出

使えるモード： P A S M C1 C2 C3

１枚の画像に最大４回の露光を行ったような効果を得ることができます。

1 [開始] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す



2 構図を決めて１枚目を撮影する



- 撮影後、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影に進みます。
- ▲/▼ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押すと以下の操作が可能です。
  – [次の撮影]： 次の撮影に進む
  – [撮り直し]： １枚目の撮影に戻る
  – [完了]： １枚目の撮影画像を記録し、多重露出の撮影を終了する

3 ２枚目、3枚目、4枚目を撮影する

- 撮影時に [MENU/SET] ボタンを押すと、撮影画像を記録し、多重露出の撮影を終了します。

4 ▼ボタンで [完了] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- シャッターボタン半押しでも終了できます。



■ 自動ゲイン補正設定について

手順 *1* の画面で[自動ゲイン補正]を選んで設定してください。

- [ON]： 撮影枚数に応じて明るさのレベルを調整して重ね合わせます。
- [OFF]： すべての露光結果をそのまま重ね合わせます。被写体によっては必要に応じて露出補正を行ってください。

■ カード内のRAW画像に重ね合わせる

手順 *1* の画面で[再生画像と多重]を[ON]に設定してください。[開始]後に、カード内の画像が表示されます。RAW画像を選んで [MENU/SET] ボタンを押し、続けて撮影してください。

- 本機で撮影されたRAW画像にのみ[再生画像と多重]を行えます。

- 完了するまで画像は記録されません。
- 多重露出で撮影した画像の撮影情報は、最後に撮影した画像の情報になります。
- 多重露出撮影中は、メニュー画面にグレーで表示される項目は設定できません。
- インターバル撮影時は使えません。

撮影メニューの設定方法は ☞ P38

インターバル撮影

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

撮影開始時刻、撮影間隔、撮影枚数を設定し、動植物などの被写体を時間経過を追って自動的に撮影することができます。

- あらかじめ時計設定をしておいてください。(P37)

■ 撮影時間/間隔/枚数を設定する

1 ▲/▼ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す



項目	設定内容	
開始時刻	即時開始	シャッターボタンを全押しすると、撮影を開始します。
	開始時刻設定	撮影を開始する時刻を設定できます。最大24時間後まで設定可能です。 ● ▲/▼/◀/▶ボタンで開始時刻(時･分)を設定し、[MENU/SET]ボタンを押してください。
撮影間隔	1 秒～ 99 分 59 秒までを 1 秒間隔で設定できます。 ● ▲/▼/◀/▶ボタンで撮影間隔(分･秒)を設定し、[MENU/SET]ボタンを押してください。	
撮影枚数	1 枚～ 9999 枚 ● ▲/▼/◀/▶ボタンで撮影枚数を設定し、[MENU/SET]ボタンを押してください。	

2 ▲/▼ボタンで［開始］を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 シャッターボタンを全押しする

- 自動的に撮影が開始されます。
- 撮影待機中、一定時間何も操作しないでおくと、電源が自動的に切れます。電源が切れてもインターバル撮影は継続され、撮影開始時刻になると自動的に電源が入ります。手動で電源を入れる場合はシャッターボタンを半押ししてください。
- 電源が入った状態で[Fn1]ボタンを押すと、一時停止または終了の選択画面になります。画面に従って操作してください。また、一時停止中に[Fn1]ボタンを押すと、再開または終了の選択画面になります。一時停止状態からの再開は、シャッターボタンの全押しでも行えます。

続く

- システム用途（監視カメラ）の機能ではありません。
- **本機を放置して［インターバル撮影］を行う際は、盗難にお気をつけください。**
- **スキー場や標高の高いところなどの寒冷地や低温下または高温・多湿な環境での長時間撮影は、故障の原因になることがありますのでお気をつけください。**
- 長時間露光時など、撮影時間が撮影間隔より長い場合、撮影をスキップすることがあります。
- 十分に充電されたバッテリーの使用をお勧めします。
- 以下の場合、インターバル撮影は一時停止します。
  設定時間中であれば、一時停止中にバッテリー、カードを交換し、電源スイッチを［ON］にして再開することができます。なお、バッテリー、カードを交換するときは、電源スイッチを［OFF］にして行ってください。
  – バッテリー残量がなくなったとき
  – 記録可能枚数がなくなったとき
  – 電源スイッチを［OFF］にしたとき
- インターバル撮影時はAVケーブル（別売）、HDMIミニケーブル（別売）、USB接続ケーブル（付属）を接続しないでください。

電子シャッター

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

電子シャッターを使用して、ブレを抑えた写真を撮影できます。静かな場所での撮影時には、シャッター音を鳴らさずに撮影することもできます。

設定：［ON］、［OFF］

- フラッシュは［⊛］（発光禁止）に固定されます。
- 動いている被写体を撮影したり、撮影時に手ブレが発生すると、被写体が曲がって撮影される場合があります。三脚の使用をお勧めします。
- 蛍光灯や LED などの照明下では、横しまが撮影されることがあります。
- ［連写速度］を［SH］に設定時は、［電子シャッター］は使えません。
- ［電子音］の［電子シャッター音音量］で、撮影時のシャッター音を鳴らさないように設定できます。(P45)
- **本機能のご利用につきましては、被写体のプライバシー、肖像権などに十分ご配慮のうえ、お客様の責任で行ってください。**

シャッターディレイ

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

手ブレやシャッターブレを抑えるため、シャッターボタンを押したあと設定した時間が経過してからシャッターが切れます。

設定：［8秒］、［4秒］、［2秒］、［1秒］、［OFF］

- 以下の場合、［シャッターディレイ］は使えません。
  – ［連写速度］を［SH］に設定時
  – ［HDR］を［ON］に設定時

撮影メニューの設定方法は P38

フラッシュ設定

設定：[発光モード]、[フラッシュモード]、[フラッシュシンクロ]、[フラッシュ光量調整]、[露出補正連動]、[マニュアル発光量設定]、[ワイヤレスチャンネル]、[ワイヤレスFP]、[ワイヤレス通信光量]、[ワイヤレス設定]

- 詳しくは、113ページをお読みください。

デジタル赤目補正

使えるモード： iA iA+ P A S M (動画M) C1 C2 C3 SCN (クリエイティブ)

赤目軽減（[⚡◎]、[⚡S◎]）選択時にフラッシュが発光すると、デジタル赤目補正が働き、赤目を自動的に検出して画像データを修正します。

設定：[ON]、[OFF]

- オートフォーカスモードが[顔認識]で顔認識しているときのみ働きます。
- 赤目の状態によっては補正できない場合があります。
- [ON]に設定すると、アイコンに[✎]が表示されます。

ISO感度ステップ

使えるモード： iA iA+ P A S M (動画M) C1 C2 C3 SCN (クリエイティブ)

ISO感度の設定を、1/3 EVごとの設定値に変更します。

設定	設定内容
[1/3 EV]	[L.125]※、[L.160]※、[200]、[250]、[320]、[400]、[500]、[640]、[800]、[1000]、[1250]、[1600]、[2000]、[2500]、[3200]、[4000]、[5000]、[6400]、[8000]、[10000]、[12800]、[H.16000]※、[H.20000]※、[H.25600]※
[1 EV]	[L.125]※、[200]、[400]、[800]、[1600]、[3200]、[6400]、[12800]、[H.25600]※

※ [拡張ISO感度]を設定時のみ

- [1/3 EV]から[1 EV]に設定を変更すると、ISO 感度は[1/3 EV] 時に選んでいた設定値に最も近い値になります。（もう一度[1/3 EV]に変更した場合、設定値は戻りません。[1 EV] 時に選んでいた設定値のままになります。）

撮影メニューの設定方法は P38

拡張 ISO 感度

使えるモード： P A S M C1 C2 C3 SCN

ISO 感度が最小 [ISO125]、最大[ISO25600]まで設定できるようになります。

設定：[ON]、[OFF]

長秒ノイズ除去

使えるモード： P A S M C1 C2 C3 SCN

夜景撮影など、シャッタースピードを遅くして撮影することで発生するノイズを、カメラが自動的に取り除き、きれいな画像を撮影することができます。

設定：[ON]、[OFF]

- ノイズ除去中は、信号処理のために選択したシャッタースピードと同じ時間「長秒ノイズ除去中」と表示されます。
- シャッタースピードを遅くして撮影する場合は、三脚の使用をお勧めします。
- 以下の場合、[長秒ノイズ除去]は働きません。
  – 動画撮影時
  – [連写速度]を[SH]に設定時
  – [電子シャッター]を[ON]に設定時

シェーディング補正

使えるモード： P A S M C1 C2 C3 SCN

レンズの特性によって画面周辺が暗くなる場合、画面周辺の明るさを補正した画像を撮影することができます。

設定：**[ON]、[OFF]**

- 撮影条件によっては、補正効果が得られない場合があります。
- 高い ISO 感度では、画面周辺のノイズが目立つ場合があります。
- 以下の場合は補正できません。
  – 動画撮影時
  – 動画撮影中の写真記録（[(動画優先)] 設定時のみ）
  – [連写速度]を[SH]に設定時
- 使用するレンズによっては補正できない場合があります。対応レンズについては、ホームページをご覧ください。

撮影メニューの設定方法は P38

EX テレコン(写真)

設定：[ZOOM]、[TELE CONV.]、[OFF]

- 詳しくは、109ページをお読みください。

デジタルズーム

設定：[4×]、[2×]、[OFF]

- 詳しくは、108ページをお読みください。

色空間

使えるモード： iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

撮影した画像をパソコンの画面やプリンターなどで再現する場合に、色再現を正しく行うための方式を設定します。

設定	設定内容
[sRGB]	sRGB色空間に設定します。パソコンを中心とした機器で広く使われています。
[AdobeRGB]	AdobeRGB色空間に設定します。 AdobeRGB色空間はsRGB色空間よりも色再現の範囲が広いため、主に商用印刷などの業務用途で使われています。

- 色空間の設定によって、撮影した画像のファイル名は以下のように変わります。

  P1000001.JPG
  P：sRGB
  _：AdobeRGB

- AdobeRGBについての専門的な知識がない方は、sRGBに設定してください。
- 動画撮影時は、[sRGB]に固定されます。

手ブレ補正

設定：[((手))]、[((手↕))]、[OFF]

- 詳しくは、106ページをお読みください。

撮影メニューの設定方法は ☞ P38

個人認証

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN ⟨クリエイティブコントロール⟩

個人認証とは、登録された顔に近い顔を見つけて、自動で優先的にピントや露出を合わせる機能です。集合写真などで大切な人が奥や隅にいても、大切な人の顔をきれいに撮影することができます。

設定：[ON]、[OFF]、[登録]

> **お買い上げ時、[個人認証]は[OFF]に設定されています。**
> **顔画像を登録すると自動的に[ON]になります。**



- **個人認証機能では、以下の機能も働きます。**
  撮影時
  – カメラが登録した顔を認識時、名前を表示※
  （名前を設定している場合）
  再生時
  – 名前や月齢/年齢の表示（情報を登録している場合）
  – 登録人物から選んだ人物の画像のみを再生（[カテゴリー再生]（P173））

※名前は3人まで表示されます。撮影時に表示される名前は登録順により決まります。

- **[個人認証]は、オートフォーカスモードを[顔認識]に設定しているときのみ有効です。**
- 連写撮影時は、1枚目のみ個人認証に関する撮影情報が付加されます。
- 以下の場合では、[個人認証]を設定できません。
  – シーンガイドモードの[夜景をきれいに撮る]/[夜空をクールに撮る]/[夜景を暖かく撮る]/[夜景をアーティスティックに撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[料理をおいしそうに撮る]/[スイーツをかわいく撮る]
  – クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]
  – 動画撮影時
- 個人認証は、登録した顔に近い顔を探しますので、確実な人物の認証を保証するものではありません。
- 個人認証では、顔の特徴を抽出し認証を行うため、通常の顔認識よりも時間がかかります。
- 個人認証情報を登録していても、名前を[OFF]にして撮影した画像は、[カテゴリー再生]の個人認証に分類されません。
- **個人認証情報を変更した場合（P156）でも、すでに撮影した画像の認証情報は変更されません。**
  例えば、名前を変更すると、変更前に撮影した画像は[カテゴリー再生]の個人認証に分類されなくなります。
- 撮影した画像の名前情報を変更するには[認証情報編集]の[入換え]（P186）を行ってください。

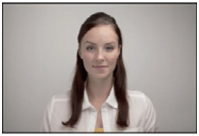
撮影メニューの設定方法は P38

顔画像を登録する

最大6人までの顔画像を名前や誕生日などの情報とともに登録できます。
同じ人物の顔画像を複数枚登録するなど（1登録につき最大3枚）、顔登録のしかたを工夫することにより個人認証されやすくなります。

■ 顔画像登録時の撮影ポイント

登録時の良い例



- 目を開き、口を閉じた状態で正面を向き、髪の毛で顔の輪郭、目や眉が隠れないようにする。
- 顔に極端な陰影が出ないようにする。（登録時、フラッシュは発光しません）

■ 撮影時に認証されにくいと感じたら

- 同じ人物の顔を室内と屋外で、または表情やアングルを変えて追加で登録する。(P156)
- 撮影するその場で追加して登録する。
- 登録している人物を認証しなくなった場合は、再度登録し直す。
- 登録している人物でも表情や環境によっては個人認証ができない、または正しく認証されない場合があります。

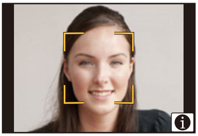
1 **▲/▼ボタンで［登録］を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

2 **▲/▼/◀/▶ボタンで未登録の顔画像枠を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**



- すでに6人登録されているときは、［新規登録］が表示されません。追加で登録する場合は、すでに登録されている人物を解除してください。

3 **ガイドに顔を合わせて撮影する**



- 確認画面が表示されます。［はい］を選ぶと実行されます。
- 人物以外の被写体の顔（ペットなど）は、登録できません。
- ▶ボタンを押す、または［ⓘ］をタッチすると、顔登録撮影の説明が表示されます。

続く

撮影メニューの設定方法は P38

4 ▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
- 顔画像は３枚まで登録できます。

項目		設定内容
名前		名前を設定します。 ❶ ▼ボタンで[設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す ❷ 名前を入力する ● 文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。 ● [A]/[a]/[1]/[&]で入力できる文字数は最大9文字です。 ● [かな]/[カナ]、[＼]、[「]、[」]、[･]、[―] で入力できる文字数は最大6文字です。
月齢/年齢		誕生日を設定します。 ❶ ▼ボタンで[設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す ❷ ◀/▶ボタンで項目(年･月･日)を選んで▲/▼ボタンで設定し、[MENU/SET] ボタンを押す
追加登録	**追加登録**	顔画像を追加登録します。 ❶ 未登録の顔画像枠を選び、[MENU/SET]ボタンを押す ❷ 「顔画像を登録する」の手順*3*を行う
	解除	顔画像を 1 枚消去します。 **◀/▶ボタンで解除したい顔画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す** ● 画像が1枚しか登録されていない場合は、解除できません。 ● 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。

- 設定後はメニューを終了してください。

登録した人物の情報を変更または解除する

すでに登録している人物の顔画像や情報を変更することができます。また、登録している人物の情報を消去することができます。

1 ▼ボタンで [登録] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

2 ▲/▼/◀/▶ ボタンで編集または解除したい顔画像を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 ▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

項目	設定内容
情報編集	すでに登録している人物の情報を変更します。 **「顔画像を登録する」の手順*4*を行う**
登録順	登録順にピントや露出を合わせます。 **▲/▼/◀/▶ ボタンで登録順を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
解除	すでに登録している人物の情報を消去します。 ● 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。

- 設定後はメニューを終了してください。

撮影メニューの設定方法は P38

プロフィール設定

使えるモード：iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN 🎨

あらかじめ、赤ちゃんやペットの名前や誕生日を設定することで、名前や月齢／年齢を画像に記録することができます。これらは再生時に表示させたり、[文字焼き込み] (P176) で撮影画像に焼き込むことができます。

設定：[(赤ちゃん1)]、[(赤ちゃん2)]、[(ペット)]、[OFF]、[設定]

■ 名前、月齢／年齢を設定する

1 ▲/▼ボタンで[設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

2 ▲/▼ボタンで[赤ちゃん1]、[赤ちゃん2]または[ペット]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンで[月齢／年齢]または[名前]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す



4 ▲/▼ボタンで[設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

[月齢／年齢]を入力する

誕生日：　◀/▶：項目（年・月・日）選択
▲/▼：設定
[MENU/SET]：決定

[名前]を入力する

文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。

- A / a / 1 / & で入力できる文字数は最大30文字です。
- かな / カナ 、[＼]、[「]、[」]、[・]、[ー] で入力できる文字数は最大15文字です。

5 ▼ボタンで[終了]を選び、[MENU/SET]ボタンを押して終了する

■ 月齢／年齢や名前の表示を解除するには

手順 *1* で[OFF]を設定してください。

- 動画撮影中に記録した写真（[ ]（動画優先））(P163) には、月齢／年齢や名前は記録されません。
- CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使って月齢／年齢や名前をプリントすることができます。

動画を撮る

使えるモード：iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN 🎨

AVCHD規格に準拠したフルハイビジョン映像や、MP4、MOV 形式で記録される動画を撮影できます。音声はステレオで記録されます。
使用するレンズにより、動画撮影中に働く機能に差があります。また、レンズの動作音などが記録される場合があります。詳しくは、24ページをお読みください。

フォーマット、サイズ、フレームレートを設定する

1 動画撮影メニューから［記録方式］を選ぶ(P38)

2 ▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

項目	フォーマット
[AVCHD]	ハイビジョンテレビなどで再生する場合に適したデータ形式です。
[MP4]	パソコンなどで再生する場合に適したデータ形式です。
[MOV]	映像編集に適したデータ形式です。

- [MOV] 選択時は確認画面が表示されます。[はい] を選ぶと実行されます。

3 ▲/▼ ボタンで［画質設定］を選び、▶ ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 設定後はメニューを終了してください。

[AVCHD] を選んだ場合

項目	サイズ	フレームレート	ビットレート
[FHD/60p] ※1	1920×1080	60p	28 Mbps
[FHD/60i]	1920×1080	60i	17 Mbps
[FHD/30p]	1920×1080	60i ※2	24 Mbps
[FHD/24p]	1920×1080	24p	24 Mbps

※1 AVCHD Progressive
※2 センサー出力は 30 コマ / 秒です

[MP4] を選んだ場合

項目	サイズ	フレームレート	ビットレート
[FHD/30p]	1920×1080	30p	20 Mbps
[HD/30p]	1280×720	30p	10 Mbps
[VGA/30p]	640×480	30p	4 Mbps

続く

[MOV]を選んだ場合

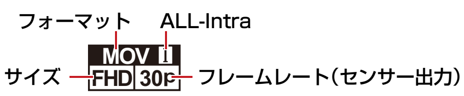
項目	サイズ	フレームレート	ビットレート
[FHD/60p]	1920×1080	60p	50 Mbps
[FHD/30p/I]（ALL-Intra）	1920×1080	30p	72 Mbps
[FHD/30p]	1920×1080	30p	50 Mbps
[FHD/24p/I]（ALL-Intra）	1920×1080	24p	72 Mbps
[FHD/24p]	1920×1080	24p	50 Mbps
[HD/60p/I]（ALL-Intra）	1280×720	60p	72 Mbps

■ 撮影した動画の互換性について

撮影された動画は、それぞれの対応機器であっても、再生すると画質や音質が悪くなったり、再生できない場合があります。また撮影情報が、正しく表示されない場合があります。この場合は本機で再生してください。

- [AVCHD]の[FHD/60p]、[FHD/30p]、[FHD/24p]で記録した動画の本機以外での再生、取り込みには、対応しているブルーレイディスクレコーダーまたはPHOTOfunSTUDIOをインストールしたパソコンが必要です。
- [MOV]で記録した動画の本機以外での再生、編集には、高性能のパソコン環境や、PHOTOfunSTUDIOをインストールしたパソコンが必要です。
- 対応機器について、詳しくは下記サポートサイトでご確認ください。
  http://panasonic.jp/support/dsc/

■ アイコンの見方



- 「ALL-Intra」とは1コマ単位で圧縮を行う方式で、ファイルサイズが大きくなりますが、編集時に再エンコードが不要なため画質劣化がありません。
- 「ビットレート」とは一定時間当たりのデータの量で、この場合は数値が大きいほど高画質になります。本機はVBR記録方式を採用しています。VBRとはVariable Bit Rate（可変ビットレート）の略で、撮影する被写体により、ビットレート（一定時間当たりのデータの量）が自動的に変わる記録方式です。このため、動きの激しい被写体を記録した場合、記録時間は短くなります。

動画撮影時のピントの合わせ方（AF連続動作）

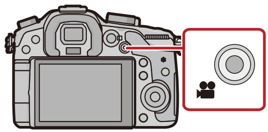
ピント合わせは、フォーカスモードと動画撮影メニューの[AF連続動作]の設定によって異なります。

フォーカスモード	設定
AFS、AFF、AFC	撮影中も自動でピントを合わせ続けます。※ ● シャッターボタンを半押しするとピントを合わせ直します。
MF	手動でピントを合わせることができます。

※ [AF連続動作] が [OFF] のときは、撮影開始時のピント位置に固定されます。

● 撮影環境や使用レンズによっては、動画撮影時にオートフォーカスが働くと、動作音が記録される場合があります。動作音が気になる場合は、動画撮影メニューの[AF連続動作]を[OFF]に設定するなどして撮影することをお勧めします。
● 動画撮影時にズーム操作を行うと、ピントが合うまでに時間がかかることがあります。

動画を撮る





1 動画ボタンを押して撮影を開始する

● 各撮影モードに適した動画が撮影できます。
● 動画の記録中は、記録動作表示（赤）が点滅します。
● 約10秒以上何も操作しないと、画面上の情報が一部表示されなくなります。[DISP.]ボタンを押したり、モニターをタッチすると再度表示されます。
● 動画撮影時は、マイクの穴を指などで塞がないでください。
● 動画ボタンを押したあと、すぐに離してください。

2 もう一度動画ボタンを押して撮影を終了する

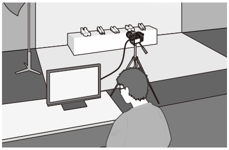
続く

- 画面に表示される記録可能時間は、規則正しく減少しない場合があります。
- カードの種類によっては、動画記録後、カードアクセス表示がしばらく出る場合がありますが、異常ではありません。
- 画像横縦比の設定が写真と動画で異なる場合、動画撮影開始時に画角が変わります。[記録枠表示](P56)を[ ]に設定すると、動画撮影時の画角が表示されます。
- EXテレコン使用時は、写真と動画のズーム倍率が異なるため、写真撮影画面と動画撮影画面が切り換わる際に、画角が変わります。(P108)
- クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]では、動画撮影を短い時間で終了すると、一定の時間まで撮影を続けることがあります。撮影が終わるまで構えたままお待ちください。
- 動画撮影中、ISO感度は[AUTO](動画用)の動作になります。また、ISO感度上限設定は機能しません。
- 動画撮影時は、[手ブレ補正]を[ ](流し撮り)に設定していても、[ ](通常)に固定されます。
- 動画を撮影する際は、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(別売:DMW-AC8)の使用をお勧めします。(P244)
- ACアダプターを使用して動画を撮影している最中に、停電やACアダプターを抜くなどして電源の供給が途絶えると、撮影途中の動画は記録されません。
- 以下の場合、動画撮影できません。
  – シーンガイドモードの[水面をキラキラ撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[花をふんわり撮る]
  – クリエイティブコントロールモードの[ソフトフォーカス]/[クロスフィルター]
  – インターバル撮影時
- 一部の撮影モードでは、以下のような分類で撮影されます。下記以外では、それぞれの撮影モードに合った動画を撮影できます。

選択されている撮影モード	動画撮影時の撮影モード
– プログラム AE モード – 絞り優先 AE モード – シャッター優先 AE モード – マニュアル露出モード	通常動画
– シーンガイドモードの[逆光でしっかり撮る]	人物モード
– シーンガイドモードの[夜景をきれいに撮る]/ [夜景をアーティスティックに撮る]/ [夜景をバックに人物をきれいに撮る]	ローライトモード

カメラの映像をモニターしながら撮る

HDMI出力時は、動画をテレビなどでモニターしながら撮影することができます。
HDMIミニケーブル(別売)でテレビと接続する方法については、226 ページをお読みください。



■ 情報表示の有無を切り換える

セットアップメニューの[映像出力](P48)の[HDMI情報表示(撮影時)]で、HDMI出力時の表示を変更できます。
[ON]: カメラの表示をそのまま出力する。
[OFF]: 映像のみを出力する。

音声をモニターしながら撮る

本機に市販のヘッドホンを接続して、動画の音声をモニターしながら撮影することができます。

■ 音声出力方法を切り換える

動画撮影メニューの[ヘッドホン出力音]で、ヘッドホンへの音声出力方法を変更できます。
[リアルタイム]: 実際の音声。
[記録音]: 動画に記録される音声。

- ヘッドホンケーブルは 3 m 未満をご使用ください。

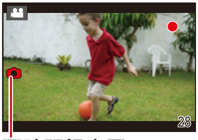
動画撮影中に写真を記録する

使えるモード：iA iA+ P A S M C1 C2 C3 SCN

動画撮影中でも写真を記録することができます。(同時記録)

動画撮影中に、シャッターボタンを全押しする

- 写真を記録中は同時記録表示が出ます。
- タッチシャッター機能(P65)を使って撮影することもできます。



同時記録表示

■ 動画優先、写真優先を設定する

使えるモード：P A S M C1 C2 C3 SCN

動画撮影メニューの[写真撮影]で、動画撮影中の写真の記録方法を設定することができます。

項目	設定内容
(動画優先)	● 記録画素数[S](2 M)で写真を記録します。通常の写真の[S](2 M)とは画質が異なる場合があります。 ● クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]に設定時はJPEG画像のみ記録されます。([RAW]設定時はクオリティは[ ]で記録されます) ● 動画撮影中の写真の記録可能枚数は、最大40枚までです。 ● クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]では、シャッターボタンを全押し時と多少ずれて記録される場合があります。
(写真優先)	● 設定した記録画素数、クオリティで写真を記録します。 ● 写真を記録中は画面が黒くなります。その間、動画には静止画像が記録され、音声が途切れます。 ● 動画撮影中の写真の記録可能枚数は、最大10枚までです。

- 写真の画像横縦比は[16:9]に固定されます。
- 以下の場合、同時記録はできません。
  – [記録方式]の[MP4]を[VGA/30p]に設定時
  – [FHD/24p]、[FHD/24p/ I]に設定時([(写真優先)]設定時のみ)

絞り / シャッタースピードを決めて動画を撮る(クリエイティブ動画モード)

撮影モード：[動画M]

絞りやシャッタースピードを手動で変更して動画を撮影できます。

1 **モードダイヤルを [動画M] に合わせる**

2 **動画撮影メニューから [動画露出設定] を選ぶ**(P38)

3 **▲/▼ ボタンで [P]、[A]、[S]、[M] のいずれかを選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- モードダイヤルを **P** / **A** / **S** / **M** のいずれかに合わせたときと同じ操作で、絞り値やシャッタースピードを変更できます。

4 **撮影を開始する**

- 動画ボタンまたはシャッターボタンを押して、動画撮影を開始できます。(写真は撮れません)

5 **撮影を終了する**

- 動画ボタンまたはシャッターボタンを押して、動画撮影を終了できます。

- **絞り値について**
  – 背景までピントを合わせて撮りたいときは絞り値を大きく、背景をぼかして撮りたいときは絞り値を小さくしてください。
- **シャッタースピードについて**
  – 動きを止めて撮りたいときはシャッタースピードを速く、動きを表現したいときにはシャッタースピードを遅くしてください。
  – 手動でシャッタースピードを速くすると、感度が高くなることにより、画面にノイズが増えることがあります。
  – 極端に明るい場所や被写体を撮影したり、蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影すると、色合いや画面の明るさが変わったり、画面に横帯が出たりすることがあります。この場合、他の撮影モードで撮影するか、手動でシャッタースピードを 1/60 または 1/100 に調整してください。
- [スロー/クイック効果] (P165)によりシャッタースピードは変わります。
- 動画撮影中でも、設定の変更ができます。この場合、動作音が記録されることがありますので、[タッチ静音操作]を使って撮影することをお勧めします。(P166)

スロー動画/クイック動画

撮影コマ数を変更して、スローモーション、クイックモーションの動画を撮影できます。

1 **動画撮影メニューから[スロー/クイック効果]を選ぶ**(P38)

2 **▲/▼/◄/► ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

項目	設定内容
OFF	—
40%、48%、80%	0.4倍速、0.48倍速、0.8倍速のスロー動画を記録
160%、200%、300%	1.6倍速、2.0倍速、3.0倍速のクイック動画を記録

- 例えば[200%]で10秒間撮影すると、記録される動画の長さは5秒になります。
- 設定後はメニューを終了してください。

- [スロー/クイック効果]を[OFF]以外に設定時は、[記録方式]が[AVCHD]、[MP4]、[MOV]のいずれの場合でも、以下の画質に固定されます。

項目	サイズ	フレームレート	ビットレート
[FHD/24p]	1920×1080	24p	24 Mbps

- スロー/クイック動画の本機以外での再生、取り込みには、対応しているブルーレイディスクレコーダーまたは PHOTOfunSTUDIO をインストールしたパソコンが必要です。
- 音声は記録されません。
- 動画撮影メニューの[風音低減]、[マイクレベル表示]、[マイクレベル設定]は使えません。
- 三脚の使用をお勧めします。
- スロー/クイック動画再生時は、画面右上の動画記録時間の表示が通常の動画と異なります。
  [▶ XXhXXmXXs]:実際の再生時間
  [XXhXXmXXs]:動画撮影をした実記録時間

動画撮影中の操作音を抑えて撮る

動画撮影中にズームやボタン操作などをすると、その動作音が記録される場合があります。タッチ操作をすることで、動画撮影中でも静かに操作できます。

- 動画撮影メニューの[タッチ静音操作]を[ON]に設定してください。
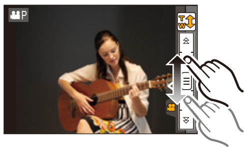
1 撮影を開始する

2 [ ]をタッチする

3 アイコンをタッチして、設定画面を表示する

T W	ズーム（パワーズーム対応交換レンズ使用時）
F	絞り値
SS	シャッタースピード
	露出補正
ISO	ISO 感度
	マイクレベル設定

4 スライドバーをドラッグして設定する



- タッチする位置により、操作のスピードは変わります。

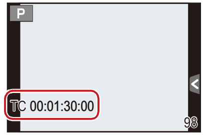
[▲]/[▼]	ゆっくり設定を変える
[⏶]/[⏷]	速く設定を変える

5 撮影を終了する

タイムコードの記録方法を設定する

使えるモード： iA iA+ P A S M ■M C1 C2 C3 SCN ◎

タイムコードは、時間、分、秒、フレームで記録時間を表示するもので、パソコンでの動画編集の際にタイムコードを基に編集を行うことができます。
本機では動画撮影時にタイムコードが自動的に記録されます。
● [記録方式]を[MP4]に設定して撮影した動画には、タイムコードは記録されません。



1 動画撮影メニューから[タイムコード設定]を選ぶ(P38)

2 ▲/▼ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

項目	設定内容
タイムコード表示	タイムコードを撮影画面/再生画面に表示するかしないかを設定します。 **[ON]、[OFF]**
カウントアップ方式	タイムコードのカウント方法を設定します。 **[レックラン]**：動画記録中のみタイムコードをカウントします。 **[フリーラン]**：動画記録停止中（電源OFF時を含む）もタイムコードをカウントします。
タイムコード値設定	タイムコードの起点（スタート時間）を設定します。 **[リセット]**：00:00:00:00（時：分：秒：フレーム）に設定します。 **[手動入力]**：時：分：秒：フレームを手動で入力します。 **[現時刻]**：時：分：秒を現時刻に設定し、フレームを00に設定します。
タイムコードモード	タイムコードの記録方法を設定します。 **[DF]**（ドロップフレーム）： 記録時間とタイムコードの誤差を補正して記録します。時間を厳密に記録する必要のある番組制作などで用いられます。 **[NDF]**（ノンドロップフレーム）： ドロップフレームを行わないでタイムコードを記録します。映像制作などで用いられます。 ● [FHD/24p]、[FHD/24p/I]設定時は[NDF]に固定されます。

動画撮影メニューを使う

動画撮影メニューの設定方法は P38

- [フォトスタイル]、[測光モード]、[iDレンジコントロール]、[超解像]、[デジタルズーム]は、撮影メニューと動画撮影メニューに共通のメニュー項目です。どちらかの設定を変更すると、もう一方の設定も変更されます。
  – 詳しくは、撮影メニューの同じ項目をお読みください。
- 以下の場合、動画撮影メニューは表示されません。
  – シーンガイドモードの[水面をキラキラ撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[花をふんわり撮る]
  – クリエイティブコントロールモードの[ソフトフォーカス]/[クロスフィルター]

記録方式

- 詳しくは、158ページをお読みください。

画質設定

- 詳しくは、158ページをお読みください。

動画露出設定

設定： [P]、[A]、[S]、[M]

- 詳しくは、164ページをお読みください。

スロー/クイック効果

設定： [OFF]、[40%]、[48%]、[80%]、[160%]、[200%]、[300%]

- 詳しくは、165ページをお読みください。

写真撮影

設定： [(動画優先)]、[(写真優先)]

- 詳しくは、163ページをお読みください。

AF連続動作

設定： [ON]、[OFF]

- 詳しくは、160ページをお読みください。

動画撮影メニューの設定方法は P38

タイムコード設定

設定：[タイムコード表示]、[カウントアップ方式]、[タイムコード値設定]、[タイムコードモード]

● 詳しくは、167ページをお読みください。

動画ハイライト表示

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

白飛びの起こっている部分を黒と白の点滅で表示します。
設定：[ON]、[OFF]

● 白飛びが起こっている場合は、ヒストグラム(P55)を参考に、露出をマイナス方向に補正して(P119)撮影することをお勧めします。

EX テレコン(動画)

設定：[ON]、[OFF]

● 詳しくは、108ページをお読みください。

フリッカー軽減

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN

動画のちらつきや横しまを軽減させるために、シャッタースピードを固定することができます。
設定：[1/50]、[1/60]、[1/100]、[1/120]、[OFF]

タッチ静音操作

設定：[ON]、[OFF]

● 詳しくは、166ページをお読みください。

動画撮影メニューの設定方法は P38

マイクレベル表示

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN ✎

マイクレベルを撮影画面に表示するかしないかを設定します。

設定：[ON]、[OFF]

● クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]では使えません。

マイクレベル設定

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN ✎

音声入力のレベルを19段階に調整します。

● クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]では使えません。

専用マイク設定

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN ✎

設定：[ステレオ]、[ガン]

● 詳しくは、243ページをお読みください。

ヘッドホン出力音

設定：[リアルタイム]、[記録音]

● 詳しくは、162ページをお読みください。

風音低減

使えるモード： iA iA+ P A S M 🎥M C1 C2 C3 SCN ✎

音声記録時に風雑音がある場合に、風雑音を効果的に低減します。

設定：[AUTO]、[強]、[中]、[弱]、[OFF]

● 風音低減を設定すると、通常と音質が変わる場合があります。
● クリエイティブコントロールモードの[ジオラマ]では使えません。
● 外部マイク接続時は [AUTO] は使えません。

再生メニューの設定方法は P38

撮影した画像を切り抜くなどの編集やプロテクト設定など、いろいろな再生機能を使うことができます。

- [文字焼き込み]、[リサイズ（縮小）]、[トリミング（切抜き）]は、編集した画像を新しく作成します。カードの空き容量がない場合、新しい画像を作成することができませんので、容量に余裕があることを確認してから画像の編集を行うことをお勧めします。

2D/3D切換

3D 画像の再生方法を切り換えることができます。

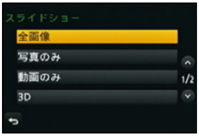
- 3D 再生が可能な場合にのみ表示されるメニューです。詳しくは、224 ページをお読みください。

スライドショー

撮影した画像を音楽に合わせて一定間隔で順番に再生することができます。また、写真のみや、動画のみ、3D写真のみなどをスライドショーで再生することもできます。テレビに接続して画像を見るときにお勧めの再生方法です。

1 再生メニューから［スライドショー］を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで再生するグループを選び、[MENU/SET] ボタンを押す



- [3D]の画像を3Dで再生する方法については、224ページをお読みください。
- [カテゴリー選択]時は、▲/▼/◀/▶ボタンでカテゴリーを選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。
  カテゴリーの詳細については、173ページをお読みください。

3 ▲ボタンで［開始］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

■ スライドショー中の操作

再生中の画面右の表示は、カーソルボタンの▲/▼/◀/▶に対応しています。

▲	▶/II	再生 / 一時停止	▼	■	スライドショーを終了する
◀	⏮	前の画像へ（一時停止中/動画再生中/グループ画像再生中）	▶	⏭	次の画像へ（一時停止中/動画再生中/グループ画像再生中）
コントロールダイヤル（左回し）	−	音量下げる	**コントロールダイヤル（右回し）**	＋	音量上げる

- スライドショーを終了すると、通常再生になります。

続く

再生メニューの設定方法は P38

■ スライドショーの設定を変更する

スライドショーのメニュー画面で[効果]または[設定]を選ぶと、スライドショー再生時の設定を変更することができます。

[効果]

画像が切り換わる際の画面効果を選ぶことができます。
[おまかせ]、[ナチュラル]、[スロー]、[スウィング]、[アーバン]、[OFF]

- [アーバン]を選んだときは、画面効果として画像が白黒になることがあります。
- [おまかせ]は、[カテゴリー選択]選択時のみ使用できます。カテゴリーごとにお勧めの効果で再生します。
- [動画のみ]または[カテゴリー選択]の[ ]、[ ]のスライドショー時、[効果]は[OFF]に固定されます。
- グループ画像のスライドショー時は、[効果]を設定していても無効になります。
- 縦向きに表示された画像を再生するときは、一部の[効果]は動作しません。

[設定]

再生間隔やリピートを設定できます。

項目	設定
[再生間隔]	1 秒、2 秒、3 秒、5 秒
[リピート]	ON、OFF
[音設定]	[AUTO]: 写真再生時は音楽を、動画再生時は音声を再生します。 [音楽]: 音楽を再生します。 [音声]: 音声（動画のみ）を再生します。 [OFF]: 音を出しません。

- [再生間隔]は、[効果]を[OFF]に設定しているときのみ設定できます。
- グループ画像または動画のスライドショー時、[再生間隔]を設定していても無効になります。

再生メニューの設定方法は P38

再生モード

[通常再生]、[写真のみ]、[動画のみ]、[3D]、[カテゴリー再生]または[お気に入り再生]を選び、再生することができます。

1 再生メニューから[再生モード]を選ぶ

2 ▲/▼ ボタンで再生するグループを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- [3D]の画像を3Dで再生する方法については、224ページをお読みください。

上記手順2で[カテゴリー再生]選択時

3 ▲/▼/◀/▶ ボタンでカテゴリーを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 分類されるカテゴリーは以下のとおりです。

	自動シーン判別やシーンガイドモードなどの撮影情報
	– 個人認証※
	– 自動シーン判別の i人物 /i夜景&人物 /i赤ちゃん – シーンガイドモードの[人物をきれいに撮る]/[人物の肌をきれいに撮る]/[逆光でふんわり撮る]/[逆光でしっかり撮る]/[ほのぼのした雰囲気で撮る]/[子どもをかわいく撮る]/[夜景をバックに人物をきれいに撮る]
	– 自動シーン判別の i風景 /i夕焼け – シーンガイドモードの[風景をきれいに撮る]/[青空をさわやかに撮る]/[夕焼けを幻想的に撮る]/[夕焼けを印象的に撮る]/[水面をキラキラ撮る]
	– 自動シーン判別の i夜景&人物 /i夜景 – シーンガイドモードの[夜景をきれいに撮る]/[夜空をクールに撮る]/[夜景を暖かく撮る]/[夜景をアーティスティックに撮る]/[イルミネーションをキラキラ撮る]/[夜景をバックに人物をきれいに撮る]
	– シーンガイドモードの[スポーツをきれいに撮る]
	– シーンガイドモードの[料理をおいしそうに撮る]/[スイーツをかわいく撮る]
	– トラベル日付
	– 連写速度を[SH]で連続撮影した写真
	– インターバル撮影された写真

※▲/▼/◀/▶ボタンで再生したい人物を選び[MENU/SET]ボタンを押して再生してください。グループ画像は、グループ全体が個人認証画像として扱われます。

- 撮影モードによっては動画の分類が写真と異なるため、再生されないことがあります。

再生メニューの設定方法は P38

位置情報記録

スマートフォン/タブレットで取得した位置情報（緯度・経度）を本機に送信して、画像に位置情報を書き込むことができます。

準備：スマートフォン/タブレットから本機に位置情報を送信する(P192)

1 再生メニューから[位置情報記録]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[位置情報データ付与]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンで位置情報を書き込む期間を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
- 位置情報が画像に書き込まれます。
- 位置情報が書き込まれた画像には、[GPS]が表示されます。

■ 位置情報の書き込みを中断する

位置情報の書き込み中に[MENU/SET]ボタンを押す

- 中断した期間には[●]が表示されます。
  [●]が表示された期間を再度選択すると、位置情報の書き込みを続きから開始します。

■ 受信した位置情報を消去する

1 再生メニューから[位置情報記録]を選ぶ
2 ▲/▼ボタンで[位置情報データ消去]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す
3 ▲/▼ボタンで位置情報を消去する期間を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。

- 本機で撮影された画像にのみ、位置情報を書き込むことができます。
- 「位置情報データ送信」(P192)後に撮影した画像には、位置情報は書き込まれません。
- [記録方式]を[AVCHD]で撮影した動画には、位置情報は書き込まれません。
- カードの空き容量が不足している場合は、位置情報を書き込めない場合があります。
- カードがロックされていると、画像に位置情報を書き込んだり、受信した位置情報を消去することはできません。

再生メニューの設定方法は P38

タイトル入力

撮影画像に文字（コメント）を入力しておくことができます。入力後、[文字焼き込み]（P176）で撮影画像に焼き込むことができます。

1 **再生メニューから［タイトル入力］を選ぶ**

2 **▲/▼ボタンで［1枚設定］または［複数設定］を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

3 **画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する**

- すでにタイトルが入力されている画像には[✍]が表示されます。

[複数設定]選択時

❶ 画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する（繰り返す）
- もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。

[1枚設定]



◀/▶ボタンで選びます。

[複数設定]



▲/▼/◀/▶ボタンで選びます。

❷ ◀ボタンを押して[実行]を選び、[MENU/SET]ボタンを押して実行する

4 **文字を入力する（P60）**

- [A]/[a]/[1]/[&]で入力できる文字数は最大30文字です。
- [かな]/[カナ]、[＼]、[「]、[」]、[・]、[ー]で入力できる文字数は最大15文字です。
- 設定後はメニューを終了してください。

- タイトルを消去するには文字入力画面ですべての文字を消去してください。
- CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使って、文字（コメント）をプリントすることができます。
- [複数設定]で一度に設定できるのは100枚までです。
- 以下の場合、タイトル入力できません。
  – 動画
  – クオリティを[RAW▲▲▲]、[RAW▲]または[RAW]にして撮影された画像
  – 他機で撮影された画像

再生メニューの設定方法は P38

文字焼き込み

撮影した画像に、撮影日時、名前、旅行先、トラベル日付などを焼き込むことができます。

1 再生メニューから[文字焼き込み]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

3 画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する

- すでに文字焼き込みされた画像には、画面に[✉]が表示されます。

[複数設定]選択時

❶ 画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する（繰り返す）
- もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。

❷ ◀ボタンを押して[実行]を選び、[MENU/SET]ボタンを押して実行する

[1枚設定]



◀/▶ボタンで選びます。

[複数設定]



▲/▼/◀/▶ボタンで選びます。

4 ▲/▼ボタンで[設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

5 ▲/▼ボタンで焼き込む項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

6 ▲/▼ボタンで設定を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

項目	設定内容
[撮影日時]	[日付]：年月日を焼き込みます。 [日時]：年月日時分を焼き込みます。 [OFF]
[名前]	[👤≡]（個人認証）：[個人認証]で登録された名前を焼き込みます。 [👶/🐕]（赤ちゃん/ペット）：[プロフィール設定]で登録された名前を焼き込みます。 [OFF]
[旅行先]	[ON]：[旅行先]で設定された旅行先名を焼き込みます。 [OFF]
[トラベル日付]	[ON]：[トラベル日付]で設定されたトラベル日付を焼き込みます。 [OFF]
[タイトル]	[ON]：[タイトル入力]で入力されたタイトルを焼き込みます。 [OFF]

続く

再生メニューの設定方法は P38

7 [🗑/↩]ボタンを押す

8 ▲ボタンで[実行]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

- 文字焼き込みされた画像をプリントする場合、お店やプリンターで日付プリントを指定すると、日付が重なってプリントされます。
- [複数設定]で一度に設定できるのは100枚までです。
- 文字焼き込みを行うと画質が粗くなることがあります。
- 使用するプリンターによっては文字が切れる場合がありますので、事前にご確認ください。
- グループ画像に文字焼き込みを行うと、グループ画像とは別に新規保存されます。
- 以下の場合、文字や日付情報を焼き込むことができません。
  – 動画
  – 時計とタイトルを設定せずに撮影された画像
  – 文字焼き込みされた画像
  – クオリティを[RAW▦]、[RAW▦]または[RAW]にして撮影された画像
  – 他機で撮影された画像

再生メニューの設定方法は P38

動画分割

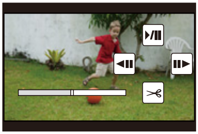
撮影した動画を2つに分割できます。必要な部分と不要な部分を分割したいときにお勧めです。

分割すると、元に戻すことができません。

1 **再生メニューから［動画分割］を選ぶ**

2 **◀/▶ボタンで分割編集したい動画を選び、［MENU/SET］ボタンを押す**

3 **分割したい位置で▲ボタンを押す**



- もう一度▲ボタンを押すと、続きから動画が再生されます。
- 一時停止中に◀/▶ボタンを押すと、分割位置の細かい調整をすることができます。

4 **▼ボタンを押す**

- 確認画面が表示されます。［はい］を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。
- 分割処理中にカードまたはバッテリーを抜くと、動画が消失するおそれがあります。

- 他機で撮影された動画は、［動画分割］できない場合があります。
- 動画の最初や最後のほうでは分割できない場合があります。
- ［MP4］、［MOV］動画の場合、分割すると画像の順番が変わります。カレンダー再生(P70)や［再生モード］の［動画のみ］で検索することをお勧めします。
- 撮影時間が短い動画は分割できません。

再生メニューの設定方法は　☞ P38

リサイズ（縮小）　画像サイズ（画素数）を小さくする

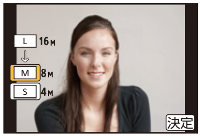
ホームページ用やメール添付などで送信しやすいように、画像の容量（記録画素数）を小さくします。

1 **再生メニューから［リサイズ（縮小）］を選ぶ**

2 **▲/▼ボタンで［1 枚設定］または［複数設定］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す**

3 **画像、サイズを選ぶ**

［1 枚設定］選択時



❶ ◀/▶ボタンで画像を選び、［MENU/SET］ボタンを押す
❷ ▲/▼ボタンでサイズを選び、［MENU/SET］ボタンを押す
●確認画面が表示されます。［はい］を選ぶと実行されます。
実行後はメニューを終了してください。

［複数設定］選択時



❶ ▲/▼ボタンでサイズを選び、［MENU/SET］ボタンを押す
❷ ▲/▼/◀/▶ボタンで画像を選び、［MENU/SET］ボタンで設定する（繰り返す）
●もう一度［MENU/SET］ボタンを押すと設定が解除されます。
❸ ◀ボタンを押して［実行］を選び、［MENU/SET］ボタンを押して実行する
●確認画面が表示されます。［はい］を選ぶと実行されます。
実行後はメニューを終了してください。

- ［複数設定］で一度に設定できるのは100枚までです。
- リサイズ（縮小）を行うと画質が粗くなります。
- 他機で撮影された画像はリサイズ（縮小）できない場合があります。
- 以下の画像はリサイズ（縮小）できません。
  – 動画
  – グループ画像
  – 文字焼き込みされた画像
  – クオリティを［RAW］、［RAW］または［RAW］にして撮影された画像

再生メニューの設定方法は P38

トリミング(切抜き)　画像を切り抜く

撮影した画像の必要な部分を拡大して切り抜くことができます。

1 **再生メニューから[トリミング(切抜き)]を選ぶ**
2 **◀/▶ボタンで画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
3 **後ダイヤルと▲/▼/◀/▶ボタンで切り抜く部分を選ぶ**

後ダイヤル(右回し):	拡大
後ダイヤル(左回し):	縮小
▲/▼/◀/▶:	移動

- [ ]/[ ]をタッチしても拡大/縮小できます。
- 画面をドラッグしても移動できます。

4 **[MENU/SET]ボタンを押す**

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

- トリミング(切抜き)を行うと画質が粗くなります。
- グループ画像は1枚ずつトリミング(切抜き)してください。(グループ単位の編集はできません)
- グループ画像にトリミング(切抜き)を行うと、グループ画像とは別に新規保存されます。
- 他機で撮影された画像はトリミング(切抜き)できない場合があります。
- 以下の画像はトリミング(切抜き)できません。
  – 動画
  – 文字焼き込みされた画像
  – クオリティを[RAW]、[RAW]または[RAW]にして撮影された画像
- トリミング(切抜き)を行った画像には、元の画像の個人認証に関する情報はコピーされません。

再生メニューの設定方法は ☞ P38

画像回転 / 縦位置自動回転

本機を縦に構えて撮影した写真を自動で縦向きに表示させたり、画像を手動で90° ごとに回転させることができます。

画像回転（画像を手動で回転する）

1 **再生メニューから［画像回転］を選ぶ**
- ［縦位置自動回転］を［OFF］に設定すると、［画像回転］は選択できません。

2 **◀/▶ ボタンで画像を選び、［MENU/SET］ボタンを押す**
- グループ画像は回転できません。

3 **▲/▼ ボタンで回転方向を選び、［MENU/SET］ボタンを押す**



［↷］: 時計回りに90° 回転します。
［↶］: 反時計回りに90° 回転します。
- 設定後はメニューを終了してください。

縦位置自動回転（画像を自動で回転して表示する）

1 **再生メニューから［縦位置自動回転］を選ぶ**

2 **▲ボタンで［ON］を選び、［MENU/SET］を押す**
- ［OFF］に設定すると、画像は回転されずに表示されます。
- 設定後はメニューを終了してください。

- パソコンで再生するとき、Exifに対応したOSまたはソフトウェアでないと、回転して表示されないことがあります。［Exifとは、一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる写真用のファイルフォーマットです］
- 他機で撮影された画像は回転できない場合があります。
- マルチ再生時は、縦位置自動回転されません。

再生メニューの設定方法は P38

お気に入り

画像にマークを付け、お気に入り画像として設定しておくと、以下のことができます。
- お気に入りに設定した画像のみスライドショーする。
- お気に入りに設定した画像のみ再生する。([お気に入り再生])
- お気に入りに設定した画像以外を消去する。([お気に入り以外全消去])

1 再生メニューから[お気に入り]を選ぶ

2 ▲/▼ ボタンで[1 枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

3 画像を選び、[MENU/SET] ボタンで設定する

- もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。
- 設定後はメニューを終了してください。

[1 枚設定]



◀/▶ ボタンで選びます。

[複数設定]



▲/▼/◀/▶ ボタンで選びます。

■ [お気に入り]設定を全解除する

1 再生メニューから[お気に入り]を選ぶ

2 ▲/▼ ボタンで[全解除]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
実行後はメニューを終了してください。
- [再生モード]を設定中は、[全解除] を選択できません。

- 999枚まで設定できます。
- グループ内の画像に[お気に入り]設定すると、先頭画像のお気に入りアイコンに設定枚数が表示されます。
- 他機で撮影された画像は、[お気に入り]設定ができない場合があります。
- [クオリティ]を[RAW]にして撮影された画像は、お気に入りに設定できません。

再生メニューの設定方法は P38

プリント設定

DPOFプリントに対応したお店やプリンターでプリントするときに、画像、枚数や日付プリントを指定することができます。詳しくは、お店にお尋ねください。
グループ画像に[プリント設定]を行った場合は、グループ内の画像すべてに対して設定した枚数分のプリント設定がされます。

1 **再生メニューから[プリント設定]を選ぶ**

2 **▲/▼ボタンで[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

3 **画像を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

[1枚設定]



◀/▶ボタンで選びます。

[複数設定]



▲/▼/◀/▶ボタンで選びます。

4 **▲/▼ボタンでプリント枚数を設定し、[MENU/SET]ボタンで決定する**

- [複数設定]選択時は、手順***3***、***4***を繰り返してください。（一括設定することはできません）
- [複数設定]選択時は、グループ画像に対して[プリント設定]を行ったとき、合計枚数が1000枚以上の場合は、[999+]と表示されます。
- 設定後はメニューを終了してください。

続く

再生メニューの設定方法は P38

■ [プリント設定]を全解除する

1 再生メニューから[プリント設定]を選ぶ

2 ▲/▼ボタンで[全解除]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
  実行後はメニューを終了してください。

■ 日付をプリントする

プリント枚数設定時、▶ボタンを押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

- 日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。
- 文字焼き込みされた画像に日付プリントは設定できません。

- プリント枚数は0〜999枚まで設定できます。
- プリンターによっては、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、お気をつけください。
- 他機で設定した[プリント設定]は利用できない場合があります。そのときはすべて解除してから再設定してください。
- グループ内の画像に[プリント設定]すると、先頭画像のプリント設定アイコンに設定枚数と合計枚数が表示されます。
- 以下の画像はプリント設定できません。
  – 動画
  – クオリティを[RAW]にして撮影された画像
  – DCF規格に準拠していないファイル

再生メニューの設定方法は P38

プロテクト

画像を誤って消去することがないように、消去したくない画像にプロテクトを設定することができます。

1 **再生メニューから[プロテクト]を選ぶ**

2 **▲/▼ボタンで[１枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

3 **画像を選び、[MENU/SET]ボタンで設定する**

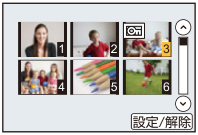
- もう一度[MENU/SET]ボタンを押すと設定が解除されます。
- 設定後はメニューを終了してください。

[１枚設定]



◀/▶ボタンで選びます。

[複数設定]



▲/▼/◀/▶ボタンで選びます。

■ [プロテクト]設定を全解除する

1 **再生メニューから[プロテクト]を選ぶ**

2 **▲/▼ボタンで[全解除]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

- 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。
実行後はメニューを終了してください。

- [プロテクト]設定は本機以外では無効になる場合がありますので、お気をつけください。
- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は消去されます。
- 画像をプロテクトしなくても、カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、消去はされません。
- グループ内の画像に[プロテクト]設定すると、先頭画像のプロテクトアイコンに設定枚数が表示されます。

再生メニューの設定方法は P38

認証情報編集

選択した画像の個人認証に関する情報の解除や入れ換えができます。

1 **再生メニューから［認証情報編集］を選ぶ**
2 **▲/▼ ボタンで［入換え］または［解除］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
3 **◄/► ボタンで画像を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
4 **◄/► ボタンで人物を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
5 **（［入換え］選択時）▲/▼/◄/► ボタンで入れ換えたい人物の画像を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- 確認画面が表示されます。［はい］を選ぶと実行されます。
実行後はメニューを終了してください。

- 解除した個人認証に関する情報は元に戻すことができません。
- 個人認証情報をすべて解除した画像は、［カテゴリー再生］の個人認証に分類されません。
- グループ画像はグループ単位で認証情報編集を行ってください。（1 枚ずつ編集はできません）

Wi-Fi® 機能について

■ 本機は無線LAN機器としてお使いください

無線LAN機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用する場合は、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を十分に行ってください。
無線LAN機器としての用途以外で使用して損害が生じた場合、当社は一切の責任を負いかねます。

■ Wi-Fi 機能は日本での利用を前提としています

本機のWi-Fi機能は、日本での利用を前提としています。日本国外での使用は、その国の電波関連規制等に違反するおそれがあり、当社は一切の責任を負いかねます。

■ 電波によるデータの送受信は傍受される可能性があります

電波によるデータの送受信は、第三者に傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。

■ 磁場・静電気・電波障害が発生するところで使用しないでください

- 電子レンジ付近など磁場・静電気・電波障害が発生するところで使用しないでください。電波が届かないことがあります。
- 2.4 GHz帯の電波を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器の近くで使用すると、両方の処理速度が低下することがあります。

■ 利用権限のない無線ネットワークに接続しないでください

本機は、無線LAN機能を使用するときに無線ネットワーク環境の自動検索を行います。その際、利用する権限のない無線ネットワーク（SSID※）が表示されることがありますが、不正アクセスと見なされるおそれがありますので、接続しないでください。

※ SSIDとは、無線LANで特定のネットワークを識別するための名前のことです。このSSIDが双方の機器で一致した場合、通信可能になります。

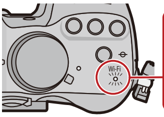
続く

■ 本機で送信できる画像について

送信画像	送信先						
	[スマートフォン]	[PC]	[クラウド同期サービス]	[Webサービス]	[AV機器]		[プリンター] ※1
					[宅内AV機器]	[宅外AV機器]	
JPEG	○	○	○	○	○	○	○
RAW	×	○	×	×	×	×	×
MP4 ※1	○	○	○	○	×	×	×
AVCHD ※1､2	×	○	×	×	×	×	×
MOV ※1	×	○	×	×	×	×	×
3D	×	○	○	○	○	○	×

※1 [撮影中に画像を送る]時は送信できません。
※2 長時間撮影されたAVCHD動画は送信できない場合があります。
- お使いの機器によっては、送信または再生できない場合があります。
- 画像の再生については、送信先機器の説明書、または Web サービスをご確認ください。

■ Wi-Fi 接続ランプの表示について



Wi-Fi接続ランプ
青色点灯: Wi-Fi接続の待機中
青色点滅: Wi-Fi接続の送受信中

■ ご使用の前に

- 本機でWi-Fi機能を使用するには、無線アクセスポイントまたは接続先の機器に無線LAN機能が必要です。

- 本機は公衆無線 LAN 環境を経由して無線 LAN 接続することはできません。
- 無線アクセスポイントは、IEEE802.11b、IEEE802.11gまたは IEEE802.11n 対応のものをご使用ください。
- 情報セキュリティーのためにも無線アクセスポイントで暗号化を設定することを強くお勧めします。
- 画像を送信する際は、十分に充電されたバッテリーの使用をお勧めします。
- バッテリー残量表示が赤く点滅している場合は、他の機器と接続できなかったり、通信が途切れたりすることがあります。([通信エラー]などのメッセージが表示されます)
- 3G等の携帯電話回線を利用して画像を転送する場合、契約内容によっては高額なパケット通信料が発生することがあります。
- 電波の状況によっては、送信が完了できないことがあります。また、画像送信中に切断された場合、一部が表示できない画像が送信されることがあります。
- **通信中はカードやバッテリーを抜き差ししたり、通信可能エリア外に移動したりしないでください。**
- 通信中にモニターの表示が一瞬乱れることがありますが、送信される画像に影響はありません。

Wi-Fi 機能でできること

Wi-Fi対応機器と連携することで、離れたところからカメラを操作したり、撮影中または再生中でも離れた人と画像を共有することができます。

[リモートで撮る] (P190)



スマートフォン/タブレットと連携して、以下のことができます。

- リモート撮影をする (P192)
- カメラの画像を再生する (P192)
- カメラの画像をスマートフォン / タブレットに保存したり、Webサービスなどに送信する (P192)
- 取得した位置情報をカメラに送信する (P192)

[TV で見る] (P199)



DLNA対応テレビと連携して、撮影した画像をその場ですぐにTVに表示したり、後から再生してTVに表示することができます。

[撮影中に画像を送る] (P201)



写真を撮るたびに指定した場所に自動で送ることができ、撮影した画像をスマートフォン/タブレットで確認したり、PCで画像の保存や編集をすることができます。

- 送信先:
  - [スマートフォン]
  - [PC]
  - [クラウド同期サービス]
  - [Web サービス]
  - [AV機器]

[カメラ内の画像を送る] (P209)



撮影後に画像を選んで送信できます。

- 送信先:
  - [スマートフォン]
  - [PC]
  - [クラウド同期サービス]
  - [Web サービス]
  - [AV機器]
  - [プリンター]

スマートフォン/タブレットを使って、離れた場所からカメラを操作できます。
お使いのスマートフォン/タブレットに「LUMIX LINK」をインストールする必要があります。

スマートフォン/タブレットアプリ「LUMIX LINK」をインストールする

「LUMIX LINK」はパナソニック株式会社が提供するアプリケーションです。

	Android™ 向けアプリ	iOS 向けアプリ
バージョン	2.1 (2012 年 10 月現在)	
対応 OS	Android 2.2 ～ Android 4.0※	iOS 4.3 ～ iOS 6.0
インストール手順	**1** Android 端末をネットワークに接続する **2** 「Google Play™ ストア」を選ぶ **3** 検索フィールドに「LUMIX LINK」と入力する **4** 「LUMIX LINK」を選び、インストールする ● メニューにアイコンが追加されます。 	**1** iOS端末をネットワークに接続する **2** 「App Store℠」を選ぶ **3** 検索フィールドに「LUMIX LINK」と入力する **4** 「LUMIX LINK」を選び、インストールする ● メニューにアイコンが追加されます。 

- お使いのスマートフォン/タブレットによっては、正しく動作しない場合があります。動作確認済みの機器については、下記サポートサイトをご覧ください。
  http://panasonic.jp/support/dsc/
- 3G等の携帯電話回線を利用してアプリケーションをダウンロードしたり写真や動画を転送したりする場合、契約内容によっては高額なパケット通信料が発生することがあります。

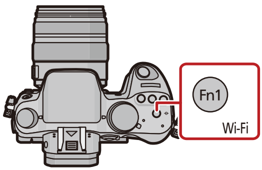
※ [Wi-Fi Direct]で本機と接続するには、Android OS 4.0 以上で Wi-Fi Direct に対応している必要があります。

スマートフォン/タブレットと接続する

準備:
● LUMIX LINK をインストールしておく(上記)

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**

> [Wi-Fi]/[Fn1]ボタンは、[Wi-Fi]と[Fn1](ファンクション1)の2とおりの使い方ができます。
> お買い上げ時は、[Wi-Fi]が設定されています。
> ● ファンクションボタンについて詳しくは 42 ページをお読みください。



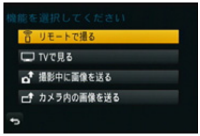
続く

2　▲/▼ボタンで[新規に接続する]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す



- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または [お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。

3　▲/▼ボタンで[リモートで撮る]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す





- スマートフォン/タブレットを本機に直接接続するために必要な情報(SSID、パスワード)が表示されます。
- 接続方法を切り替えたい場合は、[DISP.]ボタンを押して、接続方法を選んでください。詳しくは、下記「接続方法を変える」をお読みください。

スマートフォン/タブレット側(初期状態は[手動接続]での接続になります)

4　スマートフォン/タブレットの設定メニューで、Wi-Fi機能をONにする
5　本機の画面に表示されているSSIDと同じものを選び、パスワードを入力する
6　お使いのスマートフォン/タブレットで「LUMIX LINK」を起動する(P190)

- 接続が完了すると、スマートフォン/タブレットの画面に本機の画像が表示されます。

■ 接続方法を変える

- [ネットワーク経由]で接続する場合

(カメラ側)

1　▲/▼ボタンで[ネットワーク経由]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す
2　無線アクセスポイントとの接続方法を選び、設定する

- 詳しくは、196 ページをお読みください。

(スマートフォン/タブレット側)

3　スマートフォン/タブレットの設定メニューで、Wi-Fi機能をONにする
4　接続したい無線アクセスポイントを選び、設定する
5　お使いのスマートフォン/タブレットで「LUMIX LINK」を起動する(P190)

- [Wi-Fi Direct]または[WPS 接続]で接続する場合

(カメラ側)

1　▲/▼ボタンで[直接接続]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 接続方法について詳しくは、198 ページをお読みください。

(スマートフォン/タブレット側)

2　お使いのスマートフォン/タブレットで「LUMIX LINK」を起動する(P190)

スマートフォン/タブレットで撮影する（リモート撮影）

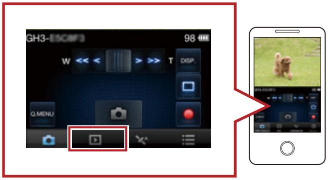
スマートフォン/タブレットの[📷]を選ぶ



- 動画撮影はタイマー録画になります。事前に時間を設定してください。
- スマートフォン/タブレットから途中で動画撮影を終了させることはできません。終了させるにはカメラ側で操作してください。
- 動画撮影中はスマートフォン/タブレットの画面に撮影中の映像は表示されません。
- 撮影した画像はカメラに保存されます。
- 設定など一部利用できないものがあります。
- ご使用になるOSにより、画面が異なる場合があります。

カメラの画像を再生する

スマートフォン/タブレットの[▶]を選ぶ

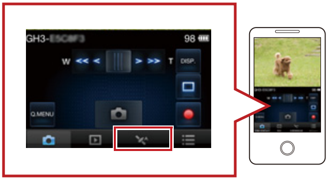


- スマートフォン/タブレットに画像を保存することができます。
- 動画の再生はできません。
- Webサービスなどに画像を送信することができます。
- ご使用になるOSにより、画面が異なる場合があります。

スマートフォン/タブレットからカメラに位置情報を送信する

スマートフォン / タブレットから位置情報を取得して後から画像に書き込むことができます。本機で記録した画像に位置情報を書き込むには、174 ページをお読みください。

スマートフォン/タブレットの[🛰]を選ぶ



- ご使用になるOSにより、画面が異なる場合があります。

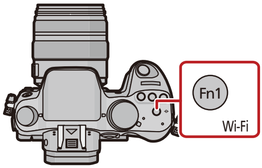
続く

●操作方法などについて、詳しくは「LUMIX LINK」のメニューの中の「ヘルプ」をお読みください。
●[リモートで撮る]を終了するには、[Wi-Fi]ボタンを押してください。
●**使用上のお願い：**
本機能のご利用につきましては、被写体のプライバシー、肖像権などに十分ご配慮のうえ、お客様の責任で行ってください。
●「時刻同期」後に本機またはスマートフォン/タブレットの時刻を変更した場合は、再度「時刻同期」をしてください。
●スマートフォン/タブレットで位置情報の取得間隔の設定と位置情報の送信状況の確認ができます。詳しくは「LUMIX LINK」のメニューの中のヘルプをお読みください。
●中国および中国と隣接する周辺国の国境付近で、スマートフォン/タブレットの位置情報取得機能が働かない場合があります。(2012 年 10 月現在)
●(iOS向けの「LUMIX LINK」をお使いの場合)
「位置情報の記録」をオンに設定時、スマートフォン/タブレットのホームボタンまたはオン/オフボタンを押すと、位置情報の記録が中止されます。

［履歴から接続する］

以前と同じ設定で Wi-Fi 接続をしたい場合、履歴から選んで接続することができます。
●履歴に保存される数には制限があります。よく使うWi-Fi接続設定は[お気に入り登録]して保存しておくことをお勧めします。(P194)
●[Wi-Fi 設定リセット]を行うと履歴と[お気に入り登録]した内容は消去されます。

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで [履歴から接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

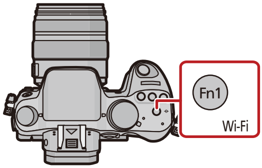


3 **▲/▼ ボタンで接続したい項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
●[DISP.] ボタンを押すと、接続の詳細が表示されます。
●選んでいる接続設定を[お気に入り登録]したい場合は、「お気に入り登録する」の手順 ***3***、***4*** をお読みください。(P194)

お気に入り登録する

よく使うWi-Fi接続を登録しておくと、簡単に呼び出して接続することができます。

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで [履歴から接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**



3 **▲/▼ ボタンでお気に入りに登録したい項目を選び、▶ ボタンを押す**

- [DISP.] ボタンを押すと、接続の詳細が表示されます。

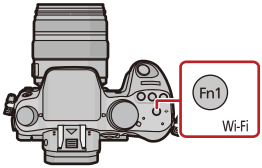


4 **登録名を入力する**

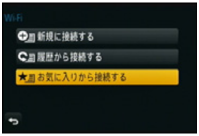
- 文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。
- [A]/[a]/[1]/[&]で入力できる文字数は最大30文字です。
- [かな]/[カナ]、[＼]、[「]、[」]、[・]、[—]で入力できる文字数は最大15文字です。

[お気に入りから接続する]

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで [お気に入りから接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

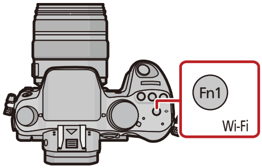


3 **▲/▼ ボタンで接続したい項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

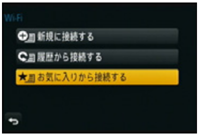
- [DISP.] ボタンを押すと、接続の詳細が表示されます。
- [お気に入りから接続する]に登録された項目を編集したい場合は、「お気に入り登録した項目を編集する」の手順***3***、***4*** をお読みください。(P195)

お気に入り登録した項目を編集する

1 [Wi-Fi] ボタンを押す



2 ▲/▼ ボタンで［お気に入りから接続する］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す



3 ▲/▼ ボタンで編集したいお気に入り項目を選び、▶ ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す



項目	設定内容
［お気に入りを消す］	―
［お気に入りの順番を変える］	▲/▼ ボタンで移動先を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
［登録名を変える］	● 文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。 ● [A]/[a]/[1]/[&] で入力できる文字数は最大30文字です。 ● [かな]/[カナ]、［＼］、［「］、［」］、［・］、［―］で入力できる文字数は最大15文字です。

接続方法を選ぶ

無線アクセスポイント経由で接続するか直接接続するかを選べます。

無線アクセスポイントを経由して接続する

▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

接続方法	設定内容	
[WPS※(プッシュボタン)]	WPSマークがあり、プッシュボタン方式の Wi-Fi Protected Setup™対応の無線アクセスポイントを登録します。	P196
[WPS (PINコード)]	WPSマークがあり、PINコード方式のWi-Fi Protected Setup対応の無線アクセスポイントを登録します。	P196
[手動接続]	WPS に対応しているかわからない場合や、無線アクセスポイントを検索して接続したい場合に選択します。	P197

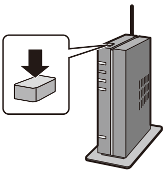
※ WPSとは、無線LAN機器の接続やセキュリティーに関する設定を簡単に行うことができる機能です。お使いの無線アクセスポイントが対応しているかどうかは、無線アクセスポイントの説明書をご覧ください。

[WPS (プッシュボタン)] で接続する場合

無線アクセスポイントがWPSモードになるまで、無線アクセスポイントのWPSボタンを押す

● 詳しくは無線アクセスポイントの説明書をお読みください。

(例)



[WPS (PINコード)] で接続する場合

1 ▲/▼ ボタンで接続する無線アクセスポイントを選び、[MENU/SET] ボタンを押す
2 本機の画面に表示されているPINコードを無線アクセスポイントに入力する
3 [MENU/SET] ボタンを押す

● 詳しくは無線アクセスポイントの説明書をお読みください。

WPS に対応しているかわからない場合（[手動接続]で接続する）

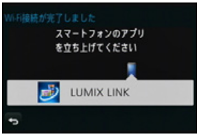
利用できる無線アクセスポイントを検索します。

- 選択した無線アクセスポイントにネットワーク認証が暗号化されている場合は、選択した無線アクセスポイントの「暗号化キー」を確認してください。
- [マニュアル入力]で接続する場合は、お使いの無線アクセスポイントの「SSID」、「暗号化方式」、「暗号化キー」を確認してください。



1 **▲/▼ ボタンで接続する無線アクセスポイントを選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- [DISP.]ボタンを押すと、無線アクセスポイントを再検索します。
- 無線アクセスポイントが見つからない場合は下記の「[マニュアル入力]で接続する場合」をお読みください。



2 **（ネットワーク認証が暗号化されている場合）暗号化キーを入力する**

- 文字の入力方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。

■ [マニュアル入力]で接続する場合

1 **「WPS に対応しているかわからない場合（[手動接続]で接続する）」の手順 1 の画面で、▲/▼ ボタンで [マニュアル入力] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

2 **接続する無線アクセスポイントのSSIDを入力して [決定] を選ぶ**

- 文字の入力方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。

3 **▲/▼ ボタンでネットワークの認証方式を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- ネットワークの認証方式については、無線アクセスポイントの説明書をお読みください。

4 **▲/▼ ボタンで暗号化方式を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- ネットワーク認証の設定内容によって、設定できる方式が異なります。

ネットワーク認証方式	設定できる暗号化方式
[WPA2-PSK]/[WPA-PSK]	[TKIP]/[AES]
[共通キー]	[WEP]
[オープン]	[暗号化なし]/[WEP]

5 **（[暗号化なし] 以外選択時）暗号化キーを入力して [決定] を選ぶ**

- 無線アクセスポイントを登録する場合は、無線アクセスポイントの説明書や設定をご確認ください。
- 接続できないときは、無線アクセスポイントの電波が弱いと考えられます。詳しくは、「メッセージ表示」(P249)、「Q&A 故障かな？と思ったら」(P260)をご確認ください。
- お使いの環境によっては通信速度が低下したり、ご利用になれない場合があります。

直接接続する

● 本機を無線アクセスポイントとしてお使いの機器と直接接続します。お使いの機器の対応した方法で本機と接続することができます。

▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

接続方法	設定内容
[Wi-Fi Direct]™	***1*** 機器を Wi-Fi Direct モードにする ***2*** ▲/▼ ボタンで [Wi-Fi Direct] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す ***3*** ▲/▼ ボタンで接続する機器を選び、[MENU/SET] ボタンを押す ● 詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をお読みください。
[WPS 接続]	[WPS（プッシュボタン）] ***1*** ▲/▼ ボタンで [WPS（プッシュボタン）] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す ***2*** 機器を WPS モードにする ● 本機の[DISP.]ボタンを押すと、接続待ちの状態を延長できます。
	[WPS（PIN コード）] ***1*** ▲/▼ ボタンで [WPS（PIN コード）] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す ***2*** 機器の PIN コードを本機に入力する
[手動接続]	機器との接続待ちの画面で本機に表示されている、SSIDとパスワードを機器に入力する

[TVで見る]

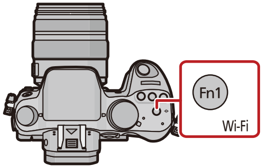
撮影してすぐに画像をTVに表示する/再生した画像をTVに表示する

Wi-Fi機能の[TVで見る]を使うと、DLNA規格のデジタルメディアレンダラー(DMR)機能に対応したテレビに画像を表示することができます。

● 対応機器について、詳しくは下記サポートサイトでご確認ください。
  http://panasonic.jp/support/dsc/

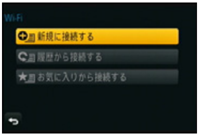
準備:
テレビを DLNA 待ち受けモードにする ● お使いのテレビの説明書をお読みください。

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで [新規に接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

● 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。



3 **▲/▼ ボタンで [TVで見る] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

4 **▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**



[ネットワーク経由]	無線アクセスポイントを経由してTVと接続したいとき(P196)
[直接接続]	[Wi-Fi Direct]、[WPS接続]または[手動接続]でTVを本機に直接接続したいとき(P198)

5 **▲/▼ ボタンで接続したい機器を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

● 接続が完了すると画面が表示されます。

6 **本機で撮影または写真を再生する**

● 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)

● 動画はTVに表示できません。
● マルチ再生、カレンダー再生中に本機に表示されている画像はTVに表示されません。
● 本機との接続中に、一時的に接続前の状態に戻ることがありますが、撮影もしくは再生を行うと再びTVに写真が表示されます。
● スライドショー再生時、[効果] と [音設定] を設定していても無効になります。

Wi-Fi 接続中に [Wi-Fi] ボタンでできること

1 Wi-Fi 接続中に [Wi-Fi] ボタンを押す
2 ▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

項目	設定内容
[接続を終わる]	Wi-Fi接続を終了します。
[接続先を変える]	Wi-Fi接続を終了し、新たに Wi-Fi 接続を選択します。
[画像の送信設定を変える]	詳しくは 203 ページをお読みください。
[今の接続先をお気に入りに入れる]	現在の接続先や接続方法を登録して、次回簡単に同じ接続設定で接続することができます。

[撮影中に画像を送る]

写真を撮るたびに、指定した機器に自動で送れます。
連写時や動画撮影中など、撮影動作中は撮影を優先するため、送信完了までに時間がかかります。

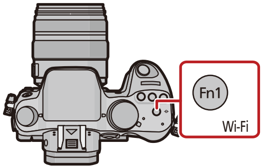
- 動画は送信できません。
- 送信完了前に電源スイッチを[OFF]にしたり、Wi-Fi接続を終了するなどした場合、送信されなかったファイルの再送信は行われません。
- 送信中はファイルの消去や再生メニューの使用はできない場合があります。
- 3G等の携帯電話回線を利用して画像を転送する場合、契約内容によっては高額なパケット通信料が発生することがあります。

スマートフォン/タブレットに画像を送る

準備：

- LUMIX LINK をインストールしておく(P190)

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで [新規に接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。

3 **▲/▼ ボタンで [撮影中に画像を送る] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

4 **▲/▼ ボタンで [スマートフォン] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

5 **接続方法を選ぶ** **(P202)**

6 **▲/▼ ボタンで接続したい機器を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更する場合[DISP.]ボタンを押してください。(P203)

7 **写真を撮る**
- 撮影後、自動的に写真が送信されます。
- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。
写真を送信中は設定を変更することはできません。送信が完了するまでお待ちください。

スマートフォン / タブレットとの接続方法を選ぶ

■ 無線アクセスポイントを経由してスマートフォン/タブレットと接続したいとき

（スマートフォン/タブレット側）

1 スマートフォン/タブレットの設定メニューで、Wi-Fi機能をONにする
2 接続したい無線アクセスポイントを選び、設定する。
3 お使いのスマートフォン/タブレットで「LUMIX LINK」を起動する※(P190)

（カメラ側）

4 ▲/▼ボタンで［ネットワーク経由］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す
5 無線アクセスポイントとの接続方法を選び、設定する
 ● 詳しくは、196 ページをお読みください。

■ スマートフォン/タブレットを本機に直接接続したいとき

● [Wi-Fi Direct] または [WPS 接続] で接続する場合

（カメラ側）

1 ▲/▼ボタンで［直接接続］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す
 ● 接続方法について詳しくは、198 ページをお読みください。

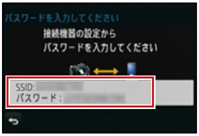
（スマートフォン/タブレット側）

2 お使いのスマートフォン/タブレットで「LUMIX LINK」を起動する※(P190)

● [手動接続] で接続する場合

（カメラ側）

1 ▲/▼ボタンで [直接接続] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
2 ▲/▼ボタンで [手動接続] を選び、
 [MENU/SET] ボタンを押す



（スマートフォン/タブレット側）

3 スマートフォン/タブレットの設定メニューで、
 Wi-Fi機能をONにする
4 本機の画面に表示されているSSIDと同じものを選び、
 パスワードを入力する
5 お使いのスマートフォン/タブレットで「LUMIX LINK」を起動する※(P190)

※「カメラに接続しています…」のメッセージが表示されます。Android端末の場合は「戻る」ボタンを押してください。iOS端末の場合は「閉じる」を選んでください。

画像の送信設定を変更する

▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

項目	設定内容
[送信サイズ]	送信する画像のサイズを変更します。 **[元画像]、[自動]** ※ 1**、[変更]** ● [自動] の画像サイズは送信先の状況に合わせて変更されます。 ● [変更] の画像サイズは [M]、[S] または [VGA] を選択できます。 画像の横縦比は変わりません。
[送信ファイル形式]	[JPG]、[RAW+JPG]、[RAW]
[位置情報データ消去] ※ 2	送信時に画像から位置情報を消去するか選択できます。 [ON]：　位置情報を消去して送信します。 [OFF]：　位置情報を消去せずに送信します。 ● 位置情報が消去されるのは送信した画像のみです。(本機の画像から位置情報は消去されません)
[クラウド上限枚数動作] ※3	クラウドフォルダの容量が上限に達したときに、画像送信を実行するか選択できます。 [ON]：　画像を送信しません。 [OFF]：　古い画像から順番に消去して、新しい画像を送信します。

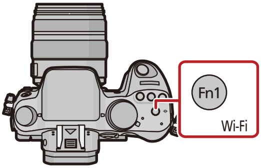
※ 1　送信先が [Web サービス] の場合のみ設定できます。
※ 2　[カメラ内の画像を送る] を選択時の送信先が [クラウド同期サービス]、[Webサービス] または [AV機器] の [宅外AV機器] の場合のみ設定できます。
※3　送信先が [クラウド同期サービス] の場合のみ設定できます。

パソコンに画像を送る

準備:

- パソコンの電源を入れておく。
- パソコンに写真を送信するには、あらかじめパソコンで受信するフォルダーの設定をしておく必要があります。(P205)
- 接続先のパソコンのワークグループを標準設定から変更している場合、[PC 接続設定] で本機の設定も変更する必要があります。(P221)

1 [Wi-Fi] ボタンを押す



2 ▲/▼ ボタンで [新規に接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。

3 ▲/▼ ボタンで [撮影中に画像を送る] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで [PC] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

5 ▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

[ネットワーク経由]	無線アクセスポイントを経由してパソコンと接続したいとき(P196)
[直接接続]	[Wi-Fi Direct]、[WPS接続]または[手動接続]でパソコンを本機に直接接続したいとき(P198)

6 ▲/▼ ボタンで接続したいパソコンを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

7 ▲/▼ ボタンで送信するフォルダーを選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには[DISP.]ボタンを押してください。(P203)

8 写真を撮る

- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)
  写真を送信中は設定を変更することはできません。送信が完了するまでお待ちください。

- 設定されたフォルダー下に送信日ごとのフォルダーが作成され、そこに画像が保存されます。
- ユーザーアカウントとパスワードを入力する画面が表示された場合は、お使いのパソコンで設定したものを入力してください。

画像を受信するフォルダーを作成する

- パソコンのユーザーアカウント（アカウント名（254文字以内）とパスワード（32文字以内））は半角英数字で設定してください。半角英数字以外でユーザーアカウントを設定していると、受信するフォルダーを作成できない場合があります。

■ PHOTOfunSTUDIO を使用する場合

1 PHOTOfunSTUDIO をインストールする

- 動作環境やインストールについて、詳しくは 230 ページの「付属のソフトウェアを使う」をお読みください。

2 PHOTOfunSTUDIO で受信するフォルダーを作成する

- 受信するフォルダーを自動で作成する「おまかせ作成」、または受信するフォルダーの指定・新規作成とパスワード設定が可能な「個別作成」から選んでください。
- 詳しくは、PHOTOfunSTUDIO の取扱説明書（PDF ファイル）をお読みください。

■ PHOTOfunSTUDIO を使用しない場合

（Windows をお使いの場合）
対応 OS：Windows 7/Windows Vista/Windows XP
例）Windows 7

1 受信するフォルダーを選択し、右クリックする

2 「プロパティ」を選び、フォルダーに共有の設定をする

- 詳しい設定方法は、お使いのパソコンの説明書や OS のヘルプをご参照ください。

（Mac をお使いの場合）
対応 OS：OS X v10.4 ～ v10.8
例）OS X v10.8

1 受信するフォルダーを選択し、以下の順にクリックする
「ファイル」→「情報を見る」

2 フォルダーに共有の設定をする

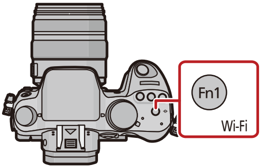
- 詳しい設定方法は、お使いのパソコンの説明書や OS のヘルプをご参照ください。

クラウド同期サービスに画像を送る

準備:

クラウドフォルダに画像を送信するには、LUMIX CLUB (PicMate)への登録(P216)とクラウド同期設定が必要です。

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで[新規に接続する]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。

3 **▲/▼ ボタンで[撮影中に画像を送る]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

4 **▲/▼ ボタンで[クラウド同期サービス]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

5 **▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す****(P196)**

6 **送信設定を確認する**

- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには[DISP.]ボタンを押してください。(P203)

7 **写真を撮る**

- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)
写真を送信中は設定を変更することはできません。送信が完了するまでお待ちください。

■ [クラウド同期サービス]を利用する(2012年10月現在)

クラウドフォルダに画像を送信するにはクラウド同期設定が必要です。
パソコンの場合は PHOTOfunSTUDIO で、スマートフォン/タブレットの場合は[LUMIX LINK]で設定してください。

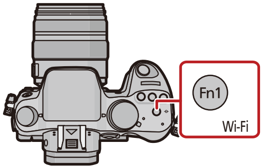
- 画像の送信先をクラウド同期サービスに設定した場合、送信された画像はクラウドフォルダに一時保存され、パソコンやスマートフォン/タブレットなど、お使いの機器と同期させることができます。
- クラウドフォルダに送信された画像は30日間(最大1000枚まで)保存されます。送信後30日を超えた画像は、自動的に消去されます。また、送信後30日以内でも1000枚を超えた場合は、[クラウド上限枚数動作](P203)の設定により画像が消去される場合があります。
- クラウドフォルダに送信された画像が指定した機器すべてにダウンロードされると、送信後30日以内の画像でもクラウドフォルダから消去される場合があります。

Webサービスに画像を送る

準備：

Webサービスに画像を送信するには、LUMIX CLUB (PicMate)への登録(P216)が必要です。
LUMIX CLUB (PicMate)以外のWebサービスに画像を送信するには、そのWebサービスを登録しておく必要があります。(P219)

1 [Wi-Fi] ボタンを押す



2 ▲/▼ ボタンで［新規に接続する］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
- 以前と同じ設定で接続する場合は、［履歴から接続する］(P193)または［お気に入りから接続する］(P194)から接続先を選ぶことができます。

3 ▲/▼ ボタンで［撮影中に画像を送る］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで［Web サービス］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

5 ▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す(P196)

6 ▲/▼/◀/▶ ボタンで接続したいサービスを選び、[MENU/SET] ボタンを押す
- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには［DISP.］ボタンを押してください。(P203)

7 写真を撮る
- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)
写真を送信中は設定を変更することはできません。送信が完了するまでお待ちください。

- Web サービスにアップロードした画像を本機で表示したり消去したりすることはできません。
スマートフォン/タブレットやパソコンでWebサービスにアクセスして、画像を確認してください。
- 画像の送信に失敗すると、LUMIX CLUB (PicMate)に登録したメールアドレスに送信失敗の報告メールが届きます。
- **画像には、タイトル、撮影日時、位置情報など、個人を特定する情報が含まれる場合があります。Web サービスに画像をアップロードする際は、よくご確認のうえ、アップロードしてください。**

- Web サービスにアップロードした画像の流出、消失などによる損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- Web サービスに画像をアップロードする場合、本機での送信が完了しても、Web サービス上にアップロードされていることを確認するまでは、本機の画像を消去しないでください。本機の画像を消去したときの損害については、当社は一切の責任を負いかねます。

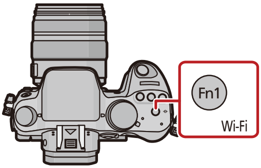
AV 機器に画像を送る

準備:

[宅内AV機器]に画像を送る場合、お使いの機器を DLNA 待ち受けモードにする
- お使いの機器の説明書をお読みください。

[宅外AV 機器]に画像を送る場合、以下が必要になります。
- LUMIX CLUB (PicMate)への登録(P216)
- 送信先の宅外 AV 機器で取得した、アドレス番号とアクセス番号(P220)

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで[新規に接続する]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。

3 **▲/▼ ボタンで[撮影中に画像を送る]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

4 **▲/▼ ボタンで[AV 機器]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

5 **▲/▼ ボタンで[宅内AV機器]または[宅外AV機器]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

6 **▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- [宅外AV機器]を選択時、無線アクセスポイントを設定する画面が表示されます。(P196)

[ネットワーク経由]	無線アクセスポイントを経由してAV機器と接続したいとき(P196)
[直接接続]	[Wi-Fi Direct]、[WPS接続]または[手動接続]でAV機器を本機に直接接続したいとき(P198)

7 **▲/▼ ボタンで接続したい機器を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには[DISP.]ボタンを押してください。(P203)

8 **写真を撮る**
- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)
写真を送信中は設定を変更することはできません。送信が完了するまでお待ちください。

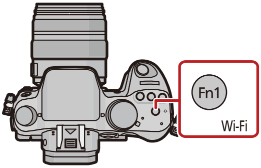
[カメラ内の画像を送る]

- 3G等の携帯電話回線を利用して画像を転送する場合、契約内容によっては高額なパケット通信料が発生することがあります。
- 再生メニューの[お気に入り]または[プリント設定]の設定内容は送信されません。
- 本機以外で撮影した画像は送信できない場合があります。
- パソコンで編集·加工した画像は、送信できない場合があります。

スマートフォン/タブレットに画像を送る

準備:

- LUMIX LINK をインストールしておく(P190)



1 [Wi-Fi] ボタンを押す
2 ▲/▼ ボタンで[新規に接続する]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
   - 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。
3 ▲/▼ ボタンで[カメラ内の画像を送る]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
4 ▲/▼ ボタンで[スマートフォン]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
5 接続方法を選ぶ(下記)
6 ▲/▼ ボタンで接続したい機器を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
   - 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更する場合[DISP.]ボタンを押してください。(P203)
7 ▲/▼ ボタンで[1枚選択]または[複数選択]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
   - 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)
8 画像を選んで送る(P210)

スマートフォン / タブレットとの接続方法を選ぶ

■ 無線アクセスポイントを経由してスマートフォン/タブレットと接続したいとき

(スマートフォン/タブレット側)

1 スマートフォン/タブレットの設定メニューで、Wi-Fi機能をONにする
2 接続したい無線アクセスポイントを選び、設定する
3 お使いのスマートフォン/タブレットで「LUMIX LINK」を起動する※(P190)

(カメラ側)

4 ▲/▼ ボタンで[ネットワーク経由]を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
5 無線アクセスポイントとの接続方法を選び、設定する
   - 詳しくは、196 ページをお読みください。

続く

■ スマートフォン／タブレットを本機に直接接続したいとき

● [Wi-Fi Direct] または [WPS 接続] で接続する場合

（カメラ側）

1　▲/▼ ボタンで [直接接続] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

● 接続方法について詳しくは、198 ページをお読みください。

（スマートフォン／タブレット側）

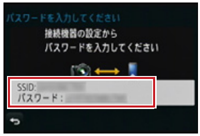
2　お使いのスマートフォン／タブレットで「LUMIX LINK」を起動する※(P190)

● [手動接続] で接続する場合

（カメラ側）

1　▲/▼ ボタンで [直接接続] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

2　▲/▼ ボタンで [手動接続] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す



（スマートフォン／タブレット側）

3　スマートフォン／タブレットの設定メニューで、Wi-Fi機能をONにする

4　本機の画面に表示されているSSIDと同じものを選び、パスワードを入力する

5　お使いのスマートフォン／タブレットで「LUMIX LINK」を起動する※(P190)

※「カメラに接続しています…」のメッセージが表示されます。Android端末の場合は「戻る」ボタンを押してください。iOS端末の場合は「閉じる」を選んでください。

画像を選んで送る

[1 枚選択] 選択時

❶ ◀/▶ ボタンで画像を選ぶ

❷ [MENU/SET] ボタンを押す

● 確認画面が表示されます。
[はい] を選ぶと実行されます。

[複数選択] 選択時

❶ 画像を選び、[MENU/SET] ボタンで設定する（繰り返す）

● もう一度 [MENU/SET] ボタンを押すと設定が解除されます。

❷ ◀ボタンで [実行] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

● 確認画面が表示されます。
[はい] を選ぶと実行されます。

[1 枚選択]



◀/▶ボタンで選びます。

[複数選択]



▲/▼/◀/▶ ボタンで選びます。

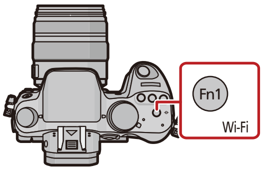
● [複数選択] で一度に設定できる枚数には制限があります。

パソコンに画像を送る

準備:

- パソコンの電源を入れておく。
- パソコンに写真を送信するには、あらかじめパソコンで受信するフォルダーの設定をしておく必要があります。(P205)
- 接続先のパソコンのワークグループを標準設定から変更している場合、[PC 接続設定] で本機の設定も変更する必要があります。(P221)

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで [新規に接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。

3 **▲/▼ ボタンで [カメラ内の画像を送る] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

4 **▲/▼ ボタンで [PC] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

5 **▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

[ネットワーク経由]	無線アクセスポイントを経由してパソコンと接続したいとき(P196)
[直接接続]	[Wi-Fi Direct]、[WPS接続]または[手動接続]でパソコンを本機に直接接続したいとき(P198)

6 **▲/▼ ボタンで接続したいパソコンを選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

7 **▲/▼ ボタンで送信するフォルダーを選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには[DISP.]ボタンを押してください。(P203)

8 **▲/▼ ボタンで [1 枚選択] または [複数選択] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)

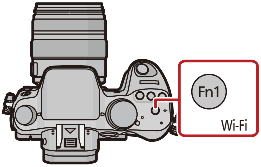
9 **画像を選んで送る(P210)**

- 設定されたフォルダー下に送信日ごとのフォルダーが作成され、そこに画像が保存されます。
- ユーザーアカウントとパスワードを入力する画面が表示された場合は、お使いのパソコンで設定したものを入力してください。

クラウド同期サービスに画像を送る

準備:
クラウドフォルダに画像を送信するには、LUMIX CLUB (PicMate)への登録(P216)とクラウド同期設定(P206)が必要です。

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで [新規に接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する](P193)または[お気に入りから接続する](P194)から接続先を選ぶことができます。

3 **▲/▼ ボタンで [カメラ内の画像を送る] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

4 **▲/▼ ボタンで [クラウド同期サービス] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

5 **▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す(P196)**

6 **送信設定を確認する**
- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには[DISP.]ボタンを押してください。(P203)

7 **▲/▼ ボタンで [1 枚選択] または [複数選択] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)

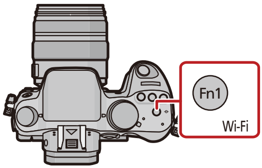
8 **画像を選んで送る(P210)**

Webサービスに画像を送る

準備:

Webサービスに画像を送信するには、LUMIX CLUB (PicMate)への登録(P216)が必要です。
LUMIX CLUB (PicMate)以外のWebサービスに画像を送信するには、そのWeb サービスを登録しておく必要があります。(P219)

1 [Wi-Fi] ボタンを押す



2 ▲/▼ ボタンで [新規に接続する] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
- 以前と同じ設定で接続する場合は、[履歴から接続する] (P193)または [お気に入りから接続する] (P194)から接続先を選ぶことができます。

3 ▲/▼ ボタンで [カメラ内の画像を送る] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで [Webサービス] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

5 ▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す (P196)

6 ▲/▼/◀/▶ ボタンで接続したいサービスを選び、[MENU/SET] ボタンを押す
- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには [DISP.] ボタンを押してください。(P203)

7 ▲/▼ ボタンで [１枚選択] または [複数選択] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)

8 画像を選んで送る (P210)

- Web サービスにアップロードした画像を本機で表示したり消去したりすることはできません。スマートフォンやパソコンで Web サービスにアクセスして、画像を確認してください。
- 画像の送信に失敗すると、LUMIX CLUB (PicMate)に登録したメールアドレスに送信失敗の報告メールが届きます。
- **画像には、タイトル、撮影日時、位置情報など、個人を特定する情報が含まれる場合があります。Web サービスに画像をアップロードする際は、よくご確認のうえ、アップロードしてください。**

- Web サービスにアップロードした画像の流出、消失などによる損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- Web サービスに画像をアップロードする場合、本機での送信が完了しても、Web サービス上にアップロードされていることを確認するまでは、本機の画像を消去しないでください。本機の画像を消去したときの損害については、当社は一切の責任を負いかねます。

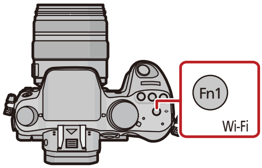
AV 機器に画像を送る

準備：

［宅内 AV 機器］に画像を送る場合、お使いの機器を DLNA 待ち受けモードにする
- お使いの機器の説明書をお読みください。

［宅外 AV 機器］に画像を送る場合、以下が必要になります。
- LUMIX CLUB（PicMate）への登録(P216)
- 送信先の宅外 AV 機器で取得した、アドレス番号とアクセス番号(P220)

1 ［Wi-Fi］ボタンを押す



2 ▲/▼ ボタンで［新規に接続する］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す
- 以前と同じ設定で接続する場合は、［履歴から接続する］(P193)または［お気に入りから接続する］(P194)から接続先を選ぶことができます。

3 ▲/▼ ボタンで［カメラ内の画像を送る］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで［AV 機器］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す

5 ▲/▼ ボタンで［宅内AV機器］または［宅外AV機器］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す

6 ▲/▼ ボタンで接続方法を選び、［MENU/SET］ボタンを押す
- ［宅外AV機器］を選択時、無線アクセスポイントを設定する画面が表示されます。(P196)

［ネットワーク経由］	無線アクセスポイントを経由してAV機器と接続したいとき(P196)
［直接接続］	［Wi-Fi Direct］、［WPS接続］または［手動接続］でAV機器を本機に直接接続したいとき(P198)

7 ▲/▼ ボタンで接続したい機器を選び、［MENU/SET］ボタンを押す
- 接続が完了すると画面が表示されます。画像の送信設定を変更するには［DISP.］ボタンを押してください。(P203)

8 ▲/▼ ボタンで［1 枚選択］または［複数選択］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す
- 設定を変更したり、接続を終わるには、［Wi-Fi］ボタンを押してください。(P200)

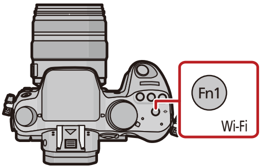
9 画像を選んで送る(P210)

プリンターに画像を送る

準備：

- 撮影した写真をワイヤレスで PictBridge（ワイヤレス LAN 対応）※のプリンターから印刷することができます。
  ※ DPS over IP 規格準拠
  PictBridge（ワイヤレスLAN対応）のプリンターについては、下記サイトをご覧ください。
  http://panasonic.jp/support/dsc/

1 **[Wi-Fi] ボタンを押す**



2 **▲/▼ ボタンで［新規に接続する］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
- 以前と同じ設定で接続する場合は、［履歴から接続する］(P193)または［お気に入りから接続する］(P194)から接続先を選ぶことができます。

3 **▲/▼ ボタンで［カメラ内の画像を送る］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
4 **▲/▼ ボタンで［プリンター］を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
5 **▲/▼ ボタンで接続方法を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

［ネットワーク経由］	無線アクセスポイントを経由してプリンターと接続したいとき (P196)
［直接接続］	[Wi-Fi Direct]、[WPS接続]または［手動接続］でプリンターを本機に直接接続したいとき (P198)

6 **▲/▼ ボタンで接続したいプリンターを選び、[MENU/SET] ボタンを押す**
7 **画像を選んでプリントする(P236)**
- 設定を変更したり、接続を終わるには、[Wi-Fi] ボタンを押してください。(P200)

- 動画はプリントできません。

LUMIX CLUB (PicMate)を設定する

「LUMIX CLUB (PicMate)」のサービスユーザー登録(無料)をして、ログインIDを取得します。
「LUMIX CLUB (PicMate)」に登録すると、画像をお使いの機器間で同期したり、Webサービスに画像を転送するなど、画像の整理・共有・公開ができます。
「LUMIX CLUB (PicMate)」以外のWebサービスや宅外のAV機器に画像を転送する際にも、「LUMIX CLUB (PicMate)」を経由して利用します。

- すでにパソコンで「LUMIX CLUB (PicMate)」のログインIDを取得済みの場合は、取得済みのログイン ID を本機に入力して同じログイン ID を使用することができます。
- 本機とスマートフォン/タブレットの LUMIX CLUB (PicMate)のログイン ID を合わせることができます。(P218)

■「LUMIX CLUB (PicMate)」について

デジタルカメラで撮影した写真や動画を整理・共有・公開して楽しむ写真・動画共有サイトです。
詳しくは、「LUMIX CLUB (PicMate)」のサイトをご覧ください。
http://lumixclub.panasonic.net/jpn/
また、本機との連携サービスを利用する場合は、下記のページにアクセスしてください。
http://lumixclub.panasonic.net/jpn/c/

1 **セットアップメニューの [Wi-Fi] を選ぶ**(P38)

2 **Wi-Fiメニューから [Wi-Fi 設定] を選ぶ**

3 **▲/▼ ボタンで [PicMate 設定] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

4 **▲/▼ ボタンで [新規登録・変更] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**



5 **▲/▼ ボタンで [新規登録] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**



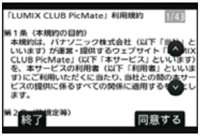
- ネットワークに接続します。[MENU/SET]ボタンを押すと次のページへ進みます。
- すでに本機でログインIDが取得されている場合は確認画面が表示されます。取得し直すときは[はい]を、取得し直さないときは[いいえ]を選んでください。

6 **無線アクセスポイントとの接続方法を選び、設定する**

- 詳しくは、196 ページをお読みください。

続く

7 LUMIX CLUB（PicMate）の利用規約を読み、[MENU/SET] ボタンを押す

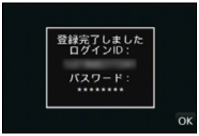


- ▲/▼ ボタンでページを切り換えることができます。
- 後ダイヤルを右側に回すと、拡大表示（2倍）することができます。
- 拡大したあと後ダイヤルを左側に回すと、元の大きさ（1倍）に戻ります。
- ▲/▼/◀/▶ ボタンで拡大部分の位置を移動させることができます。
- [🗑/⮌] ボタンを押すと、サービスユーザー登録せずに中止することができます。

8 パスワードを入力し、[MENU/SET] ボタンを押す

- 英数字交じり 8～16桁で任意のパスワードを入力してください。
- 文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。

9 ログインIDを確認し、[MENU/SET] ボタンを押す



- ログインID（数字12桁）は自動的に表示されます。
  パソコンで「LUMIX CLUB（PicMate）」にログインする場合は、数字のみを入力してください。
- 接続が完了するとメッセージが表示されます。
  [MENU/SET] ボタンを押してください。
- **ログインIDとパスワードは必ず控えを取っておいてください。**

取得したログインID/パスワードを確認または変更する

準備：パスワードを変更する場合、スマートフォン/タブレットまたはパソコンで「LUMIX CLUB（PicMate）」のサイトにアクセスし、パスワードを変更しておく。

1 セットアップメニューの [Wi-Fi] を選ぶ**(P38)**

2 Wi-Fiメニューから [Wi-Fi 設定] を選ぶ

3 ▲/▼ ボタンで [PicMate 設定] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンで [新規登録・変更] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

5 ▲/▼ ボタンで [ログイン ID 変更] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

- ログインID とパスワードが表示されます。
- パスワードは「＊」で表示されます。
- ログインIDの確認のみをする場合は、メニューを終了してください。

6 ▲/▼ ボタンで変更したい箇所を選び、[MENU/SET] ボタンを押す



- ログインIDを変更する場合は、確認画面が表示されます。
  [はい] を選んでください。

7 ログインIDまたはパスワードを入力し、[MENU/SET] ボタンを押す

- 文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。
- パスワードはスマートフォン/タブレットまたはパソコンで変更したものを入力してください。異なるパスワードを入力すると、画像をアップロードすることができなくなります。
- 設定後はメニューを終了してください。

本機とスマートフォン / タブレットのログイン ID を合わせる

- 本機とスマートフォン/タブレットのログインIDを合わせておくと、本機の画像を他の機器やWebサービスに送信するときに便利です。

本機またはスマートフォン/タブレットのどちらか一方がログインIDを取得している場合
1 本機とスマートフォン/タブレットを接続する(P190) **2** 「LUMIX LINK」のメニューからログイン ID を合わせる ●本機とスマートフォン / タブレットのログイン ID が同じログイン ID になります。 ●本機とスマートフォン/タブレットの接続後、再生画面に切り換えたときにログインIDを合わせる画面が表示される場合があります。画面に従って操作してログインIDを合わせることもできます。 ●[Wi-Fi Direct]で接続時は使用できません。

本機とスマートフォン / タブレットがそれぞれ別のログイン ID を取得している場合
（スマートフォン/タブレットのログイン ID に合わせる場合） 本機のログインIDとパスワードを、スマートフォン/タブレットで取得したログインIDとパスワードに変更する （本機のログイン ID に合わせる場合） スマートフォン/タブレットのログインIDとパスワードを、本機で取得したログインIDとパスワードに変更する

「LUMIX CLUB (PicMate)」の利用規約を確認する

利用規約が更新された場合などに内容を確認することができます。

1 セットアップメニューの [Wi-Fi] を選ぶ(P38)
2 Wi-Fiメニューから [Wi-Fi 設定] を選ぶ
3 ▲/▼ボタンで [PicMate 設定] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
4 ▲/▼ボタンで [利用規約確認] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す
- ネットワークに接続し、利用規約が表示されます。確認後はメニューを終了してください。

ログインIDの消去と「LUMIX CLUB（PicMate）」を退会する

本機を譲渡/廃棄などする場合に、本機のログインIDを消去します。また、「LUMIX CLUB（PicMate）」からの退会も行います。

1. **セットアップメニューの[Wi-Fi]を選ぶ**(P38)
2. **Wi-Fiメニューから[Wi-Fi設定]を選ぶ**
3. **▲/▼ボタンで[PicMate設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
4. **▲/▼ボタンで[消去・退会]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
   - メッセージが表示されます。[MENU/SET]ボタンを押してください。
5. **ログインID消去の確認画面で[はい]を選ぶ**
   - メッセージが表示されます。[MENU/SET]ボタンを押してください。
6. **「LUMIX CLUB（PicMate）」退会の確認画面で[はい]を選ぶ**
   - 退会をしない場合は、[いいえ]を選ぶとログインIDの消去のみが実行されます。実行後はメニューを終了してください。
7. **[MENU/SET]ボタンを押す**
   - ログインIDの消去が実行され、退会完了のメッセージが表示されます。[MENU/SET]ボタンを押してください。
   - 実行後はメニューを終了してください。

- ログインIDの変更などは、本機で取得したログインIDに対してのみ行えます。

「LUMIX CLUB（PicMate）」以外のWebサービスを利用する

「LUMIX CLUB（PicMate）」以外のWebサービスへ画像を送信する場合は、利用するWebサービスを「LUMIX CLUB（PicMate）」で登録しておくことが必要です。

- 対応するWebサービスは、下記サイト内にある「FAQ・お問い合わせ」をご確認ください。
  http://lumixclub.panasonic.net/jpn/c/lumix_faqs/

準備：利用するWebサービスにてアカウントを作成し、ログイン情報を用意しておく。

1. **スマートフォン/タブレットまたはパソコンで、「LUMIX CLUB（PicMate）」のサイトへアクセスする**
2. **「LUMIX CLUB（PicMate）」のログインIDとパスワードを入力し、ログインする**(P216)
3. **メールアドレスを登録する**
4. **利用するWebサービスを選び、登録する**
   - 画面の指示に従って、登録の操作をしてください。

宅外 AV 機器を設定する

「LUMIX CLUB（PicMate）」を経由して、親戚や知人が所有しているAV機器に画像を送ることができます。

● LUMIX CLUB（PicMate）対応の AV 機器については、下記サイトをご覧ください。
http://panasonic.jp/support/dsc/

準備：
送信先のAV機器から「LUMIX CLUB（PicMate）」のサービスユーザー登録をして、発行されたアドレス番号（数字16桁）とアクセス番号（数字4桁）を確認しておく。（詳しくは、AV機器の説明書をお読みください）

1 **セットアップメニューの[Wi-Fi]を選ぶ**(P38)
2 **Wi-Fiメニューから[Wi-Fi 設定]を選ぶ**
3 **▲/▼ボタンで[宅外AV機器設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
4 **▲/▼ボタンで[追加登録]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
5 **アドレス番号を入力し、[決定]を選ぶ**
● 文字の入力方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。
6 **アクセス番号を入力し、[決定]を選ぶ**
7 **任意の名前を入力し、[決定]を選ぶ**
● [A]/[a]/[1]/[&]で入力できる文字数は最大28文字です。
● [かな]/[カナ]、[＼]、[「]、[」]、[・]、[ー]で入力できる文字数は最大14文字です。
● 設定後はメニューを終了してください。

登録したAV機器の情報を変更または消去する

すでに登録しているAV機器の情報を変更または消去することができます。

1 **セットアップメニューの[Wi-Fi]を選ぶ**(P38)
2 **Wi-Fi メニューから[Wi-Fi 設定]を選ぶ**
3 **▲/▼ボタンで[宅外 AV 機器設定]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
4 **▲/▼ボタンで編集または消去したいAV機器を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
5 **[編集]または[消去]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

項目	設定内容
[編集]	すでに登録しているAV機器の情報を変更します。 **「宅外 AV 機器を設定する」の手順5～7を行う**
[消去]	すでに登録しているAV機器の情報を消去します。 ● 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。

● 設定後はメニューを終了してください。

Wi-Fi 設定メニューを使う

セットアップメニューの設定方法は P38

Wi-Fi機能を使うために必要な各種設定を行います。
Wi-Fi接続中は[Wi-Fi設定]の変更はできません。([ネットワークアドレス表示]は除く)

1 セットアップメニューの[Wi-Fi]を選ぶ
2 Wi-Fiメニューから[Wi-Fi設定]を選ぶ
3 ▲/▼ボタンで設定したい項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

項目	設定内容
[PicMate 設定] 「LUMIX CLUB(PicMate)」のログインIDの取得や変更を行います。	●詳しくは、216ページをお読みください。
[PC接続設定] ワークグループを設定することができます。	パソコンに画像を送信する際は、送信先のパソコンと同じワークグループに接続する必要があります。 (お買い上げ時は「WORKGROUP」に設定されています) **[変更する]:** 接続するパソコンのワークグループを入力してください。設定後はメニューを終了してください。 **[標準に戻す]:** お買い上げ時の状態に戻します。確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。実行後はメニューを終了してください。 ●文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。 ●パソコンを標準の設定でお使いの場合は、ワークグループを変更する必要はありません。
[機器名称] 本機の名前を変更することができます。	**1 [DISP.]ボタンを押す** **2 任意の機器名称を入力する** ●文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。 ● A / a / 1 / & で入力できる文字数は最大32文字です。
[宅外AV 機器設定] 「LUMIX CLUB(PicMate)」を経由して、親戚や知人が所有しているAV機器に画像を送ることができます。	●詳しくは、220ページをお読みください。

セットアップメニューの設定方法は P38

項目	設定内容
[Wi-Fi パスワード] 誤操作や第三者によるWi-Fi機能の使用を防いだり、設定した個人情報を保護するため、Wi-Fi機能をパスワードで保護することをお勧めします。	パスワードを設定しておくと、Wi-Fi機能使用時、自動的にパスワード入力画面が表示されるようになります。 **[設定]:** 数字4桁で任意のパスワードを入力してください。設定後はメニューを終了してください。 **[解除]:** 確認画面が表示されます。[はい]を選ぶと実行されます。実行後はメニューを終了してください。 ●文字入力の方法については、60 ページの「文字を入力する」をお読みください。 ●パスワードは必ず控えを取っておいてください。忘れてしまった場合、セットアップメニューの[Wi-Fi設定リセット]を行うとパスワードをリセットできますが、その他の設定もすべてリセットされます。([PicMate 設定]は除く)
[ネットワークアドレス表示] 本機のMACアドレスとIPアドレスを表示します。	●「MACアドレス」とは、ネットワーク機器を識別するための固有アドレスです。 ●「IPアドレス」とは、インターネットなどのネットワークに接続されたコンピューターを識別する番号のことです。ご家庭では、無線アクセスポイントなどのDHCP機能で自動的に割り当てられるのが一般的です。(例：192.168.0.87)
[認証情報] 技術基準適合認証番号を表示します。	―

3D写真を撮る

本機に3D交換レンズ（別売：H-FT012）を取り付けると、迫力ある3D写真を撮影することができます。3D写真を見るには3D対応テレビが必要です。

1 **本機に3D交換レンズを取り付ける**

2 **被写体に画面を合わせ、シャッターボタンを全押しして撮影する**

- 3D撮影時は、ピントを合わせる操作は不要です。
- 3D交換レンズを装着して撮影した写真はMPO形式（3D）で保存されます。

3Dの写真を安全に見るために、撮影時には以下の点にお気をつけください。
– できるだけ本機を水平にして撮影してください。
– 被写体に近づきすぎないでください。[3D交換レンズ（別売：H-FT012）装着時は、被写体から0.6 m以上離れて撮影してください]
– 乗車中や歩行中などは手ブレにお気をつけください。

- **3D写真の縦撮影には対応していません。**
- 安定した写真を撮影するために、三脚やフラッシュの使用をお勧めします。
- 被写体までの距離が 0.6 m ～約 1 m では、左右の視差が大きくなり、画面の両端では立体効果が得られない場合があります。
- 3D写真の記録可能枚数は、2 GBのカードを使用の場合、約500枚です。（画像横縦比[4:3]、クオリティ[3D ▲]に設定時）
- 3D交換レンズの取扱説明書もお読みください。

■ 3D撮影時の制限事項

3D交換レンズ（別売：H-FT012）を使っての撮影時には、以下の機能が使えません。

（撮影機能）
- オートフォーカス/マニュアルフォーカス操作
- 絞り値設定
- ズーム操作
- 動画撮影※1
- シーンガイドモードの［水面をキラキラ撮る］/［イルミネーションをキラキラ撮る］
- クリエイティブコントロールモードの［インプレッシブアート］/［ハイダイナミック］/［トイフォト］/［クロスフィルター］/［ワンポイントカラー］
- ボケ味コントロール機能

※1 動画ボタン、クリエイティブ動画モード、動画撮影メニューは無効または使用できなくなります。

続く

（撮影メニュー）

- [記録画素数]※2/[クオリティ]※3/[HDR]/[iDレンジコントロール]/[デジタル赤目補正]/[超解像]/[シェーディング補正]/[EXテレコン（写真）]/[デジタルズーム]/[連写速度]の[SH]/[手ブレ補正]/[多重露出]

※2 以下のように固定されます。

画像横縦比	記録画素数
4:3	1824×1368画素
3:2	1824×1216画素
16:9	1824×1024画素
1:1	1712×1712画素

※3 3D交換レンズ装着時は、以下のアイコンが表示されます。
[3D ファイン](3D+ファイン)： MPO画像とファイン相当のJPEG画像を同時に記録します。
[3D スタンダード](3D+スタンダード)：MPO画像とスタンダード相当のJPEG画像を同時に記録します。

（カスタムメニュー）

- [AF/AEロック切換]/[クイックAF]/[アイセンサーAF]/[ダイレクトフォーカス移動]/[フォーカス/レリーズ優先]/[シャッター半押しAF]/[ピンポイントAF時間]/[AF補助光]/[AF+MF]/[MFアシスト]/[MFガイド]/[パワーズームレンズ]/[動画ボタン]/[記録枠表示]/[残枚数/残時間切換]/[タッチ設定]の[タッチAF]、[タッチパッドAF]

3D写真を見る

本機と3D対応テレビを接続して3D記録した写真を再生すると、迫力ある3D写真を楽しむことができます。
3D対応のSDカードスロット付きテレビにカードを入れて、撮影した3D写真を再生することもできます。

> 本機で撮影した3D写真を再生できる機器についての最新情報は、下記サポートサイトをご確認ください。
> **http://panasonic.jp/support/dsc/**

準備：[HDMI出力解像度](P48)を[AUTO]、[1080p]または[1080i]に設定する。
[3Dテレビ出力](P49)を[3D]に設定する。

HDMIミニケーブルで本機と3D対応テレビをつなぎ、再生画面を表示する(P226)

- [ビエラリンク](P49)を[ON]に設定していてビエラリンク対応テレビに接続した場合は、テレビの入力切換が自動で切り換わり、再生画面が表示されます。詳しくは、227ページをお読みください。
- 3D記録された写真には、再生時のサムネイル表示に[3D]が表示されます。

続く

■ 3D記録した写真のみを選んで 3D 再生する

再生メニューの[再生モード]で [3D] を選んでください。(P173)

■ 3D記録した写真のみをスライドショーで 3D 再生する

再生メニューの[スライドショー]で [3D] を選んでください。(P171)

■ 3D記録した写真の再生方法を切り換える

1 3D 記録した写真を選ぶ

2 再生メニューから [2D/3D 切換] を選ぶ(P38)

- 2D（従来の画像）で再生されている場合は 3D に、3Dで再生されている場合は 2D に再生方法が切り換わります。
- 3D撮影写真の視聴中に疲労感、不快感など異常を感じた場合は、2Dで再生してください。

■ 3D写真では働かない/使用できない機能

- カスタムメニューの [ハイライト表示]※
- 再生ズーム※
- 消去※
- 再生メニューの編集機能（[タイトル入力]/[文字焼き込み]/[動画分割]/[リサイズ（縮小）]/[トリミング（切抜き）]/[画像回転]/[お気に入り]※/[プリント設定]※/[プロテクト]※/[認証情報編集]※）

※ 2Dとして表示する場合は使用できます。

- 3D で撮影した写真を本機で再生した場合、2D（従来の画像）で再生されます。
- 3D記録した写真と2D記録した写真を切り換えて再生する場合は、数秒間黒画面が表示されます。
- 3D写真のサムネイルを選択時、または3D写真再生後のサムネイル表示は、再生開始や表示に数秒間かかります。
- 3D写真の視聴時、テレビ画面に近いと目の疲れが出ることがあります。
- テレビが3D写真に切り換わらなかった場合は、テレビ側で必要な準備を行ってください。（詳しくは、テレビの取扱説明書をお読みください）
- 3D写真は、パソコンや当社製機器に保存することができます。(P229、234)

テレビで見る

本機で撮影した画像をテレビ画面で再生できます。

準備：本機の電源スイッチを[OFF]にし、テレビの電源も切っておく。

- お使いのテレビの端子を確認して、端子に合った接続コードをお使いください。接続する端子によって画質が変わります。



1 本機とテレビをつなぐ

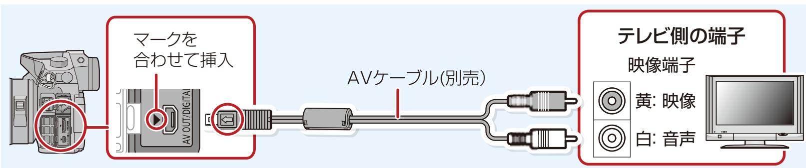
- 端子の向きを確認して、プラグを持ってまっすぐ抜き差ししてください。（斜めに差したり、向きを逆にすると、端子が変形して故障の原因になります）

HDMIミニケーブル（別売）で接続する場合



- 当社製HDMIミニケーブル（別売）をお使いください。
  – 品番：RP-CDHM15（1.5 m）、RP-CDHM30（3.0 m）
- [HDMI出力解像度] (P48) を確認してください。
- 24p動画を再生時は[HDMI出力解像度]を[AUTO]に設定してください。[AUTO]以外に設定していると、24コマ/秒では出力できません。
- 音声はステレオで再生されます。
- 本機の画面に画像は表示されません。

AV ケーブル（別売）で接続する場合



- 当社製 AVケーブル（別売）をお使いください。
  – 品番：DMW-AVC1
- [TV画面タイプ] (P48) を確認してください。
- 音声はモノラルで再生されます。
- AVケーブル接続時はファインダー表示はできません。

続く

2 テレビの電源を入れ、接続する端子に合わせてテレビの入力切換を選ぶ

3 本機の電源を入れ、[▶]ボタンを押す

- [ビエラリンク](P49)を[ON]に設定して、HDMIミニケーブルでビエラリンク対応テレビに接続した場合は、テレビの入力切換が自動で切り換わり、再生画面が表示されます。(P227)

- [画像横縦比]によっては、画像の上下や左右に黒い帯が付いて表示されることがあります。
- 画像の上下の端が切れて表示される場合は、テレビの画面モードの設定を変更してください。
- AVケーブル(別売)とHDMIミニケーブル(別売)を同時に接続しているときは、HDMIミニケーブル(別売)からの出力が優先されます。
- USB接続ケーブル(付属)とHDMIミニケーブル(別売)を同時に接続しているときは、USB接続ケーブル(付属)での接続が優先されます。
- 画像を縦にして再生すると、多少ぼやけることがあります。
- 画像が表示される際、テレビの機種によって画像が乱れる場合があります。
- 本機のスピーカーからは音声は出ません。
- テレビの説明書もお読みください。

SDカードスロット付きテレビにカードを入れて、撮影した画像を再生することができます。
- テレビの機種によって、画像がテレビの全画面で表示されないことがあります。
- 再生できる動画のファイル形式はテレビの機種によって異なります。
- 再生に対応したカードについては、テレビの説明書をお読みください。

ビエラリンク(HDMI)を使う

ビエラリンク(HDMI)(HDAVI Control™)とは
- 本機とHDMIミニケーブル(別売)を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、ビエラのリモコンで簡単に操作できる機能です。(すべての操作ができるものではありません)
- ビエラリンク(HDMI)はHDMI CEC (Consumer Electronics Control) と呼ばれる業界標準のHDMIによるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製HDMI CEC対応機器との動作保証はしておりません。ビエラリンク(HDMI)に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本機は、ビエラリンク(HDMI) Ver.5に対応しています。ビエラリンク(HDMI) Ver.5とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した最新の当社基準です。(2011年11月現在)

続く

準備：[ビエラリンク](P49)を[ON]に設定する。

1 **HDMIミニケーブルで、本機とビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）をつなぐ(P226)**

2 **本機の電源を入れ、[▶]ボタンを押す**

3 **テレビのリモコンで操作する**

- 画面に表示される操作アイコンを参考に操作してください。

- 動画の音声を再生するには、スライドショー設定画面で[音設定]を[AUTO]または[音声]に設定してください。
- テレビに2つ以上のHDMI入力端子がある場合は、本機をHDMI1以外に接続することをお勧めします。
- 本機のボタンを使っての操作は制限されます。

■ その他の連動操作について

電源OFF

テレビのリモコンを使ってテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

自動入力切換

- HDMIミニケーブルで接続して本機の電源を入れ、本機の[▶]ボタンを押すと、テレビの入力切換を自動で本機の画面に切り換えます。また、テレビの電源が待機状態のときは自動で電源が入ります。（テレビの「電源オン連動」を「する」に設定している場合）
- テレビのHDMI端子によっては、入力切換が自動で切り換わらない場合があります。そのときはテレビのリモコンを使って入力切換してください。（入力切換の方法はテレビの取扱説明書をお読みください）
- ビエラリンク（HDMI）が正しく働かない場合は、269ページをご確認ください。

- お使いのテレビがビエラリンク（HDMI）対応かわからないときは、接続した当社製テレビにビエラリンク（HDMI）のロゴマークが付いているかご確認いただくか、テレビの取扱説明書をお読みください。

VIERA Link

- HDMI規格に準拠していないケーブルでは動作しません。
- 当社製HDMIミニケーブル（別売）をお使いください。
  – 品番：RP-CDHM15（1.5 m）、RP-CDHM30（3.0 m）
- ビエラリンク動作時、本機の[HDMI出力解像度]は自動的に判別されます。

写真や動画をパソコンに残す

本機をパソコンと接続すると、本機の画像をパソコンに取り込むことができます。

- お使いのパソコンによっては、取り出したカードから直接読み込むこともできます。詳しくは、パソコンの説明書をお読みください。
- **SDXCメモリーカードにパソコンが対応していない場合、フォーマットを促すメッセージが表示されることがあります。(撮影した画像が消去されますので、フォーマットしないでください)カードを認識しない場合は、下記のサポートサイトをご覧ください。**
  http://panasonic.jp/support/sd_w/

■ 使用できるパソコン

マスストレージデバイス(大容量記憶装置)を認識できるパソコンに接続することができます。

- Windows の場合: Windows 7/Windows Vista/Windows XP
- Mac の場合: OS X v10.1 ～ v10.8

AVCHD動画は、ファイルやフォルダーのコピーでは正しく取り込めない場合があります。
- Windowsの場合、AVCHD動画は必ずCD-ROM(付属)の「PHOTOfunSTUDIO」を使って取り込んでください。
- Macの場合、AVCHD動画は「iMovie' 11」を使って取り込むことができます。
  ただし、画質設定が[AVCHD]の[FHD/60p]の動画(AVCHD Progressive)は、取り込みできません。
  (iMovie' 11の詳細は、Apple にお問い合わせください)

付属のソフトウェアを使う

付属のCD-ROMには、以下のソフトウェアが収録されています。
パソコンにインストールしてお使いください。

PHOTOfunSTUDIO 8.5 PE（Windows XP/Vista/7）
写真や動画をパソコンに取り込んだり、撮影日や機種名などで分類して整理するなど、画像を管理することができるソフトウェアです。さらに、DVD への画像の書き込みや、画像補正、動画の編集などもできます。

SILKYPIX Developer Studio （Windows XP/Vista/7、Mac OS X v10.4/v10.5/v10.6/v10.7/v10.8）
RAWファイルの画像を現像や編集するソフトウェアです。編集した画像をパソコンなどで表示できるファイル形式（JPEG、TIFF など）で保存できます。
SILKYPIX Developer Studio の使い方などの詳しい説明は、「ヘルプ」または市川ソフトラボラトリーのサポートサイト http://www.isl.co.jp/SILKYPIX/japanese/p/support/ をご覧ください。

LoiLoScope -30日間フル体験版（Windows XP/Vista/7）
LoiLoScope は、お手持ちのパソコンをフル活用する、かんたんに動画編集できるソフトウエアです。今までになかった机の上でカードを並べるようにして作るアナログ操作は、覚えることなく初めてでも思いのままに操作し、DVD、Webサイト、メール等々を使い、すばやく動画や写真を友達に届けることができます。 ● インストールされるのは、体験版ダウンロードサイトへのショートカットのみになります。
LoiLoScope の詳しい使い方は、以下のサイトから「マニュアル」をダウンロードしてご覧ください。 使い方 Web サイト：http://loilo.tv/product/20

続く

■ ソフトウェアをインストールする

- CD-ROMを入れる前に、他の起動中のアプリケーションソフトをすべて終了してください。

1 お使いのパソコンの環境を確認する

- **「PHOTOfunSTUDIO 8.5 PE」の動作環境**

対応OS	Windows® XP（32 bit）SP3 Windows Vista®（32 bit）SP2 Windows® 7（32 bit/64 bit）およびSP1	
CPU	Windows® XP	Pentium® Ⅲ 500 MHz以上
	Windows Vista®	Pentium® Ⅲ 800 MHz以上
	Windows® 7	Pentium® Ⅲ 1 GHz以上
ディスプレイ	1024×768以上（1920×1080以上を推奨）	
搭載メモリ	Windows® XP	512 MB以上
	Windows Vista®	512 MB以上
	Windows® 7	1 GB以上（32 bit） 2 GB以上（64 bit）
ハードディスク	インストールに450 MB以上の空き容量	

その他の動作環境について、詳しくは「PHOTOfunSTUDIO」の取扱説明書（PDF）をお読みください。

- 「SILKYPIX Developer Studio 3.1 SE」の動作環境は、230 ページのサポートサイトをお読みください。

2 CD-ROMを入れる

- インストールメニューが起動します。

3 [アプリケーション]をクリックする

4 [おまかせインストール]をクリックする

- 画面のメッセージに従ってインストールを進めてください。

- お使いのパソコンに対応したソフトウェアのみがインストールされます。
- Macでは、PHOTOfunSTUDIOは使えません。
- Macでは、SILKYPIXを手動でインストールすることができます。
  1. CD-ROMを入れる
  2. CD-ROMの「Application」フォルダーをダブルクリックする
  3. 自動で表示されるフォルダーをダブルクリックする
  4. フォルダー内にあるアイコンをダブルクリックする

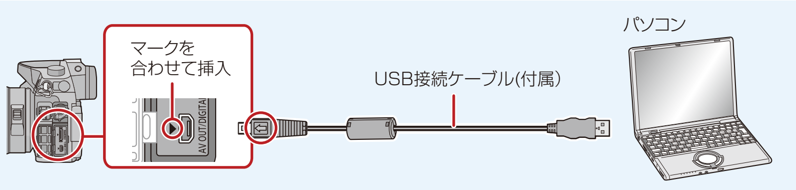
続く

■ パソコンに画像を取り込む

準備：お使いのパソコンに「PHOTOfunSTUDIO」をインストールしておく。

1 USB接続ケーブル（付属）で本機とパソコンをつなぐ

- 本機とパソコンの電源を入れてから、つないでください。
- 本機のモニター面を表にしてください。
- 端子の向きを確認して、プラグを持ってまっすぐ抜き差ししてください。（向きを逆にすると、端子が変形して故障の原因になります）
- 付属のUSB接続ケーブルまたは、当社製USB接続ケーブル（別売：DMW-USBC1）以外は使用しないでください。



2 ▲/▼ ボタンで［PC］を選び、［MENU/SET］ボタンを押す

- セットアップメニューで［USBモード］(P47)を［PC］に設定しておくと、［USBモード］の選択画面は表示されず、自動的にパソコンと接続します。
- ［USBモード］を［PictBridge（PTP）］にして接続した場合、パソコンの画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージを閉じ、安全にUSB接続ケーブルを取り外し(P233)、［USBモード］を［PC］に設定し直してください。

3 「PHOTOfunSTUDIO」を使って画像をパソコンにコピーする

- コピーしたファイルやフォルダーを、Windowsのエクスプローラーなどで消去や移動などを行わないでください。「PHOTOfunSTUDIO」を使って再生、編集などができなくなります。

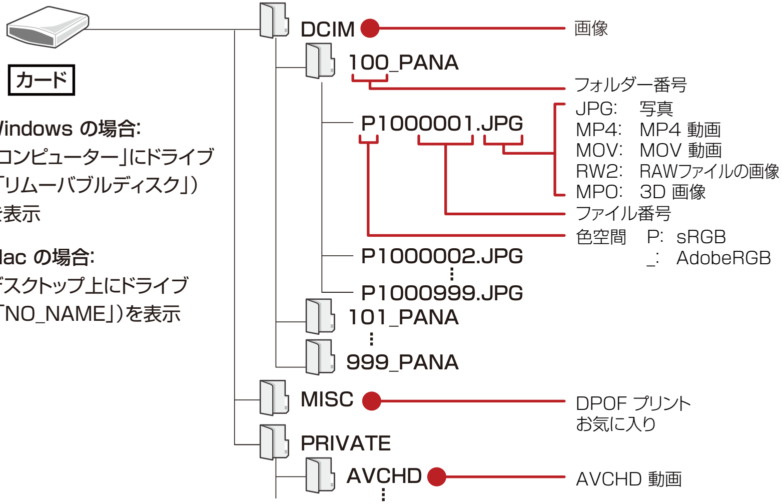
- 十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（別売：DMW-AC8）を使用してください。バッテリー使用時、USB接続中にバッテリー残量が少なくなると、電源表示ランプが点滅し、警告音が鳴ります。
  「安全にUSB接続ケーブルを取り外す」(P233)をお読みのうえ、USB接続ケーブルを抜いてください。データが破壊されるおそれがあります。
- AC アダプター（別売）を抜き差しする場合は、本機の電源を切ってから行ってください。
- カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。データが破壊されるおそれがあります。

続く

■「PHOTOfunSTUDIO」を使わずにパソコンにコピーする

「PHOTOfunSTUDIO」がインストールできない場合は、パソコンに接続後、本機のファイルやフォルダーをパソコンにドラッグアンドドロップするとコピーできます。

● **本機のカードの中（フォルダー構造）は以下のようになります。**



● AVCHD動画は、ファイルやフォルダーのコピーでは正しく取り込めない場合があります。CD-ROM（付属）の「PHOTOfunSTUDIO」を使って取り込むことをお勧めします。
詳しくは、229 ページをお読みください。

● 以下の場合に撮影すると新しいフォルダーが作成されます。
– セットアップメニューの［番号リセット］(P50)実行後
– 同じフォルダー番号のあるカードを挿入した場合（他社のカメラで撮影した場合など）
– フォルダー内にファイル番号999の画像がある場合

■ 安全にUSB接続ケーブルを取り外す

パソコンの画面でタスクトレイの「　」アイコンを選び、「DMC-GH3の取り出し」をクリックする

● お使いのパソコンの設定によっては、このアイコンが表示されない場合があります。

● アイコンが表示されていない場合は、デジタルカメラのモニターに［通信中］が表示されていないことを確認してから取り外してください。

■ PTPモードで接続する

［USBモード］を［PictBridge（PTP）］にしてください。

● カードからパソコンへの読み込みのみ可能です。

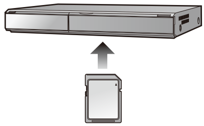
● PTPモードでカードの中に1000枚以上の画像があると、取り込めない場合があります。

● PTPモードで、動画は再生できません。

写真や動画をレコーダーに残す

当社製レコーダーに本機で記録したカードを入れるとブルーレイディスクやDVDなどにダビングすることができます。
本機で記録した写真や動画は、そのファイル形式（JPEG、RAW、MPO、AVCHD、MP4、MOV）によって他の機器への取り込み方法が異なります。

各ファイル形式に対応した当社製機器（ブルーレイディスクレコーダーなど）については、下記サポートサイトでご確認ください。
http://panasonic.jp/support/dsc/



● ダビングや再生方法など詳しくは、レコーダーの取扱説明書をお読みください。

■ 対応機器以外にダビングする

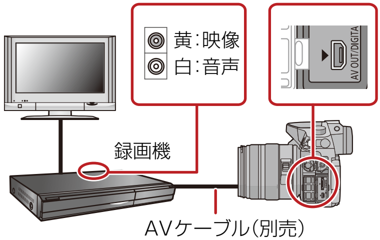
本機をAVケーブル（別売）で対応機器以外のレコーダーやビデオなどの録画機につなぎ、本機で再生した映像をダビングします。対応機器以外でも再生できるので、ダビングして配る場合などに便利です。このとき映像はハイビジョンではなく、標準の画質になります。

1 本機と録画機をAVケーブル（別売）で接続する

2 本機で再生を始める

3 録画機で録画を始める

● 録画（ダビング）を終了するときは、録画機の録画を停止したあと、本機の再生を停止してください。



● 横縦比が4：3のテレビでご覧になる場合は、必ず本機の［TV画面タイプ］(P48)を［4：3］に設定してダビングしてください。［16：9］に設定してダビングした動画を4：3のテレビで見ると、縦長の映像になります。
● ダビングや再生方法など詳しくは、録画機の取扱説明書をお読みください。

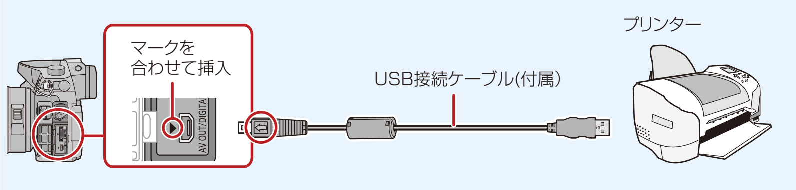
プリントする

PictBridgeに対応したプリンターに接続すると、本機のモニター上でプリントする画像を選択したり、プリント開始を指示することができます。
- グループ画像は一覧で表示されます。
- お使いのプリンターによっては、取り出したカードから直接プリントすることもできます。詳しくは、プリンターの説明書をお読みください。

準備：本機とプリンターの電源を入れる。
あらかじめプリンター側で印字品質などの設定をしておく。

1 USB接続ケーブル（付属）で本機とプリンターをつなぐ

- 本機のモニター面を表にしてください。
- 端子の向きを確認して、プラグを持ってまっすぐ抜き差ししてください。（向きを逆にすると、端子が変形して故障の原因になります）
- 付属のUSB接続ケーブルまたは、当社製USB接続ケーブル（別売：DMW-USBC1）以外は使用しないでください。



2 ▲/▼ボタンで[PictBridge（PTP）]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す

- 十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（別売：DMW-AC8）を使用してください。接続中にバッテリー残量が少なくなった場合は、電源表示ランプが点滅し、警告音が鳴ります。すぐにプリントを中止してください。プリント中以外のときは、USB接続ケーブルを抜いてください。
- [ ]（ケーブル切断禁止アイコン）表示中は、USB接続ケーブルを抜かないでください。（プリンターによって表示されない場合があります）
- ACアダプター（別売）を抜き差しする場合は、本機の電源を切ってから行ってください。
- カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。
- 動画はプリントできません。

画像を選んで 1 枚ずつプリントする



1 **◀/▶ ボタンで画像を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

2 **▲ボタンで [プリント開始] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- プリント開始前に設定できる項目については237ページをお読みください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

複数の画像を選んでプリントする

1 **▲ボタンを押す**

2 **▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

項目	設定内容
複数選択	複数の画像を選んでプリントします。 ● ▲/▼/◀/▶ ボタンで画像を選び、[MENU/SET] ボタンを押す。（もう一度 [MENU/SET] ボタンを押すと設定が解除されます） ● 選択が終了したら◀ボタンを押して [実行] を選び、[MENU/SET] ボタンを押してください。
全画像	保存されているすべての画像をプリントします。
プリント設定 (DPOF)	[プリント設定] で設定(P183)された画像のみをプリントします。
お気に入り	[お気に入り] 設定(P182)された画像のみをプリントします。

3 **▲ボタンで [プリント開始] を選び、[MENU/SET] ボタンを押す**

- プリント確認画面が表示された場合は、[はい] を選んでプリントしてください。
- プリント開始前に設定できる項目については237ページをお読みください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

プリントの各種設定

「画像を選んで1枚ずつプリントする」の手順2、または「複数の画像を選んでプリントする」の手順3の画面でそれぞれの項目を選んで設定してください。

- 本機が対応していない用紙サイズやレイアウト設定でプリントしたい場合は、本機の用紙サイズ、レイアウト設定を[🖨]にして、プリンター側で設定してください。（詳しくはプリンターの説明書をお読みください）
- [プリント設定（DPOF）]選択時には、[日付プリント]と[プリント枚数]の項目は表示されません。

■ 日付プリント

項目	設定内容
ON	日付プリントされます。
OFF	日付プリントされません。

- プリンターが日付プリントに対応していない場合は、日付をプリントすることができません。
- プリンターによっては、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、お気をつけください。
- 文字焼き込みされた画像をプリントする場合、日付プリントを指定すると、日付が重なってプリントされますので、日付プリントを[OFF]にしてください。
- 使用するプリンターによっては、画像横縦比を[1:1]に設定して撮影した画像の日付が、縦方向にプリントされる場合があります。

■ プリント枚数

プリントする枚数（最大999枚まで）を設定できます。

■ 用紙サイズ

項目	設定内容	項目	設定内容
🖨	プリンターの設定が優先されます。	A3	297 mm×420 mm
L/3.5″×5″	89 mm×127 mm	10×15cm	100 mm×150 mm
2L/5″×7″	127 mm×178 mm	4″×6″	101.6 mm×152.4 mm
はがき	100 mm×148 mm	8″×10″	203.2 mm×254 mm
16:9	101.6 mm×180.6 mm	レター	216 mm×279.4 mm
A4	210 mm×297 mm	カード	54 mm×85.6 mm

- プリンターが対応していない用紙サイズは表示されません。

続く

■ レイアウト（本機で設定可能なレイアウト）

項目	設定内容
[プリンター]	プリンターの設定が優先されます。
[1面縁なし]	1面縁なし印刷
[1面縁あり]	1面縁あり印刷
[2面]	2面印刷
[4面]	4面印刷

- プリンターが対応していない場合は、選択できない項目があります。

■ レイアウト印刷について

1枚の用紙に同じ画像を印刷する場合

例えば、1枚の用紙に同じ画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[4面]、[プリント枚数]を4枚に設定してください。

1枚の用紙に異なる画像を印刷する場合

例えば、1枚の用紙に異なる画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[4面]、[プリント枚数]を1枚に設定してください。

- プリント中にオレンジ色の[●]が表示されたときは、プリンターからエラーメッセージを受け取っています。プリント終了後にプリンターに異常がないか確認してください。
- プリント枚数が多い場合、複数回に分けてプリントされることがあります。このとき、残り枚数の表示は設定枚数と異なります。
- RAWファイルをプリントする場合、本機で同時に記録されたJPEG画像がプリントされます。JPEG画像がない場合はプリントできません。

画像に日付を入れるには

画像に日付を焼き込む

[文字焼き込み]を使って、画像に日付を焼き込むことができます。

- **お店やプリンターでプリントする場合は、日付が重なってプリントされますので日付プリントを指定しないでください。**

日付プリントを設定する

[プリント設定]のプリント枚数設定時に▶ボタンを押すと、押すごとに日付プリントを設定/解除できます。(P183)

お店に依頼する場合

設定さえしておけば、カードを取り出して、お店に日付入りで依頼するだけです。([個人認証]または[プロフィール設定]の[月齢/年齢]や[名前]、[トラベル日付]、[旅行先]、または[タイトル入力]で入力した文字のプリントはお店では依頼できません)

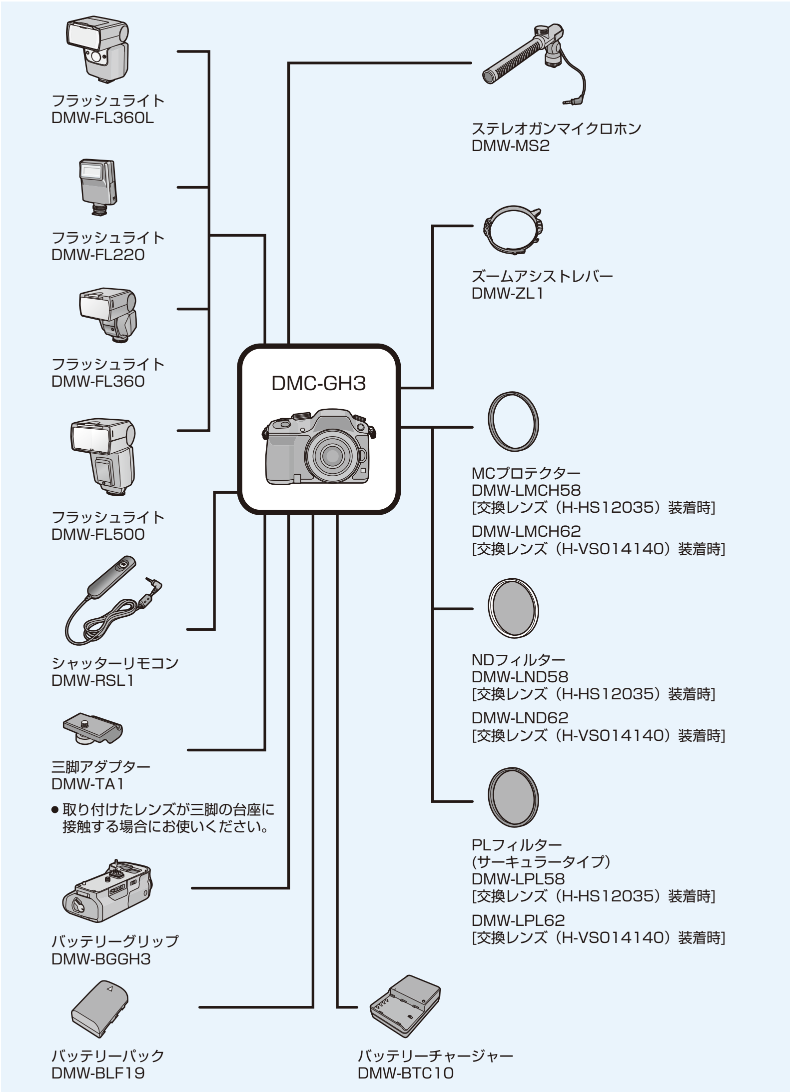
自宅でプリントする場合

日付プリントに対応しているプリンターに本機を接続して、プリントするだけで日付プリントができます。

- CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使って日付プリントすることができます。

※ 日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

別売品のご紹介


DMC-GH3
フラッシュライト
DMW-FL360L
フラッシュライト
DMW-FL220
フラッシュライト
DMW-FL360
フラッシュライト
DMW-FL500
シャッターリモコン
DMW-RSL1
三脚アダプター
DMW-TA1
●取り付けたレンズが三脚の台座に
接触する場合にお使いください。
バッテリーグリップ
DMW-BGGH3
バッテリーパック
DMW-BLF19
バッテリーチャージャー
DMW-BTC10
ステレオガンマイクロホン
DMW-MS2
ズームアシストレバー
DMW-ZL1
MCプロテクター
DMW-LMCH58
[交換レンズ（H-HS12035）装着時]
DMW-LMCH62
[交換レンズ（H-VS014140）装着時]
NDフィルター
DMW-LND58
[交換レンズ（H-HS12035）装着時]
DMW-LND62
[交換レンズ（H-VS014140）装着時]
PLフィルター
(サーキュラータイプ)
DMW-LPL58
[交換レンズ（H-HS12035）装着時]
DMW-LPL62
[交換レンズ（H-VS014140）装着時]

品名	品番
DCカプラー※1	DMW-DCC12
ACアダプター※1	DMW-AC8
レンズキャップ	DMW-LFC58※2、DMW-LFC62※3
レンズリアキャップ	DMW-LRC1
ボディキャップ	DMW-BDC1
本革バッグ	DMW-BAL1
ソフトバッグ	DMW-BAG1、DMW-BAG2、DMW-CZ18
ショルダーストラップ	DMW-SSTL1、DMW-SSTG1、DMW-SSTG2、DMW-SSTG3、DMW-SSTG5
ロングショルダーストラップ※4	DMW-SSTG6、DMW-SSTG7、DMW-SSTG8
USB接続ケーブル	DMW-USBC1
AV ケーブル	DMW-AVC1
HDMIミニケーブル	RP-CDHM15、RP-CDHM30
交換レンズ	・H-PS45175 ・H-PS14042 ・H-VS014140 ・H-HS35100 ・H-HS12035 ・H-FS45150 ・H-FS100300 ・H-FS045200 ・H-FS014045 ・H-F007014 ・H-F008 ・H-ES045 ・H-X025 ・H-H020 ・H-H014
3D交換レンズ	H-FT012
マウントアダプター	DMW-MA1（フォーサーズマウント用）
ライカレンズ用マウントアダプター	DMW-MA2M（ライカMマウント用） DMW-MA3R（ライカRマウント用）

※1　DCカプラーとACアダプターは、必ずセットでお買い求めください。単独では使用できません。
※2　交換レンズ（H-HS12035）装着時
※3　交換レンズ（H-VS014140）装着時
※4　斜め掛けに適したロングタイプのショルダーストラップです。

- 別売品の最新情報は、カタログ/ホームページなどをご覧ください。
  http://panasonic.jp/support/dsc/

記載の品番は2012年10月現在のものです。変更されることがあります。

CLUB Panasonic
Pana Sense

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。
http://club.panasonic.jp/mall/sense/
携帯電話からもお買い求めいただけます。
http://p-mp.jp/cpm/

外部フラッシュ（別売）

外部フラッシュ（別売：DMW-FL360L、DMW-FL220、DMW-FL360、DMW-FL500）を使用すると、内蔵フラッシュに比べてフラッシュ撮影可能範囲が広がります。

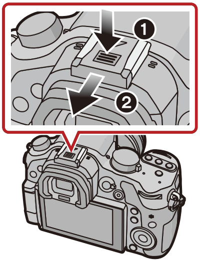
■ 専用フラッシュライト（別売：DMW-FL360L）を使う場合

準備：内蔵フラッシュを閉じ、本機の電源スイッチを[OFF]にしてください。
　　本体に取り付けられているホットシューカバーを取り外してください。

ホットシューカバーを取り外す
お買い上げ時、ホットシューにはホットシューカバーが取り付けられています。

ホットシューカバーを矢印❶の方向に押しながら、矢印❷の方向に引いて取り外す

- **ご使用にならないときは、必ずホットシューカバーを取り付けてください。**
- **ホットシューカバーの紛失にお気をつけください。**



1 **ホットシューに専用フラッシュライトを取り付け、本機と専用フラッシュライトの電源を入れる**
2 **撮影メニューから[フラッシュ設定]を選ぶ**(P38)
3 **▲/▼ボタンで[フラッシュモード]を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**
4 **▲/▼ボタンで項目を選び、[MENU/SET]ボタンを押す**

- 外部フラッシュ接続中は以下のアイコンが表示されます。
  - ⚡：　外部フラッシュ強制発光
  - ⚡S：外部フラッシュスローシンクロ
  - ⊘：　外部フラッシュ発光禁止

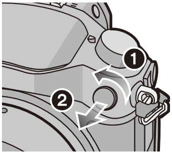
■ 本体（DMC-GH3）との通信機能のない市販の外部フラッシュを使う場合

- 外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で設定する必要があります。外部フラッシュをオートモードでお使いになる場合は、本体側で設定されている絞り値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
- 絞り優先AEまたはマニュアル露出モードにして使用し、本機で設定した絞り値とISO感度を外部フラッシュ側でも設定してください。（シャッター優先AEモードでは絞り値が変化するので適正露出が得られません。またプログラムAEモードでは絞り値が固定できないので、外部フラッシュの調光が適切に働きません。）

続く

■ フラッシュシンクロ端子で外部フラッシュを使う場合

- フラッシュシンクロ端子にシンクロケーブルを接続して、外部フラッシュを使用できます。端子には、ケーブルの抜け落ちを防止するロックねじが付いています。
- フラッシュシンクロ端子キャップは、矢印の方向に回して外してください。
- フラッシュシンクロ端子キャップの紛失にお気をつけください。
- フラッシュシンクロ端子には極性は有りません。シンクロケーブルの極性にかかわらず、そのまま使用できます。
- シンクロ電圧が 400 V 以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロケーブルは 3 m 未満をご使用ください。



- 外部フラッシュ装着時も本機の絞り値やシャッタースピード、ISO感度を設定できます。
- 市販の外部フラッシュには、シンクロ端子が高圧のものや、極性が逆のものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、本機を故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。
- 専用フラッシュライト以外の通信機能のある外部フラッシュを使用すると正常に動作しないだけでなく、故障の原因になる場合がありますので、使用しないでください。
- 外部フラッシュの電源スイッチが[OFF]でも、装着すると外部フラッシュモードになるものがあります。外部フラッシュを使用しないときは、外部フラッシュを外してください。
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを開かないでください。
- 外部フラッシュを装着すると置いたときに不安定になるため、撮影時は三脚の使用をお勧めします。
- 持ち運びするときは、外部フラッシュを取り外してください。
- 外部フラッシュ装着時は、脱落のおそれがありますので、外部フラッシュのみを持たないようにしてください。
- 外部フラッシュ使用時にホワイトバランスを[⚡WB]に設定した場合、撮影結果によってはホワイトバランスを微調整してください。(P123)
- 広角時に近くで撮影すると、フラッシュ光がレンズで遮られ画面の下部が暗くなる場合があります。
- ワイヤレスフラッシュの設定については 116 ページをお読みください。
- 詳しくは、外部フラッシュの説明書をお読みください。

外部マイク(別売)

ステレオガンマイクロホン(別売:DMW-MS2)を使用すると、ガン(鋭い指向性)収音と広い範囲のステレオ収音を切り換えて収音することができます。

準備:内蔵フラッシュを閉じ、本機の電源スイッチを[OFF]にしてください。
　　　本体に取り付けられているホットシューカバーを取り外してください。(P241)

1　本機に専用ステレオガンマイクロホンを取り付け、本機の電源を入れる

2　動画撮影メニューから[専用マイク設定]を選ぶ(P38)

● ステレオガンマイクロホン接続中にのみメニュー項目が表示されます。

3　▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

[ステレオ]:　広い範囲の音をステレオで収音することができます。
[ガン]:　周囲の雑音を拾いにくくし、一定方向の音を収音することができます。

● 外部マイク接続中は、画面に[🎤]が表示されます。
● 外部マイクを接続すると、[マイクレベル表示](P170)が自動的に[ON]になり、画面にマイクレベルが表示されます。
● ステレオガンマイクロホン装着時は、脱落のおそれがありますので、ステレオガンマイクロホンのみを持たないようにしてください。
● 動画撮影メニューの [風音低減] を設定すると、風雑音を効果的に低減することができます。
● ステレオガンマイクロホン装着時は、内蔵フラッシュを開かないでください。
● AC アダプター(別売)使用時にノイズなどが記録される場合は、バッテリーをご使用ください。
● 詳しくは、ステレオガンマイクロホンの説明書をお読みください。

バッテリーグリップ(別売)

バッテリーグリップ(別売:DMW-BGGH3)を使用すると、縦撮影時の操作性やホールド感が向上します。予備のバッテリーを装着し、長時間撮影することができます。

■ 予備のバッテリーの優先使用順を設定する

本機とバッテリーグリップのそれぞれにバッテリーを入れたときは、どちらのバッテリーから先に使うかを設定できます。

準備:本機の電源スイッチを[OFF]にし、接点カバーを外す。

1　本機にバッテリーグリップを取り付け、本機の電源を入れる

2　セットアップメニューから[バッテリー使用順序]を選ぶ(P38)

3　▲/▼ ボタンで項目を選び、[MENU/SET] ボタンを押す

[本体優先]:　カメラ側のバッテリーから先に使用します。
[BG 優先]:　バッテリーグリップ側のバッテリーから先に使用します。

● バッテリーグリップ側のバッテリーを使用時は、画面に [BG] が表示されます。
● バッテリーグリップの [Fn] ボタンに、お好みの機能を割り当てることができます。(P42)
● 接点カバーが外れにくいときは、カメラの溝があるほうの角を中央へ向けてめくってください。
● 詳しくは、バッテリーグリップの説明書をお読みください。

シャッターリモコン（別売）

シャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）を使用すると、三脚使用時に手ブレを防いだり、B（バルブ）撮影時や連写時にシャッターボタンを全押しした状態で固定することができます。本体のシャッターボタンと同様の働きをします。

- 以下の場合、シャッターリモコンでは操作できません。
  – スリープモードを解除するとき
- 動画撮影に使用する場合は、クリエイティブ動画モード(P164)に設定してください。シャッターリモコンで動画撮影開始/終了をすることができます。
- 詳しくは、シャッターリモコンの説明書をお読みください。

ACアダプター（別売）/DCカプラー（別売）

ACアダプター（別売：DMW-AC8）を接続し、電源コンセントにつなぐと、本機をパソコンやプリンターに接続するときに、バッテリーの消耗を気にせず使うことができます。ACアダプターを使用するには、DC カプラー（別売：DMW-DCC12）が必要です。

- DCカプラー装着時、DCカプラー扉が開くため、防塵防滴構造ではなくなります。砂やほこり、水滴などが付着、侵入しないようにお気をつけください。使用後は、カプラー扉に異物が付着していないことを確認し、しっかりと閉じてください。
- ACアダプターおよびDCカプラーの取扱説明書もお読みください。

フィルター（別売）

MCプロテクターは、色調や光量にほとんど変化を与えない透明なフィルターで、レンズ保護用として使うことができます。
NDフィルターは、色調に変化を与えずに、光量だけを1/8（3絞り分）に減少させることができます。
PLフィルターは、金属や球面以外（平らな非金属、水蒸気や空気中の見えない微粒子など）からの反射光を抑え、コントラストを強調する写真を撮影することができます。

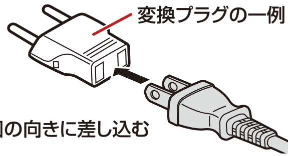
- 複数のフィルターを同時に取り付けないでください。
- フィルターを付けたまま、レンズキャップやレンズフードを取り付けることができます。
- 詳しくは、各種フィルターの説明書をお読みください。

海外旅行先で使う

チャージャーは、日本国内で使用することを前提として設計されておりますが、海外旅行等での使用は問題ありません。

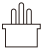
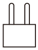
- 電源電圧（100 V～240 V）、電源周波数（50 Hz、60 Hz）でご使用いただけます。
- 国、地域によって電源コンセントの形状は異なるため変換プラグが必要です。
  変換プラグは旅行会社や販売店にご相談のうえ、お求めください。
- ご使用にならないときは、チャージャーと変換プラグを電源コンセントから外してください。
- 市販の変圧器などを使用すると、故障するおそれがありますので、使用しないでください。

■ 変換プラグの付け方



■ 主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米											
アメリカ合衆国	A	カナダ	A	ハワイ	A						
ヨーロッパ											
イギリス	BF, B3	イタリア	C	オーストリア	C,SE	オランダ	C,SE	ギリシャ	A,B, B3,C, SE	スイス	A,B, C,SE
スウェーデン	B,C, SE	スペイン	A,C, SE	デンマーク	C	ドイツ	A,C, SE	ノルウェー	C	ハンガリー	C
フィンランド	B,C	フランス	A,C, SE	ベルギー	B,C, SE	ロシア	A,C, SE				
アジア											
インド	B,BF, B3,C	インドネシア	B,B3, C,SE	シンガポール	B,BF, B3	タイ	A,BF, C	大韓民国	A,C, SE	台湾	A,C, O
中華人民共和国	すべて	フィリピン	A,O	ベトナム	A,BF, C, SE	香港特別行政区	B,BF, B3,C	マカオ特別行政区	B,BF, B3,C	マレーシア	B,BF, B3,C
オセアニア											
オーストラリア	O	グァム島	A	サイパン島	A	トンガ	O	ニュージーランド	O	フィジー	A,B, C,O
中南米											
アルゼンチン	BF,C, SE	プエルトリコ	A,BF, C	ブラジル	A,C, SE	メキシコ	A,C, SE				
中東・アフリカ											
アラブ首長国連邦	B,BF, B3	エジプト	BF,B3, C,SE	クウェート	B,B3, C	トルコ	A,B, C,SE	南アフリカ共和国	B,BF, B3,C	モロッコ	A,C, SE

タイプ	A	B	BF	B3	C	SE	O
	アメリカンタイプ	U.K. タイプ			ヨーロピアンタイプ		オーストラリアンタイプ
コンセント形状							
プラグ形状	不要です						

■ 時計を海外旅行先の時刻に合わせる

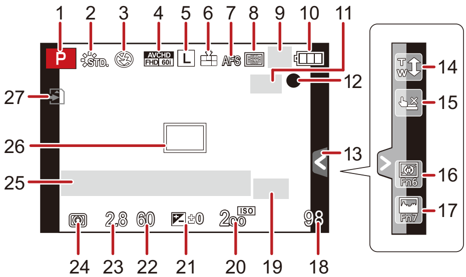
セットアップメニューの[ワールドタイム]で旅行先を設定すると、旅行先の時刻に切り換わります。

モニター/ファインダーの表示

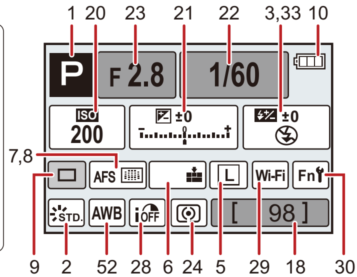
モニター/ファインダーの画面表示は、本機の操作状態を示しています。

- **画面はモニターで表示画面を[ ](モニタースタイル)に設定時の例です。**

プログラムAEモード[P]時



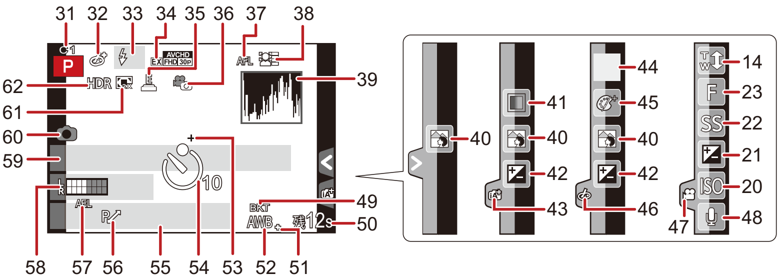
モニター撮影情報画面



■ 撮影時

1 撮影モード P76
2 フォトスタイル P141
3 フラッシュモード P113
4 記録方式/画質設定 P158
5 記録画素数 P143
6 クオリティ P144
7 フォーカスモード P127
8 オートフォーカスモード P126
9 単写※1: ▭ P64
　連写: ◻H P136
　オートブラケット: ◻B P138
　セルフタイマー: ⏲10 .... P140
10 バッテリー残量 P29
11 手ブレ補正※2: ((✋))OFF P106
　手ブレ警告: ((📷)) P106
12 記録動作(赤点滅)/ フォーカス(緑点灯) ... P64
13 タッチタブ※3 .... P59
14 タッチズーム※3 .... P110
15 タッチシャッター※3 .... P65
16 Fn6(ファンクションボタン)※3 .... P43
17 Fn7(ファンクションボタン)※3 .... P43
18 記録可能枚数※4 .... P35
19 EXテレコン(写真時) P109
20 ISO感度 P120
21 露出補正値 P119
　明るさ P102
　マニュアル露出アシスト P81
22 シャッタースピード P64
23 絞り値 P64
24 測光モード P145
25 露出メーター P56
　焦点距離表示 P58
　ステップズーム P58
26 AFエリア .... P64、131
27 カード(記録時のみ表示) P34
　記録経過時間: XXhXXmXXs※5 .... P160
28 iDレンジコントロール P146
29 Wi-Fi P190
30 ファンクションボタン設定 P42

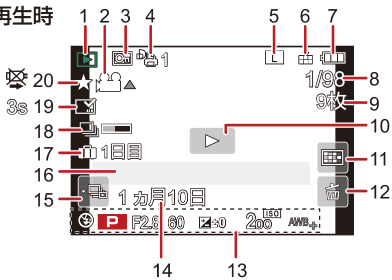
撮影時（各種設定後）



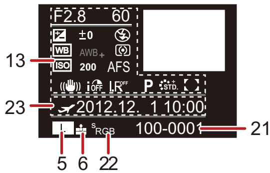
31 カスタムセット……P104
32 クリエイティブコントロール調整表示……P92
33 フラッシュ設定……P115、116
34 EXテレコン（動画時）……P108
35 電子シャッター……P150
スロー/クイック効果：160%……P165
36 写真撮影……P163
37 AFロック……P135
38 個人認証……P154
39 ヒストグラム表示……P55
40 ボケ味コントロール※3……P101
41 色合い※3……P102
42 明るさ※3……P102
43 タッチタブ（ ）※3……P59、102
44 ぼかし方（ジオラマ）※3：……P97
ワンポイントカラー※3：……P98
45 クリエイティブコントロール調整※3……P92
46 タッチタブ（ ）※3……P59、92
47 タッチタブ（ ）※3……P59、166
48 マイクレベル設定……P170
49 ホワイトバランスブラケット……P124
50 記録可能時間※4：残XXmXXs ※5……P35
51 ホワイトバランス微調整……P123
52 ホワイトバランス……P122
色合い：……P102
53 スポット測光ターゲット……P145
54 セルフタイマー※6……P140
インターバル撮影：……P149
55 現在日時/旅行先設定※7：……P44
56 プログラムシフト……P78
57 AEロック……P135
58 マイクレベル表示……P170
月齢/年齢※8……P157
旅行先※7……P45
59 名前※8……P157
トラベル経過日数※7……P45
60 同時記録表示……P163
61 デジタルズーム……P108
62 HDR……P147
多重露出：……P148

※1 モニター撮影情報画面にのみ表示されます。
※2 手ブレ補正機能対応レンズ装着時のみ表示されます。
※3 モニターにのみ表示されます。
※4 カスタムメニューの［残枚数/残時間切換］の設定で、記録可能枚数または記録可能時間の表示を切り換えることができます。
※5 hは「hour（時間）」、mは「minute（分）」、sは「second（秒）」を省略した表示です。
※6 カウントダウン中に表示されます。
※7 電源を入れたとき/時計設定後/再生から撮影モードへ切り換え後、約5秒間表示されます。
※8 ［プロフィール設定］を設定時、電源を入れた場合に約5秒間表示されます。

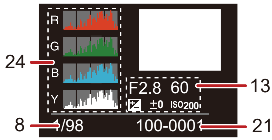
再生時



詳細情報表示



ヒストグラム表示



■ 再生時

※1 h は「hour（時間）」、m は「minute（分）」、s は「second（秒）」を省略した表示です。
※2 [AVCHD]で撮影した動画には表示されません。
※3 [タイトル]、[旅行先]、[名前]（赤ちゃん/ペット）、[名前]（個人認証）の優先順位で表示されます。
※4 撮影した動画には表示されません。

メッセージ表示

確認/エラー内容を画面に文章で表示します。
ここではその主なメッセージを例として説明しています。

メッセージ	原因・対策
この画像はプロテクトされています	画像のプロテクトを解除してから(P185)消去をしてください。
消去できない画像があります/この画像は消去できません	DCF規格に準拠していない画像は消去できません。 パソコンなどに必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P51)してください。
この画像には設定できません	DCF規格に準拠していない画像は[タイトル入力]、[文字焼き込み]、[プリント設定]ができません。
メモリーカードエラー/フォーマットしますか?	本機では使用できないフォーマットです。 ●別のカードを入れてお試しください。 ●パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P51)し直してください。 データは消去されます。
レンズが確認できません。またはカスタムメニューのレンズ無しレリーズがオフになっています。	●ライカレンズ用マウントアダプター(別売:DMW-MA2M、DMW-MA3R)使用時は、カスタムメニューの[レンズ無しレリーズ](P59)を[ON]に設定してください。
レンズが正しく装着されていません。レンズ装着時はレンズ取り外しボタンを押さないでください。	●レンズを一度外し、レンズ取り外しボタンを押さずに再度付け直してください。(P25) 再度電源を入れ直し、それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
レンズと通信できませんでした。レンズとの接点が汚れていないかご確認ください。	●レンズを本体から取り外し、レンズ側と本体側の接点を乾いた綿棒で軽くふいてください。再度レンズを取り付け、電源を入れ直し、それでも表示される場合はお買い上げの販売店にご連絡ください。
レンズが正しく動作しませんでした。電源を入れ直してください。	●レンズに手などで力が加わり、正常に動作しなかった場合に表示されます。再度、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
メモリーカードエラー/カードのパラメータが異常です/このカードは使用できません	本機に対応したカードをお使いください。(P34) ● SDメモリーカード(8 MB～2 GB) ● SDHCメモリーカード(4 GB～32 GB) ● SDXCメモリーカード(48 GB、64 GB)
カードを入れ直してください/別のカードでお試しください	●カードへのアクセスに失敗しました。もう一度カードを入れ直してください。 ●miniSDカード/microSDカード/microSDHCカードは、必ずアダプターに入れてから本機に挿入してください。 ●別のカードを入れてお試しください。

メッセージ	原因・対策
リードエラー/ライトエラー/カードを確認してください	●データの読み込みまたは書き込みに失敗しました。電源スイッチを [OFF]にしてからカードを抜いてください。再度カードを入れ、電源スイッチを[ON]にして記録または読み込みしてください。 ●カードが破壊されている可能性があります。 ●別のカードを入れてお試しください。
放送方式(NTSC/PAL)の異なるデータが存在するため、記録できません。	●パソコンなどに必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P51)してください。 ●別のカードを入れてお試しください。
カードの書込み速度不足のため記録を終了しました	●[AVCHD]、[MP4]で動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class4」以上のカードを使用してください。[MOV]動画では、「Class10」のカードを使用してください。 ●上記で指定するSDスピードクラスのカードを使用しても停止した場合は、データ書き込み速度が低下しているので、バックアップをとりフォーマット(P51)することをお勧めします。カードの種類によっては、途中で動画撮影が終了する場合があります。
フォルダーを作成できません	使用できるフォルダー番号がなくなったため、フォルダーを作成できません。 パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P51)してください。フォーマットを行ったあとにセットアップメニューの[番号リセット]を実行すると、フォルダー番号が100にリセットされます。(P50)
16:9TV用で出力します/4:3TV用で出力します	●[TV画面タイプ]を変更したい場合は、セットアップメニューで変更してください。(P48) ●USB接続ケーブルが本機のみに接続された場合も、メッセージが表示されます。 USB接続ケーブルのもう一方をパソコンやプリンターに接続すると、このメッセージは消えます。(P232、235)
情報取得中のため、編集操作はできません	パソコンや他機で画像の消去やファイル名の変更をしたカードを本機に入れると、自動的に新しい情報を取得してグループ画像を再構成します。画像ファイルが多いと再生画面に情報取得中アイコン[ ]が長時間表示されることがあり、その間消去や再生メニューの使用はできません。 ●情報取得中に電源スイッチを[OFF]にした場合、それまでに情報を取得できた画像のみがグループとして保存されます。再度電源を入れると情報取得が継続して再開されます。

メッセージ	原因・対策
このバッテリーは使えません	●パナソニック純正品のバッテリーをお使いください。それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。 ●バッテリーの端子部が汚れている場合は、端子部のごみなどを取り除いてください。
アクセスポイントの接続に失敗しました／ 接続できませんでした／ 送信先が見つかりませんでした	●無線アクセスポイントについて、以下をご確認ください。 – 本機に設定した無線アクセスポイント情報が間違っています。認証方式・暗号化方式・暗号化キーをご確認ください。(P197) – 無線アクセスポイントの電源が入っていません。 – 本機がサポートしていない無線アクセスポイントの設定です。 ●接続先のネットワーク設定をご確認ください。 ●他の機器の電波により、無線アクセスポイントに接続できない場合があります。無線アクセスポイントに接続している他の機器や、2.4 GHzの周波数を使用する機器の使用状況をご確認ください。
送信できる画像がありません	送信先の制限によって、送信できる画像が 1 つもない場合に表示されます。送信する画像のファイル形式を確認してください。(P188)
通信できませんでした。時間を空けて再度実行してください。/ ネットワークが切断されました。送信を中止しました。	●無線アクセスポイントの電波が弱くなっています。無線アクセスポイントの近くで接続してください。 ●サーバーから応答がない、または通信処理時間を超過しました。しばらくしてから再度実行してください。 ●無線アクセスポイントによっては、一定時間を経過すると自動的に接続が切断される場合があります。もう一度接続し直してください。
クラウドフォルダに画像をアップロードするには、他に PC やスマートフォン等のダウンロードできる機器をクラウド同期設定する必要があります。	●クラウドフォルダから画像をダウンロードする機器が登録されていません。 ●クラウド同期設定は、パソコンの場合は PHOTOfunSTUDIO で、スマートフォン/タブレットの場合はLUMIX LINKで設定してください。クラウド同期サービスについては 206 ページをご参照ください。

メッセージ	原因・対策
通信できませんでした	●接続先のスマートフォン/タブレットについて、以下をご確認ください。 – スマートフォン/タブレットが動作していません。 – スマートフォン/タブレット側のWi-Fi設定で、接続するアクセスポイントを本機に変更してください。 – スマートフォン/タブレットの保存容量に空きがありません。
ログインできませんでした。IDとパスワードを確認ください。	「LUMIX CLUB（PicMate）」のログインID、パスワードが間違っています。入力し直してください。 ログインID、パスワードを忘れてしまった場合は、「LUMIX CLUB（PicMate）」のホームページのログイン画面に案内があります。
送信先の制限のため、送信されないファイルがあります/送信完了しました。送信先の制限により、未送信のファイルがあります。	●送信する画像のファイル形式を確認してください。(P188) ●動画を送信する場合、ファイルサイズが大きいと送信できない場合があります。[動画分割]で動画を分割してください。(P178)
選択できません。PicMateのウェブページでログイン設定してください。	●スマートフォン/タブレットやパソコンでLUMIX CLUB（PicMate）にログインし、送信先 Webサービスのログイン処理を行ってください。
写真専用と動画専用のウェブサービスは、同時に選択できません	●写真専用の Web サービスと、動画専用の Web サービスを同時に選択することはできません。どちらかの選択を解除してください。
IP アドレスが取得できません。アクセスポイントのIPアドレス設定をDHCPにしてください。	●接続する無線アクセスポイントの IP アドレスの DHCP 設定を有効にしてください。
サーバと接続できませんでした	●ルート証明書を更新するメッセージが表示された場合は、ルート証明書の更新に同意してください。

メニュー一覧

以下をクリックすると、項目の先頭に移動します。

撮影　P253	カスタム　P256	再生　P259
動画　P255	セットアップ　P258	

撮影

画像横縦比、記録画素数などをお好みで設定できます。

● [フォトスタイル]、[測光モード]、[iDレンジコントロール]、[超解像]、[デジタルズーム]は、撮影メニューと動画撮影メニューに共通のメニュー項目です。どちらかの設定を変更すると、もう一方の設定も変更されます。

フォトスタイル	撮影したいイメージに合わせて効果を選択することができます。効果の色や画質を調整することができます。	P141
画像横縦比	画像の横縦比を設定します。	P143
記録画素数	記録画素数を設定します。	P143
クオリティ	画像を保存するときの圧縮率を設定します。	P144
測光モード	明るさを測る測光方式を設定します。	P145
連写速度	連写時の連写速度を設定します。	P136
オートブラケット	オートブラケット撮影時の単写/連写設定、補正幅、撮影順序を設定します。	P139
セルフタイマー	セルフタイマー撮影時の撮影までの時間などを設定します。	P140
iD レンジコントロール	コントラストや露出を自動的に補正します。	P146
超解像	より輪郭がはっきりした、解像感がある写真を撮影します。	P146
HDR	露出の異なる写真を 3 枚撮影して 1 枚の階調豊かな写真に合成します。	P147
多重露出	1 枚の画像に最大 4 回の露光を行ったような効果を得ることができます。	P148
インターバル撮影	撮影開始時刻、撮影間隔、撮影枚数を設定し、動植物などの被写体を時間経過を追って自動的に撮影することができます。	P149
電子シャッター	電子シャッターを使用して、ブレを抑えた写真を撮影できます。	P150
シャッターディレイ	手ブレを抑えるため、シャッターボタンを押したあと設定した時間が経過してからシャッターが切れます。	P150
フラッシュ設定	撮影内容に合わせて、フラッシュの設定を行います。	P151
デジタル赤目補正	フラッシュ発光での赤目を自動的に検出し、画像データを修正します。	P151

ISO感度ステップ	ISO感度の設定を1/3 EVごと、または1 EVごとの設定値に変更します。	P151
拡張 ISO 感度	ISO 感度が最小 [ISO125]、最大[ISO25600]まで設定できるようになります。	P152
長秒ノイズ除去	シャッタースピードを遅くして撮影することで発生するノイズを取り除きます。	P152
シェーディング補正	レンズの特性によって画面周辺が暗くなる場合、画面周辺の明るさを補正します。	P152
EX テレコン(写真)	記録画素数を [L] 以外に設定すると、画質を劣化させずに望遠効果を高めます。	P109
デジタルズーム	望遠効果を高めます。拡大するほど画質は劣化します。	P108
色空間	撮影した画像をパソコンの画面やプリンターなどで再現する場合に、色再現を正しく行うための方式を設定します。	P153
手ブレ補正	撮影時の手ブレを感知して、カメラが自動的に補正します。	P106
個人認証	登録した顔に自動で優先的にピントや露出を合わせます。	P154
プロフィール設定	あらかじめ赤ちゃんやペットの名前や誕生日を設定することで、名前や月齢/年齢を画像に記録することができます。	P157

動画

記録方式や画質設定など、動画撮影時の設定ができます。

- [フォトスタイル]、[測光モード]、[iDレンジコントロール]、[超解像]、[デジタルズーム]は、撮影メニューと動画撮影メニューに共通のメニュー項目です。どちらかの設定を変更すると、もう一方の設定も変更されます。
  – 詳しくは、撮影メニューの同じ項目をお読みください。

記録方式	記録する動画のファイル形式を設定します。	P158
画質設定	記録する動画の画質を設定します。	P158
動画露出設定	クリエイティブ動画モード時の絞り値、シャッタースピードの設定方法を選びます。	P164
スロー/ クイック効果	クリエイティブ動画モード時に、動画にスロー/ クイック効果をかけます。	P165
写真撮影	動画撮影中の写真の記録方法を設定します。	P163
AF 連続動作	ピントを合わせた被写体にピントを合わせ続けます。	P160
タイムコード設定	タイムコードの設定を行います。	P167
動画ハイライト表示	白飛びの起こっている部分を黒と白の点滅で表示します。	P169
EX テレコン(動画)	望遠効果を高めます。	P108
フリッカー軽減	動画のちらつきや横しまを軽減させるために、シャッタースピードを固定することができます。	P169
タッチ静音操作	タッチ操作をすることで、動画撮影中でも静かに操作できます。	P166
マイクレベル表示	マイクレベルを撮影画面に表示するかしないかを設定します。	P170
マイクレベル設定	音声入力のレベルを 19 段階に調整します。	P170
専用マイク設定	ステレオガンマイクロホン(別売)接続時の収音方法を設定します。	P243
ヘッドホン出力音	ヘッドホン(別売)接続時の音声出力方法を設定します。	P162
風音低減	音声記録時に風雑音がある場合に、風雑音を効果的に低減します。	P170

カスタム

画面の表示方法やボタンの働きなど、本機の操作をお好みに応じて設定できます。また、変更した設定内容を登録しておくことができます。

カスタムセット登録	現在のカメラの設定をカスタムセットとして登録します。	P104
AF/AEロック切換	AF/AE ロック を行ったときに、ピントや露出の固定内容を設定します。	P135
AF/AEロック維持	ピントや露出を固定して撮影する際の[AF/AE LOCK]のボタン動作を設定します。	P52
シャッター半押しAF	シャッターボタン半押し時に、自動的にピントを合わせるか合わせないかを設定します。	P52
シャッター半押しレリーズ	シャッターボタン半押しで、すぐにシャッターを切ることができます。	P52
AFS/AFF	フォーカスモードレバーの[AFS/AFF]に、[AFS]または[AFF]のいずれかを割り当てます。	P52
クイックAF	シャッターボタンを押した際のピント合わせを速くします。	P52
アイセンサーAF	アイセンサー動作時に、カメラが自動的にピント合わせを行います。	P63
ピンポイントAF時間	オートフォーカスモードを[⊞]に設定時、シャッターボタンを半押ししたときに画面表示が拡大される時間を設定します。	P53
AF補助光	暗い場所での撮影時、ピントを合わせやすくするためにシャッターボタン半押しでAF補助光ランプが点灯します。	P53
ダイレクトフォーカス移動	撮影時にカーソルボタンを使って、AF エリアや MF アシストを移動します。	P132、P133
フォーカス/レリーズ優先	ピントが合っていない場合は撮影できないように設定します。	P54
AF+MF	自動でピントを合わせたあと、手動でピントを合わせることができます。	P54
MFアシスト	MFアシスト（拡大画面）の表示方法を設定します。	P54
MFガイド	手動でピントを合わせると、ピントを合わせる方向を確認できる MF ガイドを画面に表示します。	P133
ヒストグラム表示	ヒストグラムを表示するかしないかを設定します。	P55
ガイドライン表示	撮影時に表示するガイドラインのパターンを設定します。	P55

ハイライト表示	オートレビューまたは再生時に、白飛びの起こっている部分を黒と白の点滅で表示します。	P56
常時プレビュー（M モード）	マニュアル露出モード時に、撮影画面で絞り効果、シャッタースピード効果の確認ができます。	P82
露出メーター	露出メーターを表示するかしないかを設定します。	P56
LVF表示スタイル	ファインダーの表示方法を設定します。	P67
モニター表示スタイル	モニターの表示方法を設定します。	P67
モニター撮影情報画面	モニターの撮影情報画面を表示します。(P67)	P56
記録枠表示	動画撮影時の画角と写真撮影時の画角を切り換えます。	P56
残枚数/残時間切換	記録可能枚数または記録可能時間の表示を切り換えます。	P57
オートレビュー	写真撮影後に撮影画像を表示する時間を設定します。	P57
Fn（ファンクション）ボタン設定	ファンクションボタンに、撮影機能などを割り当てます。	P42
Q.MENU	クイックメニューの設定方法を切り換えます。	P57
ダイヤル設定	後ダイヤルと前ダイヤルの操作方法を変更します。	P57
動画ボタン	動画ボタン動作の有効、無効を設定します。	P57
パワーズームレンズ	パワーズーム（電動式ズーム）対応交換レンズ使用時の画面の表示やレンズの動作を設定します。	P58
アイセンサー	アイセンサーの有効、無効を設定します。また、アイセンサーの感度を設定します。	P59
タッチ設定	タッチ操作の有効、無効を設定します。	P59
タッチ再生送り速度	タッチ操作で画像を連続して送るときの画像送りの速さを設定します。	P59
メニューガイド	モードダイヤルを SCN / ⌘ に切り換えたときに表示される画面を設定します。	P59
レンズ無しレリーズ	本体にレンズを取り付けていないときに、シャッターが切れるようにするか、切れないようにするかを設定します。	P59

セットアップ

時計の設定や電子音の切り換えなど、使いやすさの設定ができます。Wi-Fi機能に関する設定もできます。

時計設定	日付や時刻を変更するときに設定します。	P37
ワールドタイム	お住まいの地域と旅行先の時刻を設定します。	P44
トラベル日付	旅行の出発日と帰着日を設定したり、旅行先の名前を設定します。	P45
Wi-Fi	Wi-Fi 機能を使うために必要な各種設定を行います。	P221
電子音	電子音や電子シャッター音の音量を設定します。	P45
スピーカー音量	スピーカーの音量を7段階に調整します。	P46
ヘッドホン音量	ヘッドホン(別売)接続時の音量を16段階に調整します。	P46
モニター調整/LVF調整	モニター/ファインダーの明るさや色合い、または赤みや青みなどの色みを調整します。	P46
モニター輝度	周囲の明るさに応じて、モニターの明るさを設定できます。	P46
エコモード	本機の電力消費を抑えたり、バッテリーの消耗を防ぎます。	P47
バッテリー使用順序	本機とバッテリーグリップのそれぞれにバッテリーを入れたときは、どちらのバッテリーから先に使うかを設定できます。	P243
USBモード	USB接続ケーブル(付属)接続時の通信方式を設定します。	P47
映像出力	テレビなどとの接続のしかたを設定します。	P48
ビエラリンク	ビエラリンク対応機器と自動的に連動させます。	P49
3D テレビ出力	3D画像の出力方法を設定します。	P49
メニュー位置メモリー	最後に操作したメニュー項目の選択位置を、メニューの種類ごとに記憶します。	P49
メニュー背景色	メニュー画面の背景色を設定します。	P49
メニューインフォメーション	メニュー画面にメニュー項目/設定内容の説明文を表示します。	P49
バージョン表示	本体とレンズのファームウェアバージョンを確認できます。	P50
番号リセット	画像のファイル番号を0001に戻します。	P50
設定リセット	設定をお買い上げ時の状態に戻します。	P50
Wi-Fi 設定リセット	Wi-Fiメニューで設定したすべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。([PicMate 設定]は除く)	P50
ピクセルリフレッシュ	撮像素子と画像処理の最適化を行います。	P51
センサークリーニング	撮像素子前面に付着したごみやほこりを払い落とすダストリダクションを行います。	P51
フォーマット	カードをフォーマット(初期化)します。	P51

再生

画像の保護、切り抜き、プリントするときに便利な設定など、撮影した画像に対する設定ができます。

2D/3D 切換	3D 画像の再生方法を切り換えます。	P171
スライドショー	画像の種類などを選んで、順番に再生します。	P171
再生モード	再生する画像の種類などを選び、特定の画像のみを再生します。	P173
位置情報記録	スマートフォン/タブレットで取得した位置情報（緯度・経度）を本機に送信して、写真に位置情報を書き込むことができます。	P174
タイトル入力	撮影した写真に文字（コメント）を入力します。	P175
文字焼き込み	撮影した写真に、撮影日時、名前、旅行先、トラベル日付などを焼き込みます。	P176
動画分割	撮影した動画を 2 つに分割します。	P178
リサイズ（縮小）	画像のサイズ（記録画素数）を小さくします。	P179
トリミング（切抜き）	撮影した写真の必要な部分を切り抜きます。	P180
画像回転	画像を手動で 90° ずつ回転させます。	P181
縦位置自動回転	本機を縦に構えて撮影した写真を縦向きに表示させることができます。	P181
お気に入り	画像にマークを付け、お気に入り画像として設定します。	P182
プリント設定	プリントする画像や枚数などを設定します。	P183
プロテクト	画像を誤って消去することがないように保護します。	P185
認証情報編集	個人認証に関する情報の解除や入れ換えをします。	P186

Q & A　故障かな？と思ったら

まず、以下の方法(P260～271)をお試しください。

それでも解決できない場合は、セットアップメニューの[設定リセット](P50)を行うと症状が改善する場合があります。
これらの処置をしても直らないときは、取扱説明書 基本操作編の「保証とアフターサービス」をお読みください。

■ バッテリー、電源について

Q(質問)	A(回答)
電源スイッチを[ON]にしても動作しない。またはすぐに切れる。	● バッテリーが消耗しています。充電してください。 ● 電源を入れたまま放置しているとバッテリーは消耗します。 → [エコモード](P47)を使うなどして、こまめに電源を切ってください。
電源が勝手に切れる。	● ビエラリンク(HDMI)対応のテレビとHDMIミニケーブル(別売)で接続した場合、テレビのリモコンを使ってテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。 → ビエラリンク(HDMI)を使用しない場合は、本機の[ビエラリンク]を[OFF]に設定してください。(P49)
バッテリー扉が閉じない。	● バッテリーを確実に奥まで挿入してください。(P32)
バッテリーの消耗が早い。	● 長時間Wi-Fi接続を行っていませんか？Wi-Fi接続中はバッテリーの消耗が早くなります。 → [エコモード](P47)を使うなどして、こまめに電源を切ってください。

■ 撮影について

Q(質問)	A(回答)
撮影できない。シャッターを押しても、すぐにシャッターが切れない。	● ピントは合っていますか？ → お買い上げ時は、[フォーカス/レリーズ優先]が[フォーカス]に設定されているため、ピントが合うまで撮影されません。ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、[フォーカス/レリーズ優先]を[レリーズ]に設定してください。(P54)
撮影した画像が白っぽい。	● レンズや撮像素子に指紋などの汚れが付くと画像が白っぽくなることがあります。 → 汚れたときは、電源スイッチを[OFF]にし、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。撮像素子が汚れたときは、273ページをお読みください。
撮影した画像が明るすぎたり、暗すぎる。	→ 露出が正しく補正されているか確認してください。(P119) ● 不適切な状態でAEロック(P135)がかかっていませんか？
1回の撮影で、複数の画像が撮れるときがある。	→ ホワイトバランスブラケット(P124)の設定を解除してください。 ● セルフタイマー(P140)を[⏱10]に設定していませんか？

■ 撮影について（続き）

Q（質問）	A（回答）
ピントが合わない。	● ピントが合う範囲から外れています。(P64) ● 手ブレや被写体ブレしています。(P106) ● [フォーカス/レリーズ優先]が[レリーズ]になっていませんか？(P54)この場合、フォーカスモードを[AFS]、[AFF]または[AFC]に設定していても、ピントが合っていないことがあります。 ● [シャッター半押しAF]が[OFF]になっていませんか？(P52) ● 不適切な状態でAFロック(P135)がかかっていませんか？
撮影した画像がブレている。 手ブレ補正が効かない。	● 特に暗い場所で撮影すると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレ補正が十分に働かないことがあります。 → 本機を両手でしっかり持って撮影してください。(P61) → 遅いシャッタースピードで撮影するときは三脚を使用し、セルフタイマー(P140)を使って撮影してください。 ● 手ブレ補正機能に対応したレンズをお使いですか？(P24)
ホワイトバランスブラケット撮影ができない。	● カードのメモリー残量はありますか？
撮影した画像が粗い。 ノイズが出る。	● ISO感度が高い、またはシャッタースピードが遅くないですか？（お買い上げ時は、ISO感度が[AUTO]に設定されているため、室内などの撮影ではノイズが出ます） → ISO感度を低くしてください。(P120) → [フォトスタイル]の[ノイズリダクション]をプラス方向にするか、[ノイズリダクション]以外の各項目をマイナス方向に調整してください。(P142) → 明るい場所で撮影してください。 → [長秒ノイズ除去]を[ON]に設定してください。(P152) ● [記録画素数](P143)または[クオリティ](P144)を低く設定していませんか？ ● [デジタルズーム]を設定していませんか？(P108)
蛍光灯やLEDなどの照明器具下でちらつきや横しまが出る。	 ● これは、本機の撮像素子であるMOSセンサーの特徴であり、異常ではありません。 ● 動画撮影中にちらつきや横しまが目立つ場合、[フリッカー軽減](P169)を設定すると、シャッタースピードを固定することで、ちらつきや横しまを軽減できます。シャッタースピードは[1/50]、[1/60]、[1/100]、[1/120]から選択できます。クリエイティブ動画モード(P164)でも手動でシャッタースピードを設定できます。
ISO感度が高いとき、横しまが出る。（交換レンズH-H020装着時）	● ISO感度が高いとき、使用するレンズによっては横しまが撮影されることがあります。 → ISO感度を低くしてください。(P120)

■ 撮影について（続き）

Q（質問）	A（回答）
撮影した画像の明るさや色合いが実際とは異なる。	●蛍光灯や LED などの照明下での撮影時、シャッタースピードが速くなると、明るさや色合いが多少変化する場合があります。これは光源の特性により発生するものであり、異常ではありません。 ●極端に明るい場所で被写体を撮影したり、蛍光灯、LED、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で撮影すると、色合いや画面の明るさが変わったり、画面に横帯が現れたりすることがあります。
被写体にない明るい点が記録される。	●撮像素子の画素欠けの可能性があります。[ピクセルリフレッシュ](P51)を行ってください。
被写体をロックできない。（動体追尾できない）	●周囲と異なる色の部分がある場合は、その部分を追尾AF枠に合わせるなど、被写体の特徴的な色の部分を追尾AF枠に合わせて設定してください。(P129)
操作音が小さい。	●スピーカーを指で塞いでいませんか？(P17)

■ 動画について

Q（質問）	A（回答）
動画が撮影できない。	●容量の大きなカードをご使用の場合は、電源スイッチを[ON]にしたあとしばらくの間撮影できないことがあります。
動画撮影が途中で止まる。	●[AVCHD]、[MP4]で動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class4」以上のカードを使用してください。[MOV]で動画撮影の際は、SDスピードクラスが「Class10」のカードを使用してください。 ●使用するカードによっては、途中で動画撮影が終了する場合があります。 → 上記で指定するSDスピードクラスのカードを使用しても停止した場合や、何度も記録･消去を繰り返したカードまたはパソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用している場合は、データ書き込み速度が低下しているので、バックアップをとり本機でフォーマット(P51)することをお勧めします。
動画撮影中に画面が暗くなる。	●動画撮影中、バッテリーの消耗を防ぐため時間経過により画面が暗くなることがありますが、撮影された動画に影響はありません。
一瞬画面が黒くなったり、ノイズが記録される。	●動画撮影時の環境によっては、静電気や電磁波などにより、一瞬画面が黒くなったり、ノイズが記録される場合があります。
被写体がゆがんで見える。	●本機の撮像素子にMOSを使用しているため、被写体が素早く横切った場合、少しゆがんで見えることがありますが、故障ではありません。

動画について（つづき）

Q（質問）	A（回答）
動画に「カチッ」、「ジー」などの異常音が録音される。 録音される音声が非常に小さい。	● 静かな環境下での撮影や、使用するレンズによっては、絞りやフォーカスの動作音が動画に録音されることがあります。これは異常ではありません。動画撮影中のフォーカス動作は[AF連続動作](P160)で[OFF]に設定することができます。 ● 動画撮影中にズームやボタン、ダイヤル操作などをすると、その操作音が記録される場合があります。操作音が気になるときは、[タッチ静音操作]を使って撮影することをお勧めします。(P166) ● 動画撮影中にマイクの穴を指で塞ぐと音声が小さく録音されたり、録音されない場合があります。またこのとき、レンズの動作音が録音されやすくなりますのでお気をつけください。

レンズについて

Q（質問）	A（回答）
撮影された画像がゆがんだり、被写体の周りに実際にはない色が付く。	● 使用するレンズによっては、ズームの倍率によりレンズの特性上僅かにゆがんだり、輪郭などに着色して撮影されることがあります。また広角では遠近感が強調されるため、画面の周辺がゆがんだように写る場合もあります。これらは異常ではありません。

フラッシュについて

Q（質問）	A（回答）
フラッシュが発光しない。	● フラッシュを閉じていませんか？ → フラッシュオープンボタンを押して、フラッシュを開いてください。(P111)
フラッシュが２回発光する。	● フラッシュは 2 回発光します。特に赤目軽減(P113)に設定している場合は、発光間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。

モニター/ ファインダーについて

Q（質問）	A（回答）
電源 [ON] 中に、モニター/ファインダーが消える。	● 設定した時間の間に何も操作をしないと、[LVF/モニター自動OFF](P47)が働き、モニター/ファインダーが消灯します。 ● アイセンサーの近くに手や物があることにより、モニター表示がファインダー表示に切り換わっていることがあります。(P62)

■ モニター/ファインダーについて（続き）

Q（質問）	A（回答）
モニター/ファインダーが明るすぎたり、暗すぎる。	●[モニター輝度]の設定を確認してください。(P46) ●[モニター調整]/[LVF調整]を行ってください。(P46)
一瞬ちらつく、または一瞬画面の明るさが大きく変化することがある。	●シャッターボタンを半押ししたときや、被写体の明るさが変化したときにレンズの絞りが変化することで発生する現象です。故障ではありませんので、安心してお使いください。
モニターに画像が出ない。	●ファインダー表示になっていませんか？ →[LVF]ボタンを押して、モニター表示に切り換えてください。(P62) ●モニターが消灯になっていませんか？ →[DISP.]ボタンを押して表示情報を切り換えてください。(P67)
[LVF]ボタンを押してもモニターとファインダーが切り換わらない。	●パソコンやプリンターと接続しているときは、本機の画面はモニター表示のみになります。
モニター/ファインダー上に黒、赤、青、緑の点が現れる。	●これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので、安心してご使用ください。
モニター/ファインダーに明るさや色のむらが現れる。	●本機のモニター/ファインダーは有機ELを使用しているため、長時間同じ画面を表示すると焼き付けが発生します。記録される画像には問題ありません。 →[エコモード](P47)や画面の消灯(P67)、アイセンサー(P62)を使うなどして、こまめに画面を切り換えてください。
モニターにノイズが出る。	●暗い場所では、モニターの明るさを維持するためにノイズが出ることがあります。
モニターを斜めから見ると色が着いて見える。	●これは本機モニターの特徴であり、異常ではありません。
ファインダーの色合いが実際とは異なる。	●これは本機ファインダーの表示方式の特徴であり、異常ではありません。記録される画像には問題ありません。

■ 再生について

Q（質問）	A（回答）
再生した画像が回転しない。 意図しない方向に回転して表示される。	●[縦位置自動回転](P181)を[OFF]にすると画像は回転せずに表示されます。 ●[画像回転](P181)で画像を回転することができます。

■ 再生について（続き）

Q（質問）	A（回答）
再生できない。 撮影した画像がない。	● [▶]ボタンを押しましたか？ ● カードは入っていますか？ ● カードに再生できる画像はありますか？ ● パソコンで加工したフォルダーや画像ではないですか？その場合、本機で再生することはできません。 → パソコンからカードに画像を書き込む場合は、CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO」を使うことをお勧めします。 ● [再生モード]を設定していませんか？ → [通常再生]に設定してください。(P173)
フォルダー・ファイル番号が[—]で表示されたり、画面が黒くなる。	● 規格外の画像やパソコンで編集された画像、または他社のデジタルカメラで撮影した画像ではないですか？ ● 撮影直後にバッテリーを取り出したり、残量が少なくなったバッテリーで撮影していませんか？ → このような画像を消去するには、フォーマット(P51)してください。（他の画像も消去され、元に戻すことができませんので、よく確認してからフォーマットしてください）
再生音や操作音が小さい。	● スピーカーを塞いでいませんか？(P17)
カレンダー再生で、撮影した日付と異なる日付に画像が表示される。	● 本機の時計設定を正しい日時に設定して撮影しましたか？(P37) ● パソコンで編集された画像や他機で撮影された画像では、カレンダー再生時、撮影した日付と異なる日付で表示されることがあります。
撮影した画像にシャボン玉のような白く丸い点が写り込んでいる。	● 室内や暗い場所でフラッシュを使い撮影した場合に、空気中のほこりがフラッシュに反射して白く丸い点として写り込むことがありますが、異常ではありません。撮影ごとに丸い点の位置や数が変化するのが特徴です。 
画面に「サムネイル表示」と表示される。	● 他機で撮影された写真ではないですか？その場合、画質が劣化して表示されることがあります。
撮影した画像の赤い部分が黒く変色している。	● デジタル赤目補正（[⚡◎]、[⚡S◎]）が動作しているとき、肌色に近い色とその内側に赤い模様などがある被写体を撮影した場合、デジタル赤目補正機能の働きにより、その赤い部分が黒く補正されることがあります。 → フラッシュを閉じるか、フラッシュモードを[⚡]にする、または[デジタル赤目補正]を[OFF]にして撮影することをお勧めします。(P151)
本機で撮影した動画が他機で再生できない。	● 動画は、それぞれの対応機器であっても、再生すると画質や音質が悪くなったり、再生できない場合があります。また撮影情報が、正しく表示されない場合があります。

Wi-Fi 機能について

Q（質問）	A（回答）
無線LANに接続できない。電波が途切れる。	● 無線LANネットワークの通信圏内でご使用ください。 ● 無線アクセスポイントにより接続方式やセキュリティーの設定方法が異なります。 → 無線アクセスポイントの説明書をご確認ください。 ● 電波が途切れる場合は、無線アクセスポイントの置き場所や角度を変えると電波状態が良くなる場合があります。 ● 無線アクセスポイントのネットワークSSIDが非通知設定の場合、自動接続できない場合があります。 → 無線アクセスポイントのネットワークSSIDの非通知設定を解除してください。 ● 2.4 GHz帯の周波数を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器を近くでご使用されていませんか？ → 同時に使用された場合、電波が途切れることがあります。機器から十分に離してご使用ください。 ● 5 GHz/2.4 GHz 切り換え式の無線アクセスポイントが5 GHz 帯で他の機器と接続中ではありませんか？ → 5 GHz/2.4 GHz同時使用できる無線アクセスポイントのご使用をお勧めします。対応していない場合は本機と同時使用できません。 ● バッテリー残量表示が赤く点滅している場合は、他の機器と接続できなかったり、通信が途切れたりすることがあります。（[通信エラー]などのメッセージが表示されます）
無線アクセスポイントが表示されない。または接続できない。	● 接続したい無線アクセスポイントが使用可能な状態になっているか確認してください。 ● 無線アクセスポイントの電波状況によっては、無線アクセスポイントを表示できない、または接続できないことがあります。 → 無線アクセスポイントの近くで接続してください。 ● 無線アクセスポイントの設定内容によっては、電波が存在していても表示されないことがあります。 → 無線アクセスポイントの設定内容をご確認ください。 本機が対応している無線チャンネルは1～11チャンネルです。 無線アクセスポイントの無線チャンネルが自動で設定されない場合は、手動で無線アクセスポイントの無線チャンネルを1～11チャンネルの中から選び、設定してください。 ● 電波状況により無線アクセスポイントが見つからない場合があります。 → [手動接続]を行ってください。(P197) ● 無線アクセスポイントのネットワークSSIDが非通知に設定されていませんか？ → 非通知に設定されている場合、検出されない場合があります。ネットワークSSIDを入力して設定してください。(P197) ● 以下をお試しください。 – 本機と無線アクセスポイントを近づける – 本機と無線アクセスポイントの間の障害物を取り除く – 本機の向きを変える

■ Wi-Fi 機能について（続き）

Q（質問）	A（回答）
スマートフォン/タブレットとの接続に毎回時間がかかる。	●スマートフォン/タブレットのWi-Fi接続設定によっては時間がかかることがありますが、故障ではありません。
スマートフォン/タブレットのWi-Fi設定画面で本機が表示されない。接続設定に時間がかかる。	→スマートフォン/タブレットのWi-Fi設定で、Wi-Fi機能のON/OFF を切り換えてみてください。
LUMIX CLUB（PicMate）のログインID、パスワードを忘れた。	●「LUMIX CLUB（PicMate）」のログイン画面にある案内を確認してください。 http://lumixclub.panasonic.net/jpn/
LUMIX CLUB（PicMate）の公開設定が変更できない。	●本機から公開設定を変更することはできません。 →スマートフォン/タブレットまたはパソコンから「LUMIX CLUB（PicMate）」にログインして設定を変更してください。
LUMIX CLUB（PicMate）の画像を表示すると、最新でない画像が表示される。	●パソコンで編集した場合、撮影日ではなく、更新日時がその画像の日付になります。 ●表示順は「LUMIX CLUB（PicMate）」の画像管理のルールにも影響されることがあります。
自宅に無線アクセスポイントがないが、LUMIX CLUB（PicMate）のサービスユーザー登録をしたい。	●無線アクセスポイントがない環境では「LUMIX CLUB（PicMate）」のサービスユーザー登録はできません。
パソコンに画像を送信できない。	●OSおよびセキュリティソフトウェアなどのファイアウォールが有効になっている場合、パソコンに接続できないことがあります。
Webサービスに画像を送信できない。	→ログイン情報（ログインID/ユーザー名/メールアドレス/パスワード）が間違っていないか確認してください。 ●Webサービスのサーバー、もしくは回線が混雑している可能性があります。 →しばらくしてから再度実行してください。 →LUMIX CLUB（PicMate）（http://lumixclub.panasonic.net/jpn/）や送信先の Web サービスのサイトもご確認ください。
Webサービスに画像を送信するのに時間がかかる。	●画像のサイズが大きすぎませんか？ →［送信サイズ］(P203)で画像サイズを小さくして送信してください。 →［動画分割］(P178)で動画を分割して送信してください。 ●無線アクセスポイントと離れていると、送信するのに時間がかかる場合があります。 →無線アクセスポイントの近くで送信してください。

■ Wi-Fi 機能について（続き）

Q（質問）	A（回答）
Webサービスにアップロードしたはずの画像が見えない。	●画像送信中に切断された場合、アップロードを完了できないことがあります。 ●サーバーの状況によっては、画像をアップロードしてから Webサービスに反映されるまで少し時間がかかることがあります。 →しばらく待ってからもう一度お試しください。 ●「LUMIX CLUB (PicMate)」にログインし、「Webサービス連携設定」で送信状況を確認することができます。
Webサービスの画像をカメラに戻したい。	●Webサービス上の画像は本機に保存（ダウンロード）することはできません。アップロードした画像は消去せず、必ずバックアップを残してください。
Webサービスにアップロードした画像を本機で表示したり消去することができない。	●Webサービスにアップロードした画像を本機で表示したり消去することはできません。 →スマートフォン/タブレットやパソコンで操作してください。
修理に出したらLUMIX CLUB (PicMate)のログインID、パスワードなどが消えてしまった。	●修理の内容によっては、本機に登録された設定内容は消えてしまうことがあります。 →大切な設定は必ず控えを取っておいてください。
送信できなかった画像がある。	●画像のサイズが大きすぎませんか？ →[動画分割]で動画を分割してください。(P178) →[送信サイズ] で写真のサイズを小さくしてください。(P203) ●Web サービスの容量または枚数がいっぱいになっています。 →「LUMIX CLUB (PicMate)」にログインし、「Webサービス連携設定」で送信先の状況を確認してください。
Wi-Fiのパスワードを忘れた。	→セットアップメニューの[Wi-Fi設定リセット] を実行してください。(P50) →ただし、「LUMIX CLUB (PicMate)」のログイン設定など、お客様がWi-Fi設定メニューで設定したすべての情報もリセットされます。([PicMate 設定]は除く)
画像送信が途中で失敗する。	●画像のサイズが大きすぎませんか？ →[動画分割]で動画を分割して送信してください。(P178) →[送信サイズ]で写真のサイズを小さくして送ってください。(P203) →バッテリー残量表示が赤く点滅している場合は、画像を送信できません。

Wi-Fi 機能について（続き）

Q（質問）	A（回答）
動画が送信できない。	●送信先により送信できる動画のファイル形式は異なります。(P188) ●画像のサイズが大きすぎませんか？ →[動画分割]で動画を分割して送信してください。(P178)
AV機器に画像が送信できない。	●AV機器の操作状態によっては、送信できない場合があります。また、送信に時間がかかる場合があります。

テレビ、パソコン、プリンターについて

Q（質問）	A（回答）
テレビに画像が出ない。テレビ画面が流れたり色が付かない。	●正しく接続されていますか？ →テレビの入力切換を外部入力にしてください。
テレビ画面と本機のモニターの表示される領域が違う。	●テレビの機種によっては、画像が縦や横に伸びたり、画像の端が切れて表示されることがあります。
テレビで動画の再生ができない。	●カードを直接テレビに差し込んで再生していませんか？ →AVケーブル（別売）またはHDMIミニケーブル（別売）をテレビに接続し、本機で動画を再生してください。(P226)
テレビ画面いっぱいに画像が表示されない。	→本機の[TV画面タイプ]を確認してください。(P48)
ビエラリンク（HDMI）が働かない。	●HDMIミニケーブル（別売）で正しく接続されていますか？(P226) →HDMIミニケーブル（別売）が奥まで確実に入っていることを確認してください。 →本機の[▶]ボタンを押してください。 ●本機の[ビエラリンク]を[ON]に設定していますか？(P49) →テレビのHDMI端子によっては、入力切換が自動で切り換わらない場合があります。そのときはテレビのリモコンを使って入力切換してください。（入力切換の方法はテレビの取扱説明書をお読みください） →接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。 →本機の電源を入れ直してください。 →テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク制御（HDMI機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定してください。（詳しくはビエラの取扱説明書をお読みください）

■ テレビ、パソコン、プリンターについて（続き）

Q（質問）	A（回答）
パソコンとの通信ができない。	● 正しく接続されていますか？ ● パソコンが本機を正常に認識していますか？ → 本機の[USBモード]を[PC]に設定してください。(P47、232) → 本機の電源を入れ直してください。
パソコンにカードが認識されない。	→ USB接続ケーブルを抜き、カードを入れた状態でUSB接続ケーブルを接続し直してください。 → 1台のパソコンに2つ以上のUSB端子がある場合、別のUSB端子に接続してみてください。
パソコンにカードが認識されない。（SDXCメモリーカードを使用している）	→ お使いのパソコンがSDXCメモリーカードに対応しているか確認してください。 http://panasonic.jp/support/sd_w/ → 接続時にカードのフォーマットを促すメッセージが表示されることがありますが、フォーマットしないでください。 → モニターの「通信中」の表示が消えない場合、電源を切ってからUSB接続ケーブルを抜いてください。
プリンターに接続して、プリントができない。	● PictBridgeに対応していないプリンターではプリントできません。 → 本機の[USBモード]を[PictBridge(PTP)]に設定してください。(P47、235)
プリントすると、画像の端が切れる。	→ トリミング（切抜き）や「縁なし」印刷機能のあるプリンターをお使いのときは、トリミング（切抜き）または「縁なし」の設定を解除してお試しください。（プリンターの説明書をお読みください） → お店によっては、横縦比を16:9に設定して撮影した画像を16:9のサイズでプリントできる場合がありますので、事前にお店にお尋ねください。

■ その他

Q(質問)	A(回答)
電源[ON]時に、本体から音がする。	●ダストリダクション機能(P273)が動作する音で、故障ではありません。
レンズ部から音がする。	●電源[ON]または[OFF]時にレンズ移動や絞り動作を行う音で、故障ではありません。 ●ズーム操作や本機を動かしたときなどに明るさが変化した場合、レンズ部から音がして、モニターの画像が急激に変わることがありますが、撮影に影響はありません。このときの音は本機の自動絞り動作によるもので、異常ではありません。
画像の一部が白と黒に点滅する。	●白飛びが起こっている部分を示す、ハイライト表示機能です。(P56)
シャッターボタンを半押しすると、赤いランプが点灯することがある。	●暗い場所ではピントを合わせやすくするために、AF補助光ランプ(P53)が赤く点灯します。
AF補助光が点灯しない。	●[AF補助光]を[ON]に設定していますか？(P53) ●明るい場所ではAF補助光は点灯しません。
本機が熱くなる。	●ご使用中、本機表面やモニターの裏側が多少熱くなることがありますが、性能・品質には問題ありません。
時計が合っていない。	●本機を長期間放置すると、時計がリセットされることがあります。 →「時計を設定してください」とメッセージが出ますので、再度時計設定をしてください。(P37)
ファイル番号が連続して記録されない。	●特定の操作を行ったあとに操作を行うと、それまでとは異なった番号のフォルダーの中に画像が記録されることがあります。
ファイル番号がさかのぼって記録される。	●電源スイッチを[OFF]にせずバッテリーを出し入れした場合、撮影していたフォルダー・ファイル番号を記憶することができません。したがって、再度電源スイッチを[ON]にして撮影した場合、ファイル番号がさかのぼって記録されることがあります。

使用上のお願い

本機について

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ(電子レンジ、テレビやゲーム機など)からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響を及ぼし、画像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーを取り出したりACアダプター(別売:DMW-AC8)、DCカプラー(別売:DMW-DCC12)を一度抜いてから、あらためて挿入または接続し、電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影画像や音声が悪くなることがあります。

付属のコード、ケーブルを必ず使用してください。別売品をお使いの場合は、別売品に付属のコード、ケーブルを使用してください。
また、コード、ケーブルは延長しないでください。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

お手入れについて

お手入れの際は、バッテリーまたはDCカプラーを取り出しておく、または電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水に浸した布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ズームリングやフォーカスリングに付いたほこりや汚れは、ほこりの出にくい乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 化学雑巾をご使用の際は、その注意書きに従ってください。

続く

■ 撮像素子のごみの付着について

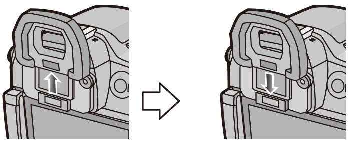
本機はレンズ交換方式のため、レンズ交換の際に本体の内部にごみが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子に付着したごみが写り込む場合があります。
本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、本体を保管するときは、必ずボディキャップまたはレンズを付けてください。その際、ボディキャップのごみも必ず除去してください。

ダストリダクション機能について
本機は、撮像素子前面に付着したごみやほこりを払い落とすダストリダクション機能を備えています。この機能は、電源スイッチを[ON]にすると自動的に働きますが、特にごみが気になる場合はセットアップメニューの[センサークリーニング](P51)を行ってください。

撮像素子のごみの除去
撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいので、やむをえずご自身でクリーニングされる場合は、以下のことを必ずお守りください。
- ブロワー（市販）で撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。強く吹きすぎないようにお気をつけください。
- ブロワーをレンズマウントより中に入れないでください。
- ブロワーが撮像素子に触れないようにしてください。万一、ブロワーが撮像素子に触れると傷がつきます。
- ブロワー以外のものは使用しないでください。
- ブロワーでもごみやほこりを除去できない場合は、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口にお問い合わせください。

■ ファインダーのアイカップのお手入れについて

- アイカップが汚れた場合などお手入れの際は、アイカップを取り外し、乾いた柔らかい布で軽くふいてから取り付けてください。
- アイカップの紛失にお気をつけください。

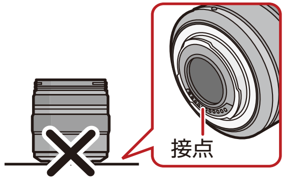


モニター/ファインダーについて

- モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒冷地などで本機が冷えきっている場合、電源を入れた直後はモニター/ファインダーが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

モニター/ファインダーは、精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。モニター/ファインダーの画素については高精度管理をしておりますが、画素欠けするものがあります。またこれらの点は、カードの画像には記録されませんのでご安心ください。

レンズについて



- レンズ面を強く押さないでください。
- レンズを太陽に向けたまま放置すると、集光により故障の原因になります。屋外や窓際に置くときにはお気をつけください。
- レンズ表面に汚れ（水、油、指紋など）がついた場合、画像に影響を及ぼすことがあります。撮影前後は、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。
- レンズ取り付け部を下にして置かないでください。また、レンズの接点を汚さないようにお気をつけください。
- 交換レンズ（H-HS12035）は、防塵防滴性能の向上のため、マウント部にレンズマウントラバーを使用しています。レンズ交換を繰り返すと、デジタルカメラ本体のマウント部分にレンズマウントラバーのすれ跡が付くことがありますが、性能には問題ありません。レンズマウントラバーの交換については、修理ご相談窓口にお問い合わせください。

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。
このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを取り出す

- 取り出したバッテリーはポリ袋に入れ、金属類（クリップなど）から離して保管、持ち運びしてください。

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなりますので、お気をつけください。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにチャージャー（付属）および電源コード（付属）も忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグが必要な場合があります。（P245）

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本機に入れると、本機をいためます。

不要になった電池は、捨てないで充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

使用済み充電式電池の届け先

最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

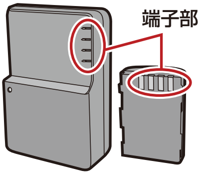
- ホームページ　http://www.jbrc.net/hp

充電式
リチウムイオン
電池使用
Li-ion 20

使用済み充電式電池の取り扱いについて

- 端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。
- 分解しないでください。

チャージャーについて



- 充電時の環境によっては、静電気や電磁波などの影響で充電ランプがちらつく場合がありますが、充電への影響はありません。
- ラジオ（特にAM受信中）の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は1 m以上離してください。
- 使用中、チャージャーの内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源コンセントから抜いてください。（接続したままにしておくと、最大約0.1 Wの電力を消費しています）
- チャージャーやバッテリーの端子部を汚さないでください。汚れた場合は、乾いた布でふいてください。

カードについて

カードを高温になるところや直射日光の当たるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない
また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊されるおそれがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失するおそれがあります。
- 使用後や保管、持ち運びするときはケースや収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのお願い
本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「消去」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。

廃棄/譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のパソコン用データ消去ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

個人情報について

個人情報の保護のため、Wi-Fi パスワードを設定することをお勧めします。(P222)
プロフィール設定/個人認証機能で名前または誕生日を設定した場合は、カメラ内および撮影した画像に個人情報が含まれます。

免責事項

- 個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いによって変化、消失することがあります。
  個人情報を含む情報の変化、消失が生じても、それらに起因する直接または間接の損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

修理依頼または譲渡/廃棄されるとき

- 個人情報の控えを取ったあと、本機内にお客様が登録または設定した無線 LAN 接続設定等の個人情報を含む情報を[Wi-Fi 設定リセット]/[消去･退会]を行って必ず消去してください。(P50、219)
- 個人情報保護のため、設定をリセットしてください。(P50)
- メモリーカードは、本機より取り出してください。
- 修理をすると、設定はお買い上げ時の状態に戻る場合があります。
- 故障の状態により、本機の操作が困難な場合は、お買い上げの販売店までご相談ください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、275ページの「メモリーカードを廃棄/譲渡するときのお願い」をお読みください。

長期間使用しないときは

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
  (推奨温度：15 ℃～25 ℃、推奨湿度：40%RH～60%RHです)
- バッテリーとカードは必ず本機から取り出してください。
- バッテリーを入れたままにしておくと、本機の電源スイッチが[OFF]であっても、絶えず微少電流が流れています。これをそのままにしておくと過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなるおそれがあります。
- 長期間保管する場合、1 年に 1 回は充電し、バッテリー残量がなくなってから、本機から取り出して再保管することをお勧めします。
- 押し入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤(シリカゲル)と一緒に入れることをお勧めします。
- **長期間使用していないときは、撮影前に各部を点検してから使用してください。**

画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。
  記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

三脚/一脚について

- 三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。
- 三脚/一脚使用時は、カードやバッテリーが取り出せないことがあります。
- 三脚/一脚の取り付けまたは取り外し時に、ねじが斜めにならないようお気をつけください。無理な力で回すと本機のねじを損傷するおそれがあります。締めすぎると本体や定格ラベルを傷つけたり、はがしたりすることがありますので、お気をつけください。
- 本機に径の大きなレンズを取り付けた場合、三脚/一脚によっては台座にレンズが接触するものがあります。接触した状態でねじを締めると、本機やレンズを損傷することがありますので、三脚アダプター(別売:DMW-TA1)を取り付けてから三脚/一脚に装着することをお勧めします。
- 三脚/一脚の説明書もよくお読みください。

ショルダーストラップについて

- 本体に重いレンズ(約1 kg以上)を付けた場合、ショルダーストラップだけを持ってつり下げないでください。本体とレンズを持って持ち運びしてください。

－このマークがある場合は－

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報



このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

- 本製品に付属するソフトウェアを無断で営業目的として複製(コピー)したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品に使用されているソフトウェアに関する情報は、[MENU/SET]ボタンを押して [セットアップ] → [バージョン表示] を表示し、[MENU/SET] ボタンを押してご覧ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。

- G MICRO SYSTEMは、マイクロフォーサーズシステム規格に準拠したLUMIXのレンズ交換式デジタルカメラシステムです。
- マイクロフォーサーズ™ 及びマイクロフォーサーズ ロゴマークはオリンパスイメージング（株）の日本・米国・EU・その他各国の商標または登録商標です。
- フォーサーズ™ 及びフォーサーズ ロゴマークはオリンパスイメージング（株）の日本・米国・EU・その他各国の商標または登録商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。
- “AVCHD”、“AVCHD Progressive”、および“AVCHD Progressive”のロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- HDAVI Control™ は商標です。
- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- WindowsおよびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- iMovie、Mac、Mac OSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- APP Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- Android および Google Play は Google Inc. の商標または登録商標です。
- “Wi-Fi CERTIFIED” ロゴは、“Wi-Fi Alliance” の認証マークです。
- Wi-Fi Protected Setup のマークは、“Wi-Fi Alliance” の商標です。
- “Wi-Fi”、“Wi-Fi Protected Setup”、“Wi-Fi Direct”、“WPA”、“WPA2” は “Wi-Fi Alliance” の商標または登録商標です。
- DLNA, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
- 本製品には、ダイナコムウェア株式会社の「DynaFont」を使用しております。DynaFontは、DynaComware Taiwan Inc.の登録商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。

本製品は、AVC Patent Portfolio License に基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為にかかわる個人使用を除いてはライセンスされておりません。

- AVC 規格に準拠する動画（以下、AVC ビデオ）を記録する場合
- 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録された AVC ビデオを再生する場合
- ライセンスを受けた提供者から入手された AVC ビデオを再生する場合

詳細については米国法人 MPEG LA, LLC (http://www.mpegla.com) をご参照ください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本製品には、以下のソフトウェアが含まれています。
（1）パナソニックにより、又はパナソニックのために開発されたソフトウェア
（2）パナソニックにライセンスされた第三者所有のソフトウェア
（3）OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/) で利用するために OpenSSL Project によって開発されたソフトウェア、および、Eric Young (eay@cryptsoft.com) によって作成されたソフトウェアを含む、オープンソースソフトウェア

この製品はOpenSSL Project が開発したOpenSSL ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution license [including the GNU Public License.]

この製品はEric Young 氏によって記述された暗号化ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution license [including the GNU Public License.]

この製品はNetBSD ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

Copyright (c) 1990 The Regents of the University of California. All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by Chris Torek.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

この製品は OpenSSL Project が開発した OpenSSL ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.OpenSSL.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact licensing@OpenSSL.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.OpenSSL.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

この製品はEric Young 氏によって記述された暗号化ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are adhered to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word 'cryptographic' can be left out if the routines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The license and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution license [including the GNU Public License.]

この製品はNetBSD ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

Copyright (c) 1990 The Regents of the University of California.
All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by Chris Torek.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

この製品はNetBSD ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

This code is derived from software contributed to Berkeley by Tom Truscott.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

この製品はNetBSD ソフトウェアを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

This code is derived from software contributed to Berkeley by Chris Torek.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

この製品はXMLパーサライブラリを含んでおり、以下のライセンス条件に基づいて使用しています。

さくいん

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

英数字

QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用されるApple Inc.の商標または登録商標です。

パナソニック株式会社　AVCネットワークス社
〒571-8504　大阪府門真市松生町１番15号